Groupmax Scheduler/ Facilities Manager Version 6 システム管理者ガイド

解説・手引書

3000-3-476-10

HITACHI

このマニュアルは，次ページに示すプログラムプロダクトの発行によって，第2版（3000-3-476-10）として発行するものです。

ご使用上の注意および輸出時の注意

このマニュアルは，次の条件でご使用くださいますようお願い申し上げます。

1. このマニュアルの内容の一部，または全部を無断で転載したり，複写したりすることはできません。
2. このソフトウェアの使用およびマニュアルの内容は，改良のために予告なしに変更することがあります。
3. このソフトウェアおよびマニュアルは，この製品の使用許諾契約書の条件で使用できます。
4. このソフトウェアおよびマニュアルの使用に関し，生じた損失に対する賠償については，当社は責任を負いません。
5. このソフトウェアに関連した他社製品の使用に関し，生じた損失に対する賠償については，当社は責任を負いません。
6. 重要なユーザファイルはバックアップを取得してください。
7. この製品を輸出される場合には，外国為替および外国貿易法の規制をご確認の上，必要な手続きをお取りください。

なお，ご不明な場合は，弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

UNIX オペレーションシステムは，UNIX システムラボラトリーズ社が開発し，ライセンスしています。
HP-UX は，米国 Hewlett-Packard Co. のオペレーティングシステムの名称です。
AIX は，米国における米国 International Business Machines Corp. の登録商標です。
Microsoft(R) は，米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
MS-DOS(R) は，米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
Windows(R) は，米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
Windows NT(R) は，米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
Visual Basic(R) は，米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
その他製品名などの固有名詞は各社の商品名，商標および登録商標です。

平成１３年３月 （第１版） 3000-3-476 （廃版）
平成１３年９月 （第２版） 3000-3-476-10

All Rights Reserved,Copyright (C) 2001,Hitachi,Ltd.

再生紙

TO-HZ (ZH-K)

＜プログラムプロダクト一覧＞

P-1646-514 Groupmax Scheduler Server Version 6 06-00（適用 OS：HI-UX/WE2）
P-1646-564 Groupmax Scheduler Server Version 6 06-00（適用 OS：HI-UX/WE2）
P-1646-554 Groupmax Scheduler Server Version 6 06-00（適用 OS：HI-UX/WE2）
P-1646-554 Groupmax Facilities Manager Version 6 06-00（適用 OS：HI-UX/WE2）
P-1B46-5141 Groupmax Scheduler Server Version 6 06-00（適用 OS：HP-UX）
P-1B46-5641 Groupmax Scheduler Server Version 6 06-00（適用 OS：HP-UX）
P-1B46-5541 Groupmax Scheduler Server Version 6 06-00（適用 OS：HP-UX）
P-1B46-5541 Groupmax Facilities Manager Version 6 06-00（適用 OS：HP-UX）
P-1M46-5541 Groupmax Scheduler Server Version 6 06-00（適用 OS：AIX）
P-1M46-5541 Groupmax Facilities Manager Version 6 06-00（適用 OS：AIX）

はじめに

このマニュアルは，Groupmax Enterprise Version 6（以降，Groupmax と呼びます）の１アプリケーションである Groupmax Scheduler Server Version 6（以降 Scheduler Server と呼びます。）および Groupmax Facilities Manager Version 6（以降 Facilities Manager と呼びます。）のセットアップ方法について説明したものです。

〈対象読者〉

このマニュアルは，Scheduler Server および Facilities Manager の利用者（システム管理者またはセットアップ担当者）を対象としています。UNIX，Windows NT，Windows 95，Windows 98，Windows Me，TCP/IP の知識を習得していることを前提としています。

〈マニュアルの構成〉

このマニュアルは，次に示す８つの章から構成されています。

第１章　セットアップをはじめるまえに
セットアップに必要な用語について説明しています。

第２章　セットアップの手順
セットアップをするときにこのマニュアルを読み進めていく順序について説明しています。

第３章　サーバのセットアップ
サーバのセットアップ方法について説明しています。

第４章　管理データの作成
管理ツールのインストール，および使用方法について説明しています。

第５章　Groupmax Address - Assist との連携方法
Groupmax Address - Assist との連携方法について説明しています。

第６章　運用上の注意事項
このシステム運用上の注意事項について説明しています。

第７章　コマンドの説明
Address Server からのユーザ情報の作成，およびデータ移行時に使用するコマンドについて説明しています。

第８章　トラブルシューティング
このシステム運用時に発生する可能性のあるトラブルと回復方法について説明しています。

〈関連マニュアル〉

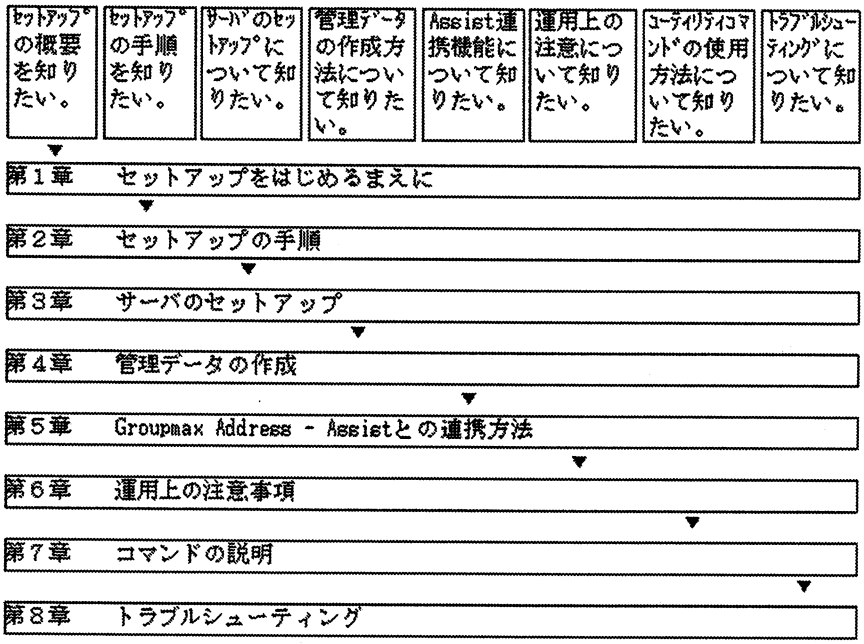
このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。
枠囲みされているのがこのマニュアルです。

Groupmax Scheduler/Facilities Manager Version 6 システム管理者ガイド (3000-3-476) Groupmax Scheduler Server および Groupmax Facilities Manager のセットアップ方法について説明しています。

Groupmax Scheduler Version 6 ユーザーズガイド (3020-3-B41)
Groupmax Scheduler Client の操作方法について説明しています。
Groupmax Scheduler Version 3 ユーザーズガイド (3020-3-A23)
Groupmax Scheduler Client-Light の操作方法について説明しています。
Groupmax Facilities Manager Version 6 ユーザーズガイド (3020-3-B35)
Groupmax Facilities Manager Client の操作方法について説明しています。
Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド基本操作編 (3000-3-471)
Groupmax System Agent - TCP/IP Version 5 システム管理者ガイド (3000-3-A50)
Groupmax Address - Assist Version 6 システム管理者ガイド (3020-3-B50)
Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 システム管理者ガイド (3000-3-478)
Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 ユーザーズガイド (3020-3-B44)

〈読書手順〉

このマニュアルは，利用目的に合わせて章を選択して読むことができます。目的別に次の流れにしたがって，▼の部分をお読みになることをお勧めします。



〈このマニュアルで使用する記号〉

記　　号	意　　味

[　　]	文字キーやＰＦキーまたはメニューバーなどの内容をあらわします。
「　　」	図の名称の中で，ウィンドウやダイアログボックスの名称をあらわします。 参照するマニュアル，章などの名称をあらわします。

〈このマニュアルで使用する略語〉

Scheduler Client	Groupmax Scheduler Client Version 6 または Groupmax Scheduler Client-Light Version 3
Scheduler Server	Groupmax Scheduler Server Version 6
Facilities Manager	Groupmax Facilities Manager Version 6
Address Server	Groupmax Address Server Version 6
Object Server	Groupmax Object Server Version 6 または Groupmax High-end Object Server Version 6
System Agent - TCP/IP	Groupmax System Agent - TCP/IP Version 5
System Manager - TCP/IP	Groupmax System Manager - TCP/IP Version 5
Groupmax WWW	Groupmax World Wide Web Desktop Version 6
WWW for Scheduler	Groupmax World Wide Web Desktop for Scheduler Version 6
Assist Viewer	Groupmax Address - Assist Viewer Version 6
Assist Server	Groupmax Address - Assist Server Version 6
Windows 95, Windows 98, Windows Me	Microsoft(R)Windows(R)95, Windows(R)98Operating System, Microsoft(R) Windows(R) Millennium Edition Operating System
Windows NT	Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network Operating System , Version 4.0, Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Operating System

このマニュアルでは，Windows NT，Windows 95，Windows 98，Windows Me の GUI（Graphical User Interface）を使用して各機能の説明をしています。

目次

1. セットアップをはじめるまえに 1
1.1 TCP/IP の接続確認 2
1.2 セットアップに必要な知識 3
1.3 システムの構成図 5
1.3.1 システムの構成図 5
1.3.2 Scheduler/Facilities Manager のプログラムの構成 6

2. セットアップの手順 9
2.1 サーバのセットアップ手順 10
2.2 管理データの作成 11

3. サーバのセットアップ 13
3.1 サーバ環境設定 14
3.1.1 Scheduler Server の環境設定 14
3.1.2 Facilities Manager の環境設定 22
3.1.3 組織によるセキュリティの設定 25
3.2 サーバおよび管理ツールサーバの起動 30
3.2.1 Scheduler Server の起動 30
3.2.2 Facilities Manager の起動 31

4. 管理データの作成 33
4.1 Address Server との連動について 34
4.1.1 前提条件 34
4.1.2 注意事項 34
4.1.3 Address Server のユーザ情報取得方法 36
4.1.4 Address Server の変更通知情報取得方法 36
4.1.5 ユーザソートについて 37
4.1.6 組織名の表示について 39
4.1.7 兼任ユーザについて 39
4.1.8 管理ツール上での制限事項 40
4.2 管理ツールのインストール／アンインストール 41
4.3 管理ツールの起動 42
4.4 管理データの取得 44
4.5 ＤＮＳ ホスト名の登録 45
4.6 ユーザ情報の設定 47
4.6.1 ユーザ情報の設定 47
4.6.2 他システムと接続する場合（G/W 通信をする場合） 53
4.6.3 ユーザ情報の確認 58
4.7 施設管理情報の設定 60
4.8 汎用化データの設定 63
4.9 セキュリティの設定 67
4.9.1 セキュリティの設定 67
4.9.2 拡張スケジュールの表示 70

目次

4.10 上司／秘書の設定 72
4.11 ゲスト ＩＤ の設定 77
4.12 付属設備の登録 79
4.13 施設管理者の登録 80
4.14 システム標準値の登録 83
4.14.1 グループ登録 83
4.14.2 行先・区分の登録 87
4.14.3 用件・略記の登録 89
4.14.4 環境設定 90
4.14.5 記念日の登録 100
4.15 不要スケジュール削除期間の個別設定 102
4.15.1 注意事項 102
4.15.2 ユーザのスケジュール削除期間の個別設定 102
4.15.3 施設のスケジュール削除期間の個別設定 106
4.16 管理データの転送 110
4.17 管理ツールの終了 111
4.18 各子サーバでの管理データの取得 112

5. Groupmax Address - Assist との連携方法 113
5.1 Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能 114
5.2 ホームサーバ移動ツール「SFdatacp」について 124

6. 運用上の注意事項 131
6.1 運用開始時の注意事項 132
6.2 管理ツール使用時の注意事項 133
6.3 マルチサーバ構成時の注意事項 135
6.4 G/W 構成時の注意事項 136
6.5 Facilities Manager 使用時の注意事項 137
6.6 その他の注意事項 138

7. コマンドの説明 141
7.1 「GetAdAll」について 142
7.2 「indxget」について 145
7.3 「HOSTCHG」について 149
7.4 「BITECHG」について 152
7.5 「CODECHG」について 153
7.6 整合性チェックツール「chkorder」と「sortdate」について 155
7.7 ユーザ情報の整合性チェックツール「checkid」について 158
7.8 グループファイル変換ツール「grpchg」について 160

8. トラブルシューティング 163
8.1 トラブルシューティング 164
8.2 Assist 連携と「SFdatacp」のトラブルシューティング 170
8.2.1 Assist 連携時のトラブルシューティング 170
8.2.2 「SFdatacp」実行時のトラブルシューティング 172

付録 **175**
付録A データファイルの説明 176
付録B 設定の最大値 182
付録C 以前のバージョンからの移行 184
付録D バージョンアップ時の注意事項 186
付録E サーバホスト名が変更された場合 191
付録F スケジュールデータの移動 193
付録G スケジュール格納ディレクトリを変更した場合 195
付録H Assist 連携時と「SFdatacp」実行時のエラーメッセージ 196
付録I ユーザ ＩＤ の変更 201
付録J G/W 通信を異なるポート番号で運用する場合 202
付録K ログファイルのフォーマット説明 204
付録L 実行ユーザの変更 206
付録M 「GetAdAll」と「indxget」の実行時におけるエラーメッセージ 212
付録N システムログのメッセージ一覧 217
付録O 「aconsole」と「roomconsole」のエラーメッセージ 222

索引 **227**

1. セットアップをはじめるまえに

この章では，セットアップに必要な用語について説明します。

1.1 TCP/IP の接続確認
1.2 セットアップに必要な知識
1.3 システムの構成図

1.1 TCP/IP の接続確認

(1) TCP/IP の接続確認

サーバとなるマシンとクライアントとなるマシンに IP アドレスとホスト名の登録を行い，TCP/IP による接続確認（telnet,ping 等）を行ってください。複数サーバで運用する場合は，サーバ間の接続確認も行ってください。マルチサーバ構成の場合，Scheduler Server および Facilities Manager をインストールしたすべてのマシンについて IP アドレスとホスト名を登録し，接続確認を行ってください。

ただし，システム内で DNS の設定をしている場合はホスト名の登録はネームサーバ上で行ってください。

(2) サービスのポート番号の設定

サーバおよびクライアントに Scheduler Server および Facilities Manager で使用するサービスのポート番号を下記に従い設定してください。

＜設定するサービスおよびサーバ・クライアント＞

表 1-1 （Scheduler Server の場合）

設定するサービス	ポート番号／プロトコル名	設定するサーバ	設定するクライアント
ikisaki（サーバプロセス用）	20013 / tcp	全サーバ	全クライアント
appoman（管理者ツールプロセス用）	20014 / tcp	全サーバ	管理者ツールを使用するクライアントのみ

表 1-2 （Facilities Manager の場合）

設定するサービス	ポート番号／プロトコル名	設定するサーバ	設定するクライアント
appoarea（サーバプロセス用）	20102 / tcp	全サーバ	全クライアント
roomman（管理者ツールプロセス用）	20103 / tcp	全サーバ	管理者ツールを使用するクライアントのみ

注意　ポート番号が他サービスのポート番号と重複する場合は，このポート番号を変更してください。変更する場合はできるだけ５０００番以上のポート番号を指定してください。ポート番号が重複している状態でサーバ，または管理ツールを起動すると，これらのポート番号を強制的に使用するため他のアプリケーションが正常に動作しなくなる可能性があります。特に５０００番より下のポート番号を指定した場合，他のアプリケーションと重複する可能性が高いのでご注意ください。また，ポート番号を変更した場合は，クライアントも同一の番号に設定してください。

1.2 セットアップに必要な知識

Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップするために必要な用語について説明します。セットアップを開始する前にお読みください。

1. システム
   Scheduler Server および Facilities Manager を運用するための最小単位。1台以上のサーバと1台以上のクライアントから構成されます。G/W サーバを介して，複数システム間での接続ができます。
2. 親サーバ
   管理データのマスタデータを持つサーバを親サーバと呼びます。親サーバはシステム内で一つ決めてください。管理データの作成・変更は親サーバで行い，子サーバに複写することができます。シングルサーバ構成の場合，親サーバの設定を行ってください。
3. 子サーバ
   親サーバ以外のサーバを子サーバと呼びます。子サーバは親サーバ上で管理データを変更した際には管理データを複写する必要があります。
4. ユーザ ＩＤ
   Scheduler Server および Facilities Manager はユーザのスケジュールデータをＩＤで管理します。そのために Scheduler Server および Facilities Manager を使用するユーザごとにユーザＩＤを振る必要があります。ユーザＩＤはシステム内で必ず重ならないようにしてください。ユーザＩＤは，8文字以内の半角英数字が使用できます。ユーザＩＤは，Scheduler Server と Facilities Manager とは共通です。ユーザＩＤと施設ＩＤは，システム内で必ず重ならないようにしてください。パスワードは，8文字以内の半角英数字が使用できます。（2文字目以降には，「-」（ハイフン）も使用できます。）
5. 施設 ＩＤ
   Facilities Manager は施設のスケジュールデータをＩＤで管理します。そのために Facilities Manager を使用する施設ごとに施設ＩＤを振る必要があります。施設ＩＤはシステム内で必ず重ならないようにしてください。施設ＩＤは，8文字以内の半角英数字が使用できます。ユーザＩＤと施設ＩＤも，システム内で必ず重ならないようにしてください。
6. G/W サーバ
   複数システムの Scheduler Server を接続して使用するときに，必須となります。このサーバは専用ではなく，親・子サーバと兼用することができます。
7. 管理データ
   ユーザの管理データと施設の管理データの2種類があります。管理データについては「付録A　データファイルの説明」を参照してください。複数のサーバで Scheduler Server または Facilities Manager を構成したときには，サーバ同士の管理データを一致させるために親サーバの管理データを取得するごとに子サーバに親サーバの管理データを複写する必要があります。
8. ホームサーバ
   各ユーザのスケジュールデータを格納するサーバをホームサーバと呼びます。管理ツールの「ユーザ／施設の登録・変更・参照」ウィンドウ，または Address

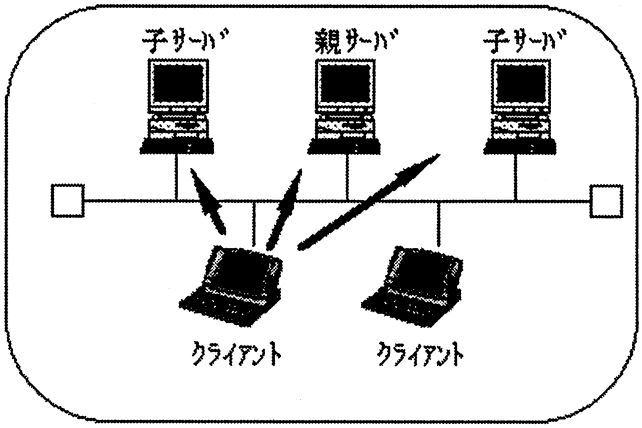
Server の「ホームサーバ名設定」ウィンドウで指定します。

9. 部署テーブル ＩＤ（組織 ＩＤ）
   Scheduler Server および Facilities Manager はユーザを階層構造で作成し，各階層は組織で管理します。そのために組織ごとに部署テーブル ＩＤ（組織 ＩＤ）を振る必要があります。部署テーブル ＩＤ はシステム内で必ず重ならないようにしてください。部署テーブル ＩＤ は，6 文字以内の半角英数字小文字（Address Server との連動時には 8 文字以内の半角英数字小文字）が使用できます。
10. 種別テーブル ＩＤ
    Scheduler Server および Facilities Manager は施設を階層構造で作成し，各階層は組織で管理します。そのために組織ごとに種別テーブル ＩＤ を振る必要があります。種別テーブル ＩＤ はシステム内で必ず重ならないようにしてください。種別テーブル ＩＤ は，6 文字以内の半角英数字小文字が使用できます。

1.3 システムの構成図

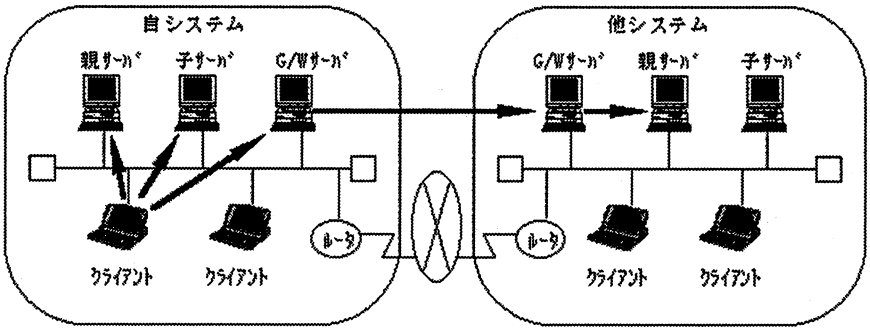
1.3.1 システムの構成図

図 1-1 システム構成概要図（1 システムの場合）



上図のように，マルチサーバのシステムを構築した場合，Scheduler Client はすべての Scheduler Server と通信します。（Facilities Manager も同様です。）

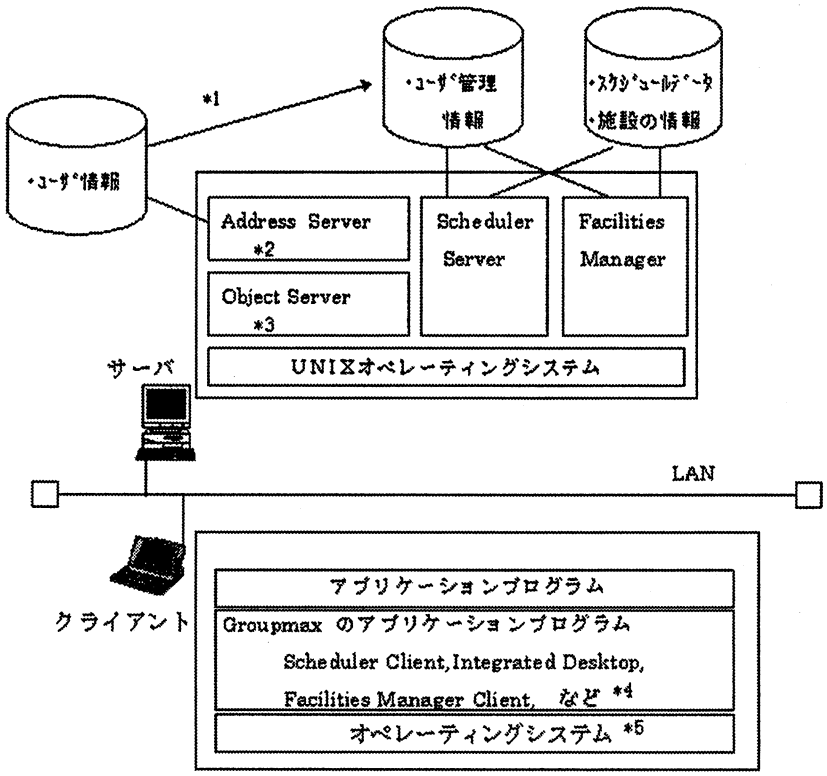
図 1-2 システム構成概要図（複数システムの場合）



上図のように，複数システムの場合，G/W サーバを介して Scheduler Client はすべての Scheduler Server と通信します。（Facilities Manager は，複数システムに対応していません。）

1.3.2 Scheduler/Facilities Manager のプログラムの構成

図 1-3　システムの構成図



*1：親サーバ上で「コンフィギュレーション」の設定，またはコマンドによりユーザ情報を取得します。(詳細は「3.1 サーバ環境設定」,「7.1 「GetAdAll」について」,「7.2「indxget」について」を参照してください。)

*2：Address Server

Address Server は Groupmax のアプリケーションプログラムのユーザ情報（ユーザ ＩＤ など）を一元管理します。(詳細は「4.1 Address Server との連動について」を参照してください。)

注意　連動する場合に Scheduler Server および Facilities Manager の親サーバ上では必須です。子サーバ上では必須ではありません。

*3：Object Server

Address Server を使用する場合に必要です。オブジェクトサーバとして，Groupmax Object Server Version 6 または Groupmax High_end Object Server Version 6 を使用できます。

*4：Integrated Desktop

クライアントとして Windows NT または Windows 95, Windows 98, Windows Me を使用する場合に使用できます。

*5：オペレーティングシステム
使用するハードウェアおよび用途に応じたオペレーティングシステムを選択してください。

2. セットアップの手順

この章では，セットアップをするときにこのマニュアルを読み進めていく順序について説明します。

2.1 サーバのセットアップ手順

2.2 管理データの作成

2.1 サーバのセットアップ手順

サーバのセットアップは次の手順で行ってください。

1. **サーバ環境設定**
   サーバの環境設定をします。ここでは，サーバ間で管理データを共有するための設定や自動スケジュール削除設定等を行います。(詳細は「3.1 サーバ環境設定」を参照してください。)
2. **サーバおよび管理ツールサーバの起動**
   サーバおよび管理ツールサーバを起動します。(詳細は「3.2 サーバおよび管理ツールサーバの起動」を参照してください。)

2.2 管理データの作成

(1) 管理ツールのインストール手順

1. 管理ツールのインストール
   管理ツールのインストールを行います。(詳細は「4.2 管理ツールのインストール／アンインストール」を参照してください。)

(2) 管理データの設定手順

管理データの設定は次の手順で行ってください。管理データの設定では，ユーザ情報の設定，施設管理情報の設定，汎用化データ（休日，時間の区切り線，行先・区分）の設定，セキュリティの設定，上司／秘書の設定，ゲスト ＩＤ の設定，付属設備の登録，施設管理者の登録，システム標準値の登録，DNS ホスト名の登録などを行います。

1. Address Server との連動について
   Address Server と連動する場合，Address Server 上で登録したユーザ情報を Scheduler Server および Facilities Manager に取得します。(詳細は「4.1 Address Server との連動について」を参照してください。)
2. 管理ツールの起動
   管理ツールを起動します。(詳細は「4.3 管理ツールの起動」を参照してください。)
3. 管理データの取得
   管理データをサーバから取得します。(詳細は「4.4 管理データの取得」を参照してください。)
4. DNS ホスト名の登録
   DNS ホスト名の登録を行います。(詳細は「4.5 DNS ホスト名の登録」を参照してください。)
5. ユーザ情報の設定
   ユーザ情報の登録を行います。(詳細は「4.6 ユーザ情報の設定」を参照してください。)
6. 施設管理情報の設定
   施設管理情報の登録を行います。(詳細は「4.7 施設管理情報の設定」を参照してください。)
7. 汎用化データの設定
   汎用化データ（休日，時間の区切り線，行先・区分）を設定します。(詳細は「4.8 汎用化データの設定」を参照してください。)
8. セキュリティの設定
   セキュリティを設定します。(詳細は「4.9 セキュリティの設定」を参照してください。)
9. 上司／秘書の設定
   上司と秘書の設定を行います。(詳細は「4.10 上司／秘書の設定」を参照してください。)
10. ゲスト ＩＤ の設定
    ゲスト ＩＤ の設定を行います。(詳細は「4.11 ゲスト ＩＤ の設定」を参照して

ください。)

11. 付属設備の登録
付属設備を登録します。(詳細は「4.12 付属設備の登録」を参照してください。)

12. 施設管理者の登録
施設管理者の登録を行います。(詳細は「4.13 施設管理者の登録」を参照してください。)

13. システム標準値の登録
「グループの登録」,「行先・区分の登録」,「用件・略記の登録」,「環境登録」,「記念日登録」を行います。(詳細は「4.14 システム標準値の登録」を参照してください。)

14. 不要スケジュール削除期間の個別設定
不要スケジュール削除期間の個別設定を行います。(詳細は「4.15 不要スケジュール削除期間の個別設定」を参照してください。)

15. 管理データの転送
作成した管理データをサーバへ転送します。(詳細は「4.16 管理データの転送」を参照してください。)

16. 管理ツールの終了
管理ツールを終了します。(詳細は「4.17 管理ツールの終了 」を参照してください。)

注意　新規にシステム構築する場合，汎用化データ，セキュリティランクが未作成となっている場合がありますので，管理ツールで作成してください。

3. サーバのセットアップ

この章では，サーバのセットアップ方法について説明します。

3.1 サーバ環境設定

3.2 サーバおよび管理ツールサーバの起動

3.1 サーバ環境設定

3.1.1 Scheduler Server の環境設定

サーバの環境を設定するには，Scheduler Server 設定コマンドで行います。root でログインし，以下のコマンドを入力してください。メッセージについては，「付録 O「aconsole」と「roomconsole」のエラーメッセージ」を参照してください。

コマンド名

aconsole [-s | -t | -u | -d | -i | -g] [-n]

説明

-s サーバを停止する。

-t 管理ツールサーバを停止する。

-u 管理データを取得する。

-d 不要スケジュールデータを削除する。

-i Address Server の変更通知情報を取得する。

-g ユーザ情報を再作成する。

-n -s か -t を指定したときだけ有効で問い合わせなしにコマンドを実行する。

オプションなし 対話形式で設定をする。

リターン値 0 ・・・・・正常終了

0 以外・・・エラー

注意 「-i」または「-g」オプション指定時に問い合わせなしで実行したい場合は，「aconsole」コマンドではなく，「indxget」「GetAdAll」コマンドを使用してください。「-u」オプション指定時に問い合わせなしで実行したい場合は，以下の手順で実行してください。

1. vi 等で「Y」（半角大文字の Y です。カギ括弧は入力しません。Y の後は改行してください。）と記述したファイルを作成する。ここは例としてファイル名を /tmp/y.txt とする。
2. aconsole -u < /tmp/y.txt として実行する。

オプションなしで，aconsole を実行すると，以下のメニュー画面が表示されます。

```
<<Groupmax Scheduler Server の設定 >>
    1．コンフィギュレーション
    2．サーバの起動
    3．サーバの停止
    4．管理ツールサーバの起動
    5．管理ツールサーバの停止
    6．その他の手動実行
    e．終了
= >
```

(1) コンフィギュレーションの設定

コンフィギュレーションの設定をするには，メニュー画面で「1．コンフィギュレーション」を選択してください。以下のコンフィギュレーションメニューが表示されます。親サーバ（1 サーバで使用する場合）は全項目を設定してください。子サーバの場合は項番 5 で「共有する」と設定した場合（子サーバが親サーバの環境

を共有する場合)，項番６～１０，１２～１６の設定は不要となります。
コンフィギュレーションを終了しメニューに戻る場合は，ｅと入力してください。

注意　Version2.0 または Version3，Version5 からバージョンアップした場合には，「付録 D バージョンアップ時の注意事項」－「(2) コンフィギュレーションの設定に関する注意事項」を参照してください。

図 3-1　「Groupmax Scheduler Server：aconsole」メニュー画面

```
**** Groupmax Scheduler Server : aconsole      [1-16]:設定   e:戻る      ****
        1.スケジュール格納ディレクトリ          :/usr/iki
        2.親サーバ/子サーバ                     :親サーバ
        3.親サーバホスト名/IPアドレス           :
        4.管理データ取得時刻                    :毎日 03時00分
        5.親サーバ環境の共有                    :共有しない
        6.ログファイル最大容量                  :11MB
        << 不要スケジュール削除 >>
            7.不要スケジュール削除の自動実行    :使用しない
            8.不要スケジュール削除期間          :現在から12ヶ月より前を削除
            9.不要スケジュール削除時刻          :毎月 01日 02時00分
        << GroupmaxAddressServerとの連動 >>
           10.Addressでの認証                   :使用しない
           11.Addressホスト名/IPアドレス        :
           12.ユーザ認証用ポート番号            :
           13.変更通知情報取得の自動実行        :使用する
           14.変更通知情報取得時刻              :毎年 11月09日 04時00分
           15.Address情報取得オプション           ユーザソート       :使用しない
                                                  組織ID順ソート     :使用しない
                                                  組織名表示         :組織名
                                                  GMAXSYSユーザ反映  :反映しない
        << GroupmaxAddress-Assistとの連動 >>
           16.Assist連携                        :使用しない
=>
```

注意　上図の設定項目に関して，シングルサーバ構成時では，項番１と２は設定必須項目です。マルチサーバ構成時では，親サーバは項番１と２，子サーバは項番１～５が設定必須項目です。必ず設定してください。また，設定内容を変更した場合は，管理ツールサーバである `/usr/bin/AppoMan` を再起動してください。

注意　１ＭＢ（メガバイト）＝ 1,048,576 バイトの計算値です。

1. スケジュール格納ディレクトリの設定

   スケジュール格納先のディレクトリをフルパスで指定してください。指定したディレクトリの下に各ユーザのスケジュールディレクトリが作成されます。
   デフォルトは /usr/iki です。
   スケジュール格納ディレクトリをデフォルト値から変更した場合，/usr/iki 下の全ファイルを変更したディレクトリ下に移動してください。詳細は，「付録 G スケジュール格納ディレクトリを変更した場合」を参照してください。ディレクトリ名はフルパスで２００バイト以下で指定してください。

2. 親サーバ／子サーバの設定

   複数サーバで使用するときの設定を行います。管理データを管理するために，一つのサーバを管理データのマスタを持つサーバにします。これを親サーバと呼びます。それ以外のサーバを子サーバと呼びます。１サーバで使用する場合は，親サーバに設定してください。「親サーバ」に設定した場合，項番３～５が

無効になります。また，「子サーバ」に設定した場合，項番１３～１６の設定は無効になります。

3. 親サーバホスト名／IP アドレスの設定

項番２で「子サーバ」と設定した場合，親サーバのホスト名もしくは IP アドレスを記述してください。

項番２で「親サーバ」と設定した場合，「親サーバホスト名 /IP アドレス」を設定する必要はありません。ただし，マルチサーバ環境における子サーバにおいて，項番５の「親サーバ環境の共有」を「共有する」と設定し，かつ，親サーバで「親サーバホスト名 /IP アドレス」に値を設定した場合，親サーバで設定した「親サーバホスト名 /IP アドレス」が，子サーバで共有されるようになります。この場合は，親サーバの「親サーバホスト名 /IP アドレス」に親サーバのホスト名または IP アドレスを設定してください。

4. 管理データ取得時刻の設定

項番２で「子サーバ」と設定した場合，子サーバが親サーバから管理データを取得する時刻を設定します。この項目は「親サーバ」の場合（または１サーバの場合），設定する必要はありません。（設定しても無視されます。）

設定時刻は，毎年・毎月・毎日のどれかの設定ができます。設定した時刻に管理データの取得が自動的に実行されます。この設定は，なるべくユーザのアクセスが少ない時間に設定してください。管理データ取得中は，クライアントのアクセス（スケジュール参照，ログインなど）が失敗することがあります。

以下に注意事項があります。

- 子サーバが５台以上のシステム構成の場合は，各子サーバの設定時刻をずらしてください。
- 管理データの取得は，親サーバの管理データを変更した後に実行する必要があり，親サーバの管理データを変更していない場合は，実行する必要はありません。したがって，親サーバの管理データを取得する頻度に応じて，取得間隔を設定してください。ただし，親サーバの管理データを変更してから，子サーバがこれを取得するまでの間は，管理データに不整合が生じているため，変更されたユーザがログインできない，などの制約が生じます。

5. 親サーバ環境の共有の設定

項番２で「子サーバ」と設定した場合，項番３，６～１０，１２の設定を親サーバの設定と共有することができます。「共有する」の場合，子サーバでは項番３，６～１０，１２の設定は不要です。「共有しない」を設定すると，各サーバでの設定値が適用されます。この項目は１サーバの場合，設定する必要はありません。（設定しても無視されます。）また，親サーバで項番３，６～１０，１２の設定を変更した場合は，子サーバ上で再度管理データの取得を行ってください。

「共有する」の場合，親サーバで項番３，６～１０，１２を必ず設定してください。

6. ログファイルの最大容量の設定

ログデータの最大容量をメガバイト単位で設定できます。ここで指定する値はすべてのログファイルの総容量です。ログファイルの総容量が設定した値よりも大きくなると，日付の古いログから削除されます。ログファイルのサイズが

設定サイズよりも若干オーバする場合があります。
コンフィギュレーションで指定できるログの容量は１ＭＢ～２１４７ＭＢです。インストール時のデフォルト値は１１ＭＢです。ログの出力ディレクトリ(<スケジュール格納ディレクトリ>/log/)は削除しないでください。削除すると，Scheduler Server および Facilities Manager は動作しなくなります。誤って削除した場合は，同名のディレクトリを作成してください。

7. 不要スケジュール削除の自動実行設定
使用できるスケジュールデータはデフォルトでは前年の１月１日以降の分です。それより前のスケジュールデータのことを以下，不要スケジュールと呼びます。また，ユーザまたは施設の削除を行った場合，そのユーザまたは施設のスケジュールも不要スケジュールとなります。なお，このデフォルトの値は下記項番８で変更することができます。
ここでは，この不要スケジュールを自動的に削除するかどうかを設定します。

8. 不要スケジュール削除期間の設定
項番７で不要スケジュール削除の自動実行を「使用する」と設定した場合，スケジュールの削除期間を変更できます。削除期間は，年月指定（ＹＹＹＹ年ＭＭ月より前）と月指定（現在からＭＭヶ月より前）のどちらかを設定できます。年月指定の場合，現在より後の年月は指定できません。例えば，現在から１２ヶ月より前のデータが不要である場合，「現在から１２ヶ月より前を削除」と設定してください。また，１９９８年１月より前のデータが不要である場合，「１９９８年１月より前を削除」と設定してください。それ以前のスケジュールデータは自動削除されます。
また，不要スケジュール削除期間の個別設定ができます。詳細は，4.15 不要スケージュール削除期間の個別設定」を参照してください。

9. 不要スケジュール削除時刻の設定
項番７で不要スケジュール削除の自動実行を「使用する」と設定した場合，その時刻を設定してください。Scheduler を運用中に実行するのであれば，クライアントからのアクセス（スケジュール参照，ログインなど）が少ない時間帯に設定してください。
設定時刻は，毎年・毎月のどちらかの設定ができます。設定した時刻に不要スケジュールの削除が自動的に実行されます。

10. Address での認証の設定
Address Server を使用してユーザ情報の一元管理をしている場合に，ユーザ認証を Address Server でするかどうかを設定します。「使用する」に設定した場合，Groupmax 内のアプリケーションでユーザＩＤ，パスワード等を共有することができます。Address Server との連動については「4.1 Address Server との連動について」を参照してください。この設定を変更した場合，Address Server を再起動する必要があります。

11. Address ホスト名／IP アドレスの設定
項番１０で「使用する」に設定した場合，Address Server のサーバホスト名もしくは IP アドレスを記述してください。

12. ユーザ認証用ポート番号の設定
項番１０で「使用する」に設定した場合，Address Server で設定するユーザ認

証用のポート番号を記述してください。なお，デフォルト値は９０５２です。

13. 変更通知情報取得の自動実行の設定

Address Server 上でユーザ情報の追加／削除／変更等が行われた場合は変更通知情報が出力されます。その変更通知情報取得を自動的に実行するかどうかを設定します。なお，自動実行を行って，ユーザのホームサーバ変更を行った場合は，データの移動および変換を同時に行う必要があります。（「付録 E サーバホスト名が変更された場合」および「付録 F スケジュールデータの移動」を参照してください。）

14. 変更通知情報取得時刻の設定

項番１３で変更通知情報取得の自動実行を「使用する」と設定した場合，その時刻を設定してください。

設定した時刻は，毎年・毎月・毎日のどれかの設定ができます。設定した時刻に変更通知情報取得が自動的に実行されます。

以下の注意事項があります。

- 取得前後で継続してクライアントを使用していた場合，クライアントを再起動しないと設定内容は反映されません。
- マルチサーバの場合はこれを実行後すぐに子サーバから管理データの取得をする必要があります。
- Scheduler を運用中に実行するのであれば，クライアントからのアクセス（スケジュール参照，ログインなど）が少ない時間帯に設定してください。
- 運用中に実行する場合，クライアントからのアクセス（スケジュール参照，ログインなど）が失敗することがあります。
- 変更通知情報の取得は，Address Server 上でユーザ情報を変更した後に実行する必要があり，Address Server 上でユーザ情報を変更していない場合は，実行する必要はありません。したがって Address Server 上でのユーザ情報が変更される頻度に応じて，実行間隔を設定してください。ただし，Address Server 上のユーザ情報が変更されてから，変更通知情報の取得を実行するまでの間は，Address Server と Scheduler Server との間に不整合が生じているため，変更されたユーザがログインできないなどの制約が生じます。

15. Address 情報取得オプションの設定

項番１３で変更通知情報取得の自動実行を「使用する」と設定した場合，または「コンフィギュレーション」の［手動実行］から［変更通知情報取得］，または［ユーザ情報再作成］を実行する場合，この実行オプションを設定してください。

詳細は「7.2「indxget」について」を参照してください。以下の注意事項があります。

項番	Address Server からの取得方法	注意事項
1	変更通知情報取得	ユーザソートを［使用しない］に設定した場合は，「組織 ＩＤ 順ソート」の設定にかかわらず，組織についてもソートされません。
2	ユーザ情報再作成	「組織 ＩＤ 順ソート」は，設定にかかわらず，組織 ＩＤ 順でソートされます。ユーザソートを［使用しない］に設定した場合は，ユーザの並び順はユーザ ＩＤ 順となります。

図 3-2　「Address 情報取得オプション」画面

```
<< 15.Address情報取得オプション >>
現在の設定
        ユーザソート          : 使用しない
        組織ID順ソート        : 使用しない
        組織名の表示          : 組織名
        GMAXSYS組織以下の情報 : 反映しない

変更するオプションを指定してください。例 =>1
        1.ユーザソート
        2.組織ID順ソート
        3.組織名の表示
        4.GMAXSYS組織以下の情報
        e.戻る
=>
```

- 「15.Address 情報取得オプションの設定」の GMAXSYS ユーザ反映を「反映しない」に設定してユーザ情報再作成した場合，または「GetAdAll」コマンドで引数 /g なしで実行した場合，変更通知情報取得を，「15.Address 情報取得オプションの設定」の GMAXSYS ユーザ反映を「反映する」に設定して実行しないでください。また，「indxget」コマンド実行時に，引数 /g をつけて実行しないでください。各コマンドについてはそれぞれ「7.1「GetAdAll」について」，「7.2「indxget」について」を参照してください。

16. Assist 連携の設定

Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能の使用，未使用を設定してください。この設定を変更した場合，同一マシン上の Address Server を再起動してください。（詳細は，「5.1Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能」を参照してください。）

(2) サーバの起動

Scheduler Server を起動します。詳細は「3.2 サーバおよび管理ツールサーバの起動」を参照してください。

(3) サーバの停止

Scheduler Server を停止します。

(4) 管理ツールサーバの起動

管理ツールサーバを起動します。詳細は「3.2 サーバおよび管理ツールサーバの起動」を参照してください。

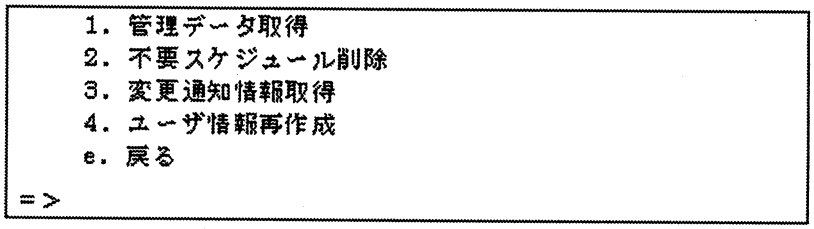
(5) 管理ツールサーバの停止

管理ツールサーバを停止します。

(6) 手動実行

コンフィギュレーションのウィンドウから 6．を入力してください。「手動実行」画面が表示されます。

図 3-3　「手動実行」画面



1. 管理データの取得
   管理データの取得は，親サーバの管理データを子サーバから取得する機能です。（親サーバの場合，実行できません。）通常は，「3.1.1 (1) コンフィギュレーションの設定」の「4. 管理データの取得時刻」で設定した時刻に行われますが，今すぐ管理データの取得が必要な場合にだけ行ってください。この機能を使用する場合，「3.1.1 (1) コンフィギュレーションの設定」の「項番 3．親サーバホスト名 /IP アドレス設定」が終了していることが必要です。管理データの取得をするには，1．を入力してください。管理データを親サーバから取得します。Scheduler を運用中に実行するのであれば，クライアントからのアクセス（スケジュール参照，ログインなど）が少ない時間帯に実行してください。運用中に実行する場合，クライアントからのアクセス（スケジュール参照，ログインなど）が失敗することがあります。
   - Scheduler Server だけで運用している場合
     「aconsole」から，この機能を実行してください。
   - Facilities Manager だけで実行している場合
     「roomconsole」から，この機能を実行してください。
   - Scheduler Server と Facilities Manager の両方で運用している場合
     「roomconsole」から，この機能を実行してください。「aconsole」から，この処理を実行する必要はありません。
2. 不要スケジュールの削除
   不要スケジュールの削除は，通常は，「3.1.1 (1) コンフィギュレーションの設定」の「9. 不要スケジュール削除時刻の設定」で設定した時刻に行われますが，今すぐ不要スケジュールの削除が必要な場合だけ行ってください。不要スケジュールの削除をするには，2．を入力してください。不要スケジュールを削除します。Scheduler を運用中に実行するのであれば，クライアントからのアク

セス（スケジュール参照，ログインなど）が少ない時間帯に実行してください。

3. 変更通知情報の取得

ここではAddress Serverの変更情報の取得を手動で実行します。

通常は，「3.1.1 (1) コンフィギュレーションの設定」で設定したタイミングで行われますが，今すぐ変更通知情報が必要な場合にだけ行ってください。変更通知情報を取得するには，3．を入力してください。親サーバでのみ実行します。

- 詳細は「7.2「indxget」について」を参照してください。
- 「indxget」コマンドの実行と同じ処理です。
- 実行結果は，スケジュール格納ディレクトリの下のlog/indxget.logに格納されます。エラーが発生していた場合は，「付録M「GetAdAll」と「indxget」の実行時におけるエラーメッセージ」を参照してください。
- Address Serverを起動しておく必要があります。
- Address Server上でユーザのSchedulerホスト名を変更した場合は，SV，RMSVを停止した状態で行ってください。
  なお，このときはスケジュールデータの移動および変換が必要です。（詳細は，「付録Eサーバホスト名が変更された場合」および「付録Fスケジュールデータの移動」を参照してください。）
- 取得前後で継続してクライアントを使用していた場合，クライアントを再起動しないと設定内容は反映されません。
- マルチサーバの場合はこれを実行後すぐに子サーバから管理データの取得をする必要があります。
- Schedulerを運用中に実行するのであれば，クライアントからのアクセス（スケジュール参照，ログインなど）が少ない時間帯に実行してください。運用中に実行する場合，クライアントからのアクセスが失敗することがあります。

図3-4　「indxget」実行結果の例

```
≪ 変更通知情報取得 ≫
AddressServer の変更通知情報の取得を実行します。よろしいですか？(Y or N)
=>y
[Groupmax Address Server ユーザ情報の差分取得開始]
インストール情報の取得・・・Ok!
データファイルのバックアップ・・・Ok!
差分ファイルの取得・・・Ok!
差分ファイル(00000000)の処理・・・Ok!
差分ファイル(00000003)の処理・・・Ok!
差分ファイル(00000007)の処理・・・Ok!
この実行結果内容は，以下のファイルに保存されています。
/usr/iki/log/indxget.log

Hit return key
```

4. ユーザ情報の再作成

以下のような場合に使用します。なお，親サーバでのみ実行します。

- Scheduler ServerまたはFacilities Managerを新規にインストールした場合。

- Version2.0 から Version 6 にバージョンアップした場合。
- Address Server からアドレス帳情報全体を再取得する場合。
- Address - Assist と連動する場合。(詳細は,「5.1Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能」を参照してください。)

ここでは Address Server からユーザ情報を再作成します。

- 詳細は「7.1 「GetAdAll」について」を参照してください。
- 「GetAdAll」コマンドの実行と同じ処理です。

実行結果は,＜スケジュール格納ディレクトリ＞/log/indxget.log に格納されます。エラーが発生していた場合は,「付録 M「GetAdAll」と「indxget」の実行時におけるエラーメッセージ」を参照してエラーの要因を除去し,＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/etc_bk ディレクトリの内容をすべて＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /etc にコピーした上で再実行してください。

また実行する際には以下の点に注意してください。

注意　Address Server を起動しておく必要があります。

注意　Scheduler Server, Facilities Manager を停止しておく必要があります。

注意　Address Server をインストールした後に Scheduler Server をインストールする必要があります。(Facilities Manager のときも同様です。) Address Server をインストールする前に Scheduler Server をインストールしている場合,「4.1.2 注意事項」を参照してください。

注意　Address Server 上で組織やユーザの情報を登録しておく必要があります。

図 3-5 「GetAdAll」実行結果の例

```
≪ ユーザ情報再作成 ≫
ユーザ情報再作成を実行します。よろしいですか？(Y or N)
=>y
[Groupmax Address Server ユーザ情報の一括取得開始]
インストール情報の取得・・・Ok!
データファイルのバックアップ・・・Ok!
組織（A社：Asya）を処理中・・・UU
組織（開発部：kaihatu）を処理中・・・
組織（開発1G：kaihatu1）を処理中・・・UUUNUUUUU
組織（開発2G：kaihatu2）を処理中・・・UUUUUDUKU
組織（開発3G：kaihatu3）を処理中・・・UUUAUUU
Gateway の設定（MAIN.idx）を処理中・・・S
Gateway の設定（IDINDX.idx）を処理中・・・GGGGG
差分情報ファイルの削除・・・Ok!
この実行結果内容は，以下のファイルに保存されています。
/usr/iki/log/indxget.log

Hit return key
```

3.1.2 Facilities Manager の環境設定

サーバの環境を設定するには, Facilities Manager 設定コマンドで行います。root でログインし, 以下のコマンドを入力してください。メッセージについては,「付録 O 「aconsole」と「roomconsole」のエラーメッセージ」を参照してください。

コマンド名

roomconsole [-s | -t | -u | -d | -i | -g] [-n]

説明

-s　サーバを停止する。

-t　管理ツールサーバを停止する。

-u　管理データを取得する。

-d　不要スケジュールデータを削除する。

-i　Address Server の変更通知情報を取得する。

-g　ユーザ情報を再作成する。

-n　-s か -t を指定したときだけ有効で問い合わせなしにコマンドを実行する。

オプションなし　対話形式で設定をする。

リターン値　0・・・・・正常終了

0以外・・・エラー

注意　「-u」,「-i」,「-g」オプション指定時に問い合わせなしにコマンドを実行する方法は aconsole と同じです。

オプションなしで，roomconsole を実行すると，以下のメニュー画面が表示されます。

```
<<Groupmax Facilities Manager の設定>>
    1．コンフィギュレーション
    2．サーバの起動
    3．サーバの停止
    4．管理ツールサーバの起動
    5．管理ツールサーバの停止
    6．その他の手動実行
    e．終了
=>
```

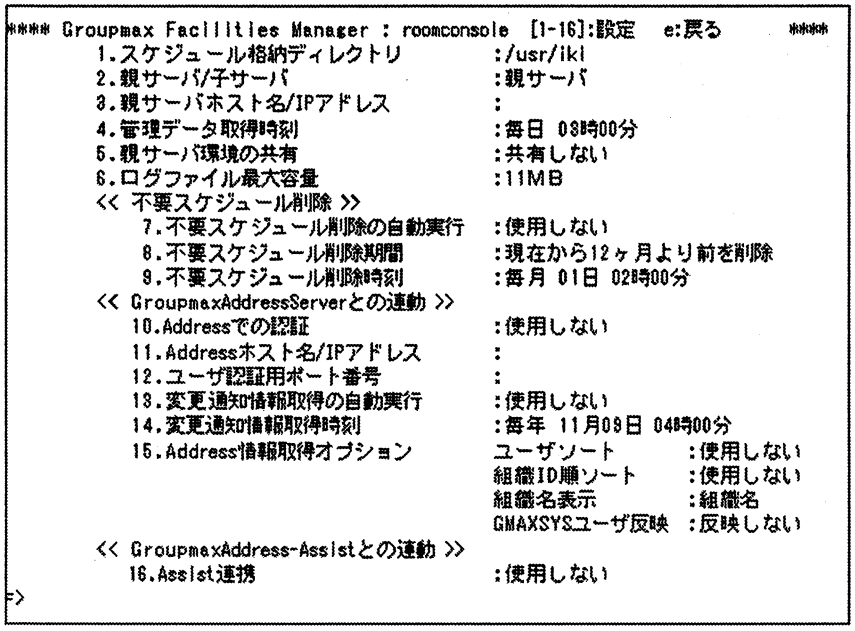
(1) コンフィギュレーションの設定

コンフィギュレーションの設定をするには，メニュー画面で「1．コンフィギュレーション」を選択してください。以下のコンフィギュレーションメニューが表示されます。親サーバ（1サーバで使用する場合）は全項目を設定してください。子サーバの場合は項番5で「共有する」と設定した場合（子サーバが親サーバの環境を共有する場合），項番6～10，12～16の設定は不要となります。

コンフィギュレーションを終了しメニュー画面に戻る場合は，e と入力してください。

- Version2.0 または Version3，Version5 からバージョンアップした場合には，「付録 D バージョンアップ時の注意事項」－「(2) コンフィギュレーションの設定に関する注意事項」を参照してください。

図 3-6　「Groupmax Facilities Manager：roomconsole」メニュー画面



注意　上図の設定項目に関して，シングルサーバ構成時では，項番１と２は設定必須項目です。マルチサーバ構成時では，親サーバは項番１と２，子サーバは項番１～５が設定必須項目です。必ず設定してください。また，設定内容を変更した場合は，管理ツールサーバである /usr/bin/RoomMan を再起動してください。

注意　項番１～１６の各設定内容については，「3.1.1(1) コンフィギュレーションの設定」を参照してください。

(2) サーバの起動

Facilities Manager を起動します。詳細は「3.2 サーバおよび管理ツールサーバの起動」を参照してください。

(3) サーバの停止

Facilities Manager を停止します。

(4) 管理ツールサーバの起動

管理ツールサーバを起動します。詳細は「3.2 サーバおよび管理ツールサーバの起動」を参照してください。

(5) 管理ツールサーバの停止

管理ツールサーバを停止します。

(6) 手動実行

「3.1.1(6) 手動実行」を参照してください。

以下，このマニュアルでは，サーバのコンフィギュレーションについて説明している，

3.1.1 (1) コンフィギュレーションの設定

(2) 手動実行

3.1.2 (1) コンフィギュレーションの設定

この個所を総称して「コンフィギュレーション」という表現で下記のように表記します。適宜読み替えてください。

例1)「コンフィギュレーション」の「10.Address での認証の設定」を参照してください。参照個所は「3.1.1 (1) 項番 10 Address での認証の設定」となります。

例2)「コンフィギュレーション」の「手動実行」の「3. 変更通知情報の取得」を参照してください。参照個所は「3.1.1 (2) 項番 3 変更通知情報の取得」となります。

例3)「コンフィギュレーション」からの実行を推奨します。

「3.1.1 (1) または (2)」または「3.1.2 (1)」に記載の方法による実行を推奨する，という意味です。

3.1.3 組織によるセキュリティの設定

(1) 概要

サーバの設定として，組織の構造に応じたセキュリティ（組織間セキュリティ）を設定することができます。組織間セキュリティを使用しない場合はこの節の設定をする必要はありません。また，人対人のセキュリティを個別に設定する方法が別にあります。詳細は「4.9 セキュリティの設定」を参照してください。

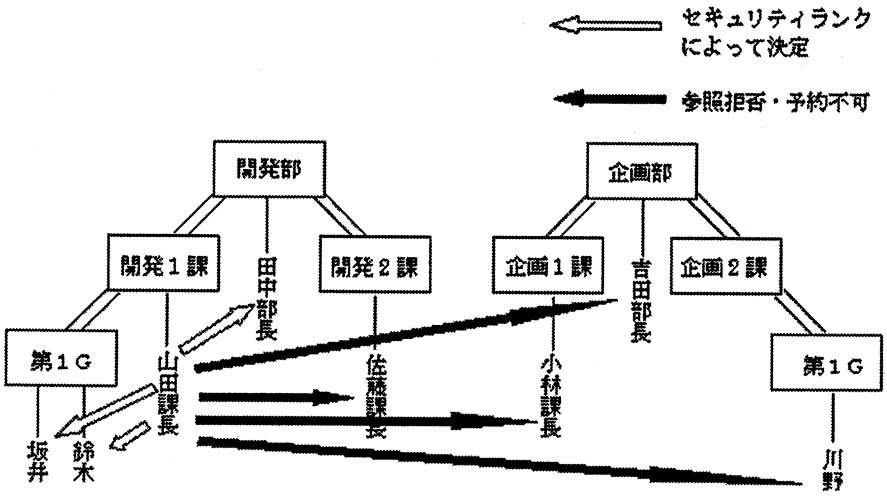
組織間セキュリティを用いる場合，最終的なセキュリティは，セキュリティランクによる判定と組織間セキュリティによる判定との組み合わせで決定します。

組織間セキュリティは対象が人のセキュリティであり，施設のセキュリティは設定することはできません。また，個々の組織間でセキュリティを個別に設定することはできません。

組織間セキュリティは，以下の2方式のうちどちらか一つを選択して運用します。

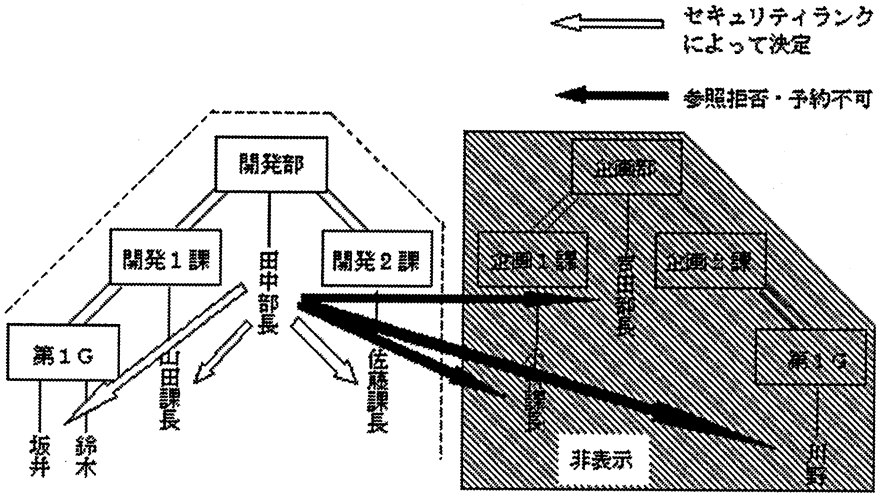
1. 直系方式
   - 自分の上位組織ユーザ（自分が属する組織の上位の組織に属するユーザ）および下位組織ユーザ（自分が属する組織の下位の組織に属するユーザ）へのスケジュール参照・予約はセキュリティランクにより決定します。
   - その他のユーザへのスケジュール参照・予約は参照拒否・予約不可となります。

図 3-7　直系方式の例



2. ユニット方式
   - 自分と同じ最上位組織以下のユーザは，ツリービューに表示します。また，ユーザへのスケジュール参照・予約はセキュリティランクにより決定します。
   - その他のユーザは，ツリービューに表示しません。また，ユーザへのスケジュール参照・予約は参照拒否・予約不可となります。

図 3-8　ユニット方式の例



(2) 前提条件

マルチサーバ環境で，組織間セキュリティを使用する場合には，サーバとするすべてのマシンを Scheduler Server Version 6 にする必要があります。

(3) 設定手順

組織間セキュリティに関する設定手順を以下に説明します。組織間セキュリティを使用しない場合にこの設定をする必要はありません。

1. すべてのサーバを停止する
   詳細は,「3.2 サーバおよび管理ツールサーバの起動」を参照してください。なお,管理ツールサーバも停止してください。
2. 親サーバ上の設定ファイルを更新する
   以下の手順で更新してください。
   - 以下のファイルを削除してください。
     <スケジュール格納ディレクトリ> /etc/param.ini
     … 組織間セキュリティの初期設定ファイルのテンプレート
   - サーバマシンの以下のファイルを使用する方式に応じて一つ選択してください。
     <スケジュール格納ディレクトリ> /usr/GroupAppo/bin/param0.ini
     … 組織間セキュリティ未使用時の設定ファイルのテンプレート
     <スケジュール格納ディレクトリ> /usr/GroupAppo/bin/param1.ini
     … 直系方式使用時の設定ファイルのテンプレート
     <スケジュール格納ディレクトリ> /usr/GroupAppo/bin/param2.ini
     … ユニット方式使用時の設定ファイルのテンプレート
   - 選択したファイルを以下のディレクトリにコピーしてください。
     <スケジュール格納ディレクトリ> /etc/
   - コピー先のファイルの名前を param.ini にリネームしてください。
3. 管理ツールサーバを起動する
   詳細は,「3.2 サーバおよび管理ツールサーバの起動」を参照してください。
4. マルチサーバ構成の場合は,各子サーバから「管理データの取得」を実行する
   詳細は,「4.4 管理データの取得」を参照してください。
5. すべてのサーバを起動する
   詳細は,「3.2 サーバおよび管理ツールサーバの起動」を参照してください。

注意 Scheduler Server を起動時に<スケジュール格納ディレクトリ> /etc/param.ini ファイルが存在しない場合に,OS のシステムログおよびサーバログにエラーを表示します。サーバは停止せず,セキュリティを直系方式として扱い動作します。

(4) 他の機能への影響

組織間セキュリティを使用しているときに,他の機能を使用する場合はそれぞれ次に示すようにセキュリティを決定します。秘書機能については「4.10 上司/秘書の設定」を,G/W 接続については「4.6 ユーザ情報の設定」の「4.6.2 他システムと接続する場合」を参照してください。

- 秘書機能使用時のスケジュール参照・予約
  - 秘書の上司へのスケジュール参照・予約は,参照・予約可となります。
  - 秘書が上司の名前で予約する場合の組織間セキュリティ使用時のスケジュール参照・予約は,上司のスケジュール参照・予約と同様になります。
- G/W 接続時の他システムのユーザへのアクセス

- 自システム，他システムともに組織間セキュリティを使用していない場合は，G/W の設定およびセキュリティランクによって決定します。
- 自システムで組織間セキュリティを使用，他システムで組織間セキュリティを使用していない場合は，G/W の設定およびセキュリティランクによって決定します。
- 自システムで組織間セキュリティを使用せず，他システムで組織間セキュリティを使用している場合は，参照拒否・予約不可として扱います。
- 自システム，他システムともに組織間セキュリティを使用している場合は，参照拒否・予約不可として扱います。

(5) 兼任ユーザが存在するときのスケジュール参照・予約について

Address Server 連動時に兼任ユーザを登録した場合のセキュリティは以下のように決定します。兼任ユーザについては「4.1 Address Server との連動について」の「4.1.7 兼任ユーザについて」を参照してください。

- 直系方式使用時
  ツリービューからユーザのスケジュールを参照または予約するときに，同じユーザでも主体ユーザ，兼任ユーザの所属する組織に応じてセキュリティが異なります。
  - 自分に兼任ユーザが存在しない場合
    自分の上位組織・下位組織に属する，参照・予約する相手の主体ユーザまたは兼任ユーザへのスケジュール参照・予約は，セキュリティランクにより決定します。自分の上位組織・下位組織に属さない，相手の主体ユーザまたは兼任ユーザへのスケジュール参照・予約は参照拒否・予約不可とします。
  - 自分に兼任ユーザが存在する場合
    自分の主体ユーザの上位組織・下位組織または自分の兼任ユーザの上位組織・下位組織に属する，参照・予約する相手の主体ユーザまたは兼任ユーザへのスケジュール参照・予約は，セキュリティランクにより決定します。自分の主体ユーザの上位組織・下位組織にも自分の兼任ユーザの上位組織・下位組織にも属さない，相手の主体ユーザまたは兼任ユーザへのスケジュール参照・予約は参照拒否・予約不可とします。
- ユニット方式使用時
  - ツリービューの表示
    自分の主体ユーザと同じ最上位組織以下のユーザを表示します。兼任ユーザと同じ最上位組織以下のユーザは表示されません。
  - スケジュール参照・予約
    相手の主体ユーザ，兼任ユーザのうち，自分の主体ユーザと同じ最上位組織のユーザはセキュリティランクにより決定します。

(6) 注意事項

(a) 上限値について

組織間セキュリティは以下の制限を設けます。

- 組織の階層の深さは１００階層まで（Address Server 非連動時，Address Server 連動時は Address Server の上限値に依存します。）

この上限を超えた設定をしている場合には，対象となるユーザからのスケジュール参照・予約および対象となるユーザへのスケジュール参照・予約は参照拒否・予約不可として扱います。

(b) Address Server 非連動時の特別なユーザについて

Address Server 非連動時には，管理ツールで事業所の直下にユーザを作成することができます。このユーザについては以下の注意事項があります。

- 組織間セキュリティ使用時は，このユーザへのスケジュール参照・予約，このユーザからのスケジュール参照・予約はセキュリティランクにより決定します。
- このユーザでログインした場合に，ユニット方式使用時はツリービューにすべての組織が表示されます。
- ユニット方式使用時にユーザ検索をした場合，このユーザは検索対象から外れます。

(c) バージョンアップ時の注意事項

サーバを Version 5 以前から Version 6 へバージョンアップし，ユニット方式を使用する場合，以下の注意事項があります。

- Version 5 以前のサーバを使用時に，ユーザが Scheduler クライアントでローカルグループに自分と異なる最上位組織以下のユーザを登録していた場合，バージョンアップ後も，ローカルグループに残ります。ただし，グループのツリービューからこのユーザのスケジュールを参照または予約しても参照拒否・予約不可となります。
- Version5 以前のサーバを使用時に，ユーザが起動時に自分と異なる最上位組織以下のユーザのスケジュールを表示する設定としていた場合，バージョンアップ後，Scheduler クライアントで保存した画面から起動すると，画面は表示されますがスケジュールは表示されません。

(d) ユニット方式使用時の秘書機能について

ユニット方式を使用し，かつ自分の上司として異なる最上位組織以下のユーザを登録した場合以下となります。

- 上司一覧から上司のスケジュールを参照し，上司の名前で予約できます。
- 上司の組織の階層は表示されません。

3.2 サーバおよび管理ツールサーバの起動

3.2.1 Scheduler Server の起動

すべての設定が終了したら，サーバのプログラムを起動します。起動する前にもう一度「2.1 サーバのセットアップ手順」の記述されている必要な設定をすべて行ったか確認してください。また，サーバ間またはクライアント間で TCP/IP で通信が行えることを確認してください。Scheduler Server の動作には TCP/IP で通信できることが前提となります。

(1) サーバの起動方法（aconsole からの起動）

サーバおよび管理ツールサーバを起動します。

1. root でログインします。
2. aconsole を起動します。
   コマンド： `/usr/bin/aconsole`
3. サーバ (SV) を起動します。
   「2．サーバの起動」を選択してください。コマンド：`/usr/bin/SV` が実行されます。
4. 管理ツールサーバ (AppoMan) を起動します。
   「4．管理ツールサーバの起動」を選択してください。コマンド：`/usr/bin/AppoMan` が実行されます。

(2) 自動起動の設定

サーバプログラムはクライアントからの通信を受けるために常に起動した状態でなければなりません。そのためにサーバの電源を入れたときに自動的にサーバプログラムが起動するように設定します。

1. root でログインします。
2. `/etc/localrc` の最後に，次の内容を書き加えてください。
   コマンド：`vi  /etc/localrc`

注意　HP-UX，AIX の場合は `/etc/localrc` ではなく，スタートアップ・スクリプトに書き加えてください。

```
if  test  -x  /usr/bin/brc.appo
then
    /usr/bin/brc.appo*1
fi
```

*1：brc.appo

サーバを起動するためには幾つかのプログラムを実行する必要があります。そのプログラムを一度に実行するためのシェルプログラムです。

```
#!/bin/sh

#Licensed Material Of Hitachi,Ltd.
#All Rights Reserved,Copyright(C)1995,1999,Hitachi,Ltd.

PWDPATH=`pwd`
ININAME="/usr/bin/AppoMan.ini"
SCHEPATH=`cat $ININAME | grep SchedulePath | cut -c14-`
LOGPATH=$SCHEPATH/log

if test -x /usr/bin/SV
then
   if test -d $LOGPATH
   then
      cd $ LOGPATH
   fi

   /usr/bin/SV
   /usr/bin/AppoMan

   cd $PWDPATH

fi
```

3.2.2 Facilities Manager の起動

すべての設定が終了したら，サーバのプログラムを起動します。起動する前にもう一度「2.1 サーバのセットアップ手順」の記述されている必要な設定をすべて行ったか確認してください。また，サーバ間またはクライアント間で TCP/IP で通信が行えることを確認してください。Facilities Manager の動作には TCP/IP で通信できることが前提となります。

(1) サーバの起動方法

サーバおよび管理ツールサーバを起動します。

1. root でログインします。
2. roomconsole を起動します。
   コマンド：/usr/bin/roomconsole
3. サーバ (RMSV) を起動します。
   「2．サーバの起動」を選択してください。コマンド：/usr/bin/RMSV が実行されます。
4. 管理ツールサーバ (RoomMan) を起動します。
   「4．管理ツールサーバの起動」を選択してください。コマンド：/usr/bin/RoomMan が実行されます。

(2) 自動起動の設定

サーバプログラムはクライアントからの通信を受けるために常に起動した状態でなければなりません。そのためにサーバの電源を入れたときに自動的にサーバプログラムが起動するように設定します。

1. root でログインします。

2. /etc/localrc の最後に，次の内容を書き加えてください。
   コマンド：vi　/etc/localrc

注意　HP-UX，AIX の場合は /etc/localrc ではなく，スタートアップ・スクリプトに書き加えてください。

```
if test -x /usr/bin/brc.Appoarea
then
  /usr/bin/brc.Appoarea*1
fi
```

*1：brc.Appoarea
サーバを起動するためには幾つかのプログラムを実行する必要があります。
そのプログラムを一度に実行するためのシェルプログラムです。

```
#!/bin/sh

#Licensed Material Of Hitachi,Ltd.
#All Rights Reserved,Copyright(C)1996,1999,Hitachi,Ltd.

PWDPATH=`pwd`
ININAME="/usr/bin/AppoMan.ini"
SCHEPATH=`cat $ININAME | grep SchedulePath | cut -c14-`
LOGPATH=$SCHEPATH/log

if test -x /usr/bin/RMSV
then
  if test -d $LOGPATH
  then
    cd $ LOGPATH
  fi

  /usr/bin/RMSV
  /usr/bin/RoomMan

  cd $PWDPATH

fi
```

4. 管理データの作成

この章では，管理データの作成について説明します。

4.1 Address Server との連動について
4.2 管理ツールのインストール／アンインストール
4.3 管理ツールの起動
4.4 管理データの取得
4.5 ＤＮＳ ホスト名の登録
4.6 ユーザ情報の設定
4.7 施設管理情報の設定
4.8 汎用化データの設定
4.9 セキュリティの設定
4.10 上司／秘書の設定
4.11 ゲスト ＩＤ の設定
4.12 付属設備の登録
4.13 施設管理者の登録
4.14 システム標準値の登録
4.15 不要スケジュール削除期間の個別設定
4.16 管理データの転送
4.17 管理ツールの終了
4.18 各子サーバでの管理データの取得

4.1 Address Server との連動について

4.1.1 前提条件

Address Server を使用することにより，Groupmax のアプリケーション間でユーザ情報を共有することができます。Address Server との連動をする場合には，親サーバに必ず Address Server のプログラムをインストールしてください。なお，Address Server との連動をするかしないかの設定は，「コンフィギュレーション」の「10. Address での認証の設定」で設定します。

4.1.2 注意事項

(1) インストール時の注意

1. Scheduler Server の親サーバは，Address Server と同一サーバにインストールする必要があります。Scheduler Server をインストールした後は，Address Server を再起動してください。
2. 同一サーバにインストールする Groupmax 製品のバージョンは，すべて同じバージョンにしてください。

(2) Address Server へのユーザ情報登録時の注意

1. 大文字と小文字しか区別のない二つのユーザＩＤ（例：ＡＢＣ と ａｂｃ）を同一システム内で登録すると，動作が不安定になるので登録しないでください。(Address Server では登録できますが，使用しないでください。)
2. 組織ＩＤに使用可能な文字は半角英数字の小文字だけです。それ以外の文字を使用する場合には動作が不安定になるので使用しないでください。(Address Server では登録できますが，使用しないでください。)
3. bin，etc，log，room というユーザＩＤを登録すると，動作が不安定になるので登録しないでください。
   (Address Server では登録できますが，使用しないでください。)
4. Scheduler Server ではユーザＩＤの先頭文字に「#」を設定することはできません。Address Server にて，ユーザＩＤの先頭文字に「#」を設定した場合は連動できませんので，ご注意ください。
5. Address Server でユーザ，組織の日本語名称が，半角２１文字以上で登録されている場合，先頭から半角２０文字までの名称で Scheduler Server および Facilities Manager に登録されます。２０文字目が全角文字の場合には，１９文字目までの名称が登録されます。
6. Address Server との連動時，以下の項目には「"」(ダブルクオーテーション)を使用しないでください。使用した場合，対象の組織・ユーザを正しく登録できません。
   - 組織ＩＤ
   - 組織名
   - 組織略称
   - 日本語名

- 役職名
- ニックネーム

(3) 運用時の注意

1. 「コンフィギュレーション」の設定で「10. Address での認証の設定」の「使用する」と「使用しない」を切り替えて運用する場合，「使用しない」で運用している間は管理ツールを使用したユーザ情報の更新は実施しないでください。実施した場合，ユーザ情報が不正になる場合があります。
2. Address Server からユーザ情報を取得した場合は，ユーザ情報の更新は必ず Address Server 上で行ってください。
3. 同一の組織名・氏名（日本語）の複数の兼任ユーザを登録すると Scheduler Client の動作が不正になるので，登録しないでください。
4. Address Server と連動している場合に，ニックネームの最後に半角スペースを定義しないでください。
5. Address Server 連動している場合，パスワードの初期値はユーザ ＩＤ と同一です。
6. Address Server でユーザ情報・組織情報の追加，削除，変更を行った場合，変更通知ファイルが出力されるまでに，多少時間がかかることがあります。出力されるまでの時間を変更する場合は，「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。
7. Address Server との連動時，Scheduler Server の親サーバに以下のファイルが存在することを確認してください。このファイルは，Address Server からの変更通知情報を取得するために必要です。ただし，このファイルは「コンフィギュレーション」にて「親サーバ／子サーバ」の設定を「親サーバ」にし，かつ「Address での認証」を「使用する」に設定した場合に自動的に作成されます。

   HI-UX：/usr/GroupMail/Groupmax/GroupApp/item.def
   HP-UX：/var/opt/GroupMail/Groupmax/GroupApp/item.def
   AIX　：/var/opt/GroupMail/Groupmax/GroupApp/item.def
   上記のファイルが存在しない場合は，以下からコピーしてください。
   /usr/GroupAppo/GroupApp/item.def
   コピーした場合は，Address Server の再起動を行ってください。
8. Address Server との連動時，Scheduler Server の子サーバに以下のファイルが存在しないことを確認してください。このファイルが存在すると不要なファイルが作成されます。ただし，このファイルは「コンフィギュレーション」にて「親サーバ／子サーバ」の設定を「子サーバ」にするか，または「Address での認証」を「使用しない」に設定した場合に自動的に削除されます。

   HI-UX：/usr/GroupMail/Groupmax/GroupApp/item.def
   HP-UX：/var/opt/GroupMail/Groupmax/GroupApp/item.def
   AIX　：/var/opt/GroupMail/Groupmax/GroupApp/item.def
   削除した場合は，Address Server の再起動を行ってください。
9. Groupmax Address Server を使用していない運用から，Groupmax Address Server と連動する運用へ移行する場合，以下の注意事項があります。

Scheduler_Facilities 管理ツールにて，組織とユーザをすべて削除した後，「4.1.3. Address Server のユーザ情報取得方法」を参照して Address Serve と連動する設定を行ってください。なお，G/W 接続している場合は，ユーザ情報再作成を実行した後，Scheduler_Facilities 管理ツールから，G/W 情報の設定を行ってください。

10. Scheduler Server および Facilities Manager の実行ユーザを Address Server のシステム管理者と同一ユーザに設定する必要があります。詳細は「付録 L 実行ユーザの変更」を参照してください。

4.1.3 Address Server のユーザ情報取得方法

以下の手順で Address Server に登録されている組織，ユーザを Scheduler Server および Facilities Manager に登録することができます。

1. Address Server に組織，ユーザ情報を登録します。
   （詳細は「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド基本操作編」を参照してください。）
2. 「コンフィギュレーション」で Address Server に関する設定を行います。
3. ユーザ情報の新規作成を行います。以下のどちらかを実行してください。なお，Version2.0 または Version 3 から移行した場合も一度再作成してください。
   - 「コンフィギュレーション」の［手動実行］の［ユーザ情報再作成］
   - 「GetAdAll」コマンド（「7.1「GetAdAll」について」を参照してください）

   「コンフィギュレーション」からの実行を推奨します。このコマンドの実行は，Address Server が起動している必要があります。
4. 管理ツールにより管理データを作成します。
5. すべての子サーバから「管理データの取得」を実行してください。

注意　Address Server のユーザ情報取得に失敗した場合，処理を中断します。メッセージを確認し，エラーの要因を除去し log ディレクトリの下の etc_bk ディレクトリの内容をすべて etc ディレクトリにコピーした上で，再実行してください。

注意　一つの組織に多数のユーザを登録している場合，多少時間がかかりますが処理を中断しないでください。処理を中断した場合，その後のアプリケーションの動作は保証しません。

4.1.4 Address Server の変更通知情報取得方法

「4.1.3 Address Server のユーザ情報取得方法」の手順で，Address Server と連動するシステムを構築した後に，Address Server 上でユーザ情報を追加・変更・削除した場合は，その変更通知情報を取得する必要があります。変更通知情報を取得する手順は以下のとおりです。

1. Address Server のユーザ情報を変更します。
2. 親サーバ上で Address Server の変更通知ファイルが作成されたことを確認してください。（詳細は「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド基本操作編」を参照してください。）

3. Address Server の変更通知情報を取得します。以下のどれかを実行してください。なお，変更通知情報の取得時には，Address Server が起動されている必要があります。
   - 「コンフィギュレーション」の［手動実行］の［変更通知情報取得］。
   - 「indxget」コマンド。(「7.2「indxget」について」を参照してください。)
   - 「コンフィギュレーション」の「13. 変更通知情報取得の自動実行の設定」を「使用する」に設定していた場合は，「14. 変更通知情報取得時刻の設定」で設定した時刻に取得されます。
4. すべての子サーバから「管理データの取得」を実行してください。以下に注意事項があります。
   - 親サーバ・子サーバともに，管理ツールサーバ（/usr/bin/AppoMan または /usr/bin/RoomMan）を起動しておいてください。
   - 既存のユーザのホームサーバの移動を行った場合は，上記手順を実行後，サーバ（SV，RMSV）を停止し，ユーザデータの移動を実行してください。(詳細は「付録 F スケジュールデータの移動」を参照してください。)
   - サーバを稼働中にこの操作を行った場合，クライアントを再起動しないと取得した内容が反映されません。この操作はサーバ（SV，RMSV）を停止して実行することを推奨します。また，サーバ稼働中に実行する場合は，クライアントからのアクセス（スケジュール参照・ログインなど）が少ない時間帯に実行してください。
   - Address Server の変更通知情報取得に失敗した場合，etc ディレクトリ下の管理データをコマンド実行前の状態に戻します。メッセージを確認し，エラーの要因を除去した上で，再実行してください。
   - 一つの組織に多数のユーザを登録している場合，多少時間がかかりますが処理を中断しないでください。処理を中断した場合，その後のアプリケーションの動作は保証しません。

4.1.5 ユーザソートについて

Address Server と連動している場合，Address Server 上で定義した役職順位，および個々のユーザの役職・日本語名・ＩＤにしたがって，Scheduler クライアントのメンバのツリービューで表示されるユーザの並び順をソートすることができます。

ユーザソートには，下記の 3 種類のソートがあり，「コンフィギュレーション」の「15.Address 情報取得オプション」の設定，または「GetAdAll」コマンドおよび「indxget」コマンドを引数指定で実行することによって使用できます。

詳細は，「7.1 「GetAdAll」について」，「7.2「indxget」について」を参照してください。

注意　Scheduler クライアントの上司，秘書，システムグループ，ローカルグループのツリービューで表示されるユーザの並び順はソートの対象にはなりません。

(a) 役職順ソート

役職順ソートの優先順位は，下記のとおりです。

1. Address Server 上での役職レベル
2. 役職名

3. ユーザ ＩＤ

(b) 日本語名順ソート

日本語名順ソートの優先順位は，下記のとおりです。

1. 日本語名
2. ユーザ ＩＤ

(c) ＩＤ順ソート

ＩＤ順ソートの優先順位は，下記のとおりです。

1. ユーザ ＩＤ

ユーザソート機能を使用するには，以下の注意事項があります。

- 他システムと G/W 接続を行っていて，管理ツールで他システムのテーブルを登録している場合，その組織の並び順はソートされません。
- ソート処理を実行すると，Scheduler Server および Facilities Manager に既に登録されているユーザ情報（＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /etc ディレクトリの内容）は，＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/etc_bks ディレクトリに退避されます。
- Scheduler のユーザの並び順と，Integrated Desktop の電子アドレス帳および Groupmax WWW の「メール」サービス（以後 Groupmax WWW/ メールと記述）におけるシステム宛先台帳のユーザの並び順を一致させるためには，それぞれ以下の設定を行ってください。

ソート種別	Scheduler	Integrated Desktop*1	Groupmax WWW/ メール
ID 順	ユーザ ID 順（/si）*2	しない	NOSORT
役職順	役職順（/s）	する（役職）	POSITION_NONAME
日本語名順	日本語名順（/sj）	*3	NAME

*1：Integrated Desktop で初期表示したときの状態を示します。

*2：/si オプションは indxget のみ使用できます。
GetAdAll では，引数の /s，/sj オプションを指定しないで実行した場合，ID 順にソートされます。

*3：リストビュー初期表示後，名前でソートしてください。

- Scheduler
「コンフィギュレーション」の「Address 情報取得オプション」の設定，または「GetAdAll」コマンドおよび「indxget」コマンドの引数指定で実行してください。表中では，「Address 情報取得オプション」の設定値（コマンドの引数）を示しています。
- Integrated Desktop の電子アドレス帳
「ツール」-「オプション」で，「リスト」タブから「リストのデフォルトソート」しない／する（役職）を選択してください。表中では，「リストのデフォルトソート」の選択項目を示しています。
- Groupmax WWW/ メールのシステム宛先台帳

/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config（Windows版の場合，＜Groupmax WWWのインストールディレクトリ＞¥schema¥gmax¥etc¥config）のgml_userlist_sortの設定値（NAME/POSITION/POSITION_NONAME/NICKNAME/NOSORT）を変更し，Groupmax WWWを再起動してください（default:NOSORT）。表中では，gml_userlist_sortの設定値を示しています。（詳細は，「Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 システム管理者ガイド」，Windows版の場合は，「Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。）

4.1.6 組織名の表示について

Address Serverと連動している場合，Schedulerクライアントで表示する組織名の表示をAddress Serverで設定した組織名と組織略称から選択することができます。

デフォルトでは，組織名を表示する設定になっています。

組織略称の表示は，「コンフィギュレーション」の「15.Address情報取得オプション」の設定，または「GetAdAll」コマンドおよび「indxget」コマンドを引数指定で実行することによって設定することができます。

詳細は，「7.1 「GetAdAll」について」，「7.2 「indxget」について」を参照してください。

4.1.7 兼任ユーザについて

Scheduler ServerおよびFacilities Managerでは，Address Server上で定義した兼任ユーザを設定することができます。

ただし，一つの組織の中に主体ユーザと兼任ユーザ，または同じ主体ユーザを持つ複数の兼任ユーザを定義することはできません。（Address Server上では設定できます。）つまり，Address Server上で兼任ユーザに関する追加・削除・変更を行った場合，以下の注意事項があります。（ここでは，兼任ユーザに対し，実体となるユーザを主体ユーザと呼びます。）

注意　Address Server上で，主体ユーザと兼任ユーザを同じ組織の中に定義した場合，主体ユーザだけが登録されます。

注意　Address Server上で，1人の主体ユーザに対して複数の兼任ユーザを同じ組織の中に定義した場合，1人の兼任ユーザだけがその組織の中に登録されます。

注意　Address Server上で，主体ユーザを兼任ユーザが存在する組織に移動した場合，主体ユーザが登録され，あらかじめ登録されていた兼任ユーザは削除されます。

注意　Address Server上で，兼任ユーザを対応する主体ユーザまたは兼任ユーザが存在する組織に移動した場合，その兼任ユーザは削除されます。

注意 **Scheduler のユーザでない主体ユーザを Address 上にあらかじめ定義してある状態から，そのユーザを Scheduler のユーザに変更した場合，兼任ユーザは Scheduler のユーザとして登録されません。兼任ユーザを Scheduler のユーザとして登録する場合は，「コンフィギュレーション」の［手動実行］から［ユーザ情報再作成］を実行するか，あるいは「GetAdAll」コマンドでユーザ情報を再作成してください。(Facilities Manager も同様です。)**

注意 **Address Server 上で，あらかじめ主体ユーザと兼任ユーザが同じ組織の中に定義してある状態から，主体ユーザを他の組織に移動した場合，元の組織には，主体ユーザが削除され，兼任ユーザも登録されない状態になります。主体ユーザと兼任ユーザを入れ替えた場合等は，「コンフィギュレーション」の［手動実行］から［ユーザ情報再作成］を実行するか，あるいは「GetAdAll」コマンドでユーザ情報を再作成してください。**

4.1.8 管理ツール上での制限事項

Address Server との連動時は，Address Server 上でユーザ情報を一括して管理するため，Scheduler Server の管理ツールでは，以下の操作をすることができません。

- ユーザの登録，削除，変更
- 組織の登録，削除，変更
  ただし，他システム用の最上位組織は登録，削除の操作を行うことができます。
- 組織の移動
  ただし，上位が同一の組織内であれば，組織を移動することができます。これにより，クライアントで表示する順序を変更することができます。詳細は，「4.6.1 ユーザ情報の設定」の「(8) 部署テーブルの移動」を参照してください。
- ユーザの移動
  ただし，同一の組織内であれば，ユーザを移動することができます。これにより，クライアントで表示する順序を変更することができます。詳細は，「4.6.1 ユーザ情報の設定」の「(9) ユーザ，セパレータ，または他システムの移動」を参照してください。

4.2 管理ツールのインストール／アンインストール

Scheduler Server または Facilities Manager のクライアント端末の中の１台，もしくは Windows NT に管理ツールをインストールします。管理ツールをインストールした端末は，管理ツールプロセス用のサービスを設定する必要があります。詳細は「1.1 TCP/IP の接続確認」を参照してください。

管理ツールのインストール媒体は，フロッピーディスク（５枚）でサーバに添付されています。

(1) インストール方法

インストール媒体（１枚目）の中のインストールプログラム「Install.exe」を起動します。以下は，ガイダンスにしたがって作業してください。

1. 管理ツールのデフォルトインストール先ディレクトリは，c:¥appomous です。
2. インストールが終了すると「Groupmax サーバ」ウィンドウに「Scheduler_Facilities 管理ツール」アイコンが登録されます。

(2) アンインストール方法

管理ツールのアンインストールは以下のように行います。

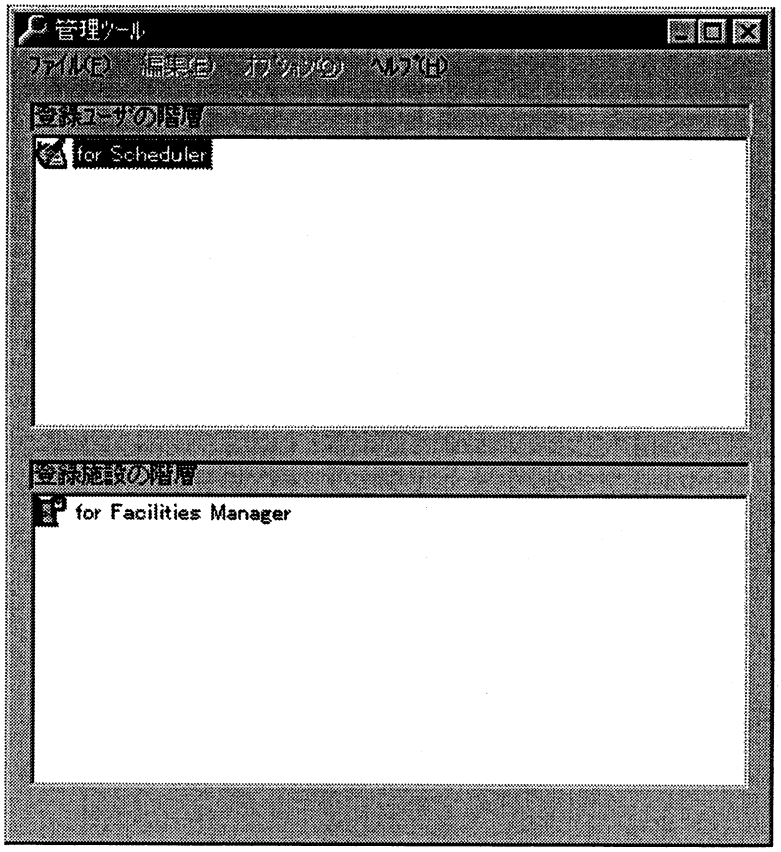
- 「アプリケーションの追加と削除」からアンインストールを行ってください。「Scheduler_Facilities 管理ツール」という名称で登録されています。

4.3 管理ツールの起動

［スタート］ボタンをクリックして［プログラム］－［Groupmax サーバ］－［Scheduler_Facilities 管理ツール］を選択します。または，「Groupmax サーバ」ウィンドウの［Scheduler_Facilities 管理ツール］アイコンをダブルクリックすると起動します。「管理ツール」ウィンドウが表示されます。これがメイン画面になります。

注意　この管理ツールは，このバージョンではヘルプ機能をサポートしていません。

図 4-1 「管理ツール」ウィンドウ



この画面には，ユーザや施設の組織階層を表示します。上側に登録ユーザの階層を，下側に施設の階層を表示します。おのおのの階層はツリー構造で表示し，ユーザ・施設・組織等には，以下のようなアイコンで表示しています。

：ユーザの階層のルート

：施設の階層のルート

：ユーザ

：施設

：組織／種別テーブル

：他システム

：セパレータ

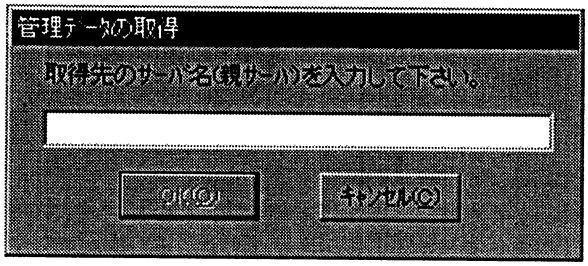
注意　セパレータの登録は，サーバに接続するクライアントのバージョンが３以降の場合は不要です。これらのクライアントには，セパレータが登録されていても表示されません。セパレータは，クライアントのバージョンが２．０以前で，かつ一つの組織内をグループ分けしたい場合に各グループの見出しとして使用します。

4.4 管理データの取得

はじめに管理データの取得を行います。

1. [ファイル] − [管理データの取得] メニューを選択してください。「管理データの取得」ウィンドウが表示されます。

図 4-2 「管理データの取得」ウィンドウ



2. サーバ名を入力してください。なお，複数サーバ構成の場合は，「3.1 サーバ環境設定」で設定した親サーバのホスト名またはIPアドレスを入力してください。
3. [OK] ボタンをクリックしてください。以下のディレクトリに管理データが取得されます。
   - ユーザ管理データのディレクトリ名
     <管理ツールインストールディレクトリ> ¥sftetc
   - 施設管理データのディレクトリ名
     <管理ツールインストールディレクトリ> ¥sftroom

注意　定義情報のメンテナンス作業は運用時間外に行ってください。

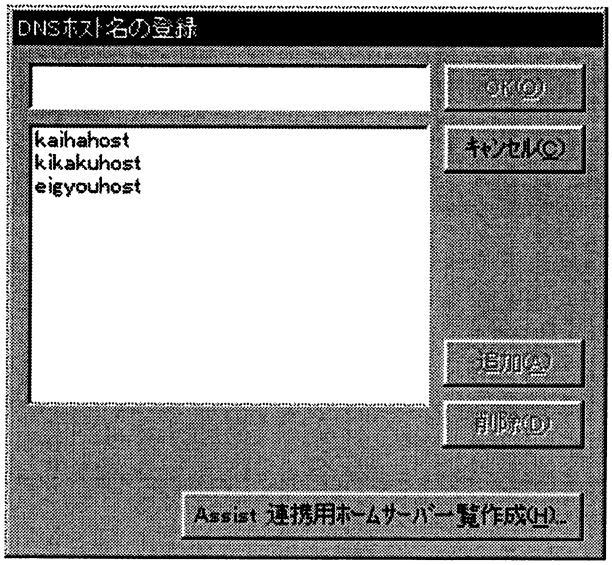
4.5 ＤＮＳ ホスト名の登録

ユーザ情報の設定をする前に，このDNSホスト名の登録で，システム内に存在するすべてのサーバのホスト名（自システムのG/Wホスト名および他システムのG/Wホスト名）を登録しておく必要があります。また，Scheduler Serverの「コンフィギュレーション」またはFacilities Managerの「コンフィギュレーション」で「16. Assist連携」の設定を「使用する」に設定してある場合は，このAssist連携用ホームサーバ一覧作成で，自システム内に存在するすべてのサーバのホスト名（自システムのG/Wホスト名も含む）を登録しておく必要があります。他システムのG/Wホスト名は登録しないでください。以下の手順で登録します。

(1) ＤＮＳ ホスト名の登録

1. ［オプション］－［DNSホスト名］メニューを選択してください。「DNSホスト名の登録」ウィンドウが表示されます。下図の中で上側の空欄がDNSホスト名入力エリアで，「kaihahost」，「kikakuhost」などが表示されているところがDNSホスト名一覧リストボックスです。

図4-3 「DNSホスト名の登録」ウィンドウ



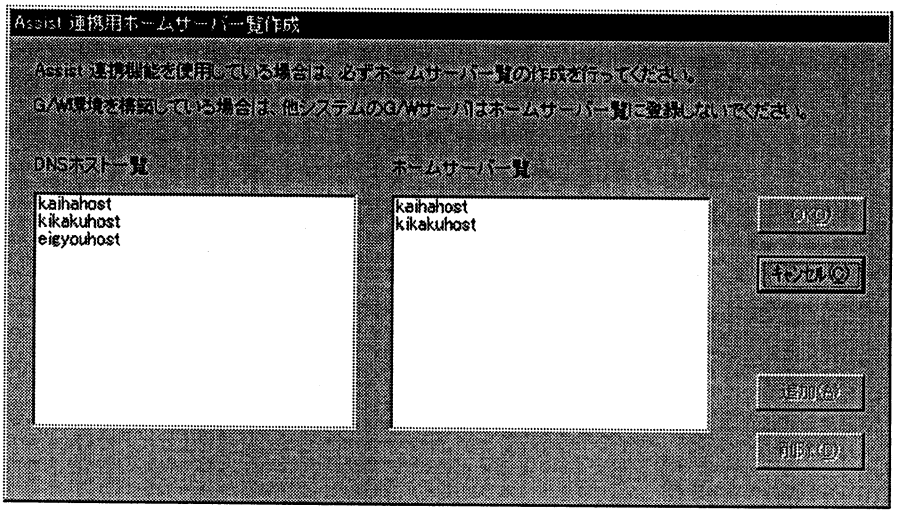
2. 新規登録する場合は，DNSホスト名入力エリアにホスト名を入力し，［追加］ボタンをクリックしてください。ホスト名一覧リストボックスに登録されます。ホスト名に設定できる文字種は半角英数字と「-」「.」と「:」です。最大２５５文字以内で設定してください。ただし「:」の後はポート番号（半角数字）だけが入力できます。
3. 削除する場合は，ホスト名一覧リストボックスから削除するDNSホスト名を選択し，［削除］ボタンをクリックしてください。ホスト名一覧リストボックスから削除されます。
4. いままでの変更を取消したいときは，［キャンセル］ボタンをクリックしてくだ

さい。いままでの変更は無効になり終了します。
終了するときは，［ＯＫ］ボタンをクリックしてください。ウィンドウを閉じてメイン画面に戻ります。

(2) Assist 連携用ホームサーバー一覧作成

1. 「DNS ホスト名の登録」ウィンドウで「Assist 連携用ホームサーバー一覧作成」ボタンをクリックしてください。「Assist 連携用ホームサーバー一覧作成」ウィンドウが表示されます。左側の DNS ホスト名一覧リストボックスに「DNS ホスト名の登録」ウィンドウで登録した DNS ホスト名が表示されます。

図 4-4 「Assist 連携用ホームサーバー一覧作成」ウィンドウ



2. 新規登録する場合は，DNS ホスト名一覧リストボックスから登録したい DNS ホスト名を選択し，［追加］ボタンをクリックしてください。ホームサーバー一覧リストボックスに登録されます。
3. 削除する場合は，ホームサーバー一覧リストボックスから削除する DNS ホスト名を選択し，［削除］ボタンをクリックしてください。ホームサーバー一覧リストボックスから削除されます。
4. いままでの変更を取消したいときは，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。いままでの変更は無効になり終了します。
終了するときは，［ＯＫ］ボタンをクリックしてください。ウィンドウを閉じて「DNS ホスト名の登録」ウィンドウに戻ります。

4.6 ユーザ情報の設定

4.6.1 ユーザ情報の設定

ユーザ名およびユーザ ＩＤ 等のユーザ情報を設定します。ユーザ情報は階層構造で作成でき，各階層はテーブルで管理されます。階層は５０階層まで作成でき，１テーブルに登録できる人数は５００人までです。(セパレータ，他システムおよびテーブルを含みます。) ただし，クライアントで参照できるのは２６８人までです。

注意　サーバの「コンフィギュレーション」の設定で「10. Address での認証」の設定を「使用する」に設定している場合，ここでテーブルおよびユーザの登録・変更はできません。(参照のみとなります。) ただし，最上位の階層の場合，テーブルの登録・変更・削除はできます。

＜例＞

ある組織（A 社）が使用する場合を例にとり，以下説明します。

図 4-5　A 社の体制表

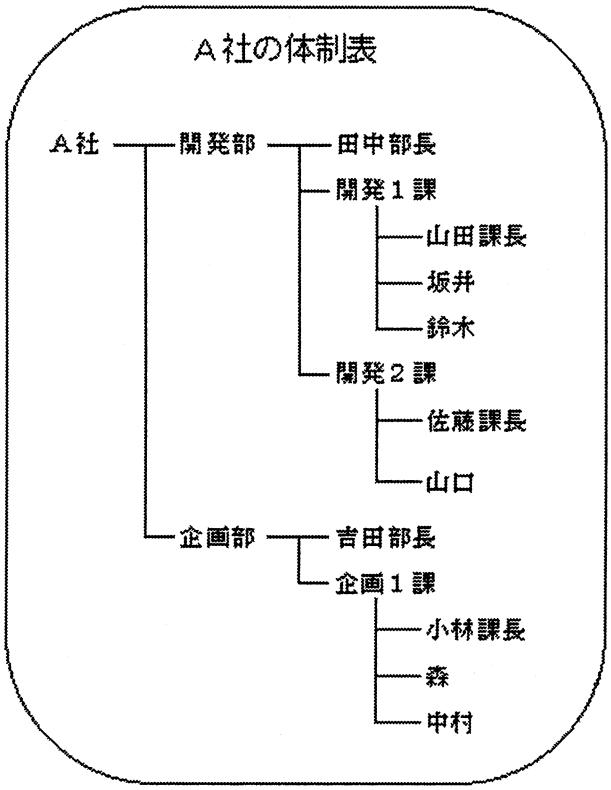
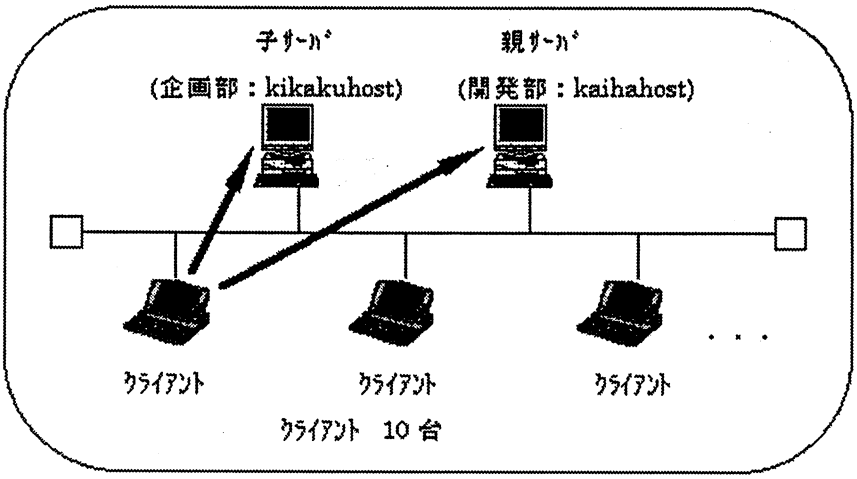


図 4-6　A 社のシステム環境



上図，A 社の体制表に示されているような階層で，ユーザ情報を設定していきます。

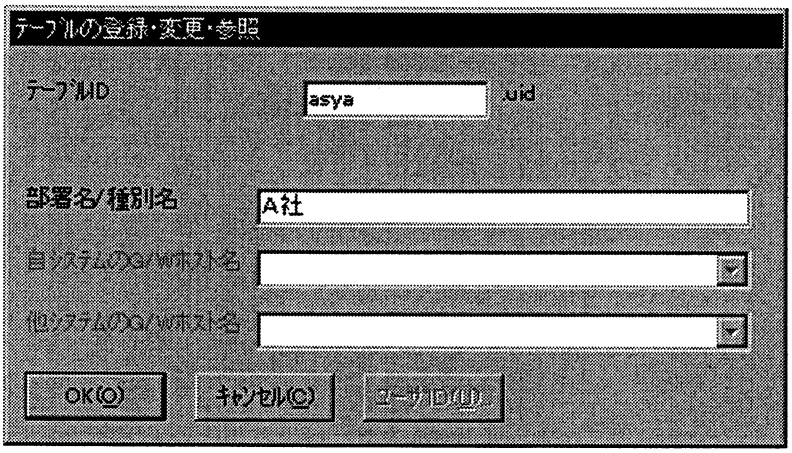
テーブルとはディレクトリのようなもので，階層構造になっています。階層の一番上のテーブルをメインテーブルといい，その他をすべて部署テーブルといいます。1 システムで一つのメインテーブルが作成できます。メインテーブルの下に複数の部署テーブルを作成することができ，階層構造を取ることができます。ユーザ情報はメインテーブル，部署テーブルの下に登録します。

例として，ここでは A 社というメインテーブルを作成し，その下に開発部という部署テーブルを登録します。

(1) 部署テーブルの新規登録

1. ユーザの階層のルートアイコンをクリックし，［編集］－［新規］から［テーブル］メニューを選択してください。「テーブルの登録・変更・参照」ウィンドウが表示されます。

図 4-7 「テーブルの登録・変更・参照」ウィンドウ



2. テーブル ＩＤ を入力してください。テーブル ＩＤ はプログラム上で使用する名称で，ユーザからは認識しないものです。半角英数字の小文字６文字以内で設定してください。また，システム内で同じテーブル ＩＤ が存在しないように設定してください。ここでは A 社のテーブルを登録したいため，asya と入力します。
3. 部署名を入力してください。部署名はユーザが認識する名称です。半角２０文字（全角１０文字分）以内で設定してください。ここでは，A 社と入力します。
4. ［ＯＫ］ボタンをクリックしてください。A 社が登録され，「テーブルの登録・変更・参照」ウィンドウが閉じ，メイン画面に戻ります。

ここで作成した部署テーブルの下に，さらに部署テーブルを作成することができます。ここでは，A 社の下に開発部という部署テーブルを登録します。登録方法は，既に登録した部署テーブルの方法と同様です。次の手順で登録してください。

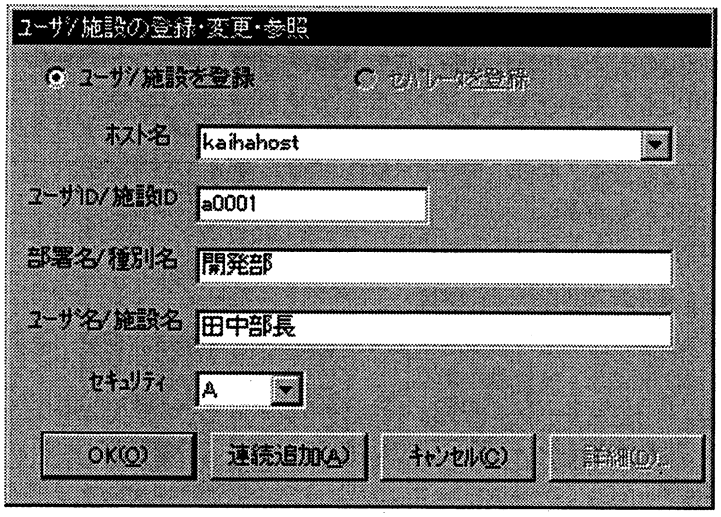
1. A 社のアイコンをクリックし，［編集］－［新規］から［テーブル］メニューを選択してください。「テーブルの登録・変更・参照」ウィンドウが表示されます。
2. テーブル名に kaiht，部署名に 開発部 と入力します。
3. ［ＯＫ］ボタンをクリックしてください。開発部が登録され，「テーブルの登録・変更・参照」ウィンドウが閉じ，メイン画面に戻ります。

(2) ユーザ情報の新規登録

ユーザ情報の登録先の部署テーブルを選択後，ユーザ情報の新規登録を行います。ここでは開発部のテーブルに，田中部長を登録します。次の手順で登録してください。

1. 開発部のアイコンをクリックし，［編集］－［新規］から［ユーザ］メニューを選択してください。「ユーザ／施設の登録・変更・参照」ウィンドウが表示されます。

図 4-8 「ユーザ／施設の登録・変更・参照」ウィンドウ



2. ホスト名を入力してください。既に「4.5 DNS ホスト名の登録」で登録したホスト名はドロップダウンリストから選択することができます。ホスト名はその

ユーザのスケジュールデータを書き込むサーバ（ホームサーバ）名を指定してください。ドロップダウンリストから選択せずに，直接入力することもできますが，DNS ホスト名の登録をあらかじめ行っておくようにしてください。ここでは開発部のホスト名 kaihahost を指定します。ここで指定するホスト名はあらかじめ「4.5 DNS ホスト名の登録」で，このシステム内のサーバのホスト名をすべて登録しておいてください。

3. ユーザ ＩＤ または施設 ＩＤ を入力してください。ＩＤ は８文字以内の半角英数字を指定してください。システム内で，同一の ＩＤ が存在しないよう設定してください。
4. ユーザが属する部署を入力してください。デフォルトとしてユーザが登録されている部署名がすでに設定されていますので，変更が必要な場合は，半角２０文字（全角１０文字分）以内で設定してください。ここでは開発部と入力します。ここで登録した部署名は，クライアントの予約時にユーザの部署名として参照されます。
5. ユーザ名を入力してください。ユーザ名は半角２０文字（全角１０文字分）以内で設定してください。ここでは田中部長と入力します。
6. セキュリティランクを設定してください。各セキュリティランクの参照権の設定は「4.9 セキュリティの設定」で行っています。ここでは田中部長に Ａ を設定します。
7. ［ＯＫ］ボタンをクリックすると，田中部長が登録され，メイン画面に戻ります。

(3) ユーザ情報の連続登録

同じ部署テーブルにユーザを複数人登録したい場合，連続して登録ができます。

ここでは開発１課のテーブルの下に山田課長と，坂井さんと，鈴木さんをユーザ登録します。

1. 開発１課アイコンをクリックし，［編集］－［新規］から［ユーザ］メニューを選択してください。「ユーザ／施設の登録・変更・参照」ウィンドウが表示されます。
2. 山田課長のユーザ情報を登録します。登録手順は，「(2) ユーザ情報の新規登録」を参照してください。
3. 登録が終了したら，［連続追加］ボタンをクリックしてください。入力したユーザ情報を登録後，再度「ユーザ／施設の登録・変更・参照」ウィンドウが表示されます。その際に，ホスト名と部署名は入力された状態となります。坂井さんと鈴木さんを同様の手順で登録してください。

(4) 部署テーブルおよびユーザ情報の追加登録

テーブルおよびユーザ情報の追加登録する場合の方法を示します。ここでは開発２課の登録を例にとって説明します。

1. 追加したい部署テーブルのアイコンをクリックします。開発２課の部署テーブルは開発部の部署テーブルに追加登録したいので，開発部のアイコンをクリックします。
2. ［編集］－［新規］から［テーブル］メニューを選択してください。「テーブルの登録・変更・参照」ウィンドウが表示されます。開発２課の登録内容を入力してください。

3. 入力後，［ＯＫ］ボタンをクリックしてください。新しい部署テーブルのアイコンが，最後に登録されます。ここでは，田中部長，開発１課の後に開発２課が登録されました。
4. 次に，開発２課のテーブルに，佐藤課長と山口さんを追加登録します。手順は「(2) ユーザ情報の新規登録」を参照してください。これで，開発部は登録できました。同様の手順で企画部も登録してください。

(5) 部署テーブルおよびユーザ情報の登録内容の変更

1. 内容を変更したい部署テーブルのアイコンをクリックし，［編集］－［開く］メニューを選択してください。「テーブルの登録・変更・参照」ウィンドウが表示されます。内容を変更後，［ＯＫ］ボタンをクリックしてください。
2. 内容を変更したいユーザ名のアイコンをクリックし，［編集］－［開く］メニューを選択してください。「ユーザ／施設の登録・変更・参照」ウィンドウが表示されます。内容を変更後，［ＯＫ］ボタンをクリックしてください。

(6) 部署テーブルの削除

1. 削除したい部署テーブルのアイコンをクリックし，［編集］－［削除］メニューを選択してください。削除を確認するダイアログが表示されます。
2. ［はい］ボタンをクリックしてください。選択したテーブル以下のすべての情報が削除されます。

注意　一度削除した情報は，元に戻せません。誤って削除してしまった場合，再度登録してください。

(7) ユーザの削除

1. 削除したいユーザのアイコンをクリックし，［編集］－［削除］メニューを選択してください。削除を確認するダイアログが表示されます。
2. ［はい］ボタンをクリックしてください。選択したユーザが削除されます。

注意　一度削除した情報は，元に戻せません。誤って削除してしまった場合，再度登録してください。

(8) 部署テーブルの移動

部署テーブルの移動は，移動したい部署テーブルのアイコンをクリックし，［編集］－［移動］メニューを選択後，移動先の部署，ユーザ，セパレータ，または他システムアイコンをクリックして移動します。次の手順で移動してください。

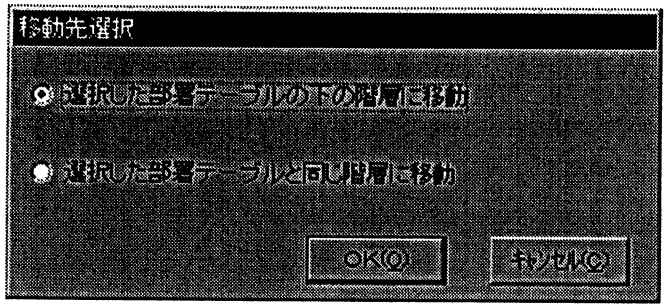
注意　部署テーブルの下に他システムが存在する場合は，同一階層内での移動のみできます。

(a) 移動先として部署テーブルのアイコンを選択した場合

ここでは，移動元が開発２課で移動先が企画部という例をあげて説明します。

1. 開発２課のアイコンをクリックし，［編集］－［移動］メニューを選択してください。
2. 企画部のアイコンをクリックしてください。「移動先選択」ウィンドウが表示されます。

図 4-9 「移動先選択」ウィンドウ



3. 「移動先選択」ウィンドウで，移動先を選択し，［ＯＫ］ボタンをクリックします。このウィンドウが閉じ，指定先に移動されます。「選択した部署テーブルの下の階層に移動」を選択した場合，企画部の部署テーブルの最後に移動します。「選択した部署テーブルと同じ階層に移動」を選択した場合，企画部の部署テーブルの上側に移動します。

(b) 移動先としてユーザ，セパレータ，または他システムのアイコンを選択した場合

ここでは，移動元が開発２課で移動先が企画部の吉田部長という例をあげて説明します。

1. 開発２課のアイコンをクリックし，［編集］－［移動］メニューを選択してください。
2. 企画部の吉田部長のアイコンをクリックしてください。企画部の部署テーブルの吉田部長の上側に移動します。

注意　部署テーブルの移動中は管理ツールの終了，および他の編集作業は行えません。また，部署テーブルをその部署テーブルの下位の階層に移動させることはできません。また，複数の部署を選択し，移動させることはできません。また，「移動先選択」ウィンドウで［キャンセル］ボタンをクリックした場合は，移動操作はキャンセルされます。

注意　Address 連動している場合は，同一組織内での移動だけできます。詳細は「4.1.8 管理ツール上での制限事項」を参照してください。

(9) ユーザ，セパレータ，または他システムの移動

ユーザ，セパレータ，または他システムの移動は，移動したいユーザ，セパレータ，または他システムのアイコンをクリックし，［編集］－［移動］メニューを選択後，移動先の部署，ユーザ，セパレータ，または他システムアイコンをクリックして移動します。次の手順で移動してください。

(a) 移動先として部署テーブルのアイコンを選択した場合

ここでは，移動元が企画１課の森さんで，移動先が開発２課という例をあげて説明します。

1. 移動したいユーザ名，企画１課の森さんのアイコンをクリックし，［編集］－［移動］メニューを選択してください。
2. 開発２課の部署テーブルのアイコンをクリックしてください。「移動先選択」ウィンドウが表示されます。

3. 「移動先選択」ウィンドウで，移動先を選択し，［ＯＫ］ボタンをクリックします。このウィンドウが閉じ，指定先に移動されます。「選択した部署テーブルの下の階層に移動」を選択した場合，開発２課の部署テーブルの最後に移動します。「選択した部署テーブルと同じ階層に移動」を選択した場合，開発２課の部署テーブルの上側に移動します。

(b) 移動先としてユーザ，セパレータ，または他システムのアイコンを選択した場合

ここでは，移動元が企画１課の森さんで，移動先が開発２課の山口さんという例をあげて説明します。

1. 移動したいユーザ名，企画１課の森さんのアイコンをクリックし，［編集］－［移動］メニューを選択してください。
2. 開発２課の山口さんのアイコンをクリックしてください。開発２課の山口さんの上側に移動します。

注意　ユーザの移動中は管理ツールの終了，および他の編集作業は行えません。また，複数のユーザを選択し，移動させることはできません。また，「移動先選択」ウィンドウで［キャンセル］ボタンをクリックした場合は，移動操作はキャンセルされます。また，移動元が他システムの場合は，メインテーブル中，またはメインテーブル上の部署テーブル中の移動しかできません。

注意　Address 連動している場合は，移動元が他システムの場合を除き，同一組織内での移動だけできます。詳細は「4.1.8 管理ツール上での制限事項」を参照してください。

4.6.2 他システムと接続する場合（G/W 通信をする場合）

他システムと接続する場合（G/W 通信をする場合），各システムで１台 G/W サーバが必要です。G/W サーバは，Scheduler Server のサーバであれば，どのサーバでもできます。（親／子サーバは問いません。）

他システムと G/W 接続を行い Scheduler Server を使用するためには，各ユーザが他システムのゲスト ＩＤ を持つ必要があります。よって，ゲスト ＩＤ を持たないユーザは他システムのユーザに対して参照，予約等の処理が行えません。また，他システムのユーザに対して参照，予約等の処理をする場合ゲスト ＩＤ の権限（セキュリティランク）が適用されます。また，逆に他システムユーザ用のゲスト ＩＤ も用意する必要があります。

自システムと他システムは，デフォルトでは同じポート番号（サービス名：ikisaki）で通信します。自システムと他システム間で異なるポート番号で通信する場合は，「付録 J G/W 通信を異なるポート番号で運用する場合」を参照してください。

他システムと接続する手順は以下のようになります。

1. 他システムをメインテーブル，またはメインテーブル上の部署テーブルに追加
   他システムのテーブルを自システムのメインテーブル，またはメインテーブル上の部署テーブルに追加します。
2. 他システムユーザ用ゲスト ＩＤ の作成
   他システムからの接続用にゲスト ＩＤ を登録します。
   （作成方法の詳細は，「4.11 ゲスト ＩＤ の設定」を参照してください。）

3. 自システムユーザ用ゲスト ＩＤ の設定
   他システムと接続するために，自システムのユーザに対して，接続する他システムのゲスト ＩＤ を設定します。(ゲスト ＩＤ が設定されていないユーザは，他システムのユーザに対して参照，予約等の処理は行えません。)

＜例＞

B 社でも Scheduler Server を使用しており，A 社と接続する場合を例にとり，以下説明します。

図 4-10　A 社，B 社の体制表

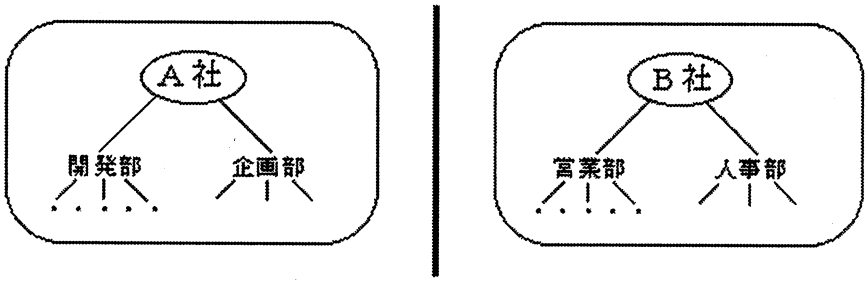
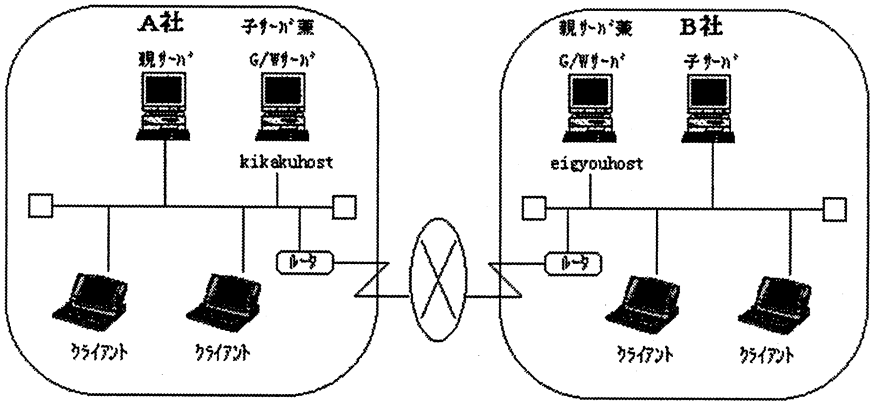


図 4-11　A 社と B 社を接続した場合のシステム環境



注意　G/W 間の TCP/IP 接続は，事前に確認してください。

(1) 他システムをメインテーブル，またはメインテーブル上の部署テーブルに追加

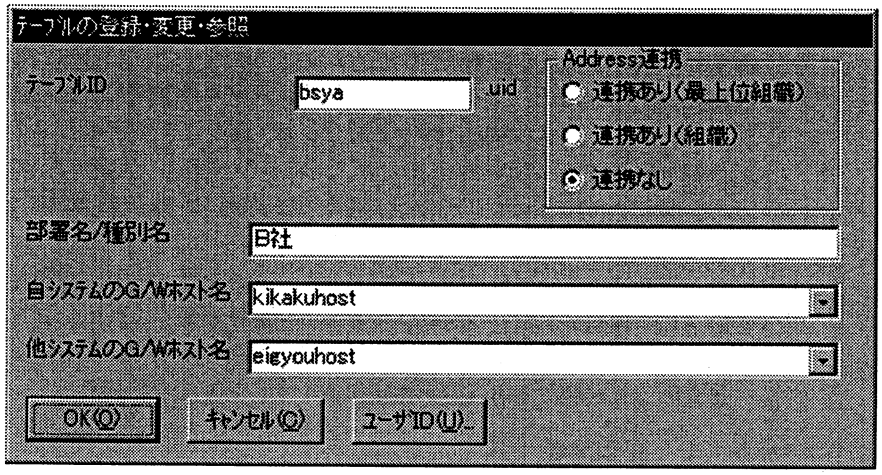
他システムと接続する場合，メインテーブル，またはメインテーブル上の部署テーブルに接続先の他システムテーブルを追加する必要があります。ここでは，A 社のメインテーブル，またはメインテーブル上の部署テーブルに B 社を他システムとしてテーブルを追加します。以下の手順で追加します。なお，他システムのテーブルはメインテーブルか，メインテーブル直下の部署テーブル以外への移動はできません。

1. ユーザの階層のルートアイコンをクリックし，[編集] － [新規] から [他システム] メニューを選択してください。「テーブルの登録・変更・参照」ウィンドウが表示されます。以下の注意事項があります。
   - 他システムを部署テーブルに追加する場合，運用方法として，すべてのク

ライアントを Version 6 以上にする必要があります。

- Version 6 から，他システムをメインテーブルに追加する際，他システムのメインテーブル上の部署テーブル（Address 連携している場合は最上位組織）より 1 階層下までの部署テーブル（組織）を他システムとして登録することができます。A 社と B 社の例で説明すると，次のようになります。B 社のメインテーブル上の部署テーブル（B 社が Address 連携している場合は最上位組織）より 1 階層下までの部署テーブル（組織）を，他システムとして登録することができます。ただし，B 社のメインテーブル上の部署テーブル（B 社が Address 連携している場合は，最上位組織）を追加した場合，そのテーブルより下位の部署テーブル（B 社が Address 連携している場合は組織）をさらに追加することはできません。追加した場合，クライアントが正常に動作しなくなります。また，B 社の部署テーブル（B 社が Address 連携している場合は，組織）を追加した場合，そのテーブルより上位の部署テーブル（B 社が Address 連携している場合は最上位組織）をさらに追加することはできません。追加した場合，クライアントが正常に動作しなくなります。

図 4-12 「テーブルの登録・変更・参照」ウィンドウ



2. 他システムでの「Address 連携」の設定有無を選択します。他システムが Address 連携していてメインテーブル上の部署テーブルと接続する場合は，「Address 連携」の選択で「連携あり（最上位組織）」を選択してください。他システムのメインテーブル上以外の部署テーブルと接続する場合は，「Address 連携」の選択で「連携あり（組織）」を選択してください。次に，テーブル ＩＤ を入力してください。テーブル ＩＤ は他システムのメインテーブルに登録されているテーブル ＩＤ を指定してください。ここで入力するテーブル名は，すでに登録されている自システム内のテーブルと重複していない必要があります。なお，「Address 連携」の選択で「連携あり（最上位組織）」，または「連携あり（組織）」を選んだ場合半角文字で 8 文字，「連携なし」を選んだ場合は半角英小文字か数字で 6 文字以内で設定してください。ここでは，B 社のテーブルを追加しますが，B 社では Address 連携なしで運用しているので「Address 連携」

の選択で「連携なし」を選択し，B 社のテーブル ＩＤ の bsya と入力します。なお，「Address 連携」で選択を切替えた場合，入力済みのテーブル ＩＤ はクリアされます。テーブル ＩＤ として，部署テーブルを指定する場合，運用方法として，すべてのクライアントを Version 6 以上にする必要があります。

3. 部署名を入力してください。半角２０文字（全角１０文字分）以内で設定してください。ここでは，B 社と入力します。
4. 自システムの G/W ホスト名を入力してください。既に「4.5 DNS ホスト名の登録」で登録したホスト名はドロップダウンリストから選択することができます。ホスト名は自システムの G/W サーバ名を指定してください。ドロップダウンリストから選択せずに，直接入力する場合は，ホスト名は半角英数字で２５５文字以内で指定してください。ここでは A 社の G/W サーバ名 kikakuhost を指定します。ここで指定するホスト名はあらかじめ「4.5 DNS ホスト名の登録」ですべて登録しておいてください。
5. 他システムの G/W ホスト名を入力してください。既に「4.5 DNS ホスト名の登録」で登録したホスト名はドロップダウンリストから選択することができます。ホスト名は他システムの G/W サーバ名を指定してください。ドロップダウンリストから選択せずに，直接入力する場合は，ホスト名は半角英数字で２５５文字以内で指定してください。ここでは B 社の G/W サーバ名 eigyouhost を指定します。ここで指定するホスト名はあらかじめ「4.5 DNS ホスト名の登録」ですべて登録しておいてください。
6. ［ＯＫ］ボタンをクリックしてください。「テーブルの登録・変更・参照」ウィンドウが閉じ，メイン画面に戻ります。なお，自システムゲスト ＩＤ の設定を引き続きする場合，［ユーザ ＩＤ］ボタンをクリックし「G/W テーブル作成」ウィンドウを表示させてください。操作の詳細は，次の「(2) 自システムゲスト ＩＤ の設定」を参照してください。

注意　他システムのテーブルの追加をするとき，あるいはユーザ／施設を追加するときに，確認メッセージを表示することがあります。これは，ＤＮＳ ホスト名テーブルに登録しているかどうかの確認結果を示しているものです。システムとして解釈できるものを設定するようにしてください。

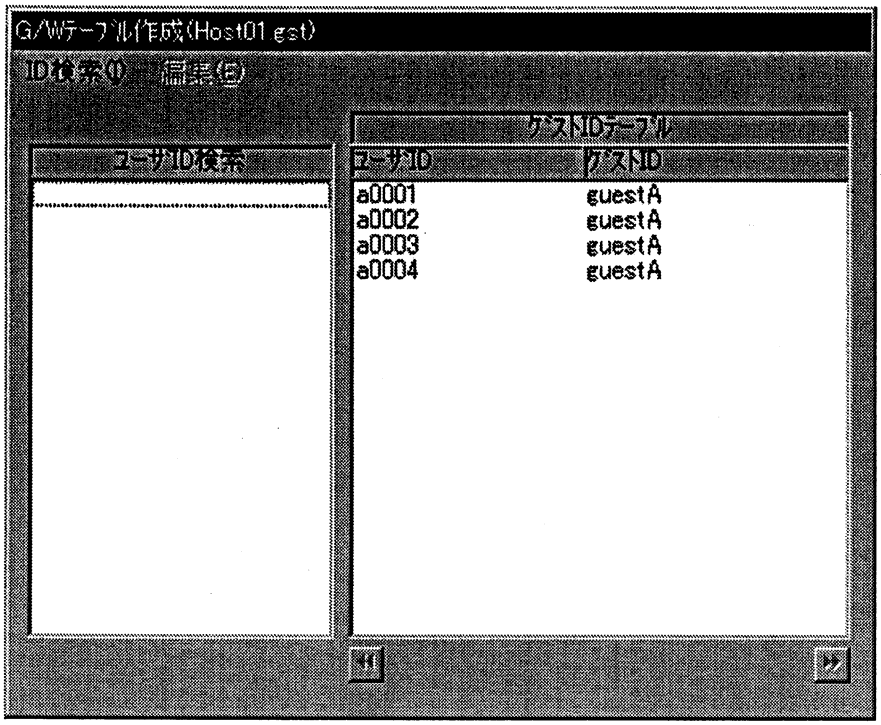
(2) 自システムゲスト ＩＤ の設定

自システムのユーザが他システムの Scheduler Server のユーザにアクセスする場合，ゲスト ＩＤ が必要です。ここでは，自システムユーザにゲスト ＩＤ を登録する方法について説明します。登録する前に，他システムの管理者にゲスト ＩＤ を確認してください。次の手順で設定します。

注意　ホストごとにゲスト ＩＤ データを保持する必要があります。

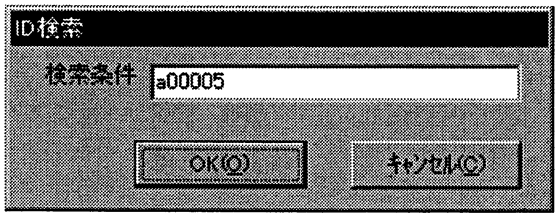
1. G/W テーブルを作成します。G/W テーブルとはユーザ ＩＤ と接続先の他システムのゲスト ＩＤ の格納ファイルです。自システムユーザにゲスト ＩＤ を登録したい他システムのアイコンをクリックし，［編集］－［開く］メニューを選択すると，「テーブルの登録・変更・参照」ウィンドウが表示されます。［ユーザ ＩＤ］ボタンをクリックしてください。「G/W テーブル作成」ウィンドウが表示されます。

図 4-13 「G/W テーブル作成」ウィンドウ



2. ゲスト ＩＤ を登録したいユーザのユーザ ＩＤ を表示します。表示方法は以下の２通りあります。
   - ユーザが特定されている場合
     あらかじめユーザが特定されている場合は，［ＩＤ 検索］－［ＩＤ 検索］メニューを選択してください。「ＩＤ 検索」ウィンドウが表示されます。登録するユーザ ＩＤ を入力するか，以下のワイルドカードを用いてユーザを検索してください。ユーザ ＩＤ 検索リストボックスに検索したユーザ ＩＤ が表示されます。
     ＊：任意文字列（＊を２個使用した ＩＤ の検索はできません。）
     ＄：任意の１文字

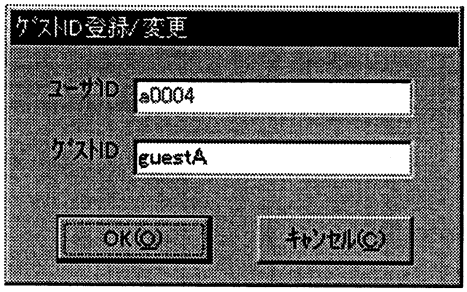
図 4-14 「ＩＤ 検索」ウィンドウ



   - ユーザ全員を表示し選択する場合
     複数のユーザに対してゲスト ＩＤ を登録する場合は，［ＩＤ 検索］－［すべての ＩＤ］メニューを選択してください。ユーザ ＩＤ 検索リストボックスに全ユーザ ＩＤ が表示されます。

3. ユーザ ＩＤ 検索リストボックスの中から，ゲスト ＩＤ を登録したいユーザ ＩＤ を選択してください。複数選択できます。ユーザ ＩＤ 検索リストボックス中に表示されているユーザすべてに対してゲスト ＩＤ の登録をする場合は，［編集］－［すべて追加］メニューを選択してください。すべてのユーザ ＩＤ がゲスト ＩＤ テーブルリストボックスに追加されます。この際，次の４の操作は不要です。
4. ［編集］－［追加］メニューを選択してください。選択したユーザ ＩＤ がゲスト ＩＤ テーブルリストボックスに追加されます。
5. ゲスト ＩＤ テーブルリストボックスから，ゲスト ＩＤ 登録するユーザ ＩＤ を選択してください。複数選択できます。
6. ［編集］－［ゲスト ＩＤ 登録／変更］メニューを選択してください。「ゲスト ＩＤ 登録／変更」ウィンドウが表示されます。ユーザ ＩＤ には選択したユーザ ＩＤ が表示されます。（複数選択した場合は ******** が表示されます。）他システムの管理者に確認したゲスト ＩＤ を入力し，［ＯＫ］ボタンをクリックしてください。ゲスト ＩＤ テーブルリストボックスに，ゲスト ＩＤ が登録されたユーザ ＩＤ 一覧が表示されます。

図 4-15 「ゲスト ＩＤ 登録／変更」ウィンドウ



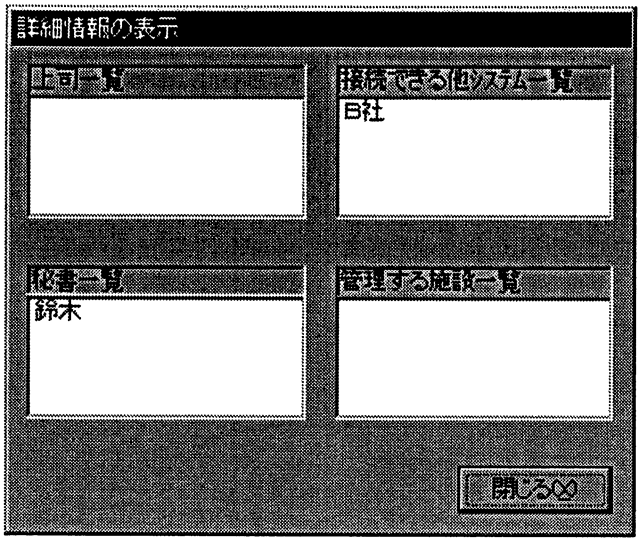
7. ゲスト ＩＤ の削除をするには，削除したいユーザ ＩＤ を選択後，［編集］－［ゲスト ＩＤ 削除］メニューを選択してください。複数選択できます。
8. ゲスト ＩＤ テーブルリストボックスには，２５００個まで表示します。次の２５００個を表示したい場合は，ゲスト ＩＤ テーブルリストボックス右下の右矢印ボタンをクリックしてください。前の２５００個を表示したい場合は，ゲスト ＩＤ テーブルリストボックス左下の左矢印ボタンをクリックしてください。

4.6.3 ユーザ情報の確認

ユーザに対して設定したデータの中で，上司／秘書，接続できる他システム，管理する施設を一覧表示し，確認することができます。手順は以下のとおりです。

1. メイン画面（「管理ツール」ウィンドウ）の「登録ユーザの階層」ツリービューから確認したいユーザのアイコンをクリックし，［編集］－［開く］メニューを選択してください。「ユーザ／施設の登録・変更・参照」ウィンドウが表示されます。［詳細］ボタンをクリックしてください。「詳細情報の表示」ウィンドウが表示されます。

図 4-16 「詳細情報の表示」ウィンドウ



2. [閉じる] ボタンをクリックすると「ユーザ／施設の登録・変更・参照」ウィンドウに戻ります。[キャンセル] ボタンをクリックしてメイン画面に戻ってください。

4.7 施設管理情報の設定

施設名，施設ＩＤ等の施設管理情報を設定します。施設管理情報はユーザ情報の設定と同様に階層構造で作成でき，各階層はテーブルで管理されます。階層は５０階層まで作成でき，１テーブルに登録できる数は５００までです。(セパレータ，およびテーブルを含みます。) ただし，クライアントで参照できるのは２６８までです。

施設の設定方法の詳細は，「4.6 ユーザ情報の設定」を参照してください。

＜例＞

ある組織（A 社）が使用する場合を例にとり，以下に説明します。

図 4-17　A 社の体制表

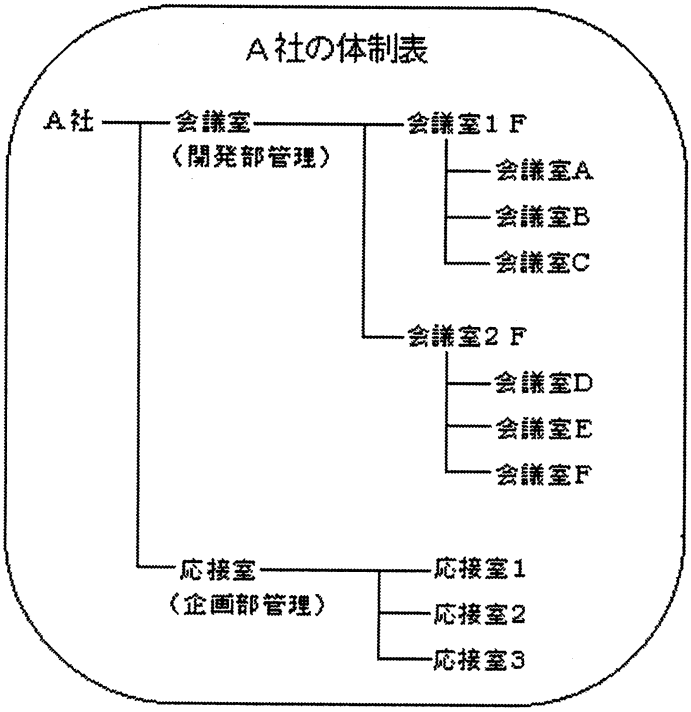
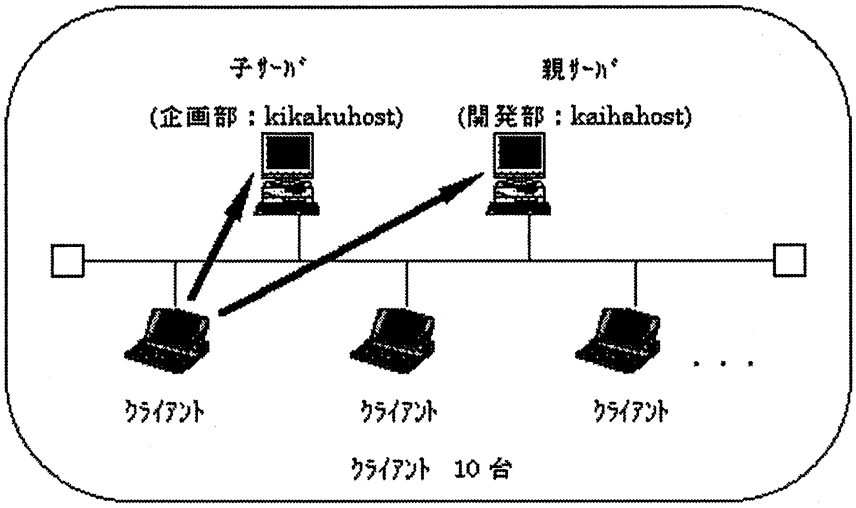


図 4-18　A 社のシステム環境



上図，A 社の体制表に示されているような階層で，施設管理情報を設定していきます。

ユーザ情報と同様に，テーブルによる階層構造になっています。階層の一番上のテーブルをメインテーブルといい，その他をすべて種別テーブルといいます。1 システムで一つのメインテーブルが作成できます。メインテーブルの下に複数の種別テーブルを作成することができ，階層構造を取ることができます。

注意　メインテーブルに施設を登録すると，WWW for Scheduler から，その施設は参照できません。

(1) 種別テーブルの新規登録

登録施設の階層の中から，登録したい種別テーブルのアイコンをクリックし，[編集] − [新規] から [テーブル] メニューを選択してください。「テーブルの登録・変更・参照」ウィンドウが表示されます。種別テーブルの詳細情報の登録方法は「4.6.1 ユーザ情報の設定」の「(1) 部署テーブルの新規登録」を参照してください。

(2) 施設の登録

登録施設の階層の中から，施設を登録したい種別テーブルのアイコンをクリックし，[編集] − [新規] から [施設] メニューを選択してください。「ユーザ／施設の登録・変更・参照」ウィンドウが表示されます。

施設の詳細情報の登録は，ユーザ情報の登録方法と同様に行います。「4.6.1 ユーザ情報の設定」の「(2) ユーザ情報の新規登録」を参照してください。(ここでは，'ユーザ' は '施設'，'部署' は '種別' となります。)

注意　ユーザ ＩＤ と施設 ＩＤ は重複しないよう注意してください。

(3) 種別テーブルおよび施設の登録内容の変更

種別テーブルの登録内容や施設の登録内容の変更は，部署テーブルおよびユーザ情報の登録内容の変更方法と同様に行います。変更方法の詳細は，「4.6.1 ユーザ情報の設定」の「(5) 部署テーブルおよびユーザ情報の登録内容の変更」を参照してください。

(4) 種別テーブルの削除および移動

種別テーブルの削除および移動は，部署テーブルの削除，移動の方法と同様に行います。削除方法の詳細は「4.6.1 ユーザ情報の設定」の「(6) 部署テーブルの削除」を，移動方法の詳細は「4.6.1 ユーザ情報の設定」の「(8) 部署テーブルの移動」を参照してください。

(5) 施設の削除および移動

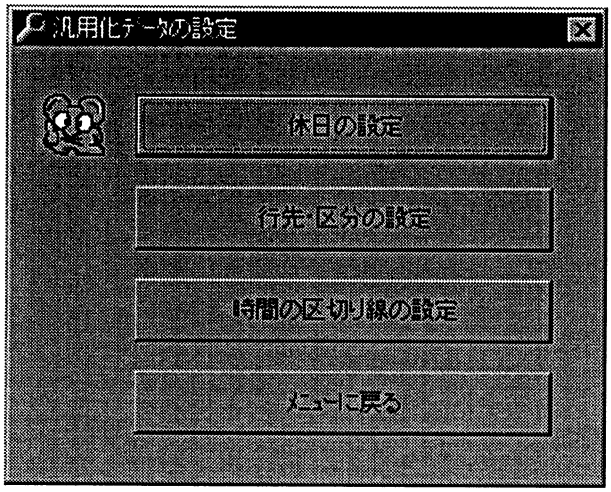
施設の削除および移動は，ユーザの削除，移動方法と同様に行います。削除方法の詳細は「4.6.1 ユーザ情報の設定」の「(7) ユーザの削除」を，移動方法の詳細は「4.6.1 ユーザ情報の設定」の「(9) ユーザ，セパレータ，または他システムの移動」を参照してください。

4.8 汎用化データの設定

汎用化データ（休日，行先・区分，時間の区切り線）を以下の手順で設定します。

1. ［オプション］－［汎用化データ］メニューを選択してください。「汎用化データの設定」ウィンドウが表示されます。

図 4-19 「汎用化データの設定」ウィンドウ



2. 「汎用化データの設定」ウィンドウの［休日の設定］ボタンをクリックしてください。「休日の設定」ウィンドウが表示されます。
   - 日付をクリックすると休日に設定されます。もう一度クリックすると取り消されます。
   - ［週休］から曜日を選んでクリックすると，選択した曜日がすべて休日に設定されます。もう一度クリックすると取り消されます。
   - 年度リストボックスの中から 前年（上，下），当年（上，下），翌年（上，下）を選択すると，その年（上，下）の休日が設定できます。
   - ［標準］ボタンを選択すると，デフォルトに設定されます。
   - ［閉じる］ボタンをクリックすると，指定通りに休日が設定され，「汎用化データの設定」ウィンドウに戻ります。

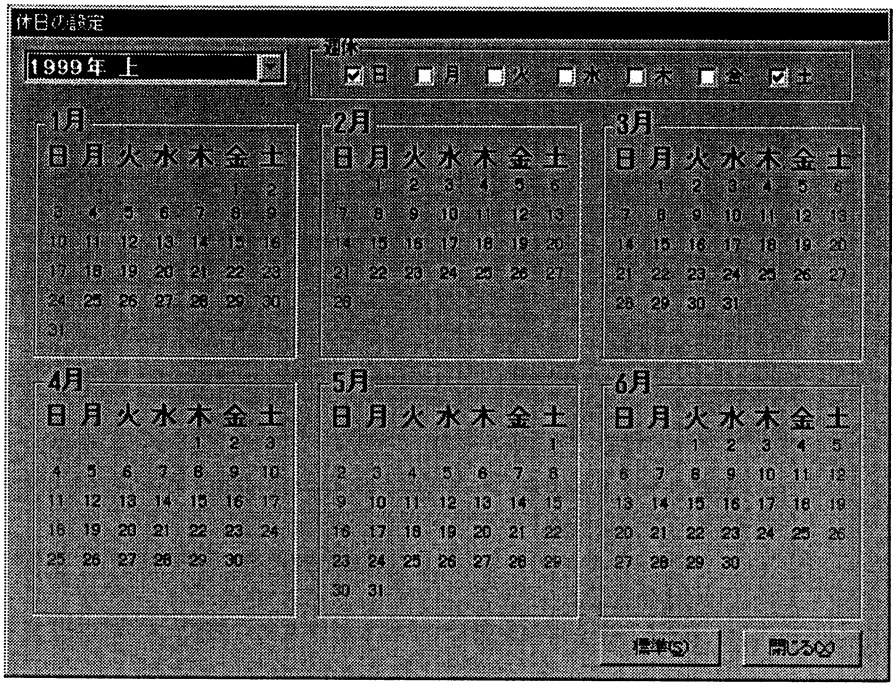
   注意
   - 初期起動時は，デフォルトで土曜日，日曜日，祝日が休日に設定されています。
   - 春分の日，秋分の日は，デフォルトで３月２１日，９月２３日に設定されていますが，年によって前後しますので正しく設定してください。
   - 西暦２０００年以降の成人の日と体育の日は，以下がデフォルト値として設定されます。

     成人の日：１月の第２月曜日，体育の日：１０月の第２月曜日

     なお，休日の設定データを保持しているのは前年・当年・翌年の３年分だけですので，年が切り替わるごとに，翌年分の休日を設定してください。
   - 年が切り替わったときに初めて「汎用化データの設定」ウィンドウを表示すると，「休日の設定データが不正です。再登録してください」のウィンド

ウが表示されますので，［ＯＫ］ボタンをクリックし，休日の設定を行ってください。
設定終了後，「汎用化データの設定」ウィンドウから［メニューに戻る］ボタンをクリックすると，「登録して終了しますか？」というウィンドウが表示されます。
「はい」を選択し，次に管理データの転送を行ってください。「いいえ」を選択したり，転送を行わなかった場合は，休日のデータは更新されません。

図 4-20 「休日の設定」ウィンドウ



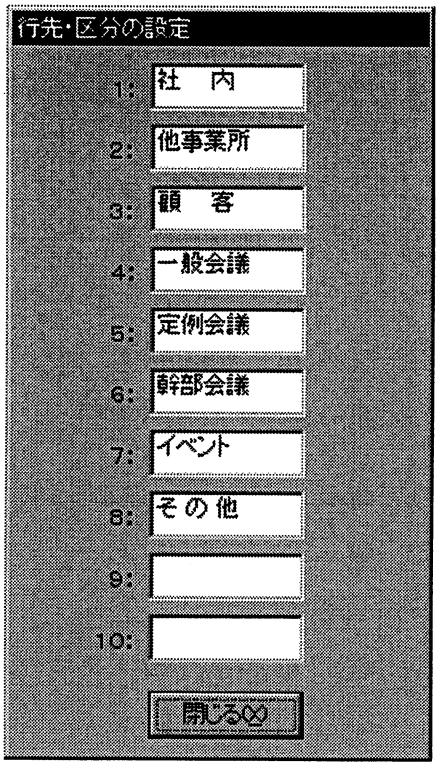
3.「汎用化データの設定」ウィンドウの［行先・区分の設定］ボタンをクリックしてください。「行先・区分の設定」ウィンドウが表示されます。
- 初期起動時は，デフォルトで一般会議，定例会議，幹部会議，顧客，イベント，その他が設定されています。
- 区分の入力エリアをクリックし，キーボードで行先・区分を入力します。区分名は，半角８文字（全角４文字分）以内で設定してください。
- ［閉じる］ボタンをクリックすると，指定通りに行先・区分が設定され，「汎用化データの設定」ウィンドウに戻ります。

「行先・区分の設定」については，以下の注意事項があります。したがって，運用後はできるだけ変更しないようにお願いします。
- 設定した区分名（「社内」や「他事業所」等）を，運用開始後に変更した場合，これまでにクライアントで登録したスケジュールの区分名が変更されます。
- 項目内の文字列をすべて削除すると，その項目が削除され，次の項目が順次スライドされた設定となります。したがって，運用開始後に「行先・区分の設定」ウィンドウにて項目内の文字列をすべて削除する場合，次の点

にご注意ください。
(1) クライアントで表示される区分名が一斉にスライドした形で変更されます。これにより，スケジュールの内容と区分名が食い違います。
(2) これまでクライアントで表示されていた区分名と色の対応がずれます。

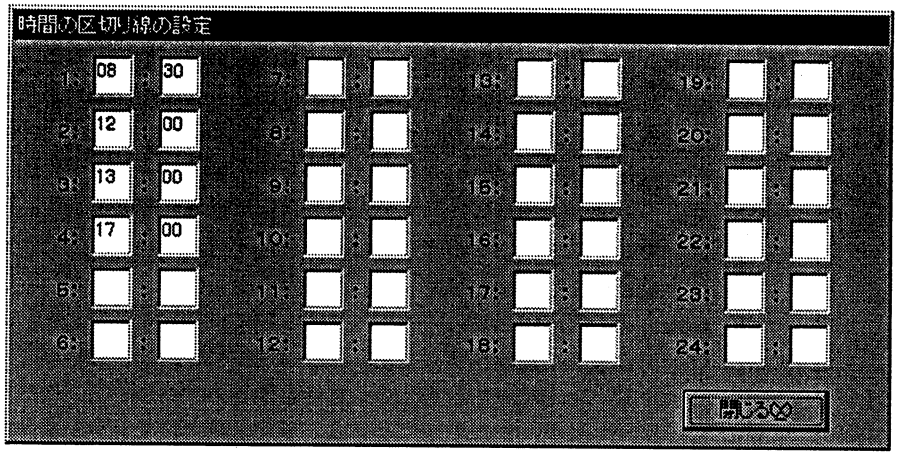
- 項目内の文字列をすべて削除すると，その項目が削除されます。削除された区分名が登録されていたスケジュールは，管理ツールの「行先・区分の設定」ウィンドウにて設定されている最初の区分名となります。
- 区分名は「1：」から順番に使用してください。中間に，スペースのみや何も設定しない項目を設定しないでください。
- Scheduler Server の G/W を用いて他システムと接続している場合，「行先・区分の設定」を自システムと他システム間で同一の文字列に設定してください。同一の文字列に設定しない場合，他システムのスケジュール参照等で「区分」は正しく表示されません。また，他システムにいるユーザへのスケジュール予約では「区分」は正しく登録されません。
- 同一の文字列に設定しない場合，他システムのスケジュール参照時に表示される「区分」は，自システムの同一の番号の「区分」となります。

図 4-21 「行先区分の設定」ウィンドウ



4. 「汎用化データの設定」ウィンドウの［時間の区切り線の設定］ボタンをクリックしてください。「時間の区切り線の設定」ウィンドウが表示されます。
   - 時間の入力エリアをクリックし，キーボードで時間を入力します。
   - ［閉じる］ボタンをクリックすると，時間の区切り線が設定され，「汎用化データの設定」ウィンドウに戻ります。

図 4-22 「時間の区切り線の設定」ウィンドウ



5. 「汎用化データの設定」ウィンドウの［メニューに戻る］ボタンをクリックすると，「終了」ウィンドウが表示されます。
   - ［はい］ボタンをクリックすると，設定内容を登録して汎用化データファイルの作成を終了します。
   - ［いいえ］ボタンをクリックすると，設定内容を登録せずに汎用化データファイルの作成を終了します。
   - ［キャンセル］ボタンをクリックすると，汎用化データファイルの作成が続けられます。

4.9 セキュリティの設定

4.9.1 セキュリティの設定

セキュリティの階層ごとに予約権・参照権の設定を行います。セキュリティ機能を使用しない場合は，この節の設定をする必要はありません。

セキュリティの階層はアルファベット２６文字に対応して２６階層まで設定することができます。プログラムをインストールするときに標準のセキュリティテーブルがいっしょにインストールされます。標準のセキュリティテーブルは，人対人の場合すべての人への予約権と同じランク以下の階層の人の参照権が与えられ，人対施設の場合同じランク以下の階層の施設の参照および予約権が与えられています。

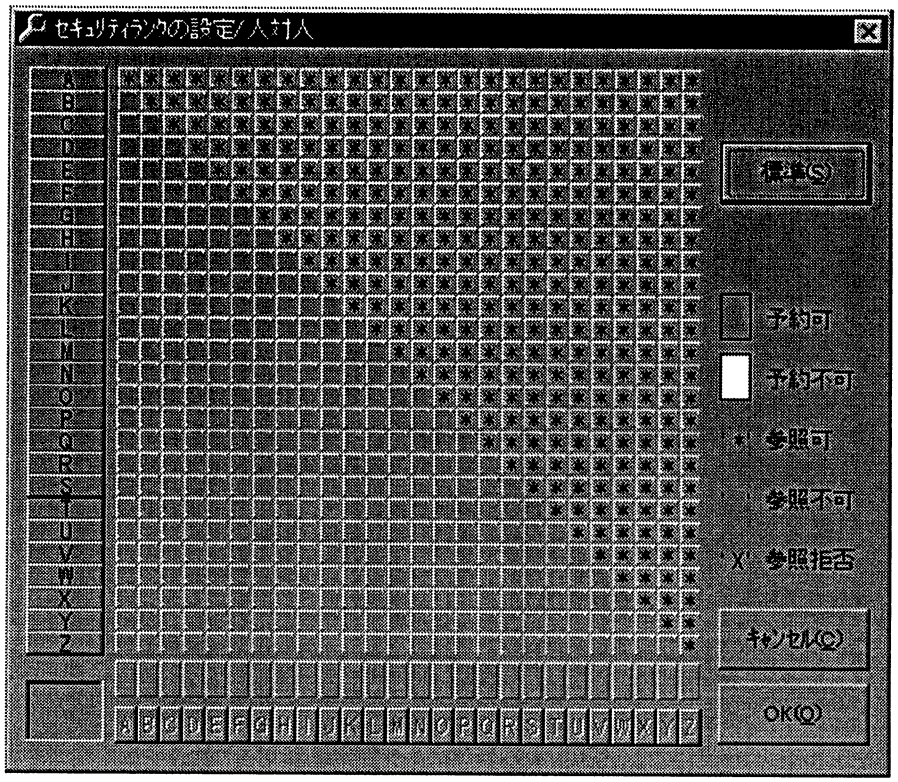
例えば，Ｆランクのユーザは Ｆ ～ Ｚ ランクの人または施設のスケジュールを参照および予約することができますが，Ａ ～ Ｅ ランクの人または施設は参照および予約できないように設定できます。特に複雑なセキュリティを必要としないときは標準のセキュリティテーブルをお使いください。また，拡張スケジュールの内容を，他者に参照可能とするかどうかをここで設定します。

(1) 人対人のセキュリティランク設定

セキュリティランクは以下の手順で設定します。

1. 「セキュリティランクの設定」ウィンドウの表示
   ［オプション］－［セキュリティランク］－［人対人の定義］メニューを選択してください。「セキュリティランクの設定／人対人」ウィンドウが表示されます。

図 4-23 「セキュリティランクの設定／人対人」ウィンドウ （標準設定の場合）



2. セキュリティランクの設定

設定するセキュリティランクのボタンをクリックしてください。ウィンドウ下部のセキュリティ設定欄にランク名と既に設定されている参照権が表示されます。

- グレー ・・・ 予約可
- 白 ・・・ 予約不可
- '＊'あり ・・・ 参照可
- '＊'なし ・・・ 参照不可
- 'X'あり ・・・ 参照拒否

「予約可」と設定すると，そのランクのユーザに予約を実行することができます。「予約不可」と設定すると，そのランクのユーザに予約を実行することができません。「参照可」と設定すると，そのランクのユーザのスケジュールが参照できます。「参照不可」と設定すると，そのランクのユーザのスケジュールは時間と行先・区分だけ参照できます。「参照拒否」と設定すると，そのランクのユーザのスケジュールの有無の確認，空き時間検索，キーワード検索，印刷，CSV 出力およびスケジュールの予約はできません。

設定を変更したい場合は，再度クリックしてください。クリックするたびに設定が順に遷移します。セキュリティランクを標準に戻したい場合は，［標準］ボタンをクリックしてください。

3. セキュリティランクの設定終了

設定したセキュリティランクを保存する場合は，［ＯＫ］ボタンをクリックして

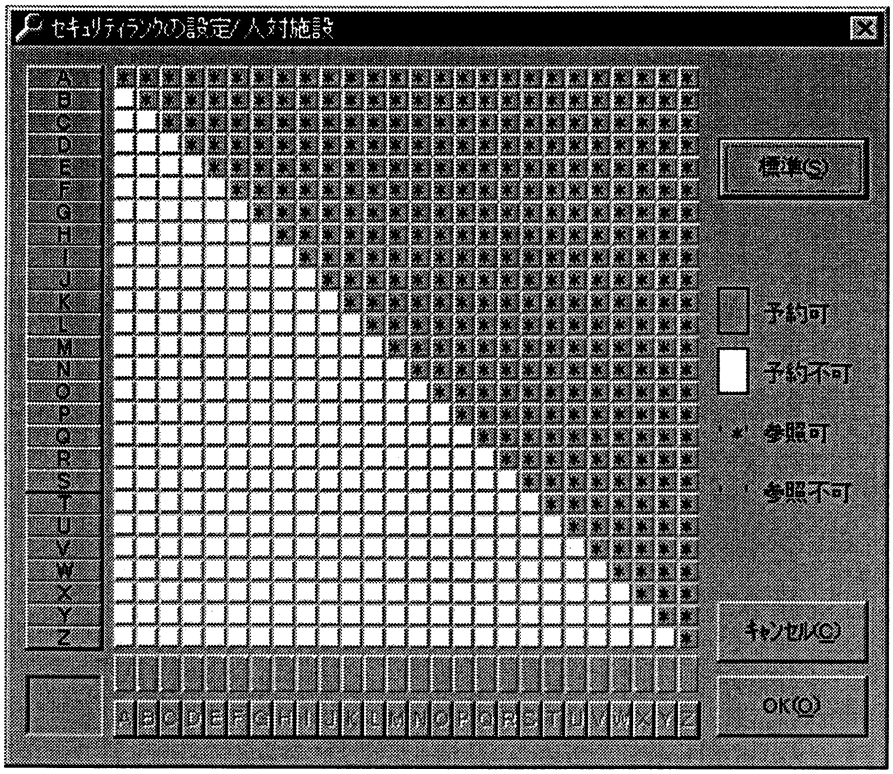
ください。保存しない場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

(2) 人対施設のセキュリティランク設定

セキュリティランクは以下の手順で設定します。

1. 「セキュリティランクの設定」ウィンドウの表示
   ［オプション］－［セキュリティランク］－［人対施設の定義］メニューを選択してください。「セキュリティランクの設定／人対施設」ウィンドウが表示されます。

図 4-24 「セキュリティランクの設定／人対施設」ウィンドウ （標準設定の場合）



2. セキュリティランクの設定
   設定するセキュリティランクのボタンをクリックしてください。ウィンドウ下部のセキュリティ設定欄にランク名と既に設定されている権利が表示されます。
   - グレー　・・・　予約権あり
   - 白　　・・・　予約権なし
   - '＊'あり　・・・　参照権あり
   - '＊'なし　・・・　参照権なし

   権利を設定したいボタンをクリックしてください。権利が設定されます。設定を変更したい場合は，再度クリックしてください。クリックするたびに設定が順に遷移します。セキュリティランクを標準に戻したい場合は，［標準］ボタンをクリックしてください。
3. セキュリティランクの設定終了
   設定したセキュリティランクを保存する場合は，［ＯＫ］ボタンをクリックして

ください。保存しない場合は，[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

(3) セキュリティの設定例

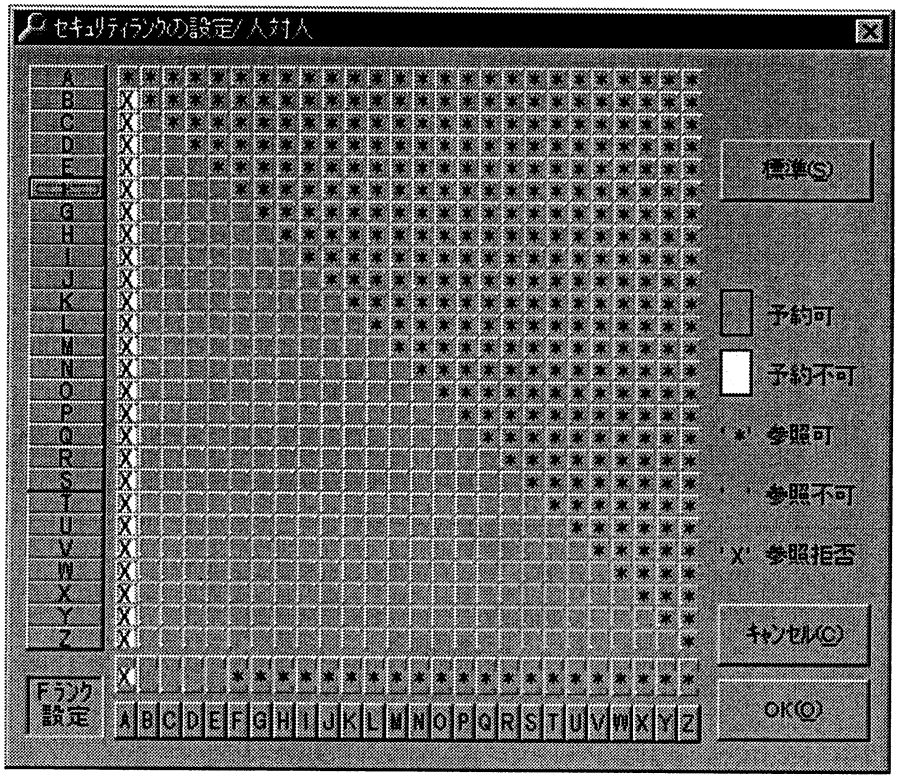
下図に，セキュリティランクの「人対人のセキュリティランク設定」の場合の設定例を示します。

例えば，F ランクのユーザは F ～ Z ランクのユーザのスケジュールを参照および予約実行することができます。B ～ E ランクのユーザのスケジュールの参照はできませんが予約実行することはできます。また，A ランクに参照拒否権を設定しているので，B ～ Z ランクのユーザは A ランクのユーザのスケジュールの有無の確認，空き時間検索，キーワード検索，印刷，CSV 出力およびスケジュールの予約はできません。

特に複雑なセキュリティを必要としないときは標準のセキュリティテーブルをお使いください。

注意　参照拒否を設定すると，自動的に予約不可も設定されます。また，秘書は自分の上司に対するスケジュール参照・予約はセキュリティランクに関係なくできます。

図 4-25　セキュリティの設定例



4.9.2　拡張スケジュールの表示

拡張スケジュールの内容を，他者に参照可能とするかどうかをここで設定します。

- 他者の拡張スケジュールを参照可能とする場合 (デフォルト)

［オプション］－［セキュリティランク］－［拡張スケジュールの表示］メニューのチェックオンにします。

- 他者の拡張スケジュールを参照不可とする場合
  ［オプション］－［セキュリティランク］－［拡張スケジュールの表示］メニューのチェックオフにします。

注意 **「4.9.1 セキュリティの設定」で設定したセキュリティの方が優先されます。セキュリティの設定で「参照不可」または「参照拒否」になっている他者のスケジュールデータについては，この設定にかかわらず，他者からは参照できません。**

注意 **クライアントの「プライベート機能」がオンになっているスケジュールデータについては，この設定にかかわらず，他者からは参照できません。**

注意 **設定を変更した場合，サーバ（ＳＶ，ＲＭＳＶ）を再起動してください。再起動後に設定内容が反映されます。**

4.10 上司／秘書の設定

上司と秘書の設定を行います。(上司と秘書の組み合わせは２５００組まで登録できます。)

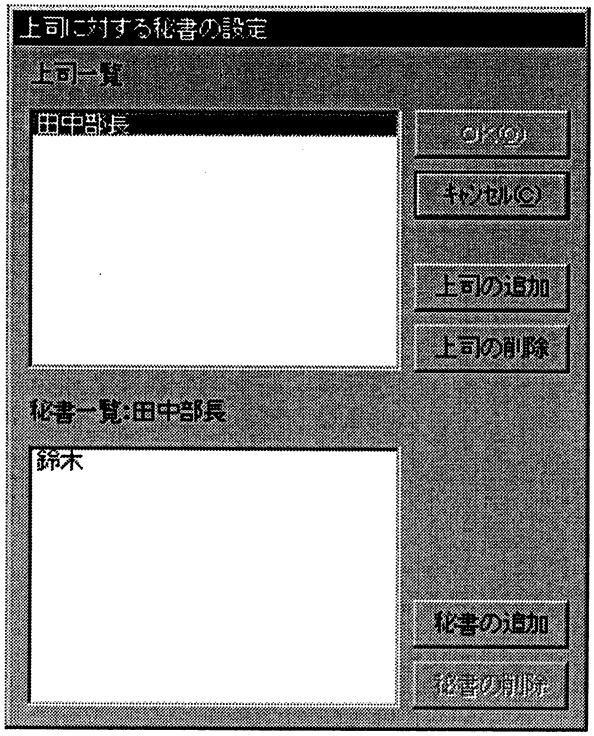
(1) 上司に対する秘書の設定

［オプション］－［上司／秘書］－［上司に対する秘書の設定］メニューを選択してください。

「上司に対する秘書の設定」ウィンドウが表示されます。

「上司一覧」リストボックスに表示されている上司名をクリックすると,「秘書一覧」リストボックスにその上司に対する秘書名が一覧表示されます。

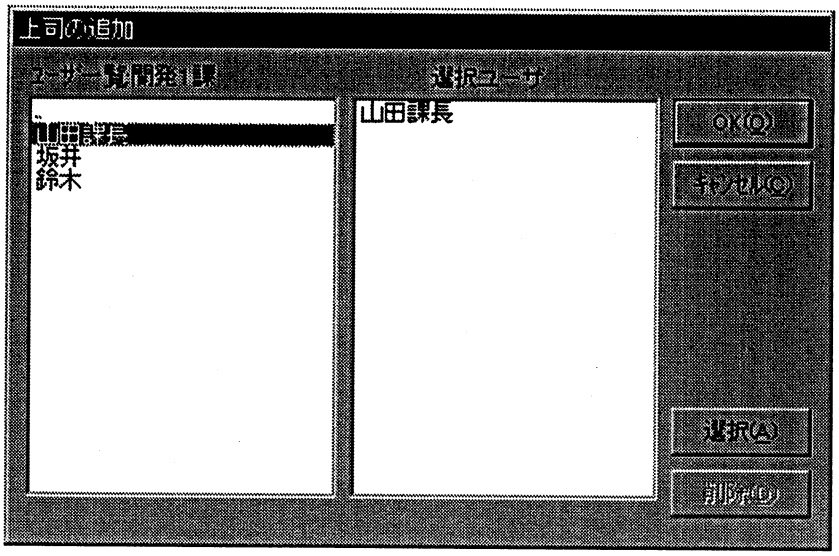
図 4-26 「上司に対する秘書の設定」ウィンドウ



1. 上司の追加

［上司の追加］ボタンをクリックしてください。「上司の追加」ウィンドウが表示されます。

図 4-27 「上司の追加」ウィンドウ



左のリストボックスからメンバを選択してください。追加したいメンバのいる部署を選択し，ダブルクリックするか，［選択］ボタンをクリックすると下の階層に移ります。左のリストボックス内の上側に名前が「..」と表示されているアイコンがあるとき，この「..」を選択し，ダブルクリックするか，［選択］ボタンをクリックすると上の階層に戻ります。部署を選択した場合，左のリストボックスの上に選択した部署名が表示されます。

- 「ユーザ一覧」リストボックスから追加したいユーザを選択し，ダブルクリックするか，［選択］ボタンをクリックしてください。「選択ユーザ」リストボックスに追加されます。
- 「選択ユーザ」リストボックスから削除したい場合は，削除したいユーザを選択し［削除］ボタンをクリックしてください。
- 追加するユーザの選択が終わったら，［ＯＫ］ボタンをクリックしてください。「上司の追加」ウィンドウが閉じ，「上司一覧」リストボックスに選択されたユーザが追加されます。

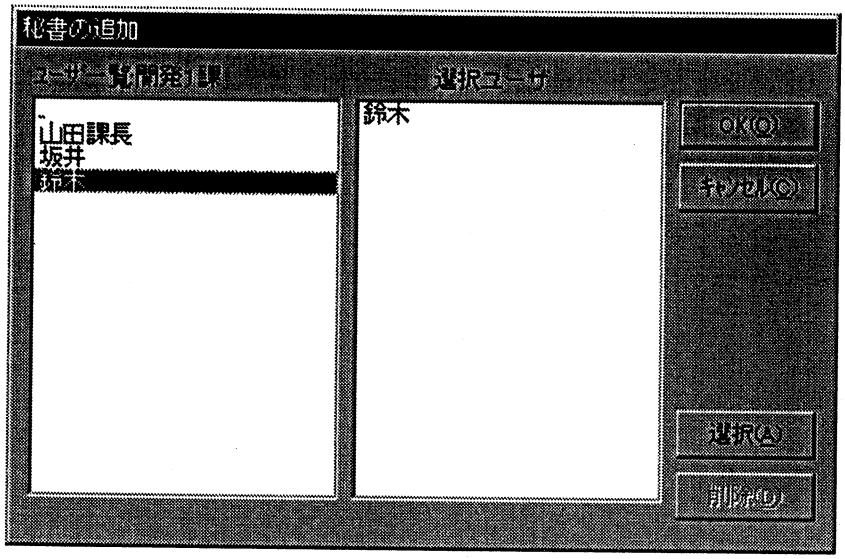
2. 上司の削除

「上司一覧」リストボックスから削除したい上司名を選択し，［上司の削除］ボタンをクリックしてください。選択された上司が削除されます。

3. 秘書の追加

- 「上司一覧」リストボックスから秘書を登録したい上司を選択してください。
- ［秘書の追加］ボタンをクリックしてください。「秘書の追加」ウィンドウが表示されます。

図 4-28 「秘書の追加」ウィンドウ



- 「ユーザ一覧」リストボックスから追加したいユーザを選択し，ダブルクリックするか，［選択］ボタンをクリックしてください。「選択ユーザ」リストボックスに追加されます。
- 「選択ユーザ」リストボックスから削除したい場合は，削除したいユーザを選択し［削除］ボタンをクリックしてください。
- 追加するユーザの選択が終わったら，［ＯＫ］ボタンをクリックしてください。「秘書の追加」ウィンドウが閉じ，「秘書一覧」リストボックスに選択されたユーザが追加されます。（１人の上司につき５００人まで秘書を登録することができます。クライアントで参照できるのは，１人の上司につき２７０人の秘書までです。）

4. 秘書の削除
「秘書一覧」リストボックスから削除したい秘書を選択し，［秘書の削除］ボタンをクリックしてください。選択された秘書が削除されます。複数の秘書を選択できます。

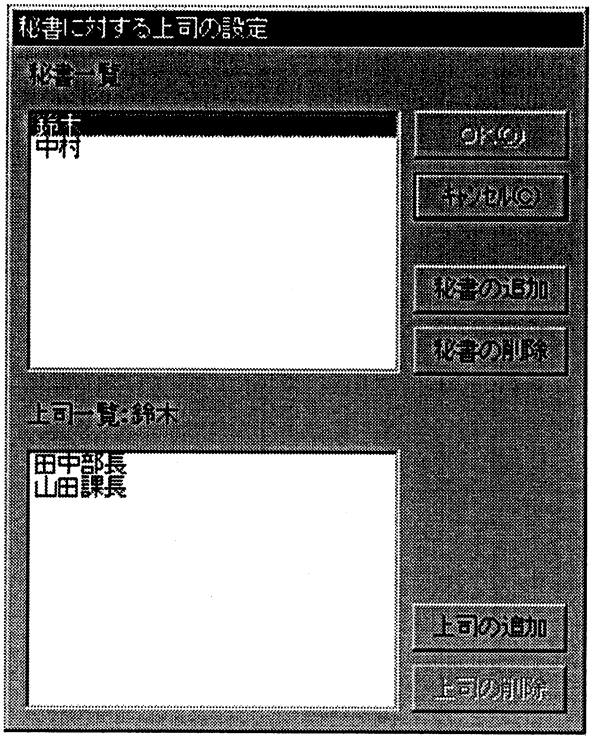
5. 登録の終了
登録・変更内容を保存する場合は［ＯＫ］ボタンをクリックしてください。保存しない場合は［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

注意　秘書が登録されていない上司はファイルに格納されませんので注意してください。終了時にそのような上司がいる場合は終了確認用のウィンドウが表示されます。削除してもかまわないときは「はい」ボタンをクリックしてください。削除しないときは「いいえ」ボタンをクリックしてください。

(2) 秘書に対する上司の設定

［オプション］－［上司／秘書］－［秘書に対する上司の設定］メニューを選択してください。「秘書に対する上司の設定」ウィンドウが表示されます。「秘書一覧」リストボックスに表示されている秘書名をクリックすると，「上司一覧」リストボックスにその秘書に対する上司名が一覧表示されます。

図 4-29 「秘書に対する上司の設定」ウィンドウ



1. 秘書の追加
   [秘書の追加] ボタンをクリックしてください。「秘書の追加」ウィンドウが表示されます。追加方法は「(1) 上司に対する秘書の設定」を参照してください。
2. 秘書の削除
   「秘書一覧」リストボックスから削除したい秘書名を選択し，[秘書の削除] ボタンをクリックしてください。選択された秘書が削除されます。
3. 上司の追加
   - 「秘書一覧」リストボックスから上司を登録したい秘書を選択してください。
   - [上司の追加] ボタンをクリックしてください。「上司の追加」ウィンドウが表示されます。
   - 追加方法は「(1) 上司に対する秘書の設定」を参照してください。(１人の秘書につき５００人まで上司を登録することができます。クライアントで参照できるのは，１人の秘書につき２７０人の上司までです。)
4. 上司の削除
   「上司一覧」リストボックスから削除したい上司を選択し，[上司の削除] ボタンをクリックしてください。選択された上司が削除されます。複数の上司を選択できます。
5. 登録の終了
   登録・変更内容を保存する場合は [ＯＫ] ボタンをクリックしてください。保存しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。

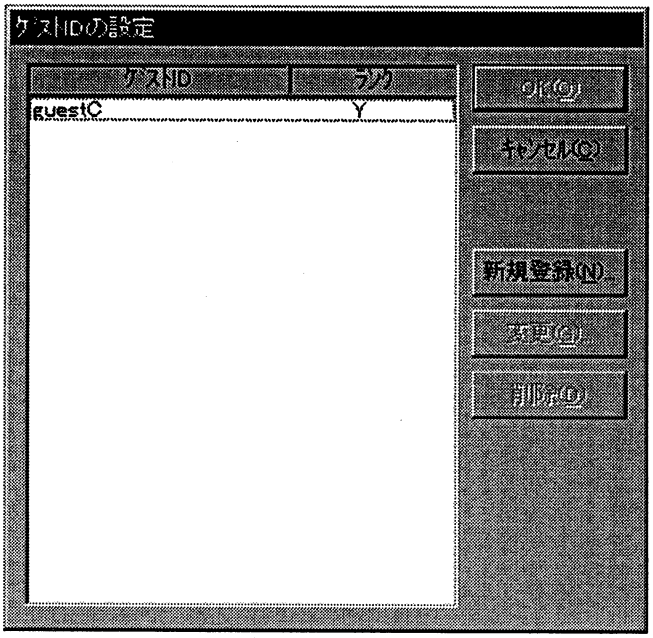
注意　上司が登録されていない秘書はファイルに格納されませんので注意してください。終了時にそのような秘書がいる場合は終了確認用のウィンドウが表示されます。削除してもかまわないときは「はい」ボタンをクリックしてください。削除しないときは「いいえ」ボタンをクリックしてください。

4.11 ゲスト ＩＤ の設定

他システムのユーザが自システムの Scheduler Server のユーザおよび施設にアクセスする場合，ゲスト ＩＤ が必要です。以下の手順でそのゲスト ＩＤ を設定します。

1. ［オプション］－［ゲスト ＩＤ］メニューを選択してください。「ゲスト ＩＤ の設定」ウィンドウが表示されます。

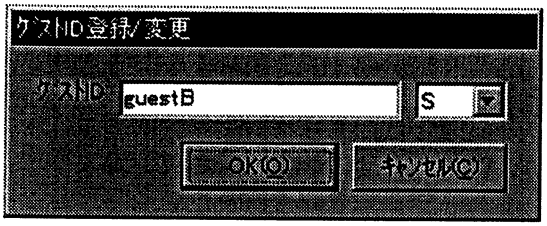
図 4-30 「ゲスト ＩＤ の設定」ウィンドウ



2. ［新規登録］ボタンをクリックしてください。「ゲスト ＩＤ 登録／変更」ウィンドウが表示されます。ゲスト ＩＤ とセキュリティランクを入力してください。ゲスト ＩＤ は８文字以内の半角英数字を指定してください。セキュリティランクについては，ここで設定したセキュリティランクが他システムからアクセスする際に適用されます。ここでは，Ｂ 社用のゲスト ＩＤ を登録します。入力後［ＯＫ］ボタンをクリックしてください。(ゲスト ＩＤ は５００ユーザまで登録できます。)

注意　ここで入力するゲスト ＩＤ は，すでに登録されているユーザ ＩＤ と重複していない必要があります。

図 4-31 「ゲスト ＩＤ 登録／変更」ウィンドウ



1. ゲスト ＩＤ，セキュリティランクの変更をする場合は，「ゲスト ＩＤ の設定」ウィンドウで変更したいゲスト ＩＤ をリストボックスから選択し，［変更］ボタンをクリックしてください。削除の場合も同様に，ゲスト ＩＤ をリストボックスから選択し，［削除］ボタンをクリックしてください。
2. 「ゲスト ＩＤ の設定」ウィンドウで［ＯＫ］ボタンをクリックしてください。いままでの処理が登録されて，メイン画面に戻ります。［キャンセル］ボタンをクリックするといままでの処理を取り消してメイン画面に戻ります。

このゲスト ＩＤ は他システムから自システムにアクセスする際に必要になりますので，他システムの管理者に連絡してください。

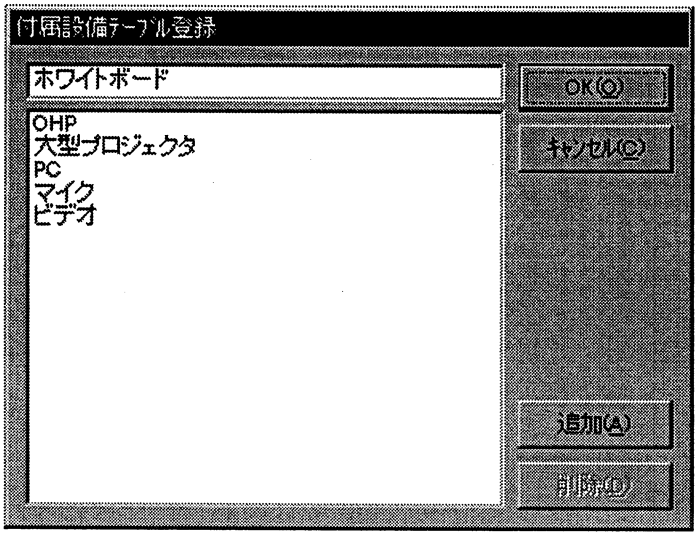
4.12 付属設備の登録

施設管理情報の付属施設に表示される登録設備一覧リストボックスに設備を登録します。手順は以下のとおりです。

注意　ここで登録した付属設備は，それぞれの施設ごとに施設管理者が Facilities Manager Client を使用し，施設に設置している設備を選択します。

1. ［オプション］－［付属設備］メニューを選択してください。「付属設備テーブル登録」ウィンドウが表示されます。下図の中で「ホワイトボード」と表示されているところが付属設備入力エリアで，「ＯＨＰ」，「大型プロジェクタ」などが表示されているところが付属設備一覧リストボックスです。

図 4-32 「付属設備テーブル登録」ウィンドウ

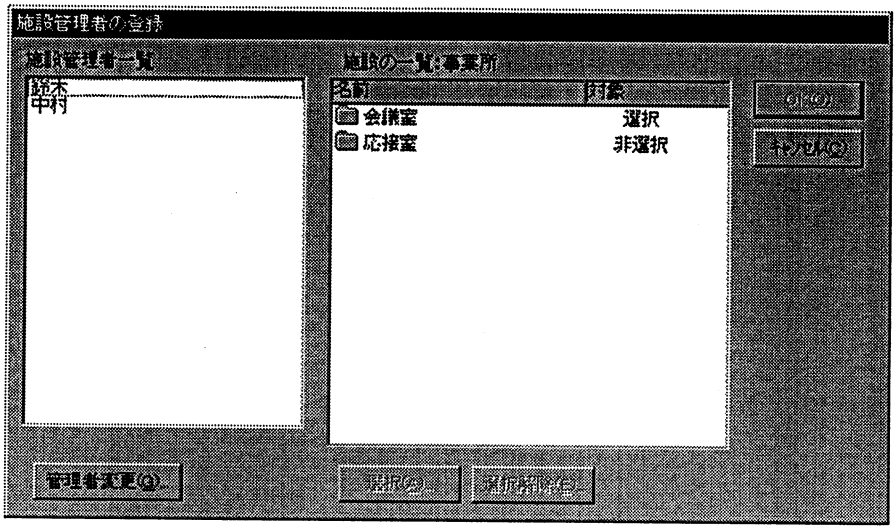


2. 新規登録する場合は，付属設備入力エリアに設備名を入力し，［追加］ボタンをクリックしてください。付属設備一覧リストボックスに登録されます。設備名は，半角３０文字（全角１５文字分）以内で設定してください。
3. 削除する場合は，付属設備一覧リストボックスから削除する設備を選択し，［削除］ボタンをクリックしてください。付属設備一覧リストボックスから削除されます。
4. いままでの変更を取消したいときは，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。いままでの変更は無効になり終了します。
5. 終了するときは，［ＯＫ］ボタンをクリックしてください。いままでの処理内容が登録されて，メイン画面に戻ります。

4.13 施設管理者の登録

［オプション］－［施設管理者］メニューを選択してください。「施設管理者の登録」ウィンドウが表示されます。［ＯＫ］ボタンをクリックすると変更内容が登録され，［キャンセル］ボタンをクリックすると変更内容を取り消してメイン画面に戻ります。

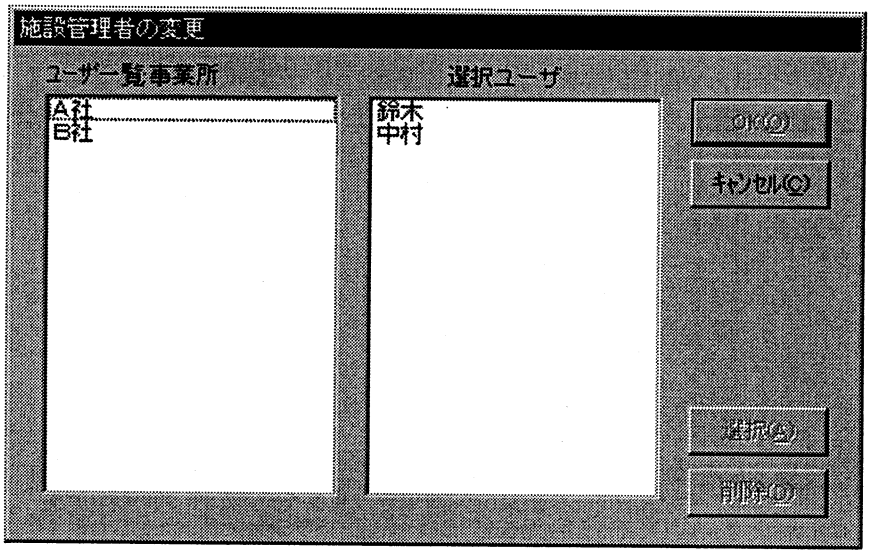
図 4-33 「施設管理者の登録」ウィンドウ



(1) 施設管理者の変更

ここでは，施設管理者を追加，削除します。［管理者変更］ボタンをクリックすると，「施設管理者の変更」ウィンドウが表示されます。以下の手順で変更します。

図 4-34 「施設管理者の変更」ウィンドウ



1. 施設管理者を追加する場合，「ユーザ一覧」リストボックスからユーザを追加してください。ここで，追加したいユーザのいる部署を選択し，ダブルクリックするか，［選択］ボタンをクリックすると下の階層に移ります。「ユーザ一覧」リストボックス内の上側に名前が「..」と表示されているアイコンがあるとき，この「..」を選択し，ダブルクリックするか，［選択］ボタンをクリックすると上の階層に戻ります。部署を選択した場合，左のリストボックスの上に選択した部署名が表示されます。追加したいユーザを選択し，ダブルクリックするか，［選択］ボタンをクリックしてください。「選択ユーザ」リストボックスに追加されます。
2. 施設管理者を「選択ユーザ」リストボックスから削除する場合，削除したいユーザを選択し，［削除］ボタンをクリックしてください。
3. ユーザの変更が終わったら，［ＯＫ］ボタンをクリックしてください。「施設管理者の変更」ウィンドウが閉じ，「施設管理者の登録」ウィンドウの「施設管理者一覧」リストボックスに反映されます。［キャンセル］ボタンをクリックした場合，変更内容を取り消し，「施設管理者の登録」ウィンドウに戻ります。

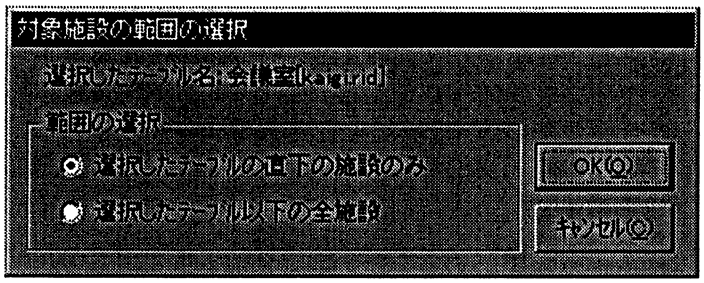
(2) 管理する施設の変更

管理する施設を変更する場合，「施設管理者一覧」リストボックスから変更したユーザ（施設管理者）を選択してください。「施設の一覧」リストボックスに施設を一覧表示します。「施設の一覧」リストボックスには，左から「名前」，「対象」を表示します。「名前」の項目には，種別テーブルや施設の名称を表示します。「対象」の項目には，管理する対象としている場合は「選択」，対象としていない場合は「非選択」と表示します。なお，種別テーブルの場合，その下位種別テーブルも含めてその状態を表示し，その中に「選択」のあるものと「非選択」のものとが混在している場合は，「一部選択」と表示されます。セパレータ等は「対象外」と表示されます。種別テーブルのアイコンをダブルクリックするとそのテーブルに登録されている施設を一覧表示します。上位の階層に戻るときは，名前が「..」と表示されているアイコンをダブルクリックします。

以下の方法で変更できます。

1. 「施設の一覧」リストボックスから変更したい施設のアイコンをクリックし，［選択］ボタンをクリックすると管理する施設になります。（対象が選択になります。）［選択解除］ボタンをクリックすると，管理する施設の対象から外れます。（対象が非選択になります。）
2. 「施設の一覧」リストボックスから変更したい種別テーブルのアイコンをクリックし，［選択］ボタン，あるいは［選択解除］ボタンをクリックすると，「対象施設の範囲の選択」ウィンドウが表示されます。「範囲の選択」で「選択したテーブルの直下の施設のみ」を選択すると選択している種別テーブルに登録されている施設だけが変更対象になります。「選択したテーブル以下の全施設」を選択すると選択している種別テーブル以下のすべての施設が変更対象になります。［ＯＫ］ボタンをクリックすると変更が反映されます。［キャンセル］ボタンをクリックすると，変更は取り消されます。

図 4-35 「対象施設の範囲の選択」ウィンドウ

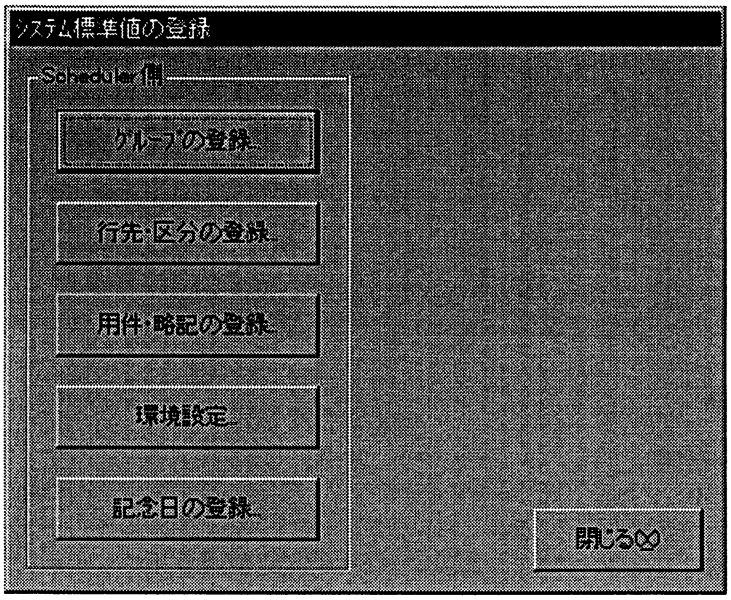


4.14 システム標準値の登録

［オプション］－［システム標準値］メニューを選択してください。「システム標準値の登録」ウィンドウが表示されます。［閉じる］ボタンをクリックすると，メイン画面に戻ります。

ここでは，クライアントのシステム全体での標準値（デフォルト値）を設定します。

図 4-36 「システム標準値の登録」ウィンドウ



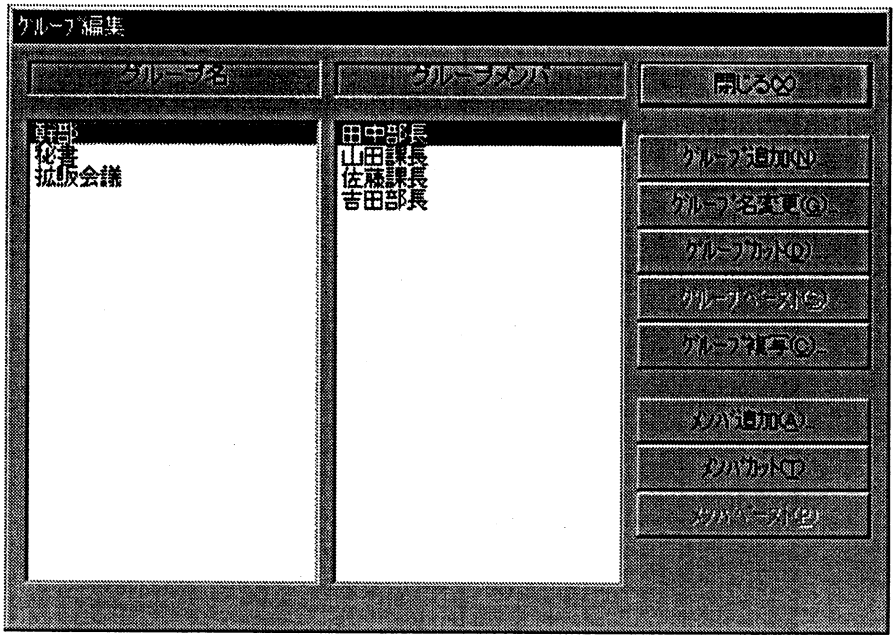
4.14.1 グループ登録

よく使うメンバをグループにして，あらかじめ登録しておくことができます。メンバには人と施設を同時に複数選択できます。（最大選択数は３０までです。）登録したグループのスケジュールを表示すると，グループメンバ数が１人あるいは１施設の場合は「週間スケジュール」で表示され，複数の場合は「メンバスケジュールの一覧」で表示されます。メンバは以下の手順で登録します。（最大登録グループ数５０，最大メンバ登録数は延べ５００までです。）

(1)「グループ編集」ウィンドウの表示

「システム標準値の登録」ウィンドウから［グループの登録］ボタンをクリックしてください。「グループ編集」ウィンドウが表示されます。

図 4-37 「グループ編集」ウィンドウ

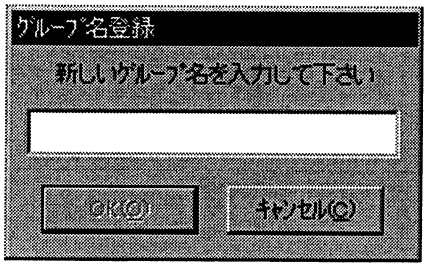


(2) グループの編集

(a) 新規登録

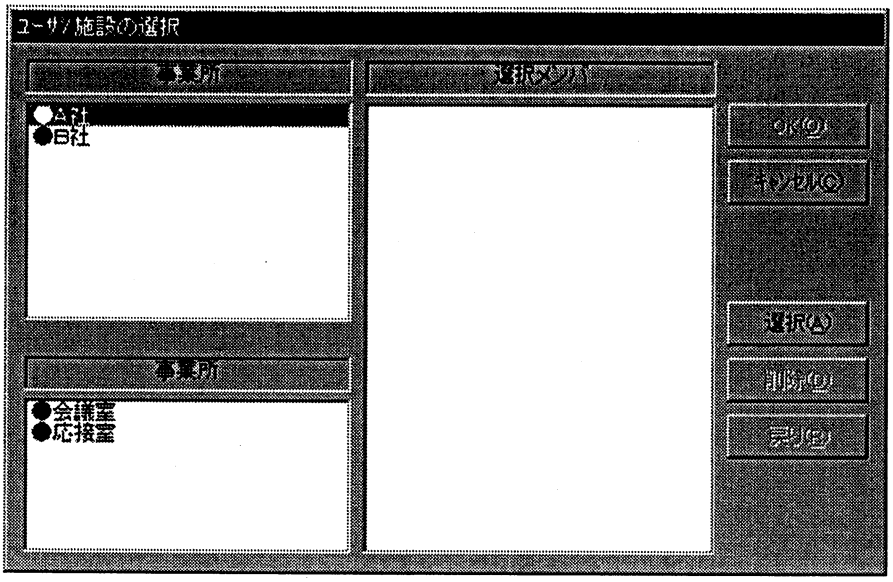
1. [グループ追加] ボタンをクリックしてください。「グループ名登録」ウィンドウが表示されます。登録したいグループ名を入力してください。グループ名は，半角２０文字（全角１０文字分）以内で設定してください。

図 4-38 「グループ名登録」ウィンドウ



2. グループ名を登録して，[ＯＫ] ボタンをクリックしてください。「グループ名登録」ウィンドウが閉じて，「ユーザ／施設の選択」ウィンドウが表示されます。

図 4-39 「ユーザ／施設の選択」ウィンドウ



3. グループに登録するメンバを選択してください。メンバは，ユーザまたは施設を同時に複数選択できます。(グループメンバ数は，３０まで登録できます。)
   - 人を選択する場合
     左上のリストボックスからユーザを選択してください。選択したいユーザのいる部署を選択し，ダブルクリックするか，[選択] ボタンをクリックすると下の階層に移ります。左上のリストボックス内の上側に名前が「↑__」と表示されたアイコンがあるとき，この「↑__」を選択し，ダブルクリックするか，[選択] ボタンをクリックすると上の階層に戻ります。部署を選択した場合，左上のリストボックスの上に選択した部署名が表示され，左上のリストボックスに選択した部署のユーザが表示されます。選択したいユーザを選択し，ダブルクリックするか，[選択] ボタンをクリックすると選択したユーザは右側の「選択メンバ」リストボックスに表示されます。
   - 施設を選択する場合
     左下のリストボックスから施設を選択してください。選択したい施設のある種別テーブルを選択し，ダブルクリックするか，[選択] ボタンをクリックすると下の階層に移ります。左下のリストボックス内の上側に名前が「↑__」と表示されたアイコンがあるとき，この「↑__」を選択し，ダブルクリックするか，[選択] ボタンをクリックすると上の階層に戻ります。種別テーブルを選択した場合，左下のリストボックスの上に選択した種別テーブル名が表示され，左下のリストボックスに選択した種別テーブルの施設が表示されます。選択したい施設を選択し，ダブルクリックするか，[選択] ボタンをクリックすると選択した施設は右側の「選択メンバ」リストボックスに表示されます。
4. グループメンバを選択後，[ＯＫ] ボタンをクリックしてください。グループが登録されます。

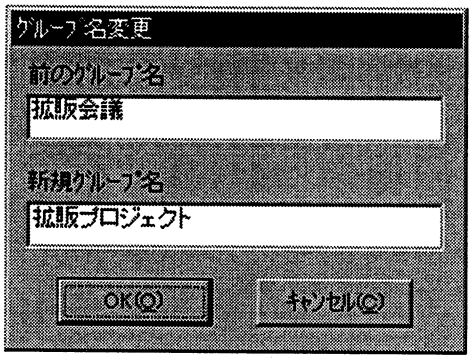
(b) 登録してあるグループへのメンバの追加

1. グループメンバを追加したいグループ名を選択してください。グループメンバリストボックスにグループメンバが表示されます。
2. [メンバ追加] ボタンをクリックしてください。「ユーザ／施設の選択」ウィンドウが表示されます。
3. グループに追加するメンバを選択してください。メンバは，ユーザまたは施設を同時に複数選択できます。(グループメンバ数は，３０まで登録できます。)
4. メンバを選択後，[ＯＫ] ボタンをクリックしてください。選択したグループに追加されます。

(c) グループ名の変更

1. 変更したいグループを選択後，[グループ名変更] ボタンをクリックしてください。
2. 「グループ名変更」ウィンドウが表示されます。新規グループ名を入力して [ＯＫ] ボタンをクリックしてください。グループ名が変更されます。グループ名は，半角２０文字（全角１０文字分）以内で設定してください。

図 4-40 「グループ名変更」ウィンドウ



(d) グループの移動

1. 移動したいグループ名を選択後，[グループカット] ボタンをクリックしてください。
2. 「グループ削除／移動」ウィンドウが表示されます。[移動] ボタンをクリックしてください。
3. 移動先の位置（グループ名）を選択し，[グループペースト] ボタンをクリックしてください。選択した位置（グループ名）の上側に移動します。

注意　グループのペースト中は他の編集作業は行えません。また，終了することもできません。ペースト処理が終了してから他の処理を行ってください。

(e) グループの削除

1. 削除したいグループ名を選択後，[グループカット] ボタンをクリックしてください。
2. 「グループ削除／移動」ウィンドウが表示されます。[削除] ボタンをクリックしてください。
3. 確認用のウィンドウが表示されます。[ＯＫ] ボタンをクリックしてください。

注意　グループを削除すると，グループメンバもすべて削除されます。

(f) グループメンバの移動

1. グループ名を選択すると，選択したグループのメンバが表示されます。
2. 移動したいグループメンバを選択後，［メンバカット］ボタンをクリックしてください。
3. 移動先のグループ名と位置（グループメンバ名）を選択し，［メンバペースト］ボタンをクリックしてください。選択した位置（グループメンバ名）の上側に移動します。

注意　ペーストしないでそのまま他の編集をすると削除となります。

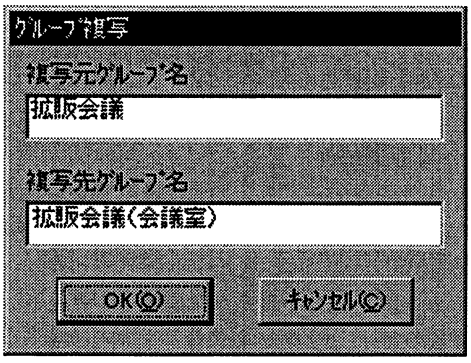
(g) グループメンバの削除

1. グループ名を選択すると，選択したグループのメンバが表示されます。
2. 削除したいグループメンバを選択後，［メンバカット］ボタンをクリックしてください。グループメンバが削除されます。

(h) グループの複写

1. 複写したいグループ名を選択後，［グループ複写］ボタンをクリックしてください。
2. 「グループ複写」ウィンドウが表示されます。複写先グループ名を入力してください。グループ名は，半角２０文字（全角１０文字分）以内で設定してください。
3. ［ＯＫ］ボタンをクリックしてください。グループが複写されます。

図 4-41 「グループ複写」ウィンドウ



(3) 「グループ編集」ウィンドウの終了

［閉じる］ボタンをクリックしてください。メイン画面に戻ります。

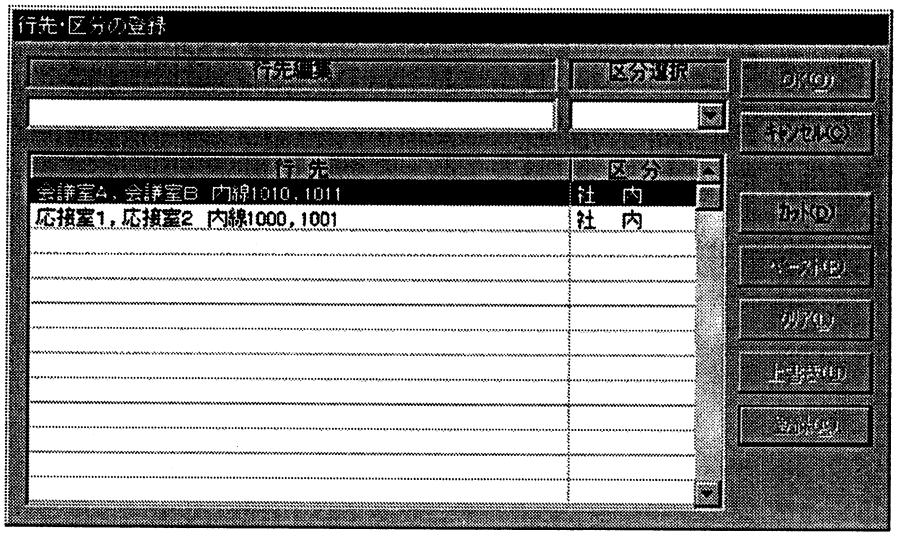
4.14.2 行先・区分の登録

よく使う行先・区分データは，あらかじめ登録しておくことができます。
（最大１００件まで）
以下の手順で登録します。

(1) 「行先・区分の登録」ウィンドウの表示

「システム標準値の登録」ウィンドウから［行先・区分の登録］ボタンをクリックしてください。「行先・区分の登録」ウィンドウが表示されます。

図 4-42 「行先・区分の登録」ウィンドウ



(2) 行先・区分の編集

(a) 新規登録

1. 「行先編集」テキストボックスに行先データを入力してください。行先は，半角４０文字（全角２０文字分）以内で設定してください。
2. 「区分選択」プルダウンメニューから区分を選択してください。
3. ［ＯＫ］ボタンをクリックしてください。行先・区分データが登録されます。

(b) 登録してある行先・区分データの修正

1. 「行先・区分」リストボックスから修正したいデータを選択してください。テキストボックスに選択したデータが表示されます。
2. 「行先編集」テキストボックスに行先データを入力してください。なお，「行先編集」テキストボックスと区分選択の内容をクリアしたいときは，［クリア］ボタンをクリックしてください。
3. 「区分選択」プルダウンメニューから区分を選択してください。
4. ［上書き］ボタンまたは［登録］ボタンをクリックしてください。［上書き］ボタンをクリックすると，選択した行先・区分データを上書きします。［登録］ボタンをクリックすると，新規に追加登録されます。

(c) 行先・区分データの並びかえ

1. 「行先・区分」リストボックスから移動したいデータを選択してください。テキストボックスに選択したデータが表示されます。
2. ［カット］ボタンをクリックしてください。行先・区分データがカットされます。
3. 行先・区分データを選択し，［ペースト］ボタンをクリックしてください。カットしたデータが選択したデータの上に移動します。

注意　カットした後，ペーストしないでそのまま他の処理をすると，削除となります。

(d) 行先・区分データの削除

1. 「行先・区分」リストボックスから削除したいデータを選択してください。テキストボックスに選択したデータが表示されます。
2. [カット] ボタンをクリックしてください。行先・区分データが削除されます。

(3) 「行先・区分の登録」ウィンドウの終了

[OK] ボタンをクリックすると，編集された内容がファイルに書き込まれます。いままでの処理をすべてキャンセルしたい場合は，[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

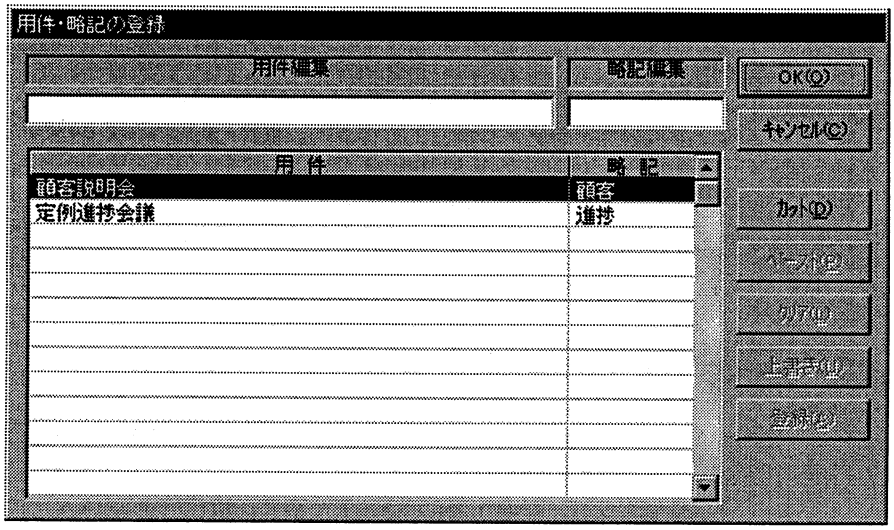
4.14.3 用件・略記の登録

よく使う用件・略記データは，あらかじめ登録しておくことができます。
(最大１００件まで)
以下の手順で登録します。

(1) 「用件・略記の登録」ウィンドウの表示

「システム標準値の登録」ウィンドウから [用件・略記の登録] ボタンをクリックしてください。「用件・略記の登録」ウィンドウが表示されます。

図 4-43 「用件・略記の登録」ウィンドウ



(2) 用件・略記の編集

(a) 新規登録

1. 「用件編集」テキストボックスに用件データを入力してください。用件は，半角４０文字（全角２０文字分）以内で設定してください。
2. 「略記編集」テキストボックスに略記を入力してください。略記は，半角６文字（全角３文字分）以内で設定してください。略記を入力しなかった場合，用件の先頭より全角３文字分が入力されます。
3. [登録] ボタンをクリックしてください。用件・略記データが登録されます。

(b) 登録してある用件・略記データの修正

1. 「用件・略記」リストボックスから修正したいデータを選択してください。テキストボックスに選択したデータが表示されます。
2. 「用件編集」テキストボックスに用件データを入力してください。なお，「用件編集」テキストボックス，「略記編集」テキストボックスの内容をクリアしたいときは，［クリア］ボタンをクリックしてください。
3. 「略記編集」テキストボックスに略記を入力してください。
4. ［上書き］ボタンまたは［登録］ボタンをクリックしてください。［上書き］ボタンをクリックすると，選択した用件・略記データを上書きします。［登録］ボタンをクリックすると，新規に追加登録されます。

(c) 用件・略記データの並びかえ

1. 「用件・略記」リストボックスから移動したいデータを選択してください。テキストボックスに選択したデータが表示されます。
2. ［カット］ボタンをクリックしてください。用件・略記データがカットされます。
3. 用件・略記データを選択し，［ペースト］ボタンをクリックしてください。カットしたデータが選択したデータの上に移動します。

注意　カットした後，ペーストしないでそのまま他の処理をすると，削除となります。

(d) 用件・略記データの削除

1. 「用件・略記」リストボックスから削除したいデータを選択してください。テキストボックスに選択したデータが表示されます。
2. ［カット］ボタンをクリックしてください。用件・略記データが削除されます。

(3) 「用件・略記の登録」ウィンドウの終了

［ＯＫ］ボタンをクリックすると，編集された内容がファイルに書き込まれます。いままでの処理をすべてキャンセルしたい場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

4.14.4 環境設定

Scheduler Client の環境について，システムで標準的な設定を行います。

「システム標準値の登録」ウィンドウから［環境設定］ボタンをクリックしてください。「環境設定」ウィンドウが表示されますので，環境設定を行ってください。

設定を終了するときは，「環境設定」ウィンドウの終了［ＯＫ］ボタンをクリックしてください。「環境設定」ウィンドウを閉じて，設定した内容が反映されます。

注意　「環境設定」画面で設定した各設定パラメタは，Scheduler Client の「環境設定」画面の［標準］ボタンを押下した場合に反映されます。

(1) Scheduler Client 全般の環境設定

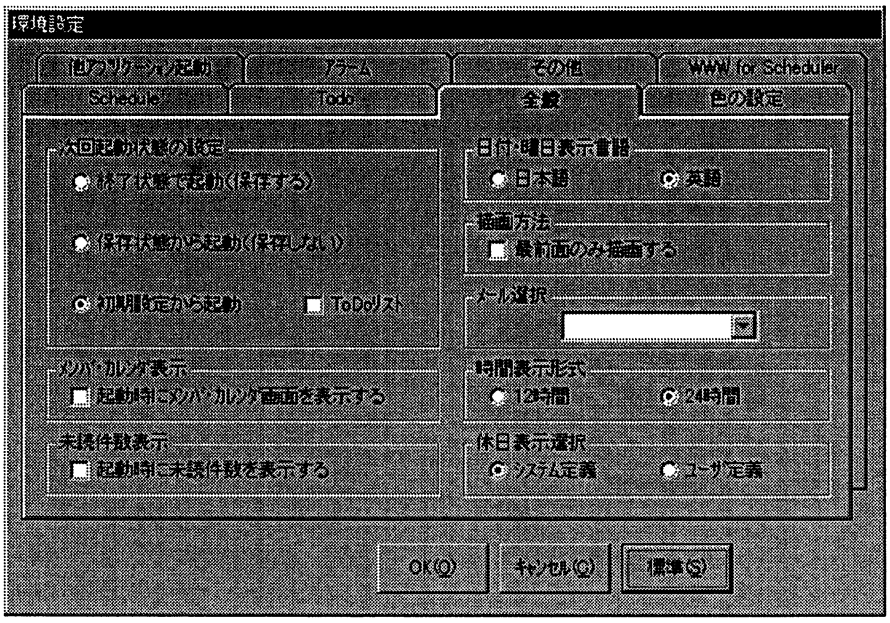
初期表示画面，メール，未読件数表示，日付の表示形式，休日表示選択，曜日表示言語，時間表示形式をユーザカスタマイズすることができます。これらの設定を「環境設定」ウィンドウで行います。［標準］ボタンをクリックすると，デフォルトの状態になります。

以下の手順で設定します。

(a) 全般の環境設定画面の表示

「環境設定」ウィンドウで，[全般] タブをクリックしてください。Scheduler Client 全般の環境を設定する「全般」タブが表示されます。

図 4-44 「全般」タブ（「環境設定」ウィンドウ）



(b) 環境設定

1. 次回起動状態の設定
   Scheduler Client を起動したときに表示する画面を設定します。設定は次の 3 種類の中から選択してください。デフォルトは「初期設定から起動」で，Ｔｏｄｏ リスト非表示です。
   - 「終了状態で起動（保存する）」
     クライアント終了時の状態を保存し，次回起動時には，前回終了時の状態で起動します。
   - 「保存状態から起動（保存しない）」
     上記「終了状態で起動（保存する）」で保存した状態から起動します。（クライアント終了時の状態は保存しません。）
   - 「初期設定から起動」
     自分の週間スケジュールを表示しただけの状態から起動します。さらに，自分の週間スケジュールに加え，Ｔｏｄｏ リストを表示した状態から起動するには，「Ｔｏｄｏ リスト」チェックボックスをオンにしてください。
2. メンバ・カレンダ表示
   チェックボックスをオンにすると，Scheduler Client 起動時に，メインウィンドウにメンバ・カレンダ画面が表示されます。デフォルトは非表示です。
3. 未読件数表示

チェックボックスをオンにすると，Scheduler Client起動時に，予約されたスケジュールの受信一覧が表示されます。デフォルトは非表示です。

4. 日付・曜日表示言語
「日本語」か「英語」を選択してください。デフォルトは「英語」です。
5. 描画方法
チェックボックスをオンにすると，ページを多数表示しているときの再描画時に最前面のページだけスケジュールデータを取得し表示します。デフォルトは，チェックオフで，開いているすべてのページのスケジュールデータを取得します。
6. メール選択
使用するメールを設定します。Groupmax Mail，MS-Mailのうちインストールされているものが表示され選択できます。
7. 時間表示形式
「１２時間」表示か「２４時間」表示を選択してください。デフォルトは「２４時間」です。
8. 休日表示選択
休日の表示方法を選択します。「システム定義」にするとシステム休日になり，「ユーザ定義」にするとクライアントで設定された内容になります。デフォルトは「システム定義」です。

(2) スケジュールの環境設定

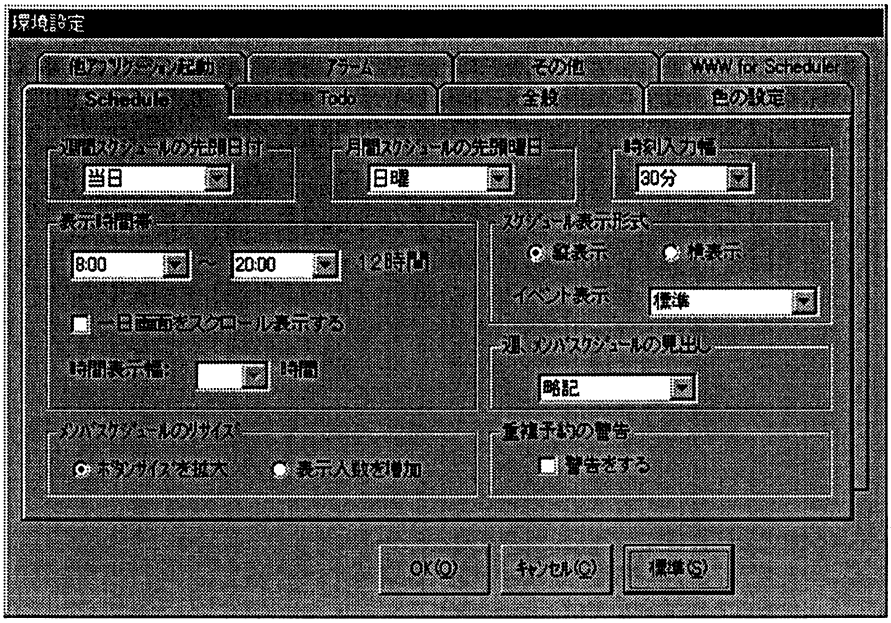
週間スケジュール・月間スケジュールの先頭日付，表示時間帯，メンバスケジュールの表示人数の増減またはズーム設定，当日での移動日付，時刻入力幅，表示形式，週・メンバスケジュールの見出しの表示をユーザカスタマイズすることができます。これらの設定を「環境設定」ウィンドウで行います。

以下の手順で設定します。

(a) スケジュールの環境設定画面の表示

「環境設定」ウィンドウで，[Schedule]タブをクリックしてください。「Schedule」タブが表示されます。

図 4-45 「Schedule」タブ（「環境設定」ウィンドウ）



(b) 環境設定

1. 週間スケジュールの先頭日付
   週間スケジュールを表示する際に先頭にしたい日付を選択してください。デフォルトは当日です。
2. 月間スケジュールの先頭曜日
   月間スケジュールを表示する際に，先頭にしたい曜日を選択してください。選択した曜日にしたがって，曜日表示部分，日付表示部分が表示されます。また，メンバ・カレンダ部分のカレンダの先頭曜日，日付も同様に表示されます。デフォルトは日曜です。
3. 時刻入力幅
   週間スケジュールや詳細スケジュールの時刻入力の際に表示される時刻ラベル時間幅を設定します。１０・１５・３０分が選択できます。デフォルトは３０分です。
4. 表示時間帯
   表示開始時間と終了時間を設定してください。ここで設定された時間帯は表示の際には反映されますが，登録の際には２４時間登録できます。デフォルトは８：００～２０：００です。「一日画面をスクロール表示する」チェックボックスをオンにすると，１日スケジュールでの時間表示幅が設定可能になります。時間表示幅は，表示時間帯で設定されている時間の範囲内で設定できます。表示時間帯を変更した際に，時間表示幅の値以下になった場合は，表示時間帯で指定された時間より１時間少ない値に自動変更します。なお，表示時間帯で設定した開始時間と終了時間の幅が１時間になった場合，チェックボックスはオフになります。
5. メンバスケジュールのリサイズ
   メンバスケジュール表示の際にリサイズした場合，「ボタンサイズを拡大」する

か，「表示人数を増加」するかを設定してください。デフォルトは「ボタンサイズを拡大」になっています。

6. スケジュール表示形式
   自分のスケジュールの表示形式，メンバスケジュールの表示形式を設定します。「縦表示」，「横表示」から選択できます。デフォルトは縦表示です。さらにイベント表示についてドロップダウンリストから，「表示しない」と表示する場合の表示幅（標準・標準の２倍・標準の３倍）を選択できます。デフォルトは標準です。
7. 週，メンバスケジュールの見出し
   週間スケジュール，または１日のメンバスケジュールのときのグラフ上に表示する文字を設定します。略記・行先・用件・メモから選択できます。デフォルトは略記です。
8. 重複予約の警告
   他のスケジュールと重複して予約しようとした場合に，「警告をする」（警告メッセージを出力する）かどうかを設定します。デフォルトは警告しないです。

(3) Ｔｏｄｏの環境設定

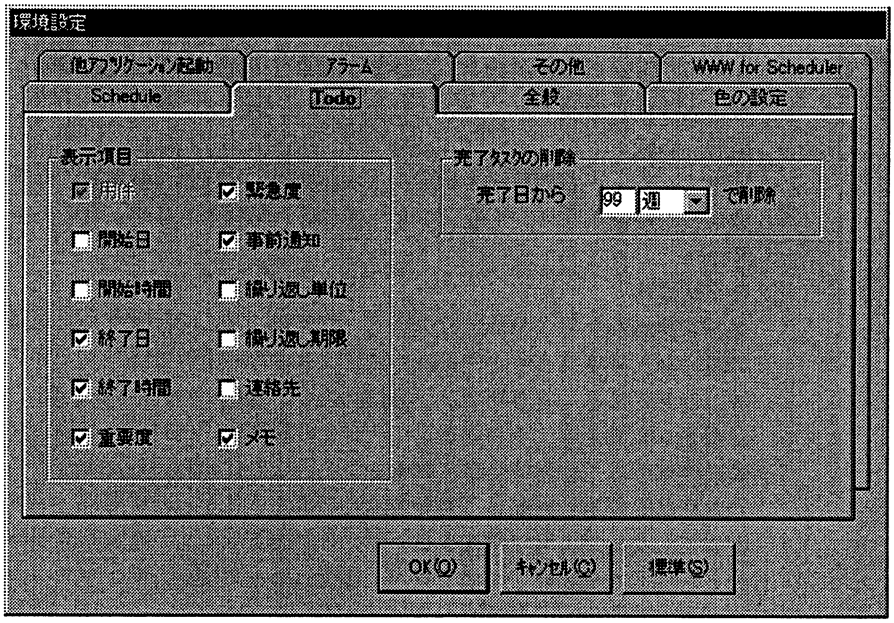
タスク一覧に表示する項目と，完了タスクを削除するまでの期間をカスタマイズすることができます。

以下の手順で設定します。

(a) Ｔｏｄｏの環境設定画面の表示

「環境設定」ウィンドウで，［Ｔｏｄｏ］タブをクリックしてください。
「Ｔｏｄｏ」タブが表示されます。

図4-46 「Ｔｏｄｏ」タブ（「環境設定」ウィンドウ）



(b) 環境設定

1. 表示項目の設定
   「Ｔｏｄｏリスト」ウィンドウのタスク一覧および完了タスク一覧に表示する項目を設定します。表示する場合は，チェックボックスをオンにしてください。(「用件」は変更できません。) デフォルトは「用件」,「終了日」,「終了時間」,「重要度」,「緊急度」,「事前通知」,「メモ」がオンです。
2. 完了タスクの削除
   タスクが完了後，削除するまでの期間を設定します。入力エリアに日数を入力し，日数の単位を選択してください。単位は日・週・月が指定できます。デフォルトは９９週です。

(4) 表示色の設定

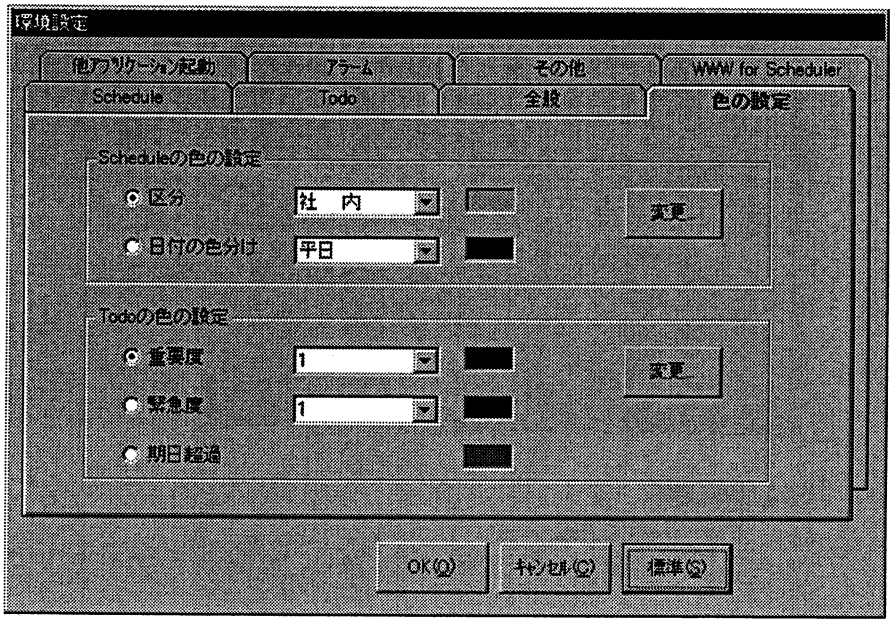
表示色をカスタマイズすることができます。スケジュール画面の区分・日付の色，Ｔｏｄｏ機能の重要度・緊急度・期日超過の色が設定できます。

以下の手順で設定します。

(a) 表示色の環境設定画面の表示

「環境設定」ウィンドウで，[色の設定] タブをクリックしてください。「色の設定」タブが表示されます。

図 4-47 「色の設定」タブ (「環境設定」ウィンドウ)



(b) 環境設定

1. 表示色の設定対象の選択
   表示色の設定対象を選択して，[変更] ボタンをクリックしてください。「色の設定」ウィンドウが表示されます。
2. 色の選択
   設定したい色を選択して，[ＯＫ] ボタンをクリックしてください。自分で好き

な色を作成することもできます。

注意　平日，休日，記念日，当日が同一日になった場合，表示色の優先順位は，当日，記念日，休日，平日の順になります。

注意　Ｔｏｄｏリストの表示色は，タスクの期日が超過している場合，期日超過の色が最優先されます。超過していないときは，重要度と緊急度のレベルが高い方の色で表示されます。レベルが等しいときは，重要度が優先されます。

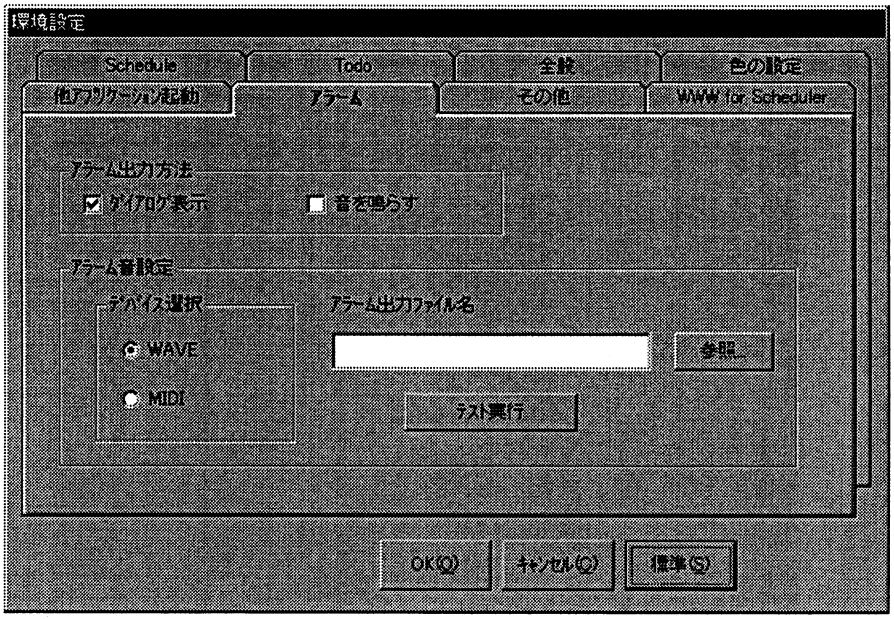
(5) アラームの設定

［ツール］－［アラーム機能を使用する］をチェックしたときに出力されるアラームの出力形式を設定します。以下の手順で設定します。

(a) アラームの環境設定画面の表示

「環境設定」ウィンドウで，［アラーム］タブをクリックしてください。「アラーム」タブが表示されます。

図 4-48 「アラーム」タブ（「環境設定」ウィンドウ）



(b) 環境設定

1. アラーム出力方法
   アラームの出力方法を選択してください。デフォルトは「ダイアログ表示」です。
2. アラーム音設定
   1で音を鳴らすとしたときに，デバイスを選択して，アラームの出力に使うファイルを指定してください。既存のファイルを参照するときは，［参照］ボタンをクリックしてください。デバイス選択のデフォルトは「ＷＡＶＥ」です。

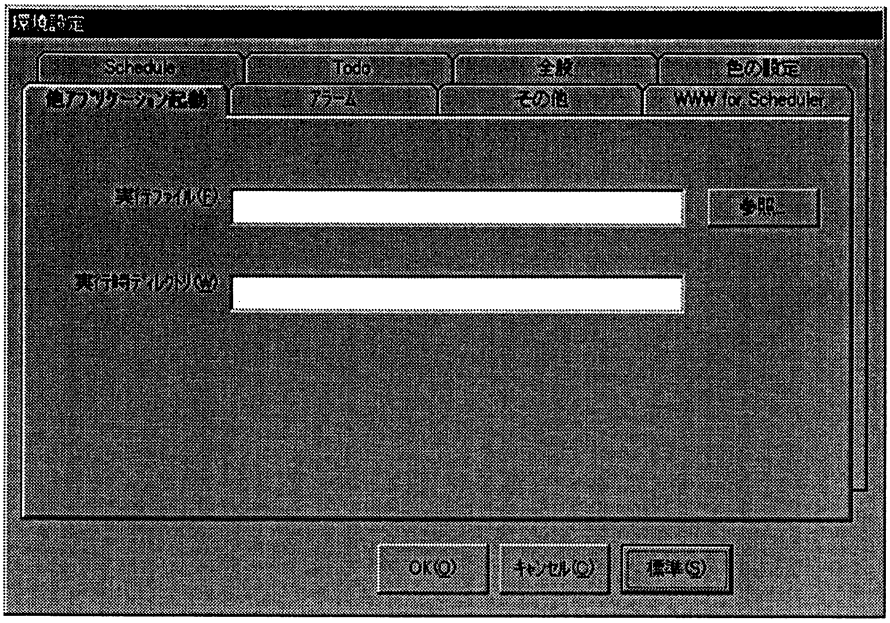
(6) 他アプリケーションの設定

［ツール］－［他アプリケーション起動］を選択したときに起動するアプリケーションを設定します。以下の手順で設定します。

(a) 他アプリケーション起動の境設定画面の表示

「環境設定」ウィンドウで，[他アプリケーション起動] タブをクリックしてください。「他アプリケーション起動」タブが表示されます。

図 4-49 「他アプリケーション起動」タブ（「環境設定」ウィンドウ）



(b) 環境設定

1. 実行ファイル
   実行するファイル名を指定してください。既存のファイルを参照したいときは，[参照] ボタンをクリックしてください。
2. 実行時ディレクトリ
   アプリケーションを起動したときの実行時ディレクトリを設定してください。

(7) その他の設定

その他の設定項目として，アラーム機能の制御，ツールバーの表示制御，ステータスバーの表示制御，ツールバーのアイコンの表示制御ができます。以下の手順で設定します。

(a) その他の環境設定画面の表示

「環境設定」ウィンドウで，[その他] タブをクリックしてください。「その他」タブが表示されます。

(b) 環境設定

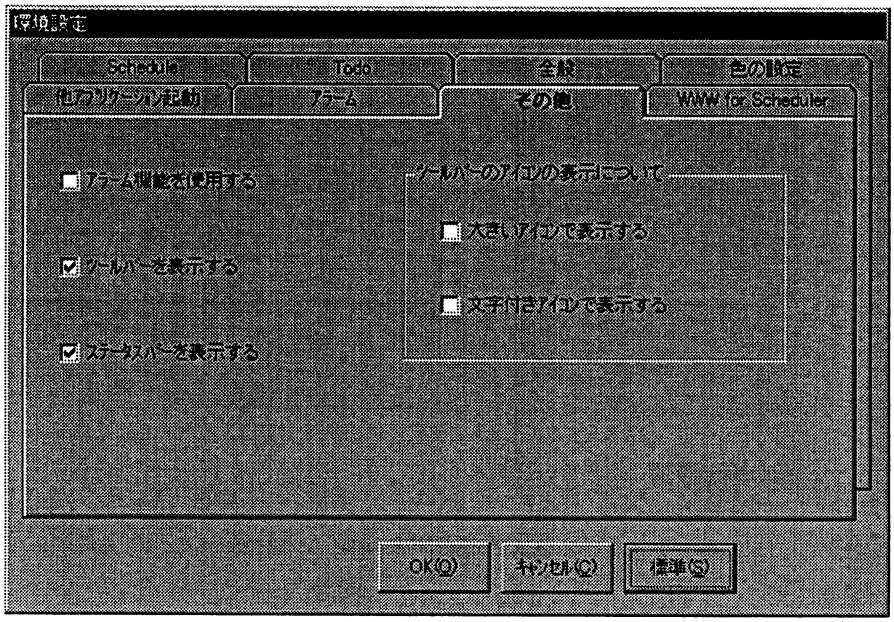
この画面の設定項目は以下のとおりです。

1. 「アラーム機能を使用する」
   このチェックボックスをチェックすると，アラーム監視します。
2. 「ツールバーを表示する」
   このチェックボックスのチェックをはずすと，ツールバーが非表示になります。
3. 「ステータスバーを表示する」

このチェックボックスのチェックをはずすと，ステータスバーが非表示になります。

4. ツールバーのアイコンの表示について
   - 「大きいアイコンで表示する」
     このチェックボックスをチェックするとツールバーのアイコンの表示が大きくなります。
   - 「文字付きアイコンで表示する」
     このチェックボックスをチェックするとツールバーのアイコンの表示が文字付きになります。

図 4-50 「その他」タブ（「環境設定」ウィンドウ）



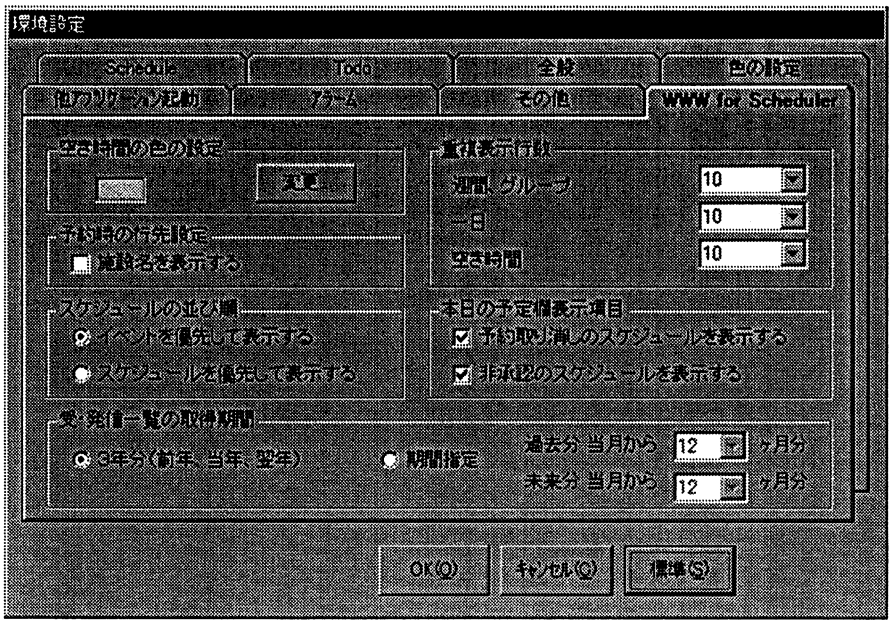
(8) WWW for Scheduler の設定

WWW for Scheduler のみの設定項目として，空き時間の色の設定，スケジュールの並び順，重複表示行数，予約時の行先設定，本日の予定欄表示項目，受・発信一覧の取得期間が設定できます。以下の手順で設定します。

(a) WWW for Scheduler の環境設定画面の表示

「環境設定」ウィンドウで，[WWW for Scheduler] タブをクリックしてください。「WWW for Scheduler」タブが表示されます。

図 4-51 「WWW for Scheduler」タブ（「環境設定」ウィンドウ）



(b) 環境設定

1. 空き時間の色の設定
   [変更] ボタンをクリックしてください。「色の設定」ウィンドウが表示されます。設定したい色を選択して，[ＯＫ] ボタンをクリックしてください。自分で好きな色を作成することもできます。
2. 予約時の行先設定
   このチェックボックスをチェックすると，人と施設に対して同時に予約した場合，行先として施設名を自動で設定します。デフォルトは「予約時の行先設定に施設名を表示しない」です。
3. スケジュールの並び順
   表示するスケジュールの並び順を設定します。「イベントを優先して表示する」，「スケジュールを優先して表示する」から選択できます。デフォルトは「イベントを優先して表示する」です。
4. 重複表示行数
   週間，グループスケジュール，一日スケジュール，空き時間の重複表示行数の最大値を設定します。
   １～１０が選択できます。(空き時間の重複表示行数の場合は全件も選択できます。) デフォルトは１０です。
   重複が，この件数を超えた場合，超えたスケジュールを画面に表示しません。
5. 本日の予定欄表示項目
   本日の予定欄に表示する項目を設定します。表示する場合は，チェックボックスをオンにしてください。デフォルトは「予約取り消しのスケジュールを表示する」，「非承認のスケジュールを表示する」がオンです。
6. 受・発信一覧の取得期間
   受・発信一覧のスケジュールの取得期間を設定します。「３年分（前年，当年，

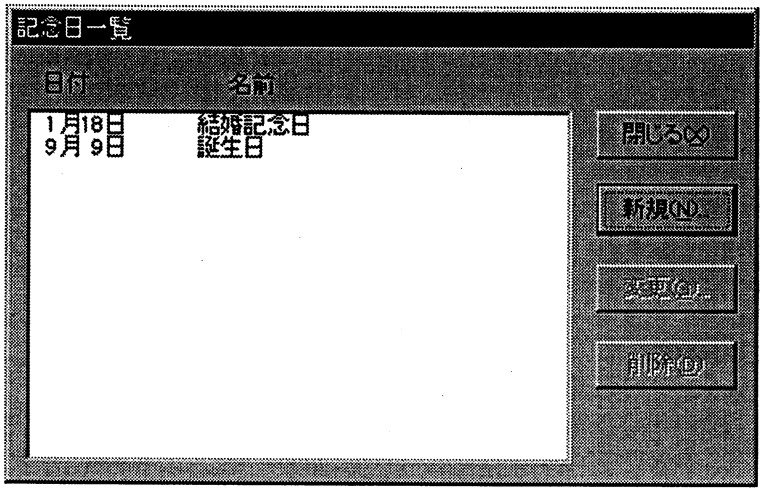
翌年)」,「期間指定」から選択できます。デフォルトは,「3年分（前年，当年，翌年)」です。「期間指定」を選択した場合，過去分，未来分に1～24ヶ月分が選択できます。デフォルトは12ヶ月分です。

4.14.5 記念日の登録

(1)「記念日一覧」ウィンドウの表示

「システム標準値の登録」ウィンドウから［記念日の登録］ボタンをクリックしてください。「記念日一覧」ウィンドウが表示されます。以下の手順で登録します。

図 4-52 「記念日一覧」ウィンドウ

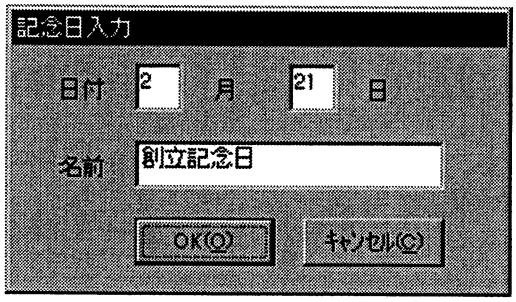


(2) 記念日の編集

(a) 新規登録

1. ［新規］ボタンをクリックしてください。「記念日入力」ウィンドウが表示されます。

図 4-53 「記念日入力」ウィンドウ



2. 日付と記念日の名前を入力してください。日付は，半角数字で入力してください。名前は，半角で50文字（全角25文字分）入力できます。
3. ［OK］ボタンをクリックしてください。「記念日入力」ウィンドウが閉じます。登録した記念日が「記念日一覧」ウィンドウに追加されます。なお，入力した

日付が登録済みの場合，記念日名称を変更するか否かの確認ダイアログが表示されます。ここで［ＯＫ］ボタンをクリックすると変更として処理されます。

4. ［閉じる］ボタンをクリックしてください。「記念日一覧」ウィンドウが閉じます。

(b) 記念日の変更

1. 変更したい記念日を選択して，［変更］ボタンをクリックしてください。「記念日入力」ウィンドウが表示されます。
2. 日付または記念日名を入力して，［ＯＫ］ボタンをクリックしてください。「記念日入力」ウィンドウが閉じます。
3. ［閉じる］ボタンをクリックしてください。「記念日一覧」ウィンドウが閉じます。

(c) 記念日の削除

1. 削除したい記念日を選択して，［削除］ボタンをクリックしてください。
2. ［閉じる］ボタンをクリックしてください。「記念日一覧」ウィンドウが閉じます。

(3)「記念日一覧」ウィンドウの終了

［閉じる］ボタンをクリックしてください。記念日が登録されて，「記念日一覧」ウィンドウが閉じます。

4.15 不要スケジュール削除期間の個別設定

「コンフィギュレーション」でサーバに設定されている不要スケジュール削除期間の他に，メンバ（ユーザ，施設）ごとに個別にスケジュール削除期間を設定し，時間の経過に伴い不要になったスケジュールを自動的に削除できます。

4.15.1 注意事項

不要スケジュール削除の個別設定により過去のスケジュールにおいて，予約元と予約先のデータに不整合が生じることがあります。

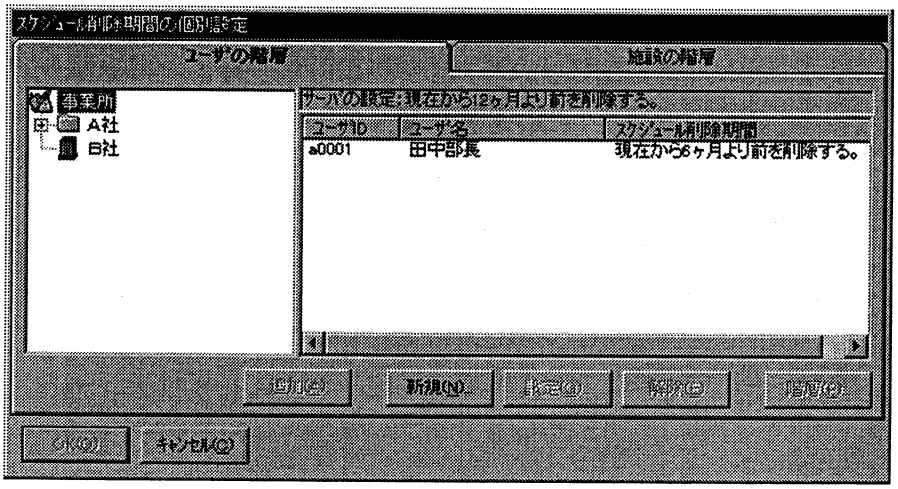
- 予約元のデータだけ削除された場合，予約データの回答に失敗することがあります。
- 予約先のデータだけ削除された場合，回答状況が不一致になることがあります。

4.15.2 ユーザのスケジュール削除期間の個別設定

［オプション］－［不要スケジュール削除期間］メニューを選択してください。「スケジュール削除期間の個別設定」ウィンドウが表示されます。リストボックスの上に「コンフィギュレーション」で設定されているスケジュール削除期間が表示されます。

［ユーザの階層］タブをクリックしてください。「ユーザの階層」タブが表示されます。

図 4-54 「ユーザの階層」タブ（「スケジュール削除期間の個別設定」ウィンドウ）



(1) ユーザをリストボックスに追加する

(a) ツリービューから追加する場合

例としてここでは開発１課の山田課長を追加します。

1. ツリービューから山田課長のアイコンを選択し，ダブルクリックするか，［追加］ボタンをクリックしてください。リストボックスに山田課長のユーザＩＤ，ユーザ名，スケジュール削除期間が表示されます。スケジュール削除期間には

「コンフィギュレーション」で設定されているスケジュール削除期間が表示されます。

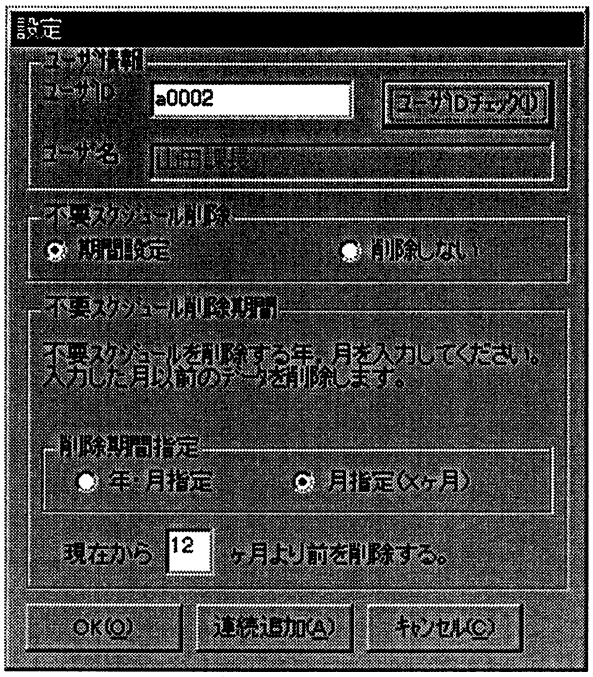
2. リストボックスで山田課長のユーザＩＤを選択し，ダブルクリックするか，［設定］ボタンをクリックしてください。「設定」ウィンドウが表示されます。
3. 不要スケジュール削除期間を設定してください。
   - 削除しない場合
     「不要スケジュール削除」は［削除しない］を選択してください。
   - 削除期間を指定する場合
     「不要スケジュール削除」は［期間設定］を選択してください。
     削除期間は，年・月指定（ＹＹＹＹ年ＭＭ月より前）と月指定（現在からＭＭヶ月より前）のどちらかを設定できます。（年は４文字の半角数字，月は２文字以内の半角数字を指定してください。） 年・月指定の場合，現在より後の年月は指定できません。
     例えば，現在から１２ヶ月より前のスケジュールが不要である場合，［月指定］を選択して「現在から１２ヶ月より前を削除する。」と設定してください。また，１９９８年１月より前のスケジュールが不要である場合，［年・月指定］を選択して「１９９８年１月より前を削除する。」と設定してください。
4. ［ＯＫ］ボタンをクリックすると「スケジュール削除期間の個別設定」ウィンドウに戻り，リストボックスに山田課長に設定したデータが表示されます。

(b) ユーザを検索して追加する場合

例としてここでは開発１課の山田課長を追加します。

1. ［新規］ボタンをクリックしてください。「設定」ウィンドウが表示されます。
2. ユーザＩＤを入力し，［ユーザＩＤチェック］ボタンをクリックしてください。（ユーザＩＤには存在するユーザＩＤで８文字以内の半角英数字を指定してください。）ユーザ名欄にユーザ名が表示されます。ここでは開発１課の山田課長のユーザＩＤを入力しているので，ユーザ名には山田課長と表示されます。

図 4-55 「設定」ウィンドウ



3. 不要スケジュール削除期間を設定してください。
   設置方法は，「(1) ユーザをリストボックスに追加する」－「(a) ツリービューから追加する場合」の項番 3 と同様です。
4. ［ＯＫ］ボタンをクリックすると「スケジュール削除期間の個別設定」ウィンドウに戻り，リストボックスに山田課長に設定したデータが表示されます。

(c) ユーザを連続して追加する場合

例としてここでは開発 1 課の山田課長，坂井さん，鈴木さんを追加します。

1. ［新規］ボタンをクリックしてください。「設定」ウィンドウが表示されます。
2. 山田課長を追加します。追加方法は「(b) ユーザを検索して追加する場合」を参照してください。
3. 山田課長の設定を終えたら［連続追加］ボタンをクリックしてください。入力した山田課長のデータが「スケジュール削除期間の個別設定」ウィンドウのリストボックスに追加され，「設定」ウィンドウの「ユーザ ＩＤ」，「ユーザ名」は入力されていない状態になります。坂井さんと鈴木さんを同様の手順で追加してください。

(2) ユーザの個別設定を解除する

リストボックスから設定を解除したいユーザのユーザ ＩＤ を選択し，［解除］ボタンをクリックしてください。リストボックスから選択したユーザが削除されそのユーザのスケジュール削除期間はサーバの設定した期間となります。なお，解除の対象は複数選択できます。

(3) ユーザの階層を表示する

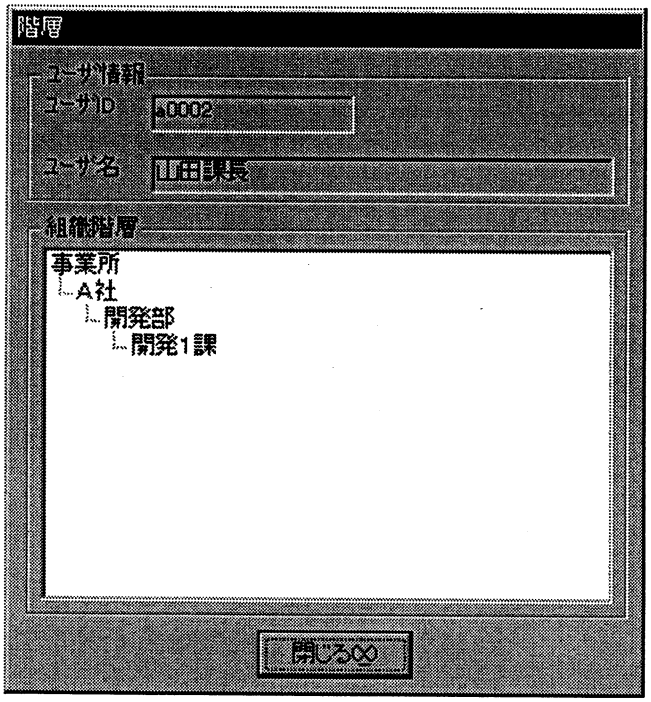
リストボックスに追加設定されているユーザの組織階層を表示することができま

す。

例としてここでは開発１課の山田課長の組織階層を表示します。

1. リストボックスから山田課長のユーザＩＤを選択し，［階層］ボタンをクリックしてください。「階層」ウィンドウが表示されます。
2. 「ユーザＩＤ」には山田課長のユーザＩＤ，「ユーザ名」には山田課長が表示されます。「組織階層」には開発１課の山田課長の組織階層が表示されます。
3. ［閉じる］ボタンをクリックすると「スケジュール削除期間の個別設定」ウィンドウに戻ります。

図 4-56 「階層」ウィンドウ



(4) スケジュール削除期間を変更する

例としてここでは開発１課の山田課長，坂井さん，鈴木さんのスケジュール削除期間を変更します。

1. リストボックスから山田課長のユーザＩＤを選択し，ダブルクリックするか，［設定］ボタンをクリックしてください。「設定」ウィンドウが表示されます。（複数選択した場合は，ユーザＩＤ欄に ********，ユーザ名欄に ********** が表示されます。）
2. スケジュール削除期間を変更して［ＯＫ］または［連続追加］をクリックしてください。
   - ［ＯＫ］をクリックした場合，「スケジュール削除期間の個別設定」ウィンドウに戻り，リストボックスの開発１課の山田課長のスケジュール削除期間が変更されます。
   - ［連続追加］をクリックした場合，変更した山田課長のデータが「スケジュール削除期間の個別設定」ウィンドウのリストボックスに表示され，

「設定」ウィンドウの「ユーザ ＩＤ」,「ユーザ名」は入力されていない状態になります。坂井さんと鈴木さんを同様の手順で変更してください。

(5) リストボックスのデータをソートする

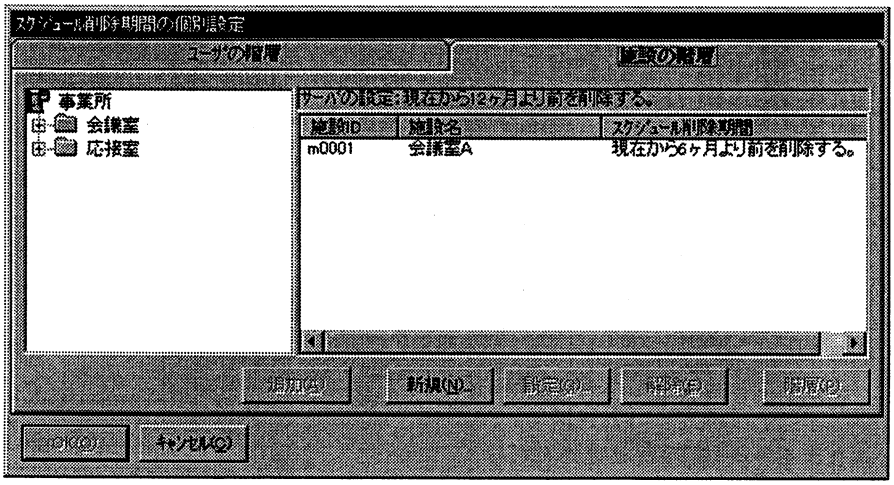
「スケジュール削除期間の個別設定」ウィンドウのリストボックスのユーザ ＩＤ，ユーザ名，スケジュール削除期間ヘッダをクリックしてください。クリックしたユーザ ＩＤ，ユーザ名，スケジュール削除期間ヘッダのデータを基に昇順にソートします。再度，ユーザ ＩＤ，ユーザ名，スケジュール削除期間ヘッダをクリックすると，降順にソートします。

4.15.3 施設のスケジュール削除期間の個別設定

［オプション］－［不要スケジュール削除］メニューを選択してください。「スケジュール削除期間の個別設定」ウィンドウが表示されます。リストボックスの上に「コンフィギュレーション」で設定されているスケジュール削除期間が表示されます。

［施設の階層］タブをクリックしてください。「施設の階層」タブが表示されます。

図 4-57 「施設の階層」タブ（「スケジュール削除期間の個別設定」ウィンドウ）



(1) 施設をリストボックスに追加する

(a) ツリービューから追加する場合

例としてここでは会議室１ Ｆ の会議室 Ｂ を追加します。

1. ツリービューから会議室 Ｂ のアイコンを選択し，ダブルクリックするか，［追加］ボタンをクリックしてください。リストボックスに会議室 Ｂ の施設 ＩＤ，施設名，スケジュール削除期間が表示されます。スケジュール削除期間には，「コンフィギュレーション」で設定されているスケジュール削除期間が表示されます。
2. リストボックスで会議室 Ｂ の施設 ＩＤ を選択し，ダブルクリックするか，［設定］ボタンをクリックしてください。「設定」ウィンドウが表示されます。
3. 不要スケジュール削除期間を設定してください。設置方法は，「4.15.2 ユーザの

スケジュール削除期間の個別設定」－「(1) ユーザをリストボックスに追加する」－「(a) ツリービューから追加する場合」の項番３と同様です。

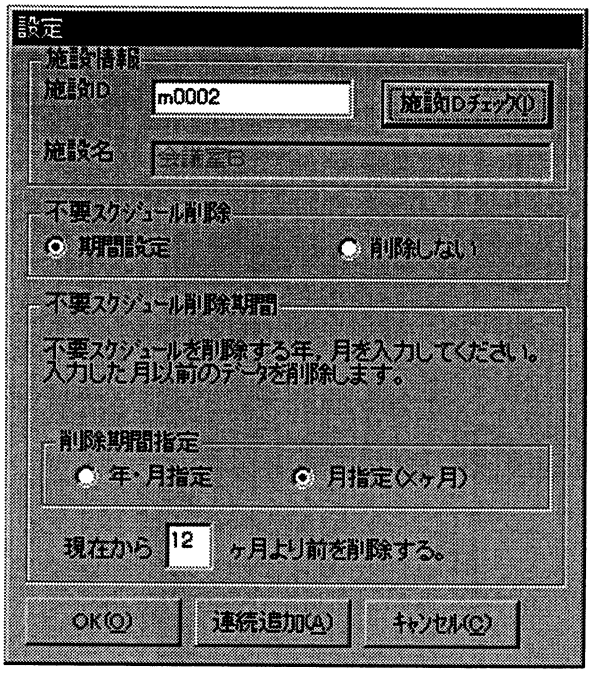
4. ［ＯＫ］ボタンをクリックすると「スケジュール削除期間の個別設定」ウィンドウに戻り，リストボックスに会議室Ｂに設定したデータが表示されます。

(b) 施設を検索して追加する場合

例としてここでは会議室１Ｆの会議室Ｂを追加します。

1. ［新規］ボタンをクリックしてください。「設定」ウィンドウが表示されます。
2. 施設ＩＤを入力し，［施設ＩＤチェック］ボタンをクリックしてください。（施設ＩＤには存在する施設ＩＤで８文字以内の半角英数字を指定してください。）施設名欄に施設名が表示されます。ここでは会議室１Ｆの会議室Ｂの施設ＩＤを入力しているので，施設名には会議室Ｂと表示されます。

図 4-58 「設定」ウィンドウ



3. 不要スケジュール削除期間を設定してください。設置方法は，「4.15.2 ユーザのスケジュール削除期間の個別設定」－「(1) ユーザをリストボックスに追加する」－「(a) ツリービューから追加する場合」の項番３と同様です。
4. ［ＯＫ］ボタンをクリックすると「スケジュール削除期間の個別設定」ウィンドウに戻り，リストボックスに会議室Ｂに設定したデータが表示されます。

(c) 施設を連続して追加する場合

例としてここでは会議室１Ｆの会議室Ｂ，会議室Ｃを追加します。

1. ［新規］ボタンをクリックしてください。「設定」ウィンドウが表示されます。
2. 会議室Ｂを追加します。追加方法は「(b) 施設を検索して追加する場合」を参照してください。
3. 会議室Ｂの設定を終えたら［連続追加］ボタンをクリックしてください。入力

した会議室 B のデータが「スケジュール削除期間の個別設定」ウィンドウのリストボックスに追加され，「設定」ウィンドウの「施設 ＩＤ」，「施設名」は入力されていない状態になります。会議室 C を同様の手順で追加してください。

(2) 施設の個別設定を解除する

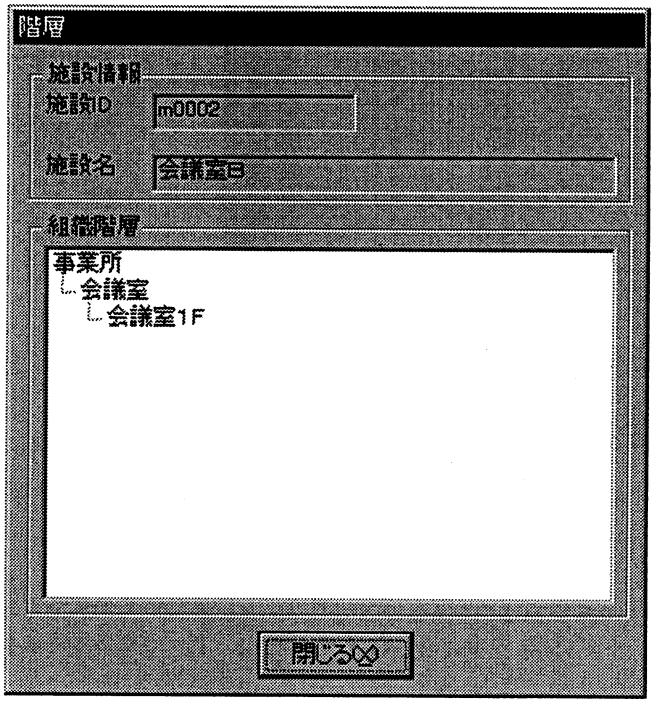
リストボックスから設定を解除したい施設の施設 ＩＤ を選択し，[解除] ボタンをクリックしてください。リストボックスから選択した施設が削除され，その施設のスケジュール削除期間はサーバの設定した期間となります。なお，解除の対象は複数選択できます。

(3) 施設の階層を表示する

リストボックスに追加設定されている施設の組織階層を表示することができます。例としてここでは会議室１ Ｆ の会議室 B の階層を表示します。

1. リストボックスから会議室 B の施設 ＩＤ を選択し，[階層] ボタンをクリックしてください。「階層」ウィンドウが表示されます。
2. 「施設 ＩＤ」には会議室 B の施設 ＩＤ，「施設名」には会議室 B が表示されます。「組織階層」には会議室１ Ｆ の会議室 B の組織階層が表示されます。
3. [閉じる] ボタンをクリックすると「スケジュール削除期間の個別設定」ウィンドウに戻ります。

図 4-59 「階層」ウィンドウ



(4) スケジュール削除期間を変更する

例としてここでは会議室１ Ｆ の会議室 B，会議室 C のスケジュール削除期間を変更します。

1. リストボックスから会議室 B の施設 ＩＤ を選択し，ダブルクリックするか，

［設定］ボタンをクリックしてください。「設定」ウィンドウが表示されます。施設ＩＤは，複数選択できます。(複数選択した場合は，施設ＩＤ欄に ********，施設名欄に ********** が表示されます。)

2. スケジュール削除期間を変更して［ＯＫ］または［連続追加］をクリックしてください。
   - ［ＯＫ］をクリックした場合，「スケジュール削除期間の個別設定」ウィンドウに戻り，リストボックスの会議室Ｂのスケジュール削除期間が変更されます。
   - ［連続追加］をクリックした場合，変更した会議室Ｂのデータが「スケジュール削除期間の個別設定」ウィンドウのリストボックスに表示され，「設定」ウィンドウの「施設ＩＤ」，「施設名」は入力されていない状態になります。会議室Ｃを同様の手順で追加してください。

(5) リストボックスのデータをソートする

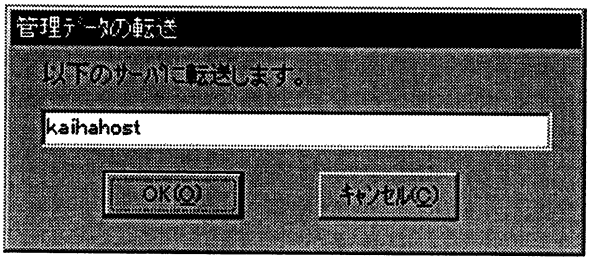
「スケジュール削除期間の個別設定」ウィンドウのリストボックスの施設ＩＤ，施設名，スケジュール削除期間ヘッダをクリックしてください。クリックした施設ＩＤ，施設名，スケジュール削除期間ヘッダのデータを基に昇順にソートします。再度，施設ＩＤ，施設名，スケジュール削除期間ヘッダをクリックすると，降順にソートします。

4.16 管理データの転送

作成または編集した管理データをサーバへ転送します。手順は以下のとおりです。

1. [ファイル] − [管理データの転送] メニューを選択してください。
2. 「管理データの転送」ウィンドウが表示されます。取得時に設定したサーバ名が表示されます。
3. [OK] ボタンをクリックしてください。「コンフィギュレーション」の「1. スケジュール格納ディレクトリの設定」で設定したディレクトリの下の etc および room ディレクトリに管理データが送信されます。

図 4-60 「管理データの転送」ウィンドウ



注意　管理データの転送を行わないと，変更した管理データがシステムに反映されません。

4.17 管理ツールの終了

［ファイル］－［終了］メニューを選択してください。管理ツールが終了します。

注意 **管理ツールを終了する前に必ず「4.16 管理データの転送」の操作を行ってください。転送を行わずに管理ツールを終了した場合，編集した管理データがサーバ側に反映されず，古い管理データが残ることになります。次回管理ツールを起動したときに必ずサーバ側の管理データを受信することになるので，サーバに古いデータが残っていると，前回更新したデータは失われることになります。**

4.18 各子サーバでの管理データの取得

親サーバで作成した管理データをすべての子サーバで取得します。以下のどちらかのタイミングで更新されます。

1. 各子サーバ上で「コンフィギュレーション」の［手動実行］の［管理データ取得］を実行
2. 「コンフィギュレーション」の「4. 管理データ取得時刻の設定」の設定時間
   - その時刻に親サーバ，子サーバともに管理ツールサーバ（/usr/bin/AppoMan または /usr/bin/RoomMan）を起動していなければ更新されません。
   - 既存のユーザのホームサーバ変更を行った場合は，サーバ（SV，RMSV）を停止し，ユーザの移動を行った上で実行してください。（詳細は「付録 F スケジュールデータの移動」を参照してください。）
   - サーバを稼働中にこの操作を行った場合，クライアントを再起動しないと取得した内容が反映されません。この操作はサーバ（SV，RMSV）を停止して実行することを推奨します。また，サーバ稼働中に実行する場合は，クライアントからのアクセス（スケジュール参照，ログインなど）が少ない時間帯に実行してください。

5. Groupmax Address - Assist との連携方法

この章では，Groupmax Address - Assist との連携方法について説明します。

5.1 Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能
5.2 ホームサーバ移動ツール「SFdatacp」について

5.1 Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能

Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能（以後 Assist 連携と記述）とは，Address Server 上での組織やユーザの変更と連動して，Scheduler の管理データの更新を実行する機能です。

この機能を使用するには，以下の製品が必要です。

- Groupmax Address Server Version 6
- Groupmax Address - Assist Viewer Version 6
- Groupmax Address - Assist Service Version 6
- Groupmax Scheduler_Facilities 管理ツール Version 6

(1) 前提条件

- マルチサーバ環境では，すべてのマシンに Scheduler Server Version 6 と Facilities Manager Version 6 をインストールしておく必要があります。(施設管理を使用していない場合は，Facilities Manager Version 6 をインストールする必要はありません。)
- Scheduler Server の親サーバと同一マシンで Address Server が起動されており，Address 認証するように設定しておく必要があります。マルチサーバの場合，子サーバと同一マシンに Address Server がインストールされている必要はありません。
- すべてのサーバで，あらかじめ管理ツールサーバ（AppoMan，RoomMan）を起動しておく必要があります。(施設管理を使用していない場合は，RoomMan を起動しておく必要はありません。すべてのサーバで AppoMan は必ず起動しておいてください。)
- Assist 連携を新たに使用する場合，またはバージョンアップをした場合には，Scheduler_Facilities 管理ツールを使って事前に Scheduler のホームサーバ一覧を作成する必要があります。このホームサーバ一覧には，Scheduler Server と Facilities Manager を稼動する全マシンのホームサーバ名を登録する必要があります。作成方法については，「4.5 DNS ホスト名の登録」の「(2) Assist 連携用ホームサーバ一覧作成」を参照してください。
- Assist 連携を新たに使用する場合，「コンフィギュレーション」の「16.Assist 連携」で「使用する」に設定してください。設定方法については，「3.1 サーバ環境設定」を参照してください。
- Assist 連携を新たに使用する場合，またはシステム内のサーバ台数が増える場合は，以下の手順によりユーザ情報の再作成をする必要があります。
  1. 親サーバ上で以下のファイルを削除
     ＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /etc/DNSHOSTS.tbl
     (削除する前に必ずバックアップを取得しておいてくださいエラー時のリカバリに使用します)
  2. 以下の操作により親サーバ上でユーザ情報の再作成を実行
     「コンフィギュレーション」－［手動実行］－［ユーザ情報再作成］
  3. 他システムと接続している場合は，管理ツールを起動して「DNS ホスト名

の登録」で自システムの G/W ホスト名と他システムの G/W ホスト名も再登録してください。
「オプション」－「DNS ホスト名」

4. 管理ツールを起動して，「(3) 設定事項」の「(b) ホームサーバ一覧ファイル」より，システム内のすべてのサーバ名を登録してください。
5. 以下の操作によりすべての子サーバから「管理データ取得」を実行
「コンフィギュレーション」－［手動実行］－［管理データ取得］

- Assist 連携使用中は，不要スケジュール削除の手動実行はできません。また，不要スケジュール削除の自動実行は「使用しない」設定に変更しておいてください。
- ユーザのホームサーバ移動をする場合，すべてのクライアントにて，以下の設定をする必要があります。(WWW for Scheduler の場合は不要です)
  1. Scheduler Client を起動します。
  2.「ツール」-「環境設定」を選択します。
  3.「ユーザ情報の保存」を「サーバで保存」にします。

  この設定をしていないクライアントの場合，Assist 連携機能でユーザのホームサーバを変更すると，ローカルグループ内のユーザ，およびクライアント起動時に自動的に表示されるスケジュールに対し，以下の操作ができません。
  1. スケジュール表示
  2. 予約
  3. 空時間検索
  4. 自分・上司のスケジュールにおいて，登録・削除・回答
- Scheduler Server および Facilities Manager の実行ユーザを Address Server のシステム管理者と同一ユーザに設定する必要があります。詳細は「付録 L 実行ユーザの変更」を参照してください。

(2) 使用条件

- ユーザのホームサーバ移動の自動実行には対応していません。Assist Viewer，または Address Server 上で Scheduler ホスト名を変更し，ホームサーバ移動が発生するような場合には，「(7) ユーザのホームサーバ移動」を参照して，コマンド実行や手動でデータ移動等の一連の処理をしてください。
- Assist 連携を使用する場合，Address Server でのユーザ情報の変更と連動して Scheduler の管理データを更新するので，以下の操作はしないでください。
  変更通知情報取得の自動実行
  変更通知情報取得の手動実行
  「indxget」コマンドの実行
  これらを実行すると，管理データが不正な状態になる場合があります。
- Assist 連携環境構築後は，Assist 連携設定を解除した場合やエラー発生時を除いて以下の操作をしないでください。
  ユーザ情報の再作成の手動実行
  「GetAdAll」コマンドの実行
- マルチサーバ環境では，ユーザが全く登録されていない Scheduler Server であっても，そのサーバに関しては，あらかじめ管理ツールで DNS ホスト名，な

らびにホームサーバー一覧に登録しておく必要があります。

- Assist 連携を使用してユーザ情報を更新している間はクライアントからのスケジュール更新処理はできません。また，参照時でもアクセスに失敗することがあります。
- Assist 連携使用前に Assist Viewer で，ユーザ「詳細情報」の「Scheduler サーバ」コンボボックスのプルダウンメニューに，事前に管理ツールで作成したホームサーバー一覧と同様のサーバ名が表示されていること確認してください。ホームサーバー一覧と Assist Viewer のプルダウンメニューの内容が異なる場合，Assist Viewer を終了し，再度，管理ツールでホームサーバー一覧を作成した後 Assist Viewer を再起動してください。
- Assist Viewer では，ユーザの「詳細情報」の「Scheduler サーバ」欄に手入力できますが，事前に作成したホームサーバー一覧に登録されている以外のサーバ名を手入力した場合は，Assist 連携でエラーとなります。この場合は，再度 Assist Viewer 上で手入力したユーザのホームサーバをプルダウンメニューから選択し直してください。
- 「コンフィギュレーション」の「6. ログファイル最大容量」で指定するログ容量は大きめに設定しておいてください。
- Assist 連携使用中は，Assist Viewer のログ表示機能を利用して実行状況を確認するようにしてください。ログの内容については，「付録 H Assist 連携時と「SFdatacp」実行時のエラーメッセージ」を参照してください。

(3) 設定事項

(a) Assist 連携の設定

Assist 連携を使用する場合，親サーバ上で以下の手順が必要です。なお，「親サーバ／子サーバの設定」を変更した場合，Groupmax Server Setup Wizard を使ってサーバ環境を再構築した場合にもあらためてこの操作が必要になります。

設定手順

1. 親サーバの「コンフィギュレーション」の「16. Assist 連携」で「使用する」に設定する。(この操作により，Assist 連携用の item.def ファイルがセットされます)
   Groupmax Server Setup Wizard を使ってサーバ環境を再構築した場合は，一度「使用しない」にしてから再度「使用する」に設定してください。
2. 親サーバ上の Address Server を再起動します。
3. マルチサーバ構成の場合，同一マシンに Address Server がインストールされている子サーバには以下のファイルが存在しないことを確認します。
   /usr/GroupMail/Groupmax/GroupApp/item.def
   (ＨＰ－ＵＸ，ＡＩＸの場合は，/var/opt/GroupMail/Groupmax/GroupApp/item.def)
4. 存在する場合は削除して，同一マシン上の Address Server を再起動してください。

(b) ホームサーバー一覧ファイル

Assist 連携を使用する場合，管理ツールを用いてホームサーバー一覧を作成する必

要があります。この作業は，「(a) Assist 連携の設定」の後にしてください。作成手順は，「4.5 DNS ホスト名の登録」の「(2) Assist 連携用ホームサーバ一覧作成」を参照してください。その際の注意事項は，以下のとおりです。

1. 他システムと接続している場合は，他システムの G/W ホスト名を一覧に追加しないでください。
2. システムの構成が変更になった場合は，必ずこの一覧を再作成してください。
3. ユーザが全く登録されていないサーバも含め，システム内のすべてのサーバを登録してください。

(c) Address - Assist セットアップ

Assist 連携を使用する場合，Address - Assist セットアップで「Scheduler 親サーバのドメイン名／ホスト名」を必ず設定してください。Address - Assist セットアップについては，「Groupmax Address - Assist Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

(d)「変更通知情報取得の自動実行」の抑止

「コンフィギュレーション」から「13. 変更通知情報取得の自動実行」の設定を「使用しない」にします。設定後，管理ツールサーバを再起動してください。

(e)「不要スケジュール削除の自動実行」の抑止

「コンフィギュレーション」から「7. 不要スケジュール削除の自動実行」の設定を「使用しない」にします。設定後，管理ツールサーバを再起動してください。

(f) 設定変更ファイル

以下の設定変更ファイルの設定値により，Assist 連携機能の動作を変更することができます。通常はこの設定変更ファイルを作成する必要はありません。下記設定項目を変更する必要がある場合にだけ，作成してください。

```
/usr/GroupAppo/bin/SFagent.ini
```

設定変更ファイルのフォーマット

設定項目＝設定値＜改行＞

設定項目および設定値*

- Assist 連携機能サーバ間通信タイムアウト値の設定
  指定なし（デフォルト）
  または
  AgentAPI_TimeOut=7200 ＜改行＞

登録ユーザ数／施設数が多い場合に設定します。設定値は 3600 から 2147483647 までの範囲で設定してください。デフォルト値は，3600 です。単位は「秒」です。通常は，設定する必要はありません。

*：Version 5 からご使用の場合は，ユーザのホームサーバ移動発生時の設定（AgentControl）は無効になります。したがって，Version 5 からご利用いただいている場合で AgentControl の指定をしていない，あるいは「AgentControl=0」と指定して運用している環境で，ホームサーバ移動が発生しても実行前の状態に戻しません。「(7) ユーザのホームサーバ移動」の作業が必要になります。

(4) Assist 連携機能の実行

「(3) 設定事項」の内容をすべて設定した後，Assist Viewer などを利用して Address Server に登録されたユーザ情報を変更してください。その後，Scheduler の Assist 連携機能が実行され変更内容が自動的に Scheduler に反映されます。Assist 連携機能の実行タイミングは以下のとおりです。Assist 連携機能が実行されてから，ユーザ情報の変更内容がすべての Scheduler に反映されるまで，しばらく時間がかかります。出力されるログで Scheduler への反映処理が完了しているか確認してください。ログの確認方法は以下のとおりです。メッセージの詳細については，「付録 H Assist 連携時と「SFdatacp」実行時のエラーメッセージ」を参照してください。

(a) Groupmax Address - Assist を使用した場合

Assist Viewer で Address Server のユーザ情報に変更を加えた後，Assist Viewer を終了したタイミングで Scheduler の Assist 連携機能が実行されます。

また，Assist Viewer でユーザ情報に変更を加えた後，Assist Viewer の「ツール」－「オプション」から「Groupmax」タブを選択し，Scheduler 情報「参照」ボタンを押下したタイミングでも Assist 連携機能が実行されます。ただし，直前にユーザ情報に変更を加えていない場合は実行されません。

「参照」ボタンを押下すると Assist 連携機能の実行ログが表示されますが，新しいログの出力までに時間がかかり，過去のログが表示されている可能性があります。過去のログが表示されている場合は，少し時間をおき，「再読込」ボタンを押下してください。

(b) 運転席を使用した場合

運転席で Address Server のユーザ情報に変更を加えた後，運転席を終了したタイミングで Scheduler の Assist 連携機能が実行されます。実行結果は，＜スケジュール格納ディレクトリ＞ `/log/agent/ScheExec.log` を参照してください。

(c) 一括登録ユーティリティ

一括登録ユティリティを使用して Address Server のユーザ情報に変更を加えた後，gmaxset コマンドを実行したタイミングで Scheduler の Assist 連携機能が実行されます。実行結果は，＜スケジュール格納ディレクトリ＞ `/log/agent/ScheExec.log` を参照してください。

(5) Assist 連携を使用したシステム・ユーザ管理

Assist 連携機能を使用したユーザ管理方法は以下のとおりです。ここでは，Address - Assist を利用した方法を紹介します。

(a) ホームサーバ変更を含まないユーザ管理

1. Assist 連携機能の新規利用時は，「(3) 設定事項」の作業をしてください。
2. Assist Viewer を起動して，Address Server のユーザ情報を変更します。
3. Assist Viewer を終了します。(Scheduler の Assist 連携機能が起動します)
4. Scheduler の実行状況を確認するために Assist Viewer を再起動してください。
5. 「Groupmax Address - Assist Version 6 システム管理者ガイド」を参照して，

Scheduler の実行ログを参照して処理結果を確認してください。

(b) ホームサーバ変更を含むユーザ管理

1. Assist 連携機能の新規利用時は，「(3) 設定事項」の作業をしてください。
2. Assist Viewer を起動して，Address Server のユーザ情報を変更します。
3. Assist Viewer を終了します。(Scheduler の Assist 連携機能が起動します)
4. Scheduler の実行状況を確認するために Assist Viewer を再起動してください。
5. 「Groupmax Address - Assist Version 6 システム管理者ガイド」を参照して，Scheduler の実行ログを参照して処理結果を確認してください。
6. 「(6) 確認事項」の「(a) 移動者一覧ファイル」を参照して移動者一覧ファイルが正しく作成されていることを確認してください。
7. 「(7) ユーザのホームサーバ移動」を参照して，スケジュールデータを転送してください。

(c) システム構成変更（サーバ台数増加の場合）

1. 新しいサーバをセットアップして，マルチサーバ構成を構築してください。
2. 「(3) 設定事項」の作業をしてください。その際に，ホームサーバ一覧に新しいサーバを追加することを忘れないようにしてください。
3. Assist Viewer を起動して，Address Server のユーザ情報を変更します。
4. Assist Viewer を終了します。(Scheduler の Assist 連携機能が起動します)
5. Scheduler の実行状況を確認するために Assist Viewer を再起動してください。
6. 「Groupmax Address - Assist Version 6 システム管理者ガイド」を参照して，Scheduler の実行ログを参照して処理結果を確認してください。
7. 「(5) 確認事項」の「(a) 移動者一覧ファイル」を参照して移動者一覧ファイルが正しく作成されていることを確認してください。
8. 「(6) ユーザのホームサーバ移動」を参照して，スケジュールデータを転送してください。

(d) システム構成変更サーバ台数削減の場合

1. 削減するサーバも含めてマルチサーバ構成を構築した状態で次の作業をしてください。
2. 「(3) 設定事項」の作業をしてください。その際に，ホームサーバ一覧には削減するサーバも含めたまま以下の作業をしてください。
3. Assist Viewer を起動して，Address Server のユーザ情報を変更します。
4. Assist Viewer を終了します。(Scheduler の Assist 連携機能が起動します)
5. Scheduler の実行状況を確認するために Assist Viewer を再起動してください。
6. 「Groupmax Address - Assist Version 6 システム管理者ガイド」を参照して，Scheduler の実行ログを参照して処理結果を確認してください。
7. 「(6) 確認事項」の「(a) 移動者一覧ファイル」を参照して移動者一覧ファイルが正しく作成されていることを確認してください。また，移動者一覧ファイルについてはバックアップを取得しておいてください。
8. 「(7) ユーザのホームサーバ移動」を参照して，スケジュールデータを転送してください。
9. しばらくそのままの環境で運用するか，それができない場合は，すべてのサー

バで「HOSTCHG」コマンドを実行してください。「HOSTCHG」コマンドについては，「7.3「HOSTCHG」について」を参照してください。その際に使用するホスト名変換ファイルには，バックアップを取得しておいた移動者一覧ファイルがそのまま利用できます。

(6) 確認事項

(a) 移動者一覧ファイル

Assist 連携を使用してユーザのホームサーバを移動した場合は，移動者一覧ファイル*1が生成されます。Assist 連携を使用して Address - Assist などを使用してユーザ移動を設定した時点では，このファイルが作成されるだけで，実際にユーザのホームサーバ移動は実行しません。ユーザのホームサーバ移動を完了させるためには，「(7) ユーザのホームサーバ移動」の作業をする必要があります。

*1：移動者一覧ファイルは以下の場所にあります。
＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /etc/MV.tbl
デフォルトは /usr/iki/etc/MV.tbl

移動者一覧ファイルのフォーマット

移動ユーザ ＩＤ ＜スペース＞ 移動後のホスト名 ＜スペース＞ 移動前のホスト名＜改行＞

移動者一覧ファイルの例

USER001	HOSTA	HOSTB ＜改行＞
USER002	HOSTB	HOSTA ＜改行＞
	：	
	：	
USER009	HOSTA	HOSTC ＜改行＞

(7) ユーザのホームサーバ移動

Assist 連携では，ユーザのホームサーバを変更した場合，移動者一覧ファイルを作成します。Assist 連携では，ファイルが作成されるだけで，実際に管理データの更新やスケジュールデータの転送は実行しません。以下のいずれかの方法でユーザのホームサーバ移動を実現してください。

(a)「ユーザホームサーバ移動」コマンド

Assist 連携で生成された移動者一覧ファイルをもとに，実際の管理データの更新やスケジュールデータの転送を自動で実行するコマンドです。詳細は，「5.2 ホームサーバ移動ツール「SFdatacp」について」を参照ください。

(b) 手動のスケジュールデータ移動

1. システム内のすべてのサーバで Scheduler Server と Facilities Manager を停止してください。(施設管理を使用していない場合は，Facilities Manager を停止する必要はありません。)
2. システム内のすべてのサーバにおいてスケジュールデータ・管理データのバックアップを取得します。(エラー発生時のリカバリに使用します)
3. システム内のすべてのサーバで管理ツールサーバ（AppoMan，RoomMan）を

起動してください。(施設管理を使用していない場合は，RoomMan を起動する必要はありません。)

4. 以下の操作により親サーバ上でユーザ情報の再作成を実行します。「コンフィギュレーション」－［手動実行］－［ユーザ情報再作成］
5. すべての子サーバで管理データの取得をしてください。(1台だけの運用の場合は不要です。)
6. 「BITECHG」コマンドを実行してください。(UNIX から UNIX への転送の場合は不要です。)
7. 移動するユーザのデータを移動後のサーバにバイナリモードで転送します。
8. 移動前のサーバ上で取得したバックアップデータからスケジュールデータをもとに戻します。(UNIX から UNIX への転送の場合は不要です。)
9. 移動前のサーバ上にある，移動したユーザディレクトリを削除してください。
10. すべてのサーバで移動対象ユーザについて「HOSTCHG」コマンドを実行してください。(HOSTCHG コマンドを実行せずに，grpchg コマンドを実行する方法もあります。詳細は，「付録 F スケジュールデータの移動」の HOSTCHG を実行しない場合の手順を参照してください。)
11. すべてのスケジュールデータの移動が完了したら，移動者一覧ファイルを削除してください。
    - 「indxget」コマンドについては，「7.2 「indxget」について」を参照してください。
    - 「HOSTCHG」コマンドについては，「7.3 「HOSTCHG」について」を参照してください。
    - 「BITECHG」コマンドについては，「7.4 「BITECHG」について」を参照してください。
    - 「grpchg」コマンドについては，「7.8 グループファイル変換ツール「grpchg」について」を参照してください。

(8) 「更新禁止解除」コマンド

Assist 連携機能使用時に問題が発生しクライアントからスケジュールの更新が出来ない状態になった場合，「コンフィギュレーション」からの手動実行ができない状態になった場合は，以下のコマンドを実行して回復します。

コマンド名

agtcout

引数

なし

コマンドパス

/usr/GroupAppo/bin/agtcout

リターンコード

0 ・・・正常終了

1 ・・・異常終了

- agtcout の実行結果のログは親サーバにあります。親サーバの＜スケジュール格

納ディレクトリ＞ /log/agent/ScheExec.log を参照してください。なお，過去のログは，親サーバの＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent/SFagent.log にあります。

- 「更新禁止解除」コマンドを実行する際は，ロック解除の対象となるすべての親サーバ，子サーバ上で管理ツールサーバが起動している必要があります。

(9) Assist 連携機能の再実行

Assist 連携機能使用時に Address Viewer などを利用した変更が Scheduler に反映されない場合があります。その場合は，何らかのエラーが発生している可能性がありますので，親サーバの＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent/ScheExec.log を参照してエラーを取り除いてから，以下のコマンドを実行して回復してください。このコマンドを利用すると Assist 連携機能が再実行されます。

コマンド名

SFagent

引数

- 第 1 引数
  /f logfile_name … ログファイル名（省略可）
  logfile_name を指定するとログメッセージの出力先を画面から指定したファイルに変更します。既に同じファイル名が存在する場合は上書きされます。

注意　SFagent.log は詳細ログの出力先として使用されるため，SFagent.log 以外のファイル名を指定してください。

コマンドパス

/usr/GroupAppo/bin/SFagent

リターンコード

0 ・・・正常終了
1 ・・・異常終了

- このコマンドは，エラーが発生して Address Server 上の変更が Scheduler に反映されない場合に，Assist 連携機能を再実行する目的で使用してください。通常は使用しないでください。
- SFagent の実行結果のログは親サーバにあります。親サーバの＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent/ScheExec.log を参照してください。なお，過去のログは，親サーバの＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent/SFagent.log にあります。

(10) Assist 連携の設定解除手順

Assist 連携を使用する設定をした後に，Assist 連携を使用しない設定に戻す場合には，以下の手順を実施してください。

設定解除手順

1. 親サーバの「コンフィギュレーション」の「16. Assist 連携」で「使用しない」に設定する。

2. 親サーバ上の Address Server を再起動します。

Address Server を再起動できない場合には，以下の手順を実施することで Assist 連携を使用しない設定に戻すことができます。

1. /usr/GroupAppo/bin/SFagent.ini を作成してください。既に存在している場合は，2 に進んでください。
2. 1 で作成したファイルに以下の行を追加してください。(通常このパラメタは設定しないでください。)

```
Exec = 0 <改行>
```

5.2 ホームサーバ移動ツール「SFdatacp」について

このコマンドは，マルチサーバ環境において，ユーザのホームサーバを移動するコマンドです。このコマンドを使用することにより，管理データ上のホームサーバの変更とスケジュールデータの転送を自動に実行することができます。ホームサーバを移動するユーザは移動者一覧ファイルで指定できます。Assist 連携を使用している場合は，Assist 連携で作成された移動者一覧ファイルをそのまま利用してください。Assist 連携を使用していない場合でも，移動者一覧ファイルを手動で作成することでこのコマンドを利用してホームサーバ移動を実現できます。

(1) 前提条件

- すべてのマシンに Scheduler Server Version 6 と Facilities Manager Version 6 をインストールしておく必要があります。(施設管理を使用していない場合は，Facilities Manager Version 6 をインストールする必要はありません。)
- すべてのサーバで，サーバ（SV，RMSV）を停止した状態で実行してください。(施設管理を使用していない場合，RMSV の停止は必要ありません)
- すべてのサーバで，あらかじめ管理ツールサーバ（AppoMan，RoomMan）を起動してください。(施設管理を使用していない場合は，RoomMan を起動しておく必要はありません。すべてのサーバで AppoMan は必ず起動しておいてください。)
- Scheduler_Facilities 管理ツールを使って事前に Scheduler のホームサーバ一覧を作成する必要があります。Assist 連携を使用している場合は，新たに作成する必要はありません。このホームサーバ一覧には，Scheduler Server，あるいは Facilities Manager を稼動する全マシンのホームサーバ名を登録する必要があります。作成方法については，「4.5 DNS ホスト名の登録」の「(2) Assist 連携用ホームサーバ一覧作成」を参照してください。
- SFdatacp 実行中は，不要スケジュール削除の手動実行はできません。また，不要スケジュール削除の自動実行は「使用しない」設定に変更しておいてください。
- ユーザのホームサーバ移動をする場合，すべてのクライアントにて，以下の設定をする必要があります。(WWW for Scheduler の場合は不要です)
  1. Scheduler Client を起動します。
  2. 「ツール」-「環境設定」を選択します。
  3. 「ユーザ情報の保存」を「サーバで保存」にします。

  この設定をしていないクライアントの場合，Assist 連携機能でユーザのホームサーバを変更すると，ローカルグループ内のユーザに対し，以下の操作ができません。
  1. スケジュール表示
  2. 予約
  3. 空時間検索
  4. 自分・上司のスケジュールにおいて，登録・削除・回答
- ホームサーバの移動後，クライアント起動時に自動的に表示されるスケジュールが，自分のまたは上司のスケジュールの場合，登録・削除・回答はできませ

ん。

(2) 使用条件

- Scheduler Server および Facilities Manager の親サーバがインストールされているマシン上で実行してください。
- Assist 連携を使用している場合，Assist 連携が正常に終了していることを確認してからこのコマンドを実行してください。もし，Assist 連携が正常に終了しないままこのコマンドを実行した場合，実行後のアプリケーションの動作は保証しません。
- このコマンドを実行中は，Assist Viewer，または Address Server 上での組織やユーザの変更作業をしないでください。
- 実行には多少時間がかかりますが，処理を中断しないでください。処理を中断した場合，実行後のアプリケーションの動作は保証しません。
- マルチサーバ環境では，ユーザが全く登録されていない Scheduler Server であっても，そのサーバに関しては，あらかじめ管理ツールで DNS ホスト名，ならびにホームサーバ一覧に登録しておく必要があります。
- 「コンフィギュレーション」の「6. ログファイル最大容量」で指定するログ容量は大きめに設定しておいてください
- このコマンドを実行すると以下のディレクトリが作成されます。ログやバックアップですので，コマンド実行が正常終了したことを確認できたら，随時削除するようにしてください。このディレクトリは実行するごとに増え続けますので，ご注意ください。
  ＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent/[処理 ID*]
  ＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /[処理 ID*]
  *：処理 ＩＤ は，１４桁の数字で，実行時間（「西暦＋年＋月＋時＋分＋秒」）を表しています。

(3) 設定事項

(a) 移動者一覧ファイル

ホームサーバを移動するユーザの一覧を作成します。

ファイル名

任意に指定可

フォーマット

ユーザ ＩＤ＜スペースまたはタブ＞移動後のホスト名＜スペースまたはタブ＞移動前のホスト名＜改行＞

移動者一覧ファイル作成時の注意事項

- 上記のフォーマットを１レコードとして，変更する人数分レコードを作成してください。
- 作成する場合は，スケジュールデータが存在しないユーザも必ずエントリに加えてください。
- Assist 連携を使用してユーザのホームサーバを変更した場合は，必ず SFdatacp でデータの移動をしてください。

- Assist 連携を使用してユーザのホームサーバを変更した場合は「5.1Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能」を参照して，移動者一覧リストの存在と内容の確認をしてください。
- Assist 連携を使用している場合は，SFdatacp で指定する移動者一覧ファイルは必ず Assist 連携機能で作成したものを使用してください。
  ＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /etc/MV.tbl
- 作成する場合は，ユーザ ＩＤ は 8 文字以内の英数字で記述してください。
- 作成する場合は，ホスト名は２５５文字以内の英数字で記述してください。
  (「4.5DNS ホスト名の登録」で登録済みのホスト名を記述してください。)

(b) ホームサーバー覧ファイル

Assist 連携を使用する場合，管理ツールを用いてホームサーバー覧を作成する必要があります。作成手順は，「4.5 DNS ホスト名の登録」の「(2) Assist 連携用ホームサーバー覧作成」を参照してください。その際の注意事項は，以下のとおりです。

1. 他システムと接続している場合は，他システムの G/W ホスト名を一覧に追加しないでください。
2. システムの構成が変更になった場合は，必ずこの一覧を再作成してください。
3. ユーザが全く登録されていないサーバも含め，システム内のすべてのサーバを登録してください。

(4) バックアップの取得

このコマンドを実行する前に必ずシステム内のすべてのサーバで以下のデータのバックアップを取得してください。エラー発生時のリカバリに使用します。

＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /etc

＜スケジュール格納ディレクトリ＞

(5) ユーザのホームサーバ変更方法

「(3) 設定事項」と「(4) バックアップの取得」の内容をすべて設定した後，ユーザのホームサーバ移動をするために以下のコマンドを実行してください。

コマンドの書式

SFdatacp

引数

- 第 1 引数
  /m filename … 移動者一覧ファイルのファイル名 (省略可)
  移動者一覧ファイルのファイル名をフルパスで指定してください。何も指定がない場合は，Assist 連携使用時に作成された以下のデフォルトの移動者一覧ファイルを参照します。
  ＜スケジュール格納でィレクトリ＞ /etc/MV.tbl
  したがって，Assist 連携使用時には，このオプションを指定する必要はありません。
- 第 2 引数
  /f logfile_name … ログファイル名 (省略可)
  logfile_name を指定するとログメッセージの出力先を画面から指定したファイ

ルに変更します。既に同じファイル名が存在する場合は上書きされます。

注意　SFdatacp.log は詳細ログの出力先として使用されるため，SFdatacp.log 以外のファイル名を指定してください。

コマンドパス

/usr/GroupAppo/bin/SFdatacp

リターンコード

0 ・・・正常終了

1 ・・・異常終了

(6) 確認事項

SFdatacp コマンド実行後は，以下のファイルの内容を参照して実行結果を確認してください。

(a) 詳細ログファイル

SFdatacp コマンドの詳細ログは以下のファイルに出力されます。格納先は，実行するたびに変更しますのでご注意ください。ログファイルに出力されたエラーメッセージの解説ついては，「付録 H Assist 連携時と「SFdatacp」実行時のエラーメッセージ」を参照してください。

＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent/［処理 ID*］ /SFdatacp.log

(b) ホームサーバ移動結果ファイル

SFdatacp コマンドを使ったホームサーバ移動の処理結果をユーザ単位で確認できるファイルです。

＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent/［処理 ID*］ /MVresult.tbl

*：処理 ＩＤ は，１４桁の数字で，実行時間（「西暦＋年＋月＋時＋分＋秒」）を表しています。

ホームサーバ移動結果ファイルのフォーマット

移動ユーザ ＩＤ ＜スペース＞ 移動後のホスト名 ＜スペース＞ 移動前のホスト名 ＜スペース＞ 処理結果 ＜スペース＞ 詳細エラー＜改行＞

ホームサーバ移動結果ファイルの例

USER001	HOSTA	HOSTB ○＜改行＞
USER002	HOSTB	HOSTA ○＜改行＞
	：	
	：	
USER009	HOSTA	HOSTC × 21＜改行＞

＜詳細エラー一覧＞

２０：移動後サーバとの通信エラーが発生しました

２１：移動前サーバとの通信エラーが発生しました

２２：移動後サーバでバイトオーダ変換に失敗しました

２３：移動前サーバのスケジュールデータの受信処理に失敗しました

２４：移動前サーバでスケジュールデータバックアップに失敗しました

３１：ホームサーバの更新処理に失敗しました
２５５：その他のエラー

(7) エラー発生時の対処

「(6) 確認事項」にしたがって詳細ログファイルに出力されているメッセージを確認し，エラーが発生している場合は，エラーの要因を除去した上で以下の手順にしたがって再実行してください。メッセージに応じて回復方法が異なる場合がありますので，「付録 H Assist 連携時と「SFdatacp」実行時のエラーメッセージ」を参照して正しく回復してください。基本的には，以下の方法で回復できます。

(a) すべて再実行する方法

1. すべてのサーバで以下のデータをバックアップからリカバリしてください。
   ＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /etc
   ＜スケジュール格納ディレクトリ＞
2. 親サーバの＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent/[処理 ID*]/MVorg.tbl を＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /etc/MV.tbl としてコピーしてください。
   *：処理 ＩＤ は，１４桁の数字で，実行時間（「西暦＋年＋月＋時＋分＋秒」）を表しています。
3. SFdatacp [/f logfile_name] を実行してください。

(b) エラーとなったユーザのみ再実行する方法

この方法は，親サーバで以下の１から３の条件が整っているときだけ実行できます。

条件

1. ホームサーバ移動結果ファイル（＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent/[処理 ID*]/MVresult.tbl）が作成されている。
   *：処理 ＩＤ は，１４桁の数字で，実行時間（「西暦＋年＋月＋時＋分＋秒」）を表しています。
2. 実行前に作成した移動者一覧ファイルが更新され，ホームサーバ移動結果ファイルで"×"がついたユーザのみがエントリされている状態になっている。
3. エラーとなったユーザの移動前サーバの＜スケジュール格納ディレクトリ＞以下にスケジュールデータ（ユーザ ＩＤ 名のディレクトリ）がある。スケジュールデータがない場合，取得しておいたバックアップからリカバリしてください。

手順

1. 親サーバで＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent/[処理 ID*]/MVresult.tbl を参照してエラーが発生したユーザを確認してください。エラーが発生したユーザには，"×"が付いています。詳細は，「(6) 確認事項」の「(b) ホームサーバ移動結果ファイル」を参照してください。MVresult.tbl が存在しない場合は，「付録 H Assist 連携時と「SFdatacp」実行時のエラーメッセージ」を参照して対処してください。
   *：処理 ＩＤ は，１４桁の数字で，実行時間（「西暦＋年＋月＋時＋分＋秒」）を表しています。

2. 使用した移動者一覧ファイルが更新されて，1でエラーが発生したユーザのみがエントリされていることを確認してください。
3. エラーが発生したユーザの移動前のサーバにスケジュールデータが残っていることを確認してください。残っていない場合，取得したバックアップから戻してください。
4. SFdatacp を再実行してください。

エラー発生時の注意事項

- エラーが発生した場合は，ログや「8.2 Assist 連携と「SFdatacp」のトラブルシューティング」を参照して，必ず解決するようにしてください。エラー状態のままサーバ（SV）を（Facilities Manager が同一サーバにインストールされている場合，RMSV）を起動しないでください。エラー状態のまま上記サーバを起動した場合，その後のアプリケーションの動作は保証しません。
- エラーメッセージの解説については，「付録 H Assist 連携時と「SFdatacp」実行時のエラーメッセージ」を参照してください。

6. 運用上の注意事項

この章では，運用上の注意事項について説明します。

6.1 運用開始時の注意事項
6.2 管理ツール使用時の注意事項
6.3 マルチサーバ構成時の注意事項
6.4 G/W 構成時の注意事項
6.5 Facilities Manager 使用時の注意事項
6.6 その他の注意事項

6.1 運用開始時の注意事項

運用開始時の注意事項を以下に示します。

1. このシステムを使用する前にすべてのサーバ，クライアントマシンのシステム日付を統一してください。

6.2 管理ツール使用時の注意事項

管理ツール使用時の注意事項を以下に示します。

1. 最上位の階層に登録されているユーザと施設は，WWW for Scheduler から参照できません。最上位の階層には登録しないようにしてください。
2. 組織名・ユーザ名・施設名などに，以下の文字は大文字・小文字ともに使用しないでください。
   COM1,COM2,COM3,COM4,COM5,COM6,COM7,COM8,COM9,LPT1,
   LPT2,LPT3,LPT4,LPT5,LPT6,LPT7,LPT8,LPT9,PRN,CON,NUL,AUX
3. 管理ツールを Windows NT Server 上で実行させる場合，「アイコンの登録内容の変更」画面で，「別メモリで実行」をチェックして二重にアプリケーションを動作させた場合，動作は保証しません。
4. 「G/W テーブル作成」ウィンドウのゲスト ＩＤ テーブルに登録されたユーザを「管理ツール」ウィンドウから削除しても，ゲスト ＩＤ テーブルには登録されたまま残ります。この場合，「G/W テーブル作成」ウィンドウから該当するゲスト ＩＤ を削除してください。
5. 管理ツールにおいて，施設管理者の登録で施設管理者を登録した後，対象施設を移動すると施設管理者の対象「選択，一部選択，非選択」が不正になることがあります。
6. 管理ツールで設定する各設定値の文字列に，絵記号等の ＯＳ 固有の文字を設定しないようにしてください。ＯＳ 固有の文字を設定すると，異なる ＯＳ 上でクライアントとして Ｗｅｂ ブラウザを使用している場合，正常に表示されない場合があります。
7. 管理ツールで設定する「行先・区分の設定」について，次の注意事項があります。したがって，「行先・区分の設定」については，運用後はできるだけ変更しないようにお願いします。
   - 管理ツールの「行先・区分の設定」ウィンドウで設定した区分名（「社内」や「他事業所」等）を，運用開始後に変更した場合，これまでに登録したスケジュールの区分名が変更されます。
   - 管理ツールの「行先・区分の設定」ウィンドウにて，項目内の文字列をすべて削除すると，その項目が削除され，次の項目が順次スライドされた設定となります。したがって，運用開始後に「行先・区分の設定」ウィンドウにて項目内の文字列をすべて削除する場合，次の点にご注意ください。
     （1）クライアントで表示される区分名が一斉にスライドした形で変更されます。これにより，スケジュールの内容と区分名が食い違います。
     （2）これまでクライアントで表示されていた区分名と色の対応がずれます。
   - 管理ツールの「行先・区分の設定」ウィンドウにて，項目内の文字列をすべて削除すると，その項目が削除されます。削除された区分名が登録されていたスケジュールは，管理ツールの「行先・区分の設定」ウィンドウにて設定されている最初の区分名となります。
   - 区分名は「１：」から順番に使用してください。中間に，スペースのみや何も設定しない項目を設定しないでください。
   - Scheduler Server の G/W を用いて他システムと接続している場合，管理

6. 運用上の注意事項

ツールで設定する「行先・区分の設定」を自システムと他システム間で同一の文字列に設定してください。同一の文字列に設定しない場合，他システムのスケジュール参照等で「区分」は正しく表示されません。また，他システムにいるユーザへのスケジュール予約では「区分」は正しく登録されません。同一の文字列に設定しない場合，他システムのスケジュール参照時に表示される「区分」は，自システムの同一の番号の「区分」となります。

6.3 マルチサーバ構成時の注意事項

マルチサーバ構成時の注意事項を以下に示します。

1. マルチサーバ構成のシステムを作成する場合，親サーバはシステム内で使用するバージョンの最新バージョンを使用してください。
2. マルチサーバ構成のシステムを作成する場合，すべてのサーバ間でホスト名を用いてTCP/IPで通信できるようにしてください。また，クライアントマシンからも，すべてのサーバに対してホスト名を用いてTCP/IPで通信できるようにしてください。
3. サーバ・クライアント間で設定するホスト名は同一にしてください。
4. マルチサーバ構成のシステムで，Scheduler ServerとFacilities Managerの両方を運用する場合，すべてのサーバマシンでScheduler ServerとFacilities Managerの両方をインストールし，両方とも起動しておく必要があります。
5. 同一システム内にGroupmax Scheduler Server Version2.0のサーバを混在させて運用する場合，リビジョン02-31以上のみ混在ができます。また，親サーバは必ずGroupmax Scheduler Server Version 6を使用してください。
6. 同一システム内にGroupAppomouseのサーバを混在させて運用する場合，リビジョン01-20以上のみ混在ができます。また，親サーバは必ずGroupmax Scheduler Server Version 6を使用してください。
7. 「コンフィギュレーション」の管理データ取得時刻を，同一の親サーバを持つ複数の子サーバで同一時刻にした場合，取得に失敗することがあります。子サーバが5台以上のシステム構成の場合は，各子サーバの設定時刻をずらしてください。
8. Address Serverとの連動時，Scheduler Serverの親サーバを子サーバに変更した場合は，該当マシンのAddress ServerとScheduler Serverを再起動してください。
9. すべてのサーバにおいて，同一ホストから同一IPアドレスが決定されるよう，hostsファイルまたはDNS等を設定してください。

6.4 G/W 構成時の注意事項

G/W 構成時の注意事項を以下に示します。

1. G/W 通信をする場合，自システムの G/W サーバマシンと接続先の他システムの G/W サーバマシンとが，ホスト名を用いて TCP/IP で通信できるようにしてください。
2. 自システム内および接続する他システムを含めた全サーバ中に Version1.0(GroupAppomouse), Version2.0 のサーバが存在する場合，親サーバおよび G/W サーバは必ず Version 3 以上にしてください。また，３３バイト以上のホスト名を登録しないでください。
3. マルチサーバ構成のシステムを構成する場合，G/W サーバは，親サーバと同様にシステム内で使用するバージョンの最新のバージョンを使用してください。
4. Scheduler Server の G/W を用いて他システムと接続している場合，次の現象が発生します。

   現象

   クライアントにてスケジュールを選択し，「削除」「保留」「非承認」「承認」「選択」を選んでも，選択したスケジュールに対して処理が実行されず，別のスケジュールに対して処理が実行される。

   原因

   以下の条件をすべて満たす場合に発生します。

   1）G/W を用いて他システムと接続している。

   2）自システムと他システムに同一のユーザ ID が存在する。

   3）上記２）のユーザ二人が，同一のユーザに対し，同一の日に予約する。

   4）予約を受信したユーザが上記３）のスケジュールに対して操作を行う。

   回避方法

   G/W を用いて，複数システムを接続している場合，同一のユーザ ID を割り当てないようにお願いします。

6.5 Facilities Manager 使用時の注意事項

Facilities Manager 使用時の注意事項を以下に示します。

1. 既に Facilities Manager を運用している状態から，新規に Scheduler Server の運用を開始する場合，ユーザ管理情報は，Scheduler Server と Facilities Manager とで共有されていますので，その情報がそのまま使用できます。
2. Scheduler Server と Facilities Manager を Address 連動で運用する場合，Address Server のユーザ情報を取得するのは，「aconsole」または「roomconsole」のどちらか一方で行ってください。両方でする必要はありません。
3. Scheduler Server 上でユーザを施設として擬似的に扱い，施設管理をしている状態から，新規に Facilities Manager の運用を開始する場合，次に述べる方法により，Scheduler Server で運用していた予約データを引き続き Facilities Manager から利用できます。
   - はじめに管理ツールを使用して，Scheduler Server に登録されている（擬似的に施設として扱っていた）ユーザの情報を削除します。
   - 次に管理ツールを使用して，同一 ＩＤ，同一名称で施設情報として再登録します。

   ただし，Scheduler Server からの予約発信控えが残りますが，予約の削除や取消しは実行できません。
4. マルチサーバ構成のシステムで，Scheduler Server と Facilities Manager の両方を運用する場合，すべてのサーバマシンで，Scheduler Server と Facilities Manager の両方をインストールし，両方とも起動しておく必要があります。
5. 登録する施設 ＩＤ として，以下の例に示すようなアルファベットの大文字と小文字のみが異なる施設 ＩＤ は登録しないでください。登録すると，それらの施設は正常にクライアントから使用できなります。実際には，管理ツールにてアルファベットの大文字と小文字が異なる施設を登録できるためご注意ください。

   （例）abc123
   ABC123
   Abc123

6.6 その他の注意事項

その他の注意事項を以下に示します。

1. サーバのポート番号（ikisaki,appoman,appoarea,roomman の番号）を変更した場合，サーバおよび管理ツールサーバの SV，AppoMan，RMSV，RoomMan を再起動してください。
2. ２０３８年までスケジュール登録ができます。２０３９年以降の動作は保証しません。
3. Scheduler Server，Facilities Manager Version 6 と同一マシンに，Groupmax の他のアプリケーションをインストールして連動する場合には，Groupmax の他のアプリケーションは，Version 6 以降をインストールしてください。
4. Groupmax 統合運転席機能を使用して Groupmax サーバを運用管理している場合，Scheduler Server，Facilities Manager のインストールやバージョンアップは，該当するサーバマシン上の Groupmax System Agent - TCP/IP を停止した後に行ってください。
5. 不要スケジュールの削除時において，ユーザが一人も登録されていない場合，削除処理は実行されません。これは，システムが異常時において，誤ってユーザが一人もいないと判断し，全ユーザのスケジュールを削除するのを防止するためです。全ユーザのスケジュール削除を目的とする場合，エクスプローラなどを使用して，スケジュール格納ディレクトリ下のディレクトリを手動で削除してください。
6. 以下のディレクトリの下にはファイルを作成しないでください。
   ＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /etc
   ＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log
   ＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /room
   また，＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log ディレクトリは削除しないでください。削除すると，サーバは正常に動作しなくなります。もし，削除してしまった場合は，以下のディレクトリを作成してください。
   ＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log
   ＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/tmp
   ＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent
7. クライアントの受信一覧画面において，「予約者」の表示方法について，次の選択ができます。
   設定 1
   スケジュールの予約後，予約者の日本語名が変更された場合，一覧に表示する「予約者」に，変更後の日本語名を表示する。
   設定 2
   スケジュールの予約後，予約者の日本語名が変更された場合，一覧に表示する「予約者」に，予約当時の日本語名を表示する。
   設定 1 の場合，表示するスケジュール数が多いと表示するまでの時間が長くなります。デフォルトは設定 2 です。設定を変更する場合は，/usr/GroupAppo/bin/AppoSV.ini ファイル（存在しない場合は作成してください）に以下の記述を追加し，Scheduler Server，Facilities Manager を再起動してください。(行

末には改行コードを入力する必要があります。)
設定 1 の場合
[Rename]
List=ON
設定 2 の場合
[Rename]
List=OFF
ただし,
設定 2 の場合でも「予約発信詳細」画面では , 変更後の日本語名を表示します。

7. コマンドの説明

この章ではAddress Serverからのユーザ情報の作成およびデータ移行時に使用するコマンドについて説明します。

7.1 「GetAdAll」について
7.2 「indxget」について
7.3 「HOSTCHG」について
7.4 「BITECHG」について
7.5 「CODECHG」について
7.6 整合性チェックツール「chkorder」と「sortdate」について
7.7 ユーザ情報の整合性チェックツール「checkid」について
7.8 グループファイル変換ツール「grpchg」について

7.1 「GetAdAll」について

ユーザ情報の再作成をする場合，「GetAdAll」コマンドを実行してください。(この実行は「コンフィギュレーション」の［手動実行］の［ユーザ情報再作成］ボタンと同様の処理を行います。直接このコマンドを実行するのではなく，「コンフィギュレーション」からの実行をお勧めします。)

コマンドの書式

```
/usr/GroupAppo/bin/GetAdAll  [/g]   [/s | /sj]  [/o]
```

引数

- 登録の引数
  /g … デフォルト組織「GMAXSYS」以下の登録
  引数 /g をつけると，Address Server のデフォルト組織である「GMAXSYS」以下を，Scheduler Server および Facilities Manager の組織として登録します。
  /g を省略した場合は，デフォルト組織「GMAXSYS」以下を登録しません。
- ソートの引数
  /s … 役職順ソート
  引数 /s をつけると，ユーザの並び順を Address Server で設定した役職，および役職順位にしたがってソートします。
  /sj … 日本語名順ソート
  引数 /sj をつけると，ユーザの並び順を Address Server で設定した日本語名順にしたがってソートします。
- 組織名表示の引数
  /o … 組織名として組織略称を使用する
  引数 /o をつけると，組織名として Address Server で設定した組織略称を表示します。Scheduler クライアントにおいて，以下で示す組織名を組織略称で表示します。
  - 詳細スケジュール画面
  - 予約受信詳細画面
  - 予約メンバ回答状況画面面
  - ユーザ検索結果一覧画面

  組織略称を使用した運用を開始する場合，運用を開始する前に，一度，この引数を指定して GetAdAll コマンドを実行してください。また，運用後に，GetAdAll コマンドを使用する場合，この引数を指定してください。
  引数 /o を指定した場合でも，Scheduler クライアントにおけるツリービューの組織は Address Server で設定した組織名になります。
  また，組織略称を使用した運用を中止する場合は，一度，GetAdAll コマンドに /o 引数を指定しないで実行してください。運用後に，indxget コマンドを使用する場合，この引数を指定しないでください。

リターンコード

0 ・・・正常終了
1 ・・・異常終了

注意

- 組織の並び順は，組織 ＩＤ 順になります。
- ソートの引数は１種類だけ指定できます。複数同時に指定した場合は，エラーとなります。
- ソートの引数を指定しない場合，ユーザ，組織ともに ＩＤ 順になります。
- Address Server をインストールした後に Scheduler Server または Facilities Manager をインストールしているか確認してください。（インストールに関する注意の詳細は「4.1 Address Server との連動について」－「4.1.2 注意事項」－「(1) インストール時の注意」を参照してください。）
- Address Server と Scheduler Server および Facilities Manager の親サーバがインストールされているマシン上で実行してください。
- Address Server が起動している状態で実行してください。
- サーバ（SV，RMSV）および，管理ツールサーバ（AppoMan，RoomMan）を停止した状態で実行してください。
- 「GetAdAll」コマンド実行中に，一括登録や運転席からの追加・削除・変更等 Address Server のアドレス帳情報を変更する処理を行わないでください。
- Address Server 上で組織やユーザの情報を登録しているか確認してください。
- G/W の設定をしているマシンで，G/W の設定を外してユーザ情報を登録したい場合，＜スケジュール格納ディレクトリ＞/etc ディレクトリの以下のファイルを削除した後，実行してください。
  GATEWAY.idx
  guest.idx
  ＊.gst （＊は，任意の名前）
- Address Server の「兼任ユーザ」は，兼任指定された組織に登録されます。「兼任ユーザ」については，「4.1.7 兼任ユーザについて」を参照してください。
- Address Server の「宛先ユーザ」・「アドレス帳ユーザ」は，Scheduler Server および Facilities Manager のユーザとして登録されません。
- Address Server でセキュリティランクが設定されていない場合，デフォルトのセキュリティランクとして「A」を設定します。
- Address Server でユーザ，組織の日本語名称が半角２１文字以上で登録されている場合，先頭から半角２０文字までの名称で Scheduler Server に登録されます。２０文字目が全角文字の場合には，１９文字目までの名称が登録されます。（Facilities Manager も同様です。）
- 「GetAdAll」コマンドを実行すると，Scheduler Server に既に登録されているユーザ情報（＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /etc ディレクトリの内容）は，＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/etc_bk ディレクトリに退避されます。
- 役職順ソート，または日本語名順ソートを実行すると，Scheduler Server および Facilities Manager に既に登録されているユーザ情報（＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /etc ディレクトリの内容）は，＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/etc_bks ディレクトリに退避されます。
- 多少時間がかかりますが，処理を中断しないでください。処理を中断した場合，

その後のアプリケーションの動作は保証しません。

- 二重起動をした場合，結果が不正となる場合があります。
- 「コンフィギュレーション」の「15.Address 情報取得オプションの設定」の GMAXSYS ユーザ反映を「反映しない」に設定してユーザ情報再作成した場合，または「GetAdAll」コマンドで引数 /g なしで実行した場合，変更通知情報取得を，「15.Address 情報取得オプションの設定」の GMAXSYS ユーザ反映を「反映する」に設定して実行しないでください。また，「indxget」コマンド実行時に，引数 /g をつけて実行しないでください。

エラー発生時の対処

- 処理に失敗した場合，処理を中断します。メッセージを確認し，エラーの要因を除去し，＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/etc_bk ディレクトリの内容をすべて etc ディレクトリにコピーした上で，再実行してください。
- エラーメッセージについては，「付録 M 「GetAdAll」と「indxget」の実行時におけるエラーメッセージ」を参照してください。

実行例

```
#/usr/GroupAppo/bin/GetAdAll
[Groupmax Address Server ユーザ情報の一括取得開始 ]
インストール情報の取得・・・Ok!
データファイルのバックアップ・・・Ok!
組織（A 社：Asya）を処理中・・・UU
組織（開発部：kaihatu）を処理中・・・
組織（開発 1 G：kaihatu1）を処理中・・・UUUNUUUUU
組織（開発 2 G：kaihatu2）を処理中・・・UUUUUDUKU
組織（開発 3 G：kaihatu3）を処理中・・・UUUAUUU
Gateway の設定（MAIN.idx）を処理中・・・S
Gateway の設定（IDINDX.idx）を処理中・・・GGGGG
差分情報ファイルの削除・・・Ok!
正常終了
```

上記の実行例の中の記号は，次のとおりです。

「U」：通常のユーザ（アドレスユーザ）の登録

「K」：兼任ユーザの登録

「A」：宛先ユーザ（Scheduler Server のユーザとしては登録されない。）

「D」：アドレス帳ユーザ（Scheduler Server のユーザとしては登録されない。）

「N」：Scheduler Server のホームサーバが設定されていないユーザ（Scheduler Server のユーザとしては登録されない。）

「S」：他システムの設定

「G」：他システムからの G/W ユーザの設定

7.2 「indxget」について

Address Serverの変更通知情報を取得する場合（「コンフィギュレーション」の［手動実行］の［4.ユーザ情報の再作成］，または「GetAdAll」コマンドを実行後に，ユーザ情報の変更をAddress Serverから取得する場合），「indxget」コマンドを実行してください。（この実行は「コンフィギュレーション」の［手動実行］の［変更通知情報取得］ボタンと同様の処理を行います。直接このコマンドを実行するのではなく，「コンフィギュレーション」からの実行をお勧めします。）

コマンドの書式

```
/usr/GroupAppo/bin/indxget  [/g]  [ /s[n] | /sj[n] | /si[n] ]
[/o]
```

引数

- 登録の引数
  /g … デフォルト組織「GMAXSYS」以下の登録
  引数/gをつけると，Address Serverのデフォルト組織である「GMAXSYS」以下を，Scheduler ServerおよびFacilities Managerの組織として登録します。「GetAdAll」コマンドを引数/gで実行した場合だけ指定してください。
  /gを省略した場合は，デフォルト組織「GMAXSYS」以下を登録しません。
- ソートの引数
  /s[n]… 役職順ソート
  引数/sをつけると，ユーザの並び順をAddress Serverで設定した役職および役職順位にしたがってソートし，組織を組織ＩＤ順にソートします。/snとすると，組織の並び順はAddress Serverで追加した順になります。詳細は「4.1.5 ユーザソートについて」を参照してください。
  /sj[n]… 日本語名順ソート
  引数/sjをつけると，ユーザの並び順をAddress Serverで設定した日本語名にしたがってソートし，組織を組織ＩＤ順にソートします。/sjnとすると，組織の並び順はAddress Serverで追加した順に追加されます。詳細は「4.1.5 ユーザソートについて」を参照してください。
  /si[n]… ＩＤ順ソート
  引数/siをつけると，ユーザおよび組織の並び順をAddress Serverで設定したＩＤ順にしたがってソートします。/sinとすると，組織の並び順はAddress Serverで追加した順になります。詳細は「4.1.5 ユーザソートについて」を参照してください。
- 組織名表示の引数
  /o … 組織名として組織略称を使用する
  引数/oをつけると，組織名としてAddress Serverで設定した組織略称を表示します。Schedulerクライアントにおいて，以下で示す組織名を組織略称で表示します。
  - 詳細スケジュール画面
  - 予約受信詳細画面

- 予約メンバ回答状況画面
- ユーザ検索結果一覧画面

組織略称を使用した運用を開始する場合，運用を開始する前に，一度，GetAdAll コマンドに /o 引数を指定して実行してください。運用後に，indxget コマンドを使用する場合，この引数を指定してください。
引数 /o を指定した場合でも，Scheduler クライアントにおけるツリービューの組織は Address Server で設定した組織名になります。
また，組織略称を使用した運用を中止する場合は，一度，GetAdAll コマンドに /o 引数を指定しないで実行してください。運用後に，indxget コマンドを使用する場合，この引数を指定しないでください。

リターンコード

0 ・・・正常終了
1 ・・・異常終了

注意

- Address Server からの変更通知情報は，Address Server にユーザを登録・変更してから 1 時間（デフォルト）後か，Address Server の再起動により出力されます。（変更通知情報の出力間隔は Address Server にて指定できます。）その後，「indxget」コマンドを実行してください。
- ソートの引数は 1 種類だけ指定できます。複数同時に指定した場合は，エラーとなります。
- ソートの引数を指定しない場合，ユーザ，組織ともに Address Server で追加した順になります。
- Address Server と Scheduler Server および Facilities Manager の親サーバがインストールされているマシン上で実行してください。
- Address Server が起動している状態で実行してください。
- サーバ（SV）および管理ツールサーバ（AppoMan）を停止した状態で実行してください。（Facilities Manager が同一サーバにインストールされている場合，サーバ（RMSV）および管理ルールサーバ（RoomMan）も停止してください。）
- Scheduler を運用中に実行するのであれば，クライアントからのアクセスが少ない時間帯に実行してください。運用中に実行する場合，クライアントからのアクセス（スケジュール参照，ログインなど）が失敗することがあります。
- 「indxget」コマンド実行中に，一括登録や運転席からの追加・削除・変更等 Address Server のアドレス帳情報を変更する処理を行わないでください。
- Address Server の「兼任ユーザ」は，兼任指定された組織に追加・変更・削除されます。「兼任ユーザ」については，「4.1.7 兼任ユーザについて」を参照してください。
- Address Server の「宛先ユーザ」・「アドレス帳ユーザ」は，Scheduler Server のユーザとして追加・変更・削除されません。
- Address Server でセキュリティランクが設定されていない場合，デフォルトのセキュリティランクとして「A」を設定します。
- Address Server でユーザ，組織の日本語名称が，半角２１文字以上で登録され

ている場合，先頭から半角２０文字までの名称で Scheduler Server および Facilities Manager に登録されます。２０文字目が全角文字の場合には，１９文字目までの名称が登録されます。

- 「indxget」コマンドを実行すると，Scheduler Server および Facilities Manager に既に登録されているユーザ情報（＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /etc ディレクトリの内容）は，＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/etc_bk ディレクトリに退避されます。
- ソート処理を実行すると，Scheduler Server および Facilities Manager に既に登録されているユーザ情報（＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /etc ディレクトリの内容）は，＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/etc_bks ディレクトリに退避されます。
- 「コンフィギュレーション」の「13. 変更通知情報取得の自動実行の設定」，または［手動実行］の［3. 変更通知情報取得］を「使用する」，または「indxget」コマンドを実行した場合，ホームサーバ変更の場合は，データの移動を手作業でする必要があります。
- 多少時間がかかりますが，処理を中断しないでください。処理を中断した場合，その後のアプリケーションの動作は保証しません。
- 二重起動をした場合，結果が不正となる場合があります。
- 「コンフィギュレーション」の「15.Address 情報取得オプション」の GMAXSYS ユーザ反映を「反映しない」に設定してユーザ情報再作成した場合，または「GetAdAll」コマンドで引数 /g なしで実行した場合，変更通知情報取得を，「15.Address 情報取得オプションの設定」の GMAXSYS ユーザ反映を「反映する」に設定して実行しないでください。また，「indxget」コマンド実行時に，引数 /g をつけて実行しないでください。

エラー発生時の対処

- 処理に失敗した場合，etc ディレクトリ下の管理データをコマンド実行前の状態に戻します。メッセージを確認し，エラーの要因を除去した上で，再実行してください。
- エラーメッセージについては，「付録 M 「GetAdAll」と「indxget」の実行時におけるエラーメッセージ」を参照してください。

実行例 1

```
#/usr/GroupAppo/bin/indxget
[Groupmax Address Server ユーザ情報の差分取得開始 ]
インストール情報の取得・・・Ok!
データファイルのバックアップ・・・Ok!
差分ファイルの取得・・・Ok!
差分ファイル (00000000) の処理・・・Ok!
差分ファイル (00000003) の処理・・・Ok!
差分ファイル (00000007) の処理・・・Ok!
正常終了
```

実行例 2

```
#/usr/GroupAppo/bin/indxget /s
[Groupmax Address Server ユーザ情報の差分取得開始 ]
インストール情報の取得・・・Ok!
変更差分ファイルはありません

[ 役職順ソート処理開始 ]
 組織 ID [ Asya ]・・・ Ok!
 組織 ID [ kaihatu ]・・・ Ok!
 組織 ID [ kaihatu1 ]・・・ Ok!
 組織 ID [ kaihatu2 ]・・・ Ok!
 組織 ID [ kaihatu3 ]・・・ Ok!
組織 ID [ MAIN.idx ]・・・ Ok!
[ 役職順ソート処理終了 ]

正常終了
```

7.3 「HOSTCHG」について

このコマンドは，スケジュールデータおよびユーザ（施設）管理情報中に含まれているホスト名を変換するコマンドです。

(1) ホスト名変換ファイルの作成方法

このコマンドを用いて変換作業をする前に，ホスト名変換ファイルを作成してください。

ファイル名

任意に指定可

フォーマット

変換したいユーザ（施設）ＩＤ<スペースまたはタブ>移動後のホスト名<改行>

ホスト名変換ファイル作成時の注意事項

- 上記のフォーマットを１レコードとして，変換対象人数分レコードを作成してください。
- ユーザ（施設）ＩＤは８文字以内の英数字で記述してください。
- ホスト名は２５５文字以内の英数字で記述してください。（「4.5 DNS ホスト名の登録」で登録済みのホスト名を記述してください。）
- 指定したフォーマット通りにホスト名変換ファイルを作成しなかった場合，変換後にアプリケーションが正常に動作しなくなる場合があります。

(2) 変換コマンドの実行

コマンドの書式

```
/usr/GroupAppo/bin/HOSTCHG  filename  SchedulePath  [logname]
```

引数

- 第１引数
  filename・・・ホスト名変換ファイルのファイル名
  ホスト名変換ファイルのファイル名をフルパスで指定してください。
- 第２引数
  SchedulePath・・・スケジュール格納ディレクトリ
  スケジュール格納ディレクトリをフルパスで指定してください。
  デフォルトでは /usr/iki となります。
  「コンフィギュレーション」の設定でスケジュール格納ディレクトリのパスを変更している場合，変更したパスを指定してください。
- 第３引数
  logname・・・ログファイル名（省略可）
  logname を指定すると経過メッセージの出力先を画面から指定したファイルに変更します。既に同じファイル名が存在する場合は上書きされます。

注意　hostchg.log は実行結果の出力先として使用されるため，hostchg.log 以外のファイル名を指定してください。

リターンコード

0 ・・・正常終了
1 ・・・異常終了

注意

- 第1引数の「ホスト名変換ファイルのファイル名」には(1)で作成したファイル名をフルパスで指定してください。
- 「コンフィギュレーション」の「13. 変更通知情報取得の自動実行の設定」，または［手動実行］の［変更通知情報取得」を「使用する」，または「indxget」コマンドを実行した場合，ホームサーバ変更の場合は，データの移動を手作業でする必要があります。
- 変換には多少時間がかかりますが，処理を中断しないでください。処理を中断した場合，変換後のアプリケーションの動作は保証しません。
- ホスト名の変換以外の用途に使用しないでください。使用した場合，アプリケーションの動作は保証しません。
- 実行結果についてはプログラムを実行したディレクトリ上にある hostchg.log を参照してください。
- 各クライアントにてユーザが作成した以下のファイルも，このコマンドの変換対象にする必要があります。
  - ローカルグループ
  - 環境設定グループ

  変換対象としない場合，クライアント上でローカルグループ内のユーザ，およびクライアント起動時に自動的に表示されるスケジュールに対し，以下の操作を行えません。
  1. スケジュール表示
  2. 予約
  3. 空時間検索
  4. 自分・上司のスケジュールにおいて，登録・削除・回答

  このコマンドの変換対象にするには，以下の操作をすべてのクライアントにて実施し，その後，「HOSTCHG」コマンドを実行する必要があります。(すでに設定されている場合は必要ありません。また，WWW for Scheduler ではこの作業は不要です。)
  1. Scheduler Client を起動します。
  2. 「ツール」-「環境設定」を選択します。
  3. 「ユーザ情報の保存」を「サーバで保存」にします。

  上記の操作をしないで HOSTCHG コマンドを実行した場合，HOSTCHG コマンド実行後に下記の操作を対象クライアントで実行してください。
  1. クライアントを起動します（起動時にエラーダイアログが出ることがありますが，そのまま起動してください)。
  2. ローカルグループ内で，ホームサーバを移動したユーザを登録から削除し，再度，ローカルグループに登録します。すべてのユーザがホームサーバを移動している場合は，作成済みのローカルグループを一度削除し，再度，作成します（ローカルグループ作成していないクライアントの場合は不要

です)。
3. 「ツール」-「環境設定」を選択し,「次回起動時の設定」を「初期設定から起動」に変更します(すでになっている場合は不要です)。
4. クライアントを再起動します。
5. 「次回起動時の設定」を「初期設定から起動」以外を設定していた場合は,元の設定に戻します。

- 変換が終了すると次のメッセージを標準出力に出します。
「Groupmax Scheduler Server のホスト名変換が終了しました。実行ディレクトリの下の(hostchg.log)を確認してください。」
- 第4引数に,ログファイル名を指定している場合,ログに次のメッセージを出力します。
「Groupmax Scheduler Server のホスト名の変換が終了しました。」
- 実行すると,標準出力または指定ログファイルに,データの変換を示す「~の変換中・・・(○○・・・)」のメッセージを出力していることを確認してください。
<例>
/usr/iki/usera/20005.msd 変換中・・・○○○
/usr/iki/usera/20006.msd 変換中・・・○○○

7.4 「BITECHG」について

このコマンドは，スケジュールデータのバイトオーダを変換するコマンドです。スケジュールデータを Windows NT のサーバから UNIX のサーバへ（またはその逆）移動する場合に使用します。

コマンドの書式

```
/usr/GroupAppo/bin/BITECHG  SchedulePath  [logname]
```

引数

- 第1引数
  SchedulePath・・・スケジュール格納ディレクトリ
  スケジュール格納ディレクトリをフルパスで指定してください。
  デフォルトでは /usr/iki となります。
  「コンフィギュレーション」の設定でスケジュール格納ディレクトリのパスを変更している場合，変更したパスを指定してください。
- 第2引数
  logname・・・ログファイル名（省略可）
  logname を指定すると経過メッセージの出力先を画面から指定したファイルに変更します。既に同じファイル名が存在する場合は上書きされます。

注意　bitechg.log は実行結果の出力先として使用されるため，bitechg.log 以外のファイル名を指定してください。

リターンコード

0 ・・・正常終了
1 ・・・異常終了

注意

- 変換には多少時間がかかりますが，処理を中断しないでください。処理を中断した場合，変換後のアプリケーションの動作は保証しません。
- バイトオーダの変換以外の用途に使用しないでください。使用した場合，アプリケーションの動作は保証しません。
- 実行結果についてはプログラムを実行したディレクトリ上にある bitechg.log を参照してください。

7.5 「CODECHG」について

このコマンドは，ユーザ（施設）ＩＤを変換するコマンドです。

(1) ユーザ（施設）ＩＤ変換ファイルの作成方法

ファイル名

任意に指定可

フォーマット

変換前のユーザ（施設）ＩＤ< スペースまたはタブ > 変換後のユーザＩＤ< 改行 >

ユーザ（施設）ＩＤ変換ファイル作成時の注意事項

- 上記のフォーマットを１レコードとして，変換対象人数分レコードを作成してください。
- ユーザ（施設）ＩＤは１０文字以内の英数字で記述してください。
- 指定したフォーマット通りにユーザ（施設）ＩＤ変換ファイルを作成しなかった場合，変換後にアプリケーションが正常に動作しなくなる場合があります。
- Address Server と連携している場合は使用しないでください。

(2) ユーザ（施設）管理情報ファイルの変換

このコマンドは，ユーザ（施設）ＩＤ変換ファイルの内容に従い，サーバマシンのスケジュール格納ディレクトリに登録されているユーザ（施設）管理情報ファイルの変換，また同時にスケジュール格納ディレクトリに登録されているスケジュールデータを変更する機能を提供します。この作業は，サーバマシンで行ってください。

コマンドの書式

```
/usr/GroupAppo/bin/CODECHG  filename  SchedulePath  [logname]
```

引数

- 第１引数
  filename・・・ユーザ（施設）ＩＤ変換ファイルのファイル名
  ユーザ（施設）ＩＤ変換ファイルのファイル名をフルパスで指定してください。
- 第２引数
  SchedulePath・・・スケジュール格納ディレクトリ
  スケジュール格納ディレクトリをフルパスで指定してください。
  デフォルトでは /usr/iki となります。
  「コンフィギュレーション」の設定でスケジュール格納ディレクトリのパスを変更している場合，変更したパスを指定してください。
- 第３引数
  logname・・・ログファイル名（省略可）
  logname を指定すると経過メッセージの出力先を画面から指定したファイルに変更します。既に同じファイル名が存在する場合は上書きされます。

注意　codechg.log は実行結果の出力先として使用されるため，codechg.log 以外のファイル名を指定してください。

リターンコード

0 ・・・正常終了
1 ・・・異常終了

注意

- 第1引数の「ユーザ（施設）ＩＤ変換ファイルのファイル名」には（1）で作成したファイル名をフルパスで指定してください。
- 変換には多少時間がかかりますが，処理を中断しないでください。処理を中断した場合，変換後のアプリケーションの動作は保証しません。
- ユーザ管理情報ファイルの変換以外の用途に使用しないでください。使用した場合，アプリケーションの動作は保証しません。
- 実行結果についてはプログラムを実行したディレクトリ上にある codechg.log を参照してください。
- ユーザ（施設）ＩＤ変換チェックツール「CODECHG」の変換テーブルの作成時，以下のようなフォーマットで変換テーブルを作成しないでください。環境データが不正になる恐れがあります。

  ＜例＞

  ユーザ（施設）ＩＤが変換前と変換後の両方に指定されているフォーマット

  AAAAA BBBBB
  BBBBB CCCCC

  ＜例＞

  変換前および変換後において同一のユーザ（施設）ＩＤが複数回指定されているフォーマット

  BBBBB CCCCC
  BBBBB DDDDD

7.6 整合性チェックツール「chkorder」と「sortdate」について

chkorderはスケジュールデータの日付の整合性をチェック・回復するコマンドです。sortdateは指定したファイルを回復するコマンドです。

(1) chkorder

コマンドの書式

```
/usr/GroupAppo/bin/chkorder [-{rsd|smn|msd|ssd|nsd}] [-v] [-r]
[-f logfile_name] directory_name
```

機能

directory_nameで指定したディレクトリ（デフォルトは/usr/iki）下のファイルを検索し，拡張子がrsd，smn，msd，ssd，nsdであるファイルの正当性をチェックします。拡張子とファイル内容の対応を以下に示します。

rsd ：予約受信ファイル
smn ：発信番号控えファイル
msd ：予約発信メンバ控えファイル
ssd ：予約発信控えファイル
nsd ：自登録ファイル

正当性のチェックは，各ファイルのレコードを先頭から順次読み込み，すべてのレコードが日付の昇順に並んでいるかを調べることにより行います。チェックによりファイルの中身にエラーがある場合，標準出力にファイル名を出力します。

引数

- 第1引数

  -{rsd|smn|msd|ssd|nsd} ・・・チェック対象ファイルの指定
  -rsd ・・・チェック対象を拡張子がrsdのファイルだけに限定します。
  -smn・・・チェック対象を拡張子がsmnのファイルだけに限定します。
  -msd・・・チェック対象を拡張子がmsdのファイルだけに限定します。
  -ssd ・・・チェック対象を拡張子がssdのファイルだけに限定します。
  -nsd ・・・チェック対象を拡張子がnsdのファイルだけに限定します。

  -rsd, -smn, -msd, -ssd, -nsd引数を複数指定することにより，チェック対象を複数指定することができます。また，引数を一切指定しない場合，すべてのファイルをチェック対象にします。

  例1) chkorder -rsd -ssd /usr/iki
  ディレクトリ/usr/iki下の*.rsd,*.ssdファイルだけチェックします。
  例2) chkorder -rsd -smn -msd -ssd -nsd /usr/iki
  例3) chkorder /usr/iki
  例2と例3の動作は同一となります。

- 第2引数

  -v ・・・ファイルの全レコード内容出力
  標準出力にチェックを行ったファイルの全レコード内容をします。第1引数で

指定したチェック対象により，出力内容は次のようになります。

- 予約受信ファイル（拡張子がrsd）の場合
  通番，予約日付，予約開始時間，ユーザＩＤ，予約データ番号，予約した日
- 発信番号控えファイル（拡張子がsmn）の場合
  通番，日付，MaxNo
- 予約発信メンバ控えファイル（拡張子がmsd）の場合
  通番，予約データ番号，予約開始日，予約したユーザＩＤ，ユーザ日本語名，回答した日時
- 予約発信控えファイル（拡張子がssd）の場合
  通番，予約データ番号，予約開始日時，予約した日時
- 自登録ファイル(拡張子がnsd)の場合
  通番，予約日付，予約開始時間，予約データ番号

- 第3引数
  -r・・・自動回復の指定
  チェックによりファイルの中身にエラーがある場合，正常なファイルに自動的に回復します。
- 第4引数
  -f logfile_name・・・出力ファイルの指定
  標準出力以外に，logfile_nameにも出力します。logfile_nameで指定したファイルが既に存在する場合はファイルを上書きします。
- 第5引数
  directory_name・・・チェック対象ディレクトリ
  チェック対象のファイルは，directory_nameで指定したディレクトリ下のすべてのファイルと，直下のサブディレクトリの下のすべてのファイルです。(サブディレクトリは再帰的に検索されません。)

(2) sortdate

コマンドの書式

```
/usr/GroupAppo/bin/sortdate  inputfile  outputfile
```

機能

inputfileに指定したファイル中のレコードを日付順にソートし，ソート結果をoutputfileに出力します。outputfileで指定したファイルが既に存在する場合はファイルを上書きします。inputfileには以下の拡張子を持つファイルを指定します。

rsd：予約受信ファイル
smn：発信番号控えファイル
msd：予約発信メンバ控えファイル
ssd：予約発信控えファイル
nsd：自登録ファイル

inputfileの拡張子名からファイル種別を識別するため，inputfileの拡張子は省略して記述することはできません。拡張子が上記のどれにも当てはまらない場合は，処理は行われません。

例） /usr/GroupAppo/bin/sortdate 199905.rsd workfile

199905.rsd ファイルを予約受信ファイルとして，日付の昇順にソートし，ソート結果を workfile というファイル名として出力します。

7.7 ユーザ情報の整合性チェックツール「checkid」について

checkid はユーザ ＩＤ の整合性をチェックするコマンドです。不整合がある場合は出力メッセージを表示します。

コマンドの書式

```
/usr/GroupAppo/bin/checkid
```

リターンコード

0 ・・・正常終了
1 ・・・異常終了

出力メッセージ

下記のメッセージが表示されます。なお，メッセージの先頭には，[Error! :] という文字列がつきます。下記の「ssss」～「zzzz」は任意の名前です。

- 「UserID(xxxx) GroupID[yyyy] Different [zzzz](IDINDX.idx)」
  組織ファイル「yyyy」のユーザ ＩＤ「xxxx」が IDINDX.idx と相違している。(IDINDX.idx には組織ファイル「zzzz」と記述されている。)
- 「UserID(xxxx) GroupID[yyyy] Not Exist(zzzz)」
  組織ファイル「yyyy」のユーザ ＩＤ「xxxx」がファイル「zzzz」に存在しません。
- 「UserID(xxxx) GroupID[yyyy] Not Exist」
  ユーザ ＩＤ「xxxx」が組織ファイル「yyyy」に存在しません。
- 「ファイルをオープンできません（xxxx)」
  ファイル「xxxx」が存在しません。
- 「ファイルを読めません（xxxx)」
  ファイル「xxxx」が読めません。
- 「組織ファイル（xxxx）の yyyy レコード目が不正です」
  組織ファイル「xxxx」の「yyyy」レコード目のデータが不正です。
- 「UserID(xxxx) GroupID[yyyy] と UserID(ssss) GroupID[tttt] は同じユーザ ID です。」
  IDINDX.idx に同一のユーザ「xxxx」「ssss」が存在します。組織ファイル名は「yyyy」と「tttt」です。

実行例

整合性に問題がない場合の実行例を下に示します。

```
#/usr/GroupAppo/bin/checkid
[Groupmax Scheduler Server ユーザ情報の check 処理開始 ]
< 組織ファイルからのチェック >

<IDINDX.idx からのチェック >

エラーの数・・・ 0
正常終了
```

7.8 グループファイル変換ツール「grpchg」について

このコマンドは，Address Server または管理ツールで変更したユーザ情報（施設情報）をシステムグループ，ローカルグループに反映するコマンドです。ここでのシステムグループとは管理ツールで登録したグループを指します。ローカルグループとは Scheduler クライアントで登録したグループを指します。ローカルグループを反映の対象とするためには Scheduler クライアントの「環境設定」で「ユーザ情報の保存」を「サーバで保存」に設定する必要があります。

コマンドの書式

/usr/GroupAppo/bin/grpchg /d SchedulePath [/v] [/i] [/s | /l] [/f logname]

引数

- 第 1 引数
  /d SchedulePath … スケジュール格納ディレクトリ
  スケジュール格納ディレクトリをフルパスで指定してください。(/d と SchedulePath の間に半角スペースを入れる必要があります。)
- 第 2 引数
  /v … チェック（省略可）
  変換は行わずチェックだけを行い，相違点のあるユーザ情報をメッセージ出力します。
- 第 3 引数
  /i… 変換時の確認（省略可）
  チェックおよび変換を行います。相違点のあるユーザ情報ごとに変換するかしないかを問い合わせます。引数 /f を指定した場合には，ログファイルに相違点のあるユーザ情報を出力し，問い合わせはしません。引数 /v を指定した場合には，この引数を指定しないものとして実行します。
- 第 4 引数
  /s … システムグループ（省略可）
  引数 /s をつけると，チェックまたは変換する対象をシステムファイルだけとします。
  /l … ローカルグループ（省略可）
  引数 /l をつけると，チェックまたは変換する対象をローカルファイルだけとします。
- 第 5 引数
  /f logname … ログファイル名（省略可）
  標準出力にはメッセージを出力せず，logname に出力します。ログファイル名をフルパスで指定してください。すでにファイルが存在する場合には上書きされます。この引数を指定しない場合は標準出力にメッセージを出力します。(/f と logfilename の間に半角スペースを入れる必要があります。)

リターンコード

0 ・・・正常終了
1 ・・・異常終了

注意

- すべてのサーバ（SV，RMSV）を停止してから実行してください。
- 対象となるローカルファイルはサーバに保存したローカルファイルであり，クライアントに保存したローカルファイルは変換の対象にはなりません。
- 削除されたユーザをグループに登録している場合は，変換時にグループからそのユーザ情報を削除します。
- 引数 /v と引数 /i を両方指定していない場合は，チェック変換を行います。ただし，相違点のあるユーザ情報は出力しますが，変換するかしないかは問い合わせません。
- 引数 /s または引数 /l を指定しない場合は，チェックまたは変換する対象はシステムグループとローカルグループの両方になります。
- 実行結果については標準出力，引数 /f を指定した場合は，指定したファイルを参照してください。

このコマンドが出力するメッセージの一覧を以下に示します。なお，表中の「x」は，任意の名前です。

項番	条件	メッセージ
1	異常終了	エラーが発生しました，上記のファイルが不正です
2	異常終了	エラーが発生しました，上記のディレクトリが不正です
3	組織ファイルがオープンできない	ファイル xxxxx がオープンできません
4	ユーザ情報の読み出しに失敗した	xxxxx から xxxxx の情報の読み出しに失敗しました
5	引数 /v または /i を指定，かつ ユーザ情報に相違がある	(相違点をメッセージで表示)
6	引数 /i を指定，かつユーザ情報に相違がある	更新しますか？（Y ／ N）
7	システムグループファイルがみつからない	システムグループファイル xxxxx がみつかりません
8	システム（ローカル）グループファイルがオープンできない	ファイル xxxxx がオープンできません
9	システムグループのチェック＆変換が完了した	システムグループのチェック＆変換が完了しました
10	システムグループのチェックが完了した（引数 /v を指定）	システムグループのチェックが完了しました
11	ローカルグループ(人)のチェック＆変換が完了した	ローカルグループ（人）のチェック＆変換が完了しました
12	ローカルグループ(人)のチェックが完了した（引数 /v を指定）	ローカルグループ（人）のチェックが完了しました

項番	条件	メッセージ
１３	ローカルグループ(施設)のチェック＆変換が完了した	ローカルグループ(施設)のチェック＆変換が完了しました
１４	ローカルグループ(施設)のチェックが完了した(引数 /v を指定)	ローカルグループ(施設)のチェックが完了しました
１５	スケジュール格納ディレクトリが存在しない	スケジュール格納ディレクトリ xxxxx が存在しません
１６	IDINDX.idx が存在しない	IDINDX.idx が存在しません
１７	引数の指定が不正	引数の指定が不正です
１８	同じ引数を複数指定する	同じ引数が複数指定されました
１９	入力したディレクトリまたはファイルのパスが不正	エラーが発生しました，パスが不正です
２０	IDINDX.idx がオープンできない	エラーが発生しました，IDINDX.idx が不正です
２１	指定したログファイルがオープンできない	ログファイル xxxxx がオープンできません
２２	正常終了	正常終了しました
２３	引数が不正	(Usage を表示)

8. トラブルシューティング

この章ではこのシステム運用時に発生する可能性のあるトラブルと回復方法について説明しています。

8.1 トラブルシューティング

8.2 Assist 連携と「SFdatacp」のトラブルシューティング

8.1 トラブルシューティング

このシステム運用時に発生する可能性のあるトラブルと原因，回復方法について示します。

(1) Scheduler Server のサービスを開始できない

原因

service ファイルに，ポート番号が記述されていません。

回復方法

service ファイルに，ポート番号を記述してください。詳細は，「1.1 TCP/IP の接続確認」を参照してください。

(2) クライアントからログインできない

原因 1

サーバが起動されていません。

回復方法 1

Scheduler Server を起動します。詳細は，「3.2.1 Scheduler Server の起動」または「3.2.2 Facilities Manager の起動」を参照してください。

原因 2

サーバとクライアント間を TCP/IP で通信できません。

回復方法 2

ホスト名や通信環境を確認し，TCP/IP で通信できるようにします。詳細は，「1.1 TCP/IP の接続確認」を参照してください。

原因 3

サーバとクライアントのサービスポート番号があっていません。

回復方法 3

サーバとクライアントの「ikisaki」「appoarea」のポート番号を同一にしてください。

(3) クライアントからログインできない (Address Server 連動時)

原因

Address Server で登録した内容が Scheduler Server に反映されていません。

回復方法

管理ツールを用いて，ユーザが登録されていることを確認してください。詳細は「4.4 管理データの取得」を参照してください。ユーザが登録されていない場合，「変更通知情報の取得」や「ユーザ情報の再作成」を実行します。詳細は，「4.1.3 Address Server のユーザ情報取得方法」，「4.1.4 Address Server の変更通知情報取得方法」を参照してください。

(4) 管理ツールにて，サーバから管理データを取得できない

原因 1

service ファイルに，ポート番号が記述されていません。

回復方法 1

サーバおよび，管理ツールを使用しているマシンの service ファイルに，「appoman」，「roomman」のポート番号を記述してください。詳細は，「1.1 TCP/IP の接続確認」を参照してください。

原因 2

管理ツールサーバが起動されていません。

回復方法 2

サーバにて，管理ツールサーバを起動します。詳細は，「3.2.1 Scheduler Server の起動」または「3.2.2 Facilities Manager の起動」を参照してください。

(5) コンフィギュレーションからの手動実行コマンドが失敗する

原因

管理ツールサーバが起動されていません。

回復方法

管理ツールサーバを起動します。詳細は，「3.2.1 Scheduler Server の起動」または「3.2.2 Facilities Manager の起動」を参照してください。

(6) 「管理データの取得」に失敗する

原因 1

親サーバと子サーバの片方または両方で管理ツールサーバが起動されていません。

回復方法 1

親サーバと子サーバの片方または両方で管理ツールサーバを起動します。詳細は，「3.2.1 Scheduler Server の起動」または「3.2.2 Facilities Manager の起動」を参照してください。

原因 2

親サーバと子サーバ間を TCP/IP で通信できない。

回復方法 2

ホスト名や通信環境を確認し，TCP/IP で通信できるようにします。詳細は，「1.1 TCP/IP の接続確認」を参照してください。

(7) 「変更通知情報の取得」や「ユーザ情報の再作成」を実行すると失敗する，または「GetAdAll」，「indxget」コマンドの実行に失敗する

原因

Address Server が起動されていません。

回復方法

Address Server を起動します。詳細は，「4.1.3 Address Server のユーザ情報取得方法」，「4.1.4 Address Server の変更通知情報取得方法」を参照してください。

(8) 「変更通知情報の取得」または「indxget」コマンドを実行しても，Address Server で登録した内容が Scheduler Server に反映されない

原因 1

Address Server から変更通知情報が出力されていません。

回復方法 1

変更通知情報は，Address Server に登録してから 1 時間 (デフォルト) 後か，Address Server の再起動により出力されます。その後，「変更通知情報の取得」または「indxget」コマンドを実行してください。コマンド実行後，管理ツールを用いて，ユーザが登録されていることをご確認ください。

原因 2

Address Server の「ホームサーバ名設定」に「Scheduler サーバ」のホスト名が設定されていません。

回復方法 2

Address Server の「ホームサーバ名設定」に「Scheduler サーバ」のホスト名を設定します。

(9) 特定のユーザの特定の月に対して，データの更新ができない

原因

ディスクフル等によりスケジュールファイルの更新処理に失敗しています。

回復方法

スケジュールファイルの更新処理に失敗すると，/usr/GroupAppo/tmp に更新前のスケジュールファイル (バックアップファイル) が保存されます。また，これらのファイル名が記載された backupfile.log ファイルが＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log に出力されます。backupfile.log ファイルに出力されるファイル名は，以下の例のとおりです。

例

ユーザ ＩＤ が「user」，更新中ファイル名が「199801.nsd」の更新に失敗した場合，backupfile.log ファイルに出力されるファイル名は「user_199801.nsd.bk」となります。このファイル名は，「コンフィギュレーション」の「スケジュール格納ディレクトリ」のディレクトリ下の「user」ディレクトリ下の「199801.nsd」ファイルの更新中にエラーが発生したことを示しています。

ユーザ ＩＤ が「user」，環境ディレクトリが「env」，更新ファイル名が「youfile.dat」の更新に失敗した場合，backupfile.log ファイルに出力されるファイル名は「user_env_youfile.dat.bk」となります。このファイル名は，「コンフィギュレーション」の「スケジュール格納ディレクトリ」のディレクトリ下の「user」

ディレクトリ下の「env」ディレクトリ下の「youfile.dat」ファイルの更新中にエラーが発生したことを示しています。

上記ファイルを元のファイル名にリネームし，スケジュール格納ディレクトリの下の所定の位置に戻すと，エラーが発生した更新処理の前の状態に戻ります。ただし，上記ファイルのサイズが0バイトの場合，戻さずに0バイトのファイルを削除してください。

(10) 親サーバのユーザ情報が，子サーバに反映されていない

原因

管理するユーザ数が数千人の規模でかつ環境ファイルの取得時に親サーバ側が高負荷の場合，親サーバでの処理に時間を要し，子サーバ側でタイムアウトが生じています。

回復方法

親サーバの /usr/GroupAppo/bin/AppoSV.ini ファイルに以下の記述を追加してください。(行末には改行コードを入力する必要があります。)

[Sockets]
ReplTimeOut2= 延長するタイムアウトの時間 (秒)
記述例
[Sockets]
ReplTimeOut2=60

注意

ReplTimeOut2 で指定した時間＋ 30(秒) が，タイムアウトの合計時間となります。上記の記述例では，60+30=90(秒) がタイムアウトの合計時間となります。以上の ReplTimeOut2 の記述がない場合，または AppoSV.ini ファイルがない場合は，デフォルトとして ReplTimeOut2=30 として扱い，タイムアウトの合計時間は 60 秒となります。

(11) クライアントの「グループ」に登録済みのメンバ（ユーザ／施設）に対してスケジュール参照／予約／空き時間検索を実行するとエラーとなる

原因

クライアントでローカルグループに登録されたメンバのホスト名が変更されています。

回復方法

クライアント上でローカルグループを再作成してください。また，サーバ上で一括で変換する方法については，「7.3 「HOSTCHG」について」の注意 の 6 番目の説明を参照してください。

(12) クライアントにて，他のメンバのスケジュールを参照できない。または他のメンバにスケジュールを予約できない

原因 1

組織間セキュリティの初期設定ファイル param.ini が存在しない，または param.ini の記述内容に不正があります。

回復方法 1

すべてのサーバを停止後，親サーバの以下のファイルを置き換えてください。

置き換え先

＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /etc/param.ini

置き換え元

組織によるセキュリティを使用しない場合：

/usr/GroupAppo/bin/param0.ini

組織によるセキュリティの直系方式を使用する場合：

/usr/GroupAppo/bin/param1.ini

組織によるセキュリティのユニット方式を使用する場合：

/usr/GroupAppo/bin/param2.ini

置き換えた後，管理ツールサーバを起動し，マルチサーバ構成の場合は子サーバから管理データの取得を行い，サーバを起動してください。詳細は，「3.1.3 組織によるセキュリティの設定」を参照してください。

原因 2

セキュリティランクの設定に誤りがあります。

回復方法 2

セキュリティランクの設定を見直してください。詳細は，「4.9 セキュリティの設定」を参照してください。

(13) システムログに以下のメッセージが出力される

メッセージＩＤ：６０３０４

メッセージ：設定ファイル param.ini が存在しないまたは不正があります。

原因

組織間セキュリティの初期設定ファイル param.ini が存在しない，または param.ini の記述内容に不正があります。

回復方法

すべてのサーバを停止後，親サーバの以下のファイルを置き換えてください。

置き換え先

＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /etc/param.ini

置き換え元

組織によるセキュリティを使用しない場合：

/usr/GroupAppo/bin/param0.ini

組織によるセキュリティの直系方式を使用する場合：

/usr/GroupAppo/bin/param1.ini

組織によるセキュリティのユニット方式を使用する場合：

```
/usr/GroupAppo/bin/param2.ini
```

置き換えた後，管理ツールサーバを起動し，マルチサーバ構成の場合は子サーバから管理データの取得を行い，サーバを起動してください。詳細は，「3.1.3 組織によるセキュリティの設定」を参照してください。

(14) 管理ツールにて，サーバから管理データを取得時に「サーバで管理データを更新処理中のため，管理ツールサーバとの接続に失敗しました。」というメッセージが出力されて失敗する

原因 1

「コンフィギュレーション」の［手動実行］で［変更通知情報取得］や［ユーザ情報再作成］など管理データを更新する処理が実行中です。

回復方法 1

しばらく待ってから，他の管理データ更新処理が終了したことを確認後，再実行してください。

原因 2

前回の管理ツール使用時に管理ツールを正常終了できなかった。

回復方法 2

前回の管理ツールを使用した時刻から２０分経過してから，再実行してください。

(15) Scheduler Client（Facilities Manager Client）の環境設定で「ユーザ情報の保存」を「サーバ保存」にしているユーザにおいて，Client 終了時に，「「XXXXX」の登録に失敗しました。」というダイアログメッセージが表示される（「XXXXX」は任意のファイル名）

原因

環境設定ファイルの更新に失敗したため，ユーザ情報のバックアップファイルが存在する。

回復方法

「8.1. トラブルシューティング」の（9）をご参照ください。

8.2 Assist 連携と「SFdatacp」のトラブルシューティング

Assist 連携時と「SFdatacp」実行時に発生する可能性のあるトラブルと原因，その回復方法について示します。

8.2.1 Assist 連携時のトラブルシューティング

(1) Assist 連携時 Assist Viewer や Address Server 上の変更が Scheduler に反映されない

原因 1

システム内すべて（ホームサーバ一覧に登録されたサーバ）の管理ツールサーバ（AppoMan，RoomMan）が起動していません。

回復方法 1

システム内すべての管理ツールサーバ（AppoMan，RoomMan）を起動してください。（施設管理を使用していない場合，すなわちシステム内のサーバに Facilities Manager が 1 台もインストールされていない場合，RoomMan を起動する必要はありません。）

その後，以下のコマンドを実行してください。しばらく待って，＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent/ScheExec.log の内容を確認してください。

コマンドの書式

/user/GroupAppo/bin/SFagent [/f logfile_name]

原因 2

ホームサーバ一覧がありません。

回復方法 2

「4.5 DNS ホスト名の登録」の「(2) Assist 連携用ホームサーバ一覧作成」を参照して管理ツールでホームサーバ一覧を作成した後，以下のコマンドを実行してください。しばらく待って，＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent/ScheExec.log の内容を確認してください。

コマンドの書式

/user/GroupAppo/bin/SFagent [/f logfile_name]

原因 3

ユーザの Scheduler ホームサーバ名に不正なサーバが指定されています。

回復方法 3

Assist Viewer で Scheduler のホームサーバを選択し直してください。手入力する場合でも，Scheduler サーバ名のプルダウンメニューに表示されるサーバ名以外を入力しないでください。

原因 4

親サーバと同一マシンの Address Server が停止しています。

回復方法 4

Assist Viewer を再起動してください。(このとき，Address - Assist で大規模対応オプションを指定しないでください。詳細は，「Groupmax Address - Assist Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。)

Address のレプリケーションを実行する旨のメッセージが出て，Assist Viewer はエラーとなりますが，その時点から Scheduler の Assist 連携機能が起動されますのでそのまましばらく待って＜スケジュール格納ディレクトリ＞/log/agent/ScheExec.log の内容を確認してください。

原因 5

コンフィギュレーションで「コンフィギュレーション」の「Assist 連携」を「使用する」に設定されていない。既に，「使用する」に設定されている場合は，Address Server を再起動していない可能性があります。

回復方法 5

コンフィギュレーションで「コンフィギュレーション」の「Assist 連携」で「使用する」に設定して，Address Server を再起動してください。詳細は，「3.1 サーバ環境設定」を参照してください。

原因 6

SFagent.ini ファイルに「Exec=0」が指定されている。

回復方法 6

/usr/GroupAppo/bin/SFagent.ini ファイルの設定を確認して「Exec=0」を削除するか，「Exec=1」と書き換えてから以下のコマンドで再実行してください。しばらく待って，＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent/ScheExec.log の内容を確認してください。

コマンドの書式

/user/GroupAppo/bin/SFagent [/f logfile_name]

(2) Assist 連携時 Assist Viewer の Scheduler サーバ名コンボボックスに Scheduler 以外のサーバ名が表示される

原因

ホームサーバ一覧が作成されていません。

回復方法

「4.5 DNS ホスト名の登録」の「(2) Assist 連携用ホームサーバ一覧作成」を参照して管理ツールでホームサーバ一覧を作成した後，Assist Viewer を再起動してください。

(3) Assist 連携時 Assist Viewer でユーザ情報を変更した後，クライアントからスケジュールの更新ができない

原因 1

Assist 連携機能が処理中です。

回復方法 1

しばらく待って，＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent/ScheExec.log

の内容を確認してください。処理終了時には「★★★ ：Assist 連携機能を終了します」と出力されます。

原因 2

Assist 連携機能が処理の途中で発生した障害によって中断した。

回復方法 2

＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent/ScheExec.log の内容を確認してください。処理中断時には「★★★ ：Assist 連携機能を中断します」と出力されています。

このログを確認したら，以下の手順で回復してください。

1. 親サーバで更新禁止解除コマンドを実行
   詳細は「5.1 Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能」の「(8)「更新禁止解除」コマンド」を参照してください。
2. すべての子サーバで親サーバの管理データを取得する

(4) Assist 連携時 Assist Viewer でユーザ情報を変更した後，コンフィギュレーションで何らかの手動実行をした場合に「サーバで別の処理 (13) が実行中です。再実行してください」というメッセージが出力され失敗する

原因

上記（3）と同じ原因です。

回復方法

上記（3）と同じ回復方法を実行してください。

8.2.2 「SFdatacp」実行時のトラブルシューティング

(1) SFdatacp を実行したが，ホームサーバ移動に失敗したユーザがいる

原因

何らかの原因でスケジュールデータの転送に失敗しています。詳細な内容は，＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent/[処理 ＩＤ]/SFdatacp.log を参照してください。

回復方法

1. 失敗したユーザを特定するためには，親サーバ上で以下のファイルを参照してください。
   ＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent/[処理 ID]/MVresult.tbl
   処理 ＩＤ は実行した年月日時分秒の１４桁の名前。このファイルが存在しない場合は，「付録 H Assist 連携時と「SFdatacp」実行時のエラーメッセージ」を参照してメッセージに対応した対処法で回復してください。
2. 次に移動前サーバ上に 1 で失敗したユーザのスケジュールデータ（＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /[ユーザ ＩＤ] ディレクトリ）が存在しているこ

とを確認してください。存在しない場合は，バックアップから元に戻してください。
3. 親サーバ上の移動者一覧ファイルに移動に失敗したユーザのエントリが残っていることを確認してください。
4. システム内すべての管理ツールサーバ（AppoMan，RoomMan）が起動していることを確認して，「5.2 ホームサーバ移動ツール「SFdatacp」について」を参照して再度 SFdatacp を実行してください。

(2) SFdatacp を実行するとエラーになる

原因 1

システム内すべて（ホームサーバ一覧に登録されたサーバ）の管理ツールサーバ（AppoMan，RoomMan）が起動していません。または，システム内すべてのサーバが起動しています。

回復方法 1

システム内すべての管理ツールサーバ（AppoMan）を起動してください。（Facilities Manager が同一サーバにインストールされている場合，RoomMan も起動してください。）また，システム内すべてのサーバ（SV）を停止してください。（Facilities Manager が同一サーバにインストールされている場合，RMSV も停止してください。）その後，「5.2 ホームサーバ移動ツール「SFdatacp」について」を参照して再度 SFdatacp を実行してください。

原因 2

ホームサーバ一覧がありません。

回復方法 2

「4.5 DNS ホスト名の登録」の「(2) Assist 連携用ホームサーバ一覧作成」を参照してホームサーバ一覧を作成してください。その後，「5.2 ホームサーバ移動ツール「SFdatacp」について」を参照して再度 SFdatacp を実行してください。

(3) SFdatacp を実行したが移動先サーバに移動したはずのユーザのスケジュールデータがない

原因

移動前のサーバに対象ユーザのスケジュールデータが存在していません。

回復方法

スケジュールデータは，移動前のサーバの＜スケジュール格納ディレクトリ＞以下にユーザＩＤのディレクトリ名で格納されています。次のどちらかの状態になっていないか，取得したバックアップデータで確認してください。

1. ユーザＩＤのディレクトリ自体が存在していない
2. ユーザＩＤのディレクトリは存在していてもその下にファイル・ディレクトリが全く存在しない

このどちらかの状態に当てはまった場合，ホームサーバ移動結果ファイル＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent/[処理ＩＤ]/MVresult.tbl を参照してそのユーザの処理結果が"○"になっていれば正常に処理は終了していますので問

題ありません。
1，2のどちらにも当てははまらない場合，ユーザの処理結果は"×"になっていますので，「8.2.2「SFdatacp」実行時のトラブルシューティング」の（1）を参照してSFdatacpを再実行してください。

(4) SFdatacp実行後，コンフィギュレーションで何らかの手動実行をした場合に「サーバで別の処理(13)が実行中です。再実行してください」というメッセージが出力され失敗する

原因

SFdatacpが何らかの原因で異常終了しました。

回復方法

以下の手順で回復してください。

1. システム内すべてのサーバでバックアップを元に戻してください。
2. 親サーバで更新禁止解除コマンドを実行してください。
   詳細は「5.1 Groupmax Address - Assistの Groupmax 連携機能」の「(8)「更新禁止解除」コマンド」を参照してください。
3. すべての子サーバで親サーバの管理データを取得してください。
4. SFdatacpを再実行してください。

付録

付録 A データファイルの説明
付録 B 設定の最大値
付録 C 以前のバージョンからの移行
付録 D バージョンアップ時の注意事項
付録 E サーバホスト名が変更された場合
付録 F スケジュールデータの移動
付録 G スケジュール格納ディレクトリを変更した場合
付録 H Assist 連携と「SFdatacp」実行時のエラーメッセージ
付録 I ユーザ ID の変更
付録 J G/W 通信を異なるポート番号で運用する場合
付録 K ログファイルのフォーマット説明
付録 L 実行ユーザの変更
付録 M 「GetAdAll」と「indxget」の実行時におけるエラーメッセージ
付録 N システムログのメッセージ一覧
付録 O 「aconsole」と「roomconsole」のエラーメッセージ

付録A　データファイルの説明

(1) プログラムファイル

Scheduler Server および Facilities Manager をインストールすると，以下のディレクトリ，ファイルが作成されます。

表 A-1 【Scheduler Server でインストールされるファイル】

ディレクトリ名	ファイル名	概要	備考
/groupmax/SystemManager/ppinfo/	GMSCHDT.INF	System Agent - TCP/IP 連携用定義ファイル	
/usr/GroupAppo/bin/	GMSCHCF	System Agent - TCP/IP 連携用シェルプログラム	
同上	GMSCHCT	System Agent - TCP/IP 連携用シェルプログラム	
同上	GMSCHRS	System Agent - TCP/IP 連携用シェルプログラム	
同上	GMSCHST	System Agent - TCP/IP 連携用シェルプログラム	
同上	GMSTPSCHCF	System Agent - TCP/IP 連携用シェルプログラム	
同上	GMSTPSCHCT	System Agent - TCP/IP 連携用シェルプログラム	
/usr/GroupAppo/	SHistory.inf	Scheduler Server パッチ履歴ファイル	
/usr/bin/	AppoMan	Scheduler Server システム管理用プログラム	
同上	SV	Scheduler Server プログラム本体	
同上	aconsole	Scheduler Server システム管理情報設定プログラム	
同上	brc.appo	サーバ起動シェルプログラム	

表 A-2 【Facilities Manager でインストールされるファイル】

ディレクトリ名	ファイル名	概要	備考
/groupmax/SystemManager/ppinfo/	GMFCLDT.INF	System Agent - TCP/IP 連携用定義ファイル	
/usr/GroupAppo/bin/	GMFCLCF	System Agent - TCP/IP 連携用シェルプログラム	
同上	GMFCLCT	System Agent - TCP/IP 連携用シェルプログラム	
同上	GMFCLRS	System Agent - TCP/IP 連携用プログラム	
同上	GMFCLST	System Agent - TCP/IP 連携用シェルプログラム	
同上	GMFTPFCLCF	System Agent - TCP/IP 連携用シェルプログラム	

ディレクトリ名	ファイル名	概要	備考
同上	GMFTPFCLCT	System Agent - TCP/IP 連携用シェルプログラム	
/usr/GroupAppo/	FHistory.inf	Facilities Manager パッチ履歴ファイル	
/usr/bin/	RMSV	Facilities Manager プログラム本体	
同上	RoomMan	Facilities Manager システム管理用プログラム	
同上	brc.Appoarea	サーバ起動シェルプログラム	
同上	roomconsole	Facilities Manager システム管理情報設定プログラム	

表 A-3 【共通で作成されるもの】

ディレクトリ名	ファイル名	概要	備考
/groupmax/bin/	SCHpreBK	稼動中バックアップ用プログラム	注 1
同上	SCHstpBK	稼動中バックアップ用プログラム	注 1
同上	SCHstrBK	稼動中バックアップ用プログラム	注 1
/usr/GroupAppo/ GroupApp		Address 変更通知定義用ファイル格納ディレクトリ	注 1
/usr/GroupAppo/ GroupApp/	item.def	Address 変更通知定義用ファイル	注 1
/usr/GroupAppo/ bin/	AppoInfoGet	System Agent - TCP/IP 連携用プログラム	注 1
同上	BITECHG	バイトオーダ変換ツール	注 1
同上	CODECHG	ユーザ ID 変換ツール	注 1
同上	CreateManagersRmx	施設情報ファイル設定プログラム	注 1
同上	GetAdAll	Address 登録情報全体取得ツール	注 1
同上	HOSTCHG	ホスト名変換ツール	注 1
同上	ModifyAppoManIdx	環境ファイル設定プログラム	注 1
同上	ModifyAppoManIni	環境ファイル設定プログラム	注 1
同上	SCHpreMV	Assist 連携用プログラム	注 1
同上	SCHstpMV	Assist 連携用プログラム	注 1
同上	SCHstrMV	Assist 連携用プログラム	注 1
同上	SFagent	Assist 連携用プログラム	注 1
同上	SFenvget	Assist 連携用プログラム	注 1
同上	agtcout	Assist 連携用プログラム	注 1
同上	rindxget	Assist 連携用プログラム	注 1
同上	SFdatacp	ホームサーバー移動ツール	注 1
同上	grpchg	グループファイル変換ツール	注 1
同上	checkid	整合性チェックプログラム	注 1
同上	chkorder	整合性チェックプログラム	注 1
同上	indxget	Address 変更通知取得ツール	注 1
同上	sortdate	整合性チェックプログラム	注 1

ディレクトリ名	ファイル名	概要	備考
同上	ts2kana.rul	キーワード検索用ファイル	注1
同上	usrchg	実行ユーザ変更用サンプルスクリプト	注1
同上	param0.ini	組織によるセキュリティ設定テンプレート	注1
同上	param1.ini	組織によるセキュリティ設定テンプレート	注1
同上	param2.ini	組織によるセキュリティ設定テンプレート	注1
/usr/GroupAppo/GroupApp/	item.def.sch2	Assist連携用ファイル	注1
/usr/GroupAppo/lib/	libgadr1.sl	Address連携用DLL（ただし，AIXの場合は，libgadr1.a）	注1
/usr/bin/	AppoMan.ini	システム管理用ファイル	注1
$apposv/etc	—	ユーザ管理情報格納ディレクトリ	注2
$apposv/log	—	ログファイル出力ディレクトリ	注2
/usr/GroupAppo/tmp	—	スケジュールデータ退避ディレクトリ	注2
$apposv/log/agent	—	Assist連携用ディレクトリ	注2
$apposv /room	—	施設管理情報格納ディレクトリ	注2
/usr/GroupMail/Groupmax/GroupApp	—	Address 変更通知定義用ファイル格納ディレクトリ（ただし，HP-UX，AIXの場合は，/var/opt/GroupMail/Groupmax/GroupApp）	注1
/usr/GroupMail/Groupmax/GroupApp/	item.def	Address変更通知定義用ファイル（ただし，HP-UX，AIXの場合は，/var/opt/GroupMail/Groupmax/GroupApp/item.def）	注1

注1：同一マシン上にScheduler ServerまたはFacilities Managerがインストールされている場合は，削除されません。

注2：$apposvはScheduler Server/Facilities Managerのスケジュール格納ディレクトリを示します。デフォルトは，/usr/ikiです。また，ここに示したディレクトリは，アンインストールしても削除されません。

(2) 管理データ

表A-4 【ユーザの管理データ （共通)】

ファイル名	概要
MAIN.idx	各システムの情報ファイル
.uidまたは，XX	ユーザ管理情報ファイル（*は任意，XXは00 ～ ff）
*.gst	ユーザＩＤと他システムゲストＩＤのマッピングファイル（Ｇ／Ｗテーブル）（各他システムごとに作成，*は任意）
ENV.tbl	汎用化データファイル
SEC.tbl	セキュリティファイル

ファイル名	概要
SEC2.tbl	セキュリティファイル
BOSS.tbl	秘書登録ファイル
ScheDel.tbl	ユーザのスケジュール削除期間の個別設定ファイル
MV.tbl	移動者一覧ファイル
IDINDX.idx	ユーザＩＤ情報ファイル
GATEWAY.idx	*.gstファイルのG/Wサーバホスト名記述ファイル
guest.idx	他システムゲストＩＤの情報ファイル
IDINFO.idx	ユーザＩＤ情報ファイル
DNSHOSTS.tbl	サーバＩＤとホスト名との対応ファイル
KENNIN.log	兼任情報ファイル
grpmem.dat	グループメンバファイル（標準値）
grpname.dat	グループ名ファイル（標準値）
ikifile.dat	行先・区分ファイル（標準値）
youfile.dat	用件・略記ファイル（標準値）
annilist.dat	記念日ファイル（標準値）
appouenv.ini	環境設定ファイル（標準値）
appomngr.ini	拡張スケジュール設定ファイル
param.ini	組織によるセキュリティ設定ファイル
gamuenv.ini	環境設定ファイル（WWW for Scheduler用）

ユーザの管理データは，＜スケジュール格納ディレクトリ＞/etcディレクトリに作成されます。なお，アンインストールしても削除されません。

表A-5 【施設の管理データ（Facilities Managerの場合）】

ファイル名	概要
MAIN.rmx	施設登録の最上位階層の内容を格納するファイル
IDINDX.rmx	自システム内に登録されているすべての施設ＩＤと，その施設ＩＤの詳細情報を格納するファイル名（*.rid）を格納するファイル
*.rid	施設管理情報ファイル（＊は任意）
RMSEC.tbl	セキュリティ（予約権・参照権）ファイル
FScheDel.tbl	施設のスケジュール削除期間の個別設定ファイル
EQP.tbl	付属設備テーブルファイル
MANAGERS.rmx	施設管理者情報ファイル

施設の管理データは，＜スケジュール格納ディレクトリ＞/roomディレクトリに作成されます。なお，アンインストールしても削除されません。

(3) スケジュールデータ

ユーザがクライアントから登録したデータは，すべてサーバに格納されます。「3.1.1 (1) コンフィギュレーションの設定」で設定したスケジュール格納ディレクトリの下に，ユーザ（施設）ＩＤごとにユーザ（施設）ＩＤと同じ名称のディレクトリが作成され，その下に格納されます。なお，これらのファイルはアンインストールしても削除されません。

デフォルトの場合次のように格納されます。

```
/usr/iki/usr01/199509.ssd
                /199509.msd
                /password.psw
          /usr02/199509.ssd
          /room01/・・・
          /room02/・・・
              :
```

（usr01，usr02はユーザＩＤの例，room01，room02は施設ＩＤの例）

スケジュールデータのファイル名は次のフォーマットでつけられています。

```
YYYYMM.拡張子
  YYYY      ：年（西暦4桁）
    MM      ：月（2桁）
```

- ユーザＩＤのディレクトリの下に格納されるもの

ファイル名	概要
*.nsd	ユーザ本人が自分のスケジュールに登録した内容を格納
*.rsd	受信した予約データを格納
*.ssd	発信した予約データを格納
*.msd	予約を発信した相手の情報を格納
*.smn	発信した予約データの管理番号と日付を格納
*.emb	拡張スケジュールのデータを格納
todo.lst	ユーザ本人のタスクを格納
todo.num	タスクデータの管理番号を格納
contact.lst	タスクの連絡先の一覧を格納
holiday.tbl	個人の休日設定のデータを格納
password.psw	パスワードを暗号化して格納

- （ユーザＩＤ/ENV）ディレクトリの下に格納されるもの

ファイル名	概要
grpmem.dat	グループメンバファイル（Scheduler Client用）
grpname.dat	グループ名ファイル（Scheduler Client用）
ikifile.dat	行先・区分ファイル（Scheduler Client用）
youfile.dat	用件・略記ファイル（Scheduler Client用）
appouenv.ini	環境設定ファイル（Scheduler Client用）
annilist.dat	記念日ファイル（Scheduler Client用）
rikfile.dat	行先・区分ファイル（Facilities Manager Client用）
ryofile.dat	用件・略記ファイル（Facilities Manager Client用）
ROOMENV.INI	環境設定ファイル（Facilities Manager Client用）
rgrname.dat	グループ名ファイル（Facilities Manager Client用）
rgrmem.dat	グループメンバファイル （Facilities Manager Client用）
mobile.ini	環境設定ファイル（Mobile Option用）
gamuenv.ini	環境設定ファイル（WWW for Scheduler用）

- 施設ＩＤのディレクトリの下に格納されるもの

ファイル名	概要
*.nsd	ユーザ本人が自分のスケジュールに登録した内容を格納
*.rsd	受信した予約データを格納
*.emb	拡張スケジュールのデータを格納
roominfo.rm	施設情報を格納する施設情報ファイル
ngsche.rm	予約禁止時間帯を格納する施設情報ファイル
(イメージファイル名).img	施設イメージを格納する施設情報ファイル

データのバックアップを取る場合には，「3.1.1 (1) コンフィギュレーションの設定」で設定したスケジュール格納ディレクトリの下のファイルを別のディレクトリ，ディスクにコピーしてください。

(4) その他のファイル

＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/AppoLock.dat ファイルが作成されます。このファイルはプログラム間の排他制御に使用しているため削除しないでください。削除した場合，Scheduler Server の管理データが不正になる可能性があります。

付録Ｂ　設定の最大値

システムを構築する上での，Scheduler Server および Facilities Manager の設定の最大値について以下に示します。

区分	項目	最大値	関連ファイル
スケジュール管理	ユーザ数／システム *1	100,000	IDINDX.idx
	登録数／テーブル *2	500	MAIN.idx ??????.uid *3 ?????????? *4
	組織階層数 *9	50	MAIN.idx ??????.uid *3 ?????????? *4
	接続する他システム数	500	GATEWAY.idx
	接続ユーザ数／他システム	100,000	????????.gst *5
	ゲスト ＩＤ ／システム	500	guest.idx
	上司・秘書の組み合わせ ・上司の数／秘書 *8 ・秘書の数／上司 *8	2,500 500 500	BOSS.tbl
スケジュール管理 システム標準値	行先・区分	100	ikifile.dat
	用件・略記	100	youfile.dat
	グループ数	50	grpname.dat
	グループメンバ数／グループ ・グループメンバの延べ総数	30 500	grpmem.dat
	記念日	30	annilist.dat
施設管理	施設数／システム	10,000	IDINDX.rmx
	登録数／テーブル *6*8	500	MAIN.rmx ??????.rid *7
	組織階層数	50	MAIN.rmx ??????.rid *7
	付属設備／システム	128	EQP.tbl

注意　表中の「?」は，半角数字，あるいは半角英小文字１文字を表します。

*1：このユーザ数には，自システムのゲスト ＩＤ も含まれます。

*2：１テーブルで登録できるユーザ／セパレータ／組織の総数のことです。最上位組織のテーブル（MAIN.idx）の場合は，他システムの登録数も含まれます。ただし，クライアントで参照できるのは２６８ユーザ／テーブルです。

*3：識別子が「uid」であり，ファイルの名前の長さが最大１０文字であることを示します。

*4：Address Server との連携時の場合，「??????????」のファイル名形式となります。「??????????」はファイルの名前の長さが最大１０文字であることを示します。なお，先頭２文字は「００」～「９９」，「ａａ」～「ｚｚ」になります。

*5：識別子が「gst」であり，ファイルの名前の長さが最大１２文字であることを示します。

*6：１テーブルで登録できる，施設・セパレータ・種別・施設管理者の総数のことです。

*7：識別子が「rid」であり，ファイルの名前の長さが最大１０文字であることを示します。

*8：Version 2の３２ bit版クライアント，およびVersion 3以降のクライアントで表示できる最大値は２７０です。

*9：Address Serverとの連携時の場合，Address Server設定の最大値に依存します。

付録C　以前のバージョンからの移行

(1) 移行可能なプログラムプロダクト

GroupAppomouse/Server（HI-UX/WE2 対応用）P-1646-141 01-00 以降

GroupAppomouse/Server（HP-UX 9.0 対応用）P-9246-141 01-00 以降

GroupAppomouse/Server（HP-UX 10.0 対応用）P-1B46-1411 01-20 以降

Groupmax Scheduler Server Version2.0（HI-UX/WE2 対応用）GMAX-SSV2 02-00 以降

Groupmax Scheduler Server Version2.0（HP-UX 10.0 対応用）GMAX-SSVH 02-00 以降

Groupmax Scheduler Server Version 3（HI-UX/WE2 対応用）GMX3-SSV2 03-00 以降

Groupmax Scheduler Server Version 3（HP-UX 10.0,11.0 対応用）GMX3-SSVH 03-00 以降

Groupmax Scheduler Server Version 5（HI-UX/WE2 対応用）GMX5-SSV2 05-00 以降

Groupmax Scheduler Server Version 5（HP-UX 10.20,11.0 対応用）GMX5-SSVH 05-00 以降

(2) 移行手順

移行後の運用形態の違いによる手順の違いを，以下に示します。

項番	移行後の運用形態	移行手順
1	UNIX サーバと Windows NT サーバが混在する場合	(1) 全 UNIX サーバ上で,「HOSTCHG」を実行します。 (2)「3. サーバのセットアップ」を参照し，管理データを UNIX サーバから移行後の各サーバへ転送されるようセットアップします。 (3)Windows NT サーバへ移行するユーザのスケジュールデータを，各 Windows NT サーバへ ftp 等を使用してファイル転送[*1]します。(UNIXサーバ上でのスケジュールデータパスは,/usr/iki/ユーザ ID/スケジュールファイル[*4]の構成になっています。ユーザ ID ディレクトリを含め Windows NT サーバ上の C:¥Groupmax¥apposv¥data[*2] 下に転送してください。) (4) 各 Windows NT サーバ上で「bitechg」コマンドを実行します。
2	Windows NT サーバだけの運用に切り替える場合	(1)UNIX の親サーバの管理データを Windows NT の親サーバへ ftp 等を使用してファイル転送[*1]します。(UNIX サーバ上の，/usr/iki/etc[*4] 下のファイルをすべて，Windows NT サーバ上の C:¥Groupmax¥apposv¥etc[*3] 下に転送してください。) (2)UNIX サーバの各スケジュールデータを各 Windows NT サーバへ ftp 等を使用してファイル転送[*1]します。 (3) 各 Windows NT サーバ上で「hostchg」コマンド,「bitechg」コマンドを実行します。

[*1]：ファイル転送は必ずバイナリモードで転送してください。

[*2]：デフォルト値の場合。「コンフィギュレーション」の設定で，SchedulePath の値を変更している場合，変更したパスを指定してください。

[*3]：デフォルト値の場合。01-00 からバージョンアップして使用されており，かつ 01-00 使用時にレジストリの編集で，EnvPath の値を変更している場合は，変更したパス名を指定してください。

[*4]：/usr/iki はデフォルト値です。「コンフィギュレーション」の設定でスケジュール格納ディレクトリを変更している場合は，変更したパス名を指定してください。

(3) 使用上の注意事項

「HOSTCHG」・「BITECHG」・「CODECHG」のコマンドを使用するには，必ずスケジュールデータ，ユーザ管理データのバックアップを取得してから行ってください。

- 「HOSTCHG」コマンドについては，「7.3 「HOSTCHG」について」を参照してください。
- 「BITECHG」コマンドについては，「7.4 「BITECHG」について」を参照してください。
- 「CODECHG」コマンドについては，「7.5 「CODECHG」について」を参照してください。

付録Ｄ　バージョンアップ時の注意事項

(1) バージョンアップの手順

Version2.0, Version 3, Version 5 から Version 6 へバージョンアップすることができます。以下にバージョンアップの手順を示します。

(a) 以下のサーバおよび管理ツールサーバが起動されている場合,「コンフィギュレーション」から停止します。

1.「コンフィギュレーション」(aconsole) 起動
   - サーバ (SV) 停止
   - 管理ツールサーバ (AppoMan) 停止
2.「コンフィギュレーション」(roomconsole) 起動
   - サーバ (RMSV) 停止
   - 管理ツールサーバ (RoomMan) 停止

(b) 以下のディレクトリのバックアップを取得します。(バージョンアップに失敗したときのリストアに使用します。)

＜スケジュール格納ディレクトリ＞/etc
＜スケジュール格納ディレクトリ＞/log
＜スケジュール格納ディレクトリ＞/room
＜スケジュール格納ディレクトリ＞/＜各ユーザＩＤのディレクトリ＞

注意　＜スケジュール格納ディレクトリ＞はデフォルトでは /usr/iki となります。デフォルトから変更している場合は,「コンフィギュレーション」の「1. スケジュール格納ディレクトリ」をご確認ください。

(c)「コンフィギュレーション」を起動し, 各設定の控えをとります。

(d) Version 6 への更新インストールを行います。

(e) Version 6 の管理ツールをインストールします。

(f)「コンフィギュレーション」を起動し, 各設定を確認します。設定が異なる場合は, (ｃ) で控えた設定に変更します。

(g) Address Server と連動している場合, 以下の手順にてユーザ情報の再作成を行います。

1. Address Server が起動していることを確認し, 起動していない場合は起動します。
2.「コンフィギュレーション」を起動します。
3.「手動実行」から「ユーザ情報再作成」を選択します。

(h)「コンフィギュレーション」から起動します。

1.「コンフィギュレーション」(aconsole) 起動
   - サーバ (SV) 起動
   - 管理ツールサーバ (AppoMan) 起動

2.「コンフィギュレーション」(roomconsole) 起動
- サーバ (RMSV) 起動
- 管理ツールサーバ (RoomMan) 起動

(2) コンフィギュレーションの設定に関する注意事項

親サーバとの環境の共有について Version2.0, Version 3, Version 5, Version 6 とで違う項目があります。以下にコンフィギュレーションの Version2.0, Version 3, Version 5, Version 6 の親サーバとの環境共有時の違いを示します。

	設定項目	親サーバとの環境共有	
		Version2.0 以前	Version 3 Version 5 Version 6
1	スケジュール格納ディレクトリ	×	×
2	親サーバ／子サーバ	×	×
3	親サーバホスト名／IP アドレス	×	△
4	管理データ取得時刻	○	×
5	親サーバ環境の共有	×	×
6	ログファイル最大容量	○	○*1
7	不要スケジュール削除の自動実行	×	○
8	不要スケジュール削除期間	○	○
9	不要スケジュール削除時刻	○	○
10	Address での認証	○	○
11	Address ホスト名／IP アドレス	○	×
12	ユーザ認証用ポート番号	○	○
13	変更通知情報取得の自動実行	−	□
14	変更通知情報取得時刻	−	□
15	Address 情報取得オプション	−	□
16	Assist 連携	−	□*2

○ ：親サーバと環境の共有を行います。(各子サーバで設定しても「管理データの取得」を行った後は無視されます。)

× ：親サーバと環境の共有を行いません。(必ず各子サーバで設定してください。)

− ：Version2.0 以前にはありません。

△ ：初期設定時には，親サーバのホスト名／IP アドレスを入力する必要があります。

□ ：子サーバでの設定は不要です。

*1：Version2.0 の場合は件数で表示されていましたが，Version 3, Version 5, Version 6 からは総容量をメガバイト*3 単位で指定します。

*2：Version 5 以前にはありません。

*3：1 MB (メガバイト) ＝ 1,048,576 バイトの計算値です。

(3) その他の注意事項

(a) バージョンアップと同時にマシンの移行をする場合，以下の手順でする必要があります。

1. 移行先のマシンに，移行元と同じバージョンのScheduler Serverおよび Facilities Managerをインストールする。
2. 移行先のマシンにデータを転送する。
3. 移行先のマシンをバージョンアップする。

(b) Groupmax Scheduler Server Version2.0 からバージョンアップした場合，稼動ログ (LOGSV.log) の出力方式が変更になりました。以下の記述を参考にしてください。

- Scheduler Server Version2.0 の場合
  先頭の古いログが削除されて，新しいログがファイルの後ろに追加されていきます。
- Scheduler Server Version 3，Version 5，Version 6 の場合
  ログデータがログサイズ[*1]より大きくなると，ファイルをLOGSV.bakファイルにリネームして，新規にLOGSV.logファイルの先頭から追加していきます。

[*1]：「コンフィギュレーション」の「6. ログファイル最大容量」で設定したサイズの１／１４のサイズです。

(c) Groupmax Scheduler Server Version2.0 からバージョンアップした場合，「コンフィギュレーション」におけるログサイズの指定方法が変更になりました。下記を参照してください。

- Scheduler Server Version2.0 の場合：件数指定
- Scheduler Server Version 3，Version 5，Version 6 の場合：総容量指定

(d) GroupAppomouse/Server 01-00 からのバージョンアップ時においてくスケジュール格納ディレクトリ＞ /etc ディレクトリに oldserverlist ファイルが存在している場合，GroupAppomouse/Server 01-00 の Server が存在しないことを確認の上，すべての Server 上のファイル (oldserverlist) を削除してください。

(e) Version 5 以前のバージョンに付属の管理ツールを使用した場合，管理データの取得はできる場合もありますが，転送はできません（成功したように見えますが，実際には転送されていません）ので，Version 5 以前に付属の管理ツールは使用しないでください。

(f) Version 6 の管理ツールで，Version 5 以前のサーバと接続しようとした場合，管理データの取得はできますが，転送はできません。サーバと管理ツールは，必ず同じバージョンのものを使用してください。

(g) アンインストールを実行する際，同一マシン内に Version2.0 の Scheduler Server または Facilities Manager がインストールされている場合は，先に

Version2.0 の Scheduler Server または Facilities Manager をアンインストールしてください。

(h) indxget のエラー発生時の仕様が Version 5 から変わりました。Version 3 までは，indxget の実行中にエラーが生じた場合，それまでに更新したユーザ情報は反映されたままとなります。Version 5，Version 6 では，indxget の実行中にエラーが生じた場合，ユーザ情報は反映されずに実行前の状態に戻ります。Address Server から出力される変更通知情報も，実行前の状態に戻ります。

(i) 以下のコマンドのリターンコードを変更しましたのでご注意ください。

- GetAdAll
- indxget

リターンコード	Version 3 以前	Version 5，Version 6
正常終了	1	0
異常終了	0	1

(j) Version 3 にて AppoMan.ini ファイルに以下の記述をしていた場合，これらのオプションは Version 5 以降ではデフォルトとして動作するため，記述は不要です。

SockOptSV=ON
SockOptMan=ON
SockOptRMSV=ON
SockOptRMMan=ON

(k) Groupmax Scheduler Server Version2.0 02-30 からサポートした参照拒否，および予約権限を設定した場合，利用するクライアントのバージョンによっては動作が以下のように異なります。

1. クライアントのバージョンが 01-02 以前の場合
   - 参照拒否が設定されているメンバーを参照しようとしたとき
     ダミースケジュール※1が表示されます。(週間スケジュール上では略記は表示されません。)
   - 予約不可が設定されているメンバーに予約しようとしたとき
     エラーメッセージ「・・に予約できませんでした。」が表示され，予約できません。
2. クライアントのバージョンが 01-10 ～ 02-20 の場合
   - 参照拒否が設定されているメンバーを参照しようとしたとき
     ダミースケジュール※1が表示されます。
   - 予約不可が設定されているメンバーに予約しようとしたとき
     エラーメッセージ「・・に予約できませんでした。」が表示され，予約できません。
3. クライアントのバージョンが 02-30 以降の場合
   - 参照拒否が設定されているメンバーを参照しようとしたとき
     メンバ選択画面から直接選択した場合は，「・・には参照拒否権限が設定されています。」のメッセージが出力され，選択できません。
     グループ選択から選択した場合，あるいは終了時保存をしている場合で起

動時のウィンドウに参照拒否が設定されているメンバーが存在するとき，タイトルバーに「参照拒否」と表示されるか，またはそのメンバーのボタンが淡色表示されます。

- 予約不可が設定されているメンバーに予約しようとしたとき
  エラーメッセージ「予約権限がありません。」が表示され，予約できません。
  ※１：ダミースケジュールは，０：００～２４：００のスケジュールで，行先，用件，メモには「※参照拒否権限が設定されています。」，行先区分は管理ツール上で１に設定された色，略記には「※拒否」が設定されます。

(l) マルチサーバ構成でかつ，サーバのバージョンが Version 5 以降と Version 3 が混在する場合，Version 5 以降のクライアントから使用する新機能について以下の 注意事項があります。

- イベント，拡張スケジュール，ユーザ検索機能は，サーバが Version 5 以降でかつ，クライアントが Version 5 以降であるときに使用できます。
- ユーザ検索機能において，ホームサーバが Version 3 のサーバであるユーザを検索することはできますが，「ユーザ検索結果一覧」ウィンドウから「階層表示」ボタンを押下しても階層を表示することは出来ません。
- イベントの予約は，ホームサーバが Version 3 のサーバであるユーザに対して行えません。
- 拡張スケジュールを含む予約は，ホームサーバが Version 3 のサーバであるユーザに対して行えません。

(m) Version 5 から Assist 連携機能を使用している場合，バージョンアップして Assist 連携機能の使用を再開する前にホームサーバー一覧を作成する必要があります。作成方法については，「5.1. Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能」の「(3) 設定事項」「(b) ホームサーバー一覧ファイル」を参照してください。

(n) Version 5 から Assist 連携機能を使用している場合，設定変更ファイルの設定項目のうち AgentControl の設定が無効になります。詳細は，「5.1. Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能」の「(7) ユーザのホームサーバ移動」を参照してください。

付録E　サーバホスト名が変更された場合

Scheduler ServerまたはFacilities Managerが動作しているサーバのホスト名を変換した場合，スケジュールデータを継続して使用するにはスケジュールデータの変換が必要です。データを継続して使用したい場合は，以下の手順（1）（2）にしたがって作業を行ってください。

注意　スケジュールデータの変換作業中は，必ずScheduler ServerおよびFacilities Managerを停止してから行ってください。また，作業をする場合，緊急時のリカバリとして事前にスケジュールデータ・管理データのバックアップをとってから行ってください。

(1) サーバ側の手順

1. スケジュールデータ・管理データのバックアップをとります。
2. AddressServer上で，各ユーザのホームサーバ名を変更します。(Address連携していない場合は不要です。)
3. 親サーバで「コンフィギュレーション」から［手動実行］で［ユーザ情報再作成］を実行するか，「GetAdAll」コマンドを実行してください。(Address連動していない場合，施設の場合は不要です。)
4. すべての子サーバで管理データの取得をしてください。(1台だけの運用の場合は不要です。)
5. すべてのサーバで「HOSTCHG」コマンドを実行してください。

(2) クライアント側の手順（HOSTCHGコマンド実行前に，すべてのクライアントで実行する必要があります。また，WWW for Schedulerの場合は不要です）

1. Scheduler Clientを起動します。
2. 「ツール」-「環境設定」を選択します。
3. 「ユーザ情報の保存」を「サーバで保存」にします。

(3) HOSTCHGコマンドを実行しない場合の手順

HOSTCHGコマンドの実行には時間を要するため，HOSTCHGコマンドの代わりにgrpchgコマンドを代用することができます。ただし，以下の条件をすべて満たしている必要があります。

- Address連携機能を使用している
- 施設管理機能（Facilities Manager）を使用していない

grpchgコマンドで代用する場合，上記（1）（2）の手順内でHOSTCHGと記述している部分を，grpchgに置換えて（1）（2）を実行してください。grpchgコマンドで代用した場合，以下の制限事項があります。

- サーバホスト名の変更後，クライアント起動時に自動的に表示していたスケジュールを表示できません。
- 「HOSTCHG」コマンドについては，「7.3 「HOSTCHG」について」を参照してください。
- 「ユーザ情報の再作成」については，「4.1.3 .Address Serverのユーザ情報取得方法」を参照してください。
- 「GetAdAll」コマンドについては，「7.1 「GetAdAll」について」を参照してくだ

さい。

- 「grpchg」コマンドについては，「7.8 グループファイル変換ツール「grpchg」について」を参照してください。

付録Ｆ　スケジュールデータの移動

ユーザまたは施設のホームサーバの移動をする場合，スケジュールデータを継続して使用するにはスケジュールデータの変換・移動が必要です。データを継続して使用したい場合は，以下の手順（1）（2）にしたがって作業を行ってください。

注意　スケジュールデータの移動作業中は必ずScheduler ServerおよびFacilities Managerを停止してから行ってください。また，作業をする場合，緊急時のリカバリ用に事前にスケジュールデータ・管理データのバックアップをとってから行ってください。

(1) サーバ側の手順

注意　スケジュールデータの移動後，移動元のサーバでScheduler Serverが起動されない場合，付録Eの注意に記載されている「クライアントの設定」についての作業が必要となります。

1. スケジュールデータ・管理データのバックアップをとります。
2. Address Server上で，各ユーザのホームサーバ名を変更します。
3. Scheduler Server，Facilities Managerの管理ツールサーバ（AppoMan，RoomMan）が起動している場合，停止してください。
4. 「コンフィギュレーション」から［手動実行］で［変更通知情報取得］を実行するか，「indxget」コマンドを実行してください。（Address連動していない場合，施設の場合は不要です。）
5. Scheduler Server，Facilities Managerの管理ツールサーバ（AppoMan，RoomMan）を起動してください。
6. すべての子サーバで管理データの取得をしてください。（1台だけの運用の場合は不要です。）
7. 「BITECHG」コマンドを実行してください。（UNIXからUNIXへの転送の場合は不要です。）
8. 移動するユーザのデータを移動先のサーバにバイナリモードで転送します。
9. 移動元のサーバ上でバックアップしたスケジュールデータをもとに戻します。（UNIXからUNIXへの転送の場合は不要です。）
10. 移動元のサーバ上にある，移動したユーザディレクトリを削除してください。
11. すべてのサーバで移動対象ユーザについて「HOSTCHG」コマンドを実行してください。

(2) クライアント側の手順（HOSTCHGコマンド実行前に，すべてのクライアントで実行する必要があります。また，WWW for Schedulerの場合は不要です）

1. Scheduler Clientを起動します。
2. 「ツール」-「環境設定」を選択します。
3. 「ユーザ情報の保存」を「サーバで保存」にします。

(3) HOSTCHGコマンドを実行しない場合の手順

HOSTCHGコマンドの実行には時間を要するため，HOSTCHGコマンドの代わりにgrpchgコマンドを代用することができます。ただし，以下の条件をすべて満たしている必要があります。

- Address連携機能を使用している
- ユーザのスケジュールデータのみを移動する
  (施設のスケジュールでは移動しない)

grpchgコマンドで代用する場合，上記（1）（2）の手順内でHOSTCHGと記述している部分を，grpchgに置換えて（1）（2）を実行してください。grpchgコマンドで代用した場合，以下の制限事項があります。

- サーバホスト名の変更後，クライアント起動時に自動的に表示されるスケジュールが，自分または上司のスケジュールの場合，登録・削除・回答ができない。
- 「indxget」コマンドについては，「7.2 「indxget」について」を参照してください。
- 「HOSTCHG」コマンドについては，「7.3 「HOSTCHG」について」を参照してください。
- 「BITECHG」コマンドについては，「7.4 「BITECHG」について」を参照してください。
- 「grpchg」コマンドについては，「7.8 グループファイル変換ツール「grpchg」について」を参照してください。

付録G　スケジュール格納ディレクトリを変更した場合

「コンフィギュレーション」の設定で，スケジュール格納ディレクトリを変更した場合，変更前のスケジュール格納ディレクトリ下のディレクトリを「コンフィギュレーション」で設定したディレクトリ下に移動してください。スケジュール格納ディレクトリには以下のディレクトリが存在します。

- etc （ユーザ情報格納ディレクトリ）
- log （ログ出力用ディレクトリ）
- room（施設情報格納ディレクトリ）*1
- 各ユーザのスケジュールデータ

*1：Groupmax Facilities Manager と混在使用している場合にだけ存在します。

付録H　Assist 連携時と「SFdatacp」実行時のエラーメッセージ

Assist 連携時と「SFdatacp」実行時に出力するメッセージの一覧を下記に示します。なお，フォーマットはすべて共通で以下の通りとなります。表中の「x」は，任意の名前，または数字です。

フォーマット

日付，時間，スレッドＩＤ，メッセージＩＤ，処理種別，メッセージ内容

内容

(1) 日付　　：ＹＹＹＹ／ＭＭ／ＤＤの形式（西暦）（１０バイト）
(2) 時間　　：ＨＨ：ＭＭ：ＳＳの形式（８バイト）
(3) スレッドＩＤ　：プロセスＩＤ（５バイト）
(4) メッセージＩＤ　：メッセージＩＤ（５バイト）
(5) 処理種別　　：Ｉ 通常のメッセージ
　　Ｅ エラーメッセージ
　　Ｗ 警告メッセージ
(6) メッセージ内容　：以下の表に主要なものを示します。

(1) Assist 連携時のメッセージ

Assist 連携機能のログファイルの格納場所は以下の通りです。

＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent/SFagent.log
　・・・過去分も含む Assist 連携のログファイル
＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent/ScheExec.log
　・・・直前に実行した Assist 連携の１回分のログファイル

項番	メッセージ内容	対処
1	親サーバ設定でないため，Assist 連携機能を実行できません	「コンフィギュレーション」の設定で親サーバの設定を確かめてから，親サーバで以下のコマンド実行してください。コマンド実行後，再度ログファイルで実行結果を確認してください。 SFagent [/f logfile_name]
2	ホームサーバー一覧ファイルが存在しません	ホームサーバー一覧が存在しません。「4.5 DNS ホスト名の登録」の「(2) Assist 連携用ホームサーバー一覧作成」を参照してホームサーバー一覧を作成してから，以下のコマンド実行してください。コマンド実行後，再度ログファイルで実行結果を確認してください。 SFagent [/f logfile_name]
3	親サーバの更新禁止設定処理でエラーが発生しました	親サーバで他の処理が実行中であるか，親サーバで管理ツールサーバが起動していない可能性があります。詳しくは，ログファイルを確認してください。 エラーとなる原因を取り除いたら，以下のコマンドを実行してください。コマンド実行後，再度ログファイルで実行結果を確認してください。 SFagent [/f logfile_name]

項番	メッセージ内容	対処
4	親サーバの管理データ更新処理でエラーが発生しました	親サーバの管理ツールサーバが起動していることを確認して，以下のコマンドを実行してください。コマンド実行後，再度ログファイルで実行結果を確認してください。 SFagent [/f logfile_name]
5	管理ツールサーバ起動確認処理でエラーが発生しました	ホームサーバ一覧の内容に誤りがあるか，一覧に記載されたサーバの管理ツールサーバが起動していない可能性があります。 管理ツールでホームサーバ一覧の内容を確認し，すべての管理ツールサーバの起動も確認してから，以下のコマンドを実行してください。コマンド実行後，再度ログファイルで実行結果を確認してください。 SFagent [/f logfile_name]
6	親サーバのホームサーバリカバリ処理でエラーが発生しました	以下のコマンドを実行してください。コマンド実行後，再度ログファイルで実行結果を確認してください。 SFagent.exe [/f logfile_name]
7	子サーバの更新禁止設定処理でエラーが発生しました	1. すべての管理ツールサーバが起動していることを確認してください。 2. 親サーバから以下のコマンドを実行してください。 agtcout 3. すべての子サーバで管理データの取得を実行してください。
8	子サーバの管理データ取得処理でエラーが発生しました	同上
9	子サーバの更新禁止解除処理でエラーが発生しました	すべての管理ツールサーバが起動していることを確認して，親サーバで以下のコマンドを実行してください。 agtcout
10	親サーバの更新禁止解除処理でエラーが発生しました	同上
11	ユーザのホームサーバ移動が発生しました	ユーザのホームサーバ移動が発生しました。「5.1 Groupmax Address - Assist の Groupmax 連携機能」の「(6) 確認事項」を参照して移動者一覧ファイルの存在と内容を確認してください。 その後，「(7) ユーザのホームサーバ移動」を参照してデータの移行をしてください。
12	復旧処理開始：xxxxxxx を元に戻します	エラーが発生したため，回復処理を行いました。ログを参照してエラー原因を取り除いてから，以下のコマンド実行してください。コマンド実行後，再度ログファイルで実行結果を確認してください。 SFagent [/f logfile_name]

(2) agtcout のメッセージ

agtcout のログファイルの格納場所は以下の通りです。Assist 連携時と同じログファイルに出力されます。

＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/agent/SFagent.log

・・・過去分も含むAssist連携のログファイル
＜スケジュール格納ディレクトリ＞/log/agent/ScheExec.log
・・・直前に実行したAssist連携の1回分のログファイル

項番	メッセージ内容	対処
1	親サーバ設定でないため，全サーバ更新設定解除コマンドを実行できません	コンフィギュレーションの設定で親サーバの設定を確かめてから，親サーバで再度agtcoutコマンドを実行してください。
2	親サーバで更新禁止解除に失敗しました	親サーバで再度agtcoutコマンドを実行してください。
3	管理ツールサーバ起動確認処理に失敗しました	子サーバで管理ツールサーバが起動していない可能性があります。すべての子サーバで管理ツールサーバが起動していることを確認して，再度agtcoutコマンドを実行してください。
4	子サーバで更新禁止解除に失敗しました	更新禁止解除に失敗した子サーバがあります。その前出力されているログメッセージを参照して原因を排除した後，再度agtcoutコマンドを実行してください。
5	Assist連携機能が動作中のため実行できません	Assist連携機能，あるいはSFdatacpが実行中です。しばらくたってから再度agtcoutを実行してください。

(3)「SFdatacp」実行時のメッセージ

SFdatacpの詳細ログファイルの格納場所は以下の通りです。

＜スケジュール格納ディレクトリ＞/log/agent/＜処理ＩＤ＞/SFdatacp.log

・・・SFdatacpの詳細ログファイル

＜処理ＩＤ＞は，SFdatacpを実行したタイミング割り振られた１４桁のＩＤです。

項番	メッセージ内容	対処
1	他の処理が動作中のため実行できません	Assist連携機能，あるいはagtcoutが実行中です。しばらく待ってから再実行してください。
2	管理ツールサーバ起動確認・サーバ停止確認処理でエラーが発生しました	システム内の管理ツールサーバが停止しているか，サーバが起動している可能性があります。システム内の管理ツールが起動していることとサーバが停止していることを確認して再実行してください。
3	管理ツールサーバの排他ロック設定処理でエラーが発生しました	管理ツールサーバの排他ロック設定処理でエラーが発生しました。管理ツールサーバが起動していることを確認して再実行してください。

付録H　Assist連携時と「SFdatacp」実行時のエラーメッセージ

項番	メッセージ内容	対処
4	ユーザのホームサーバ移動処理で続行不可能なエラーが発生しました	移動者一覧ファイルの内容が不正な可能性があります。ログを参照してエラー詳細内容を確認してください。エラー原因を取り除いてから，取得したバックアップからデータをすべて元に戻しSFdatacpを再実行してください。 対処法の詳細は，「5.2 ホームサーバ移動ツール「SFdatacp」について」の「(7) エラー発生時の対処」「(a) すべて再実行する方法」を参照してください。
5	ホームサーバ移動処理に失敗したユーザがいます	ログを参照してエラー詳細内容を確認してください。エラー原因を取り除いてから，SFdatacpを再実行してください。この場合は，失敗したユーザだけ再実行されます。 対処法の詳細は，「5.2 ホームサーバ移動ツール「SFdatacp」について」の「(7) エラー発生時の対処」「(b) エラーとなったユーザだけ再実行する方法」を参照してください。
6	ユーザのホームサーバ更新処理で続行不可能なエラーが発生しました	ログを参照してエラー詳細内容を確認してください。エラー原因を取り除いてから，取得したバックアップからデータをすべて元に戻しSFdatacpを再実行してください。 対処法の詳細は，「5.2 ホームサーバ移動ツール「SFdatacp」について」の「(7) エラー発生時の対処」「(a) すべて再実行する方法」を参照してください。
7	ホームサーバ移動処理・ホームサーバ更新処理に成功したユーザはいませんでした	移動者一覧ファイルにエントリしたユーザずべてでホームサーバ移動・更新処理に失敗しました。ログを参照してエラー原因を取り除いてから，SFdatacpを再実行してください。この場合は，失敗したユーザ，すなわち全ユーザについて再実行されます。 対処法の詳細は，「5.2 ホームサーバ移動ツール「SFdatacp」について」の「(7) エラー発生時の対処」「(b) エラーとなったユーザだけ再実行する方法」を参照してください。
8	ホームサーバ更新処理に失敗したユーザがいます	ログを参照してエラー原因を取り除いてから，SFdatacpを再実行してください。この場合は，失敗したユーザだけ再実行されます。 対処法の詳細は，「5.2 ホームサーバ移動ツール「SFdatacp」について」の「(7) エラー発生時の対処」「(b) エラーとなったユーザだけ再実行する方法」を参照してください。
9	子サーバの管理データの取得処理でエラーが発生しました	すべての子サーバで管理データの取得を実行したあと，親サーバを含むすべてのサーバでgrpchgを実行してください。
10	グループファイルの更新処理でエラーが発生しました	親サーバを含むすべてのサーバでgrpchgを実行してください。

付録H　Assist連携時と「SFdatacp」実行時のエラーメッセージ

項番	メッセージ内容	対処
11	管理データ取得・グループファイルの更新処理で何らかのエラーが発生しました	すべての子サーバで管理データの取得を実行したあと，親サーバを含むすべてのサーバでgrpchgを実行してください。
12	管理ツールサーバの排他ロック解除処理でエラーが発生しました	親サーバでagtcoutを実行してください。

付録I　ユーザ ＩＤ の変更

ユーザ ＩＤ・施設 ＩＤ の変更をする場合，以下の手順にしたがって作業を行ってください。スケジュールデータ・管理データ中のユーザ ＩＤ・施設 ＩＤ が変換されます。

注意　スケジュールデータ・管理データの変換作業中は，必ず Scheduler Server および Facilities Manager を停止してから行ってください。

1. スケジュールデータ・管理データのバックアップをとります。
2. すべてのサーバで対象ユーザについて，「CODECHG」コマンドを実行してください。
   - 「CODECHG」コマンドについては，「7.5 「CODECHG」について」を参照してください。

Address Server と連動した運用環境で，ユーザ ID の変更を行なう場合，次の手順にしたがってユーザ ID を変更してください。Facilities Manager を使用していない場合，以下の手順の Facilities Manager に関する操作は不要です。

1. サーバ（SV，RMSV）と管理ツールサーバ（AppoMan，RoomMan）を停止してください。
2. スケジュールデータ・管理データのバックアップを取ってください。
3. すべてのサーバで対象ユーザについて，「CODECHG」コマンドを実行してください。
4. Address Server 上で対象ユーザ ID の変更を行なってください。
5. 親サーバにて，「コンフィギュレーション」から，「変更通知情報取得」または「ユーザ情報再作成」を実行してください。「変更通知情報取得」または「ユーザ情報再作成」については，「3.1.1 Scheduler Server の環境設定」の「(6) 手動実行」を参照してください。
6. 管理ツールサーバおよび，（AppoMan，RoomMan）を起動してください。
7. マルチサーバ構成時の場合は，すべての子サーバで「管理データ取得」を実行してください。「管理データ取得」については，「3.1.1 Scheduler Server の環境設定」の「(6) 手動実行」を参照してください。
8. サーバ（SV，RMSV）起動してください。

付録J　G/W 通信を異なるポート番号で運用する場合

デフォルトでは自システムの G/W ホストと他システムの G/W ホストは，各システムの Scheduler Server で設定しているポート番号（サービス名 ikisaki）を使用して通信します。したがって，デフォルトの状態で自システムと他システム間で G/W 通信をする場合，自システムで設定しているポート番号と，他システムで設定しているポート番号を同一にする必要があります。

ここでは，自システムと，他システムで設定しているポート番号が異なっている場合に，自システムと他システム間で G/W 通信をする設定方法について述べます。

以下の手順では，システム A ではポート番号を 20013，システム B ではポート番号を 40000 で運用している場合に，システム A とシステム B の G/W 通信に関する設定について述べます。

システム A における設定：

1. 管理ツールから「管理データの取得」を選択してください。
2. [オプション] − [DNS ホスト名] メニューを選択してください。
3. DNS ホスト名入力エリアに，システム B のホスト名＋「：」＋ 40000 を入力してください。
   例) HOSTB:40000
   既にシステム B のホスト名を登録済みの場合は，システム B のホスト名を削除してから登録してください。
   また，既にシステム A とシステム B の G/W 通信に関する設定をしている場合，G/W 通信に関する設定を削除してください。
4. 以後の作業は「4.6.2 他システムと接続する場合（G/W 通信を行なう場合)」に従って，設定してください。この時，管理ツールの「テーブルの登録・変更・参照」ウィンドウの「他システム G/W ホスト名」には，一覧から「HOSTB:40000」を選択してください。

システム B における設定：

5. 管理ツールから「管理データの取得」を選択してください。
6. [オプション] − [DNS ホスト名] メニューを選択してください。
7. DNS ホスト名入力エリアに，システム A のホスト名＋「：」＋ 20013 を入力してください。
   例) HOSTA:20013
   既にシステム A のホスト名を登録済みの場合は，システム A のホスト名を削除してから登録してください。
   また，既にシステム A とシステム B の G/W 通信に関する設定をしている場合，G/W 通信に関する設定を削除してください。
8. 以後の作業は「4.6.2 他システムと接続する場合（G/W 通信を行なう場合)」に従って，設定してください。この時，管理ツールの「テーブルの登録・変更・参照」ウィンドウの「他システム G/W ホスト名」には，一覧から「HOSTA:20013」を選択してください。

同一ポート番号の運用を，異なるポート番号に変更して運用する場合，次の注意事項があります。

付録J　G/W通信を異なるポート番号で運用する場合

注意　これまでに他システムのユーザから受けた予約スケジュールは回答できません。ただし，設定変更後の予約スケジュールは，通常通り回答できます。

付録Ｋ　ログファイルのフォーマット説明

ログファイルにより，クライアントの利用状況を集計することができます。CSV形式で出力されますので，集計には市販の表計算ソフトをご利用ください。

ログファイル格納場所

＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/LOGSV.log
・・・Groupmax Scheduler Server のログファイル
＜スケジュール格納ディレクトリ＞ /log/LOGRMSV.log
・・・Groupmax Facilities Manager のログファイル
＜スケジュール格納ディレクトリ＞のデフォルトは，/usr/iki です。

フォーマット

日付，時間，処理実行ユーザＩＤ，処理対象ユーザＩＤまたはファイル名，処理種別

内容

(1) 日付　　：ＹＹＹＹ／ＭＭ／ＤＤの形式（西暦）（１０バイト）
(2) 時間　　：ＨＨ：ＭＭ：ＳＳの形式（8バイト）
(3) 処理実行ユーザＩＤ：アクセスしたユーザＩＤ（１０バイト）
(4) 処理対象ユーザＩＤ：(3) のユーザが処理対象とするユーザＩＤまたはファイル名（１０バイト）
(5) 処理種別　　：以下の表に示します。

注意　各内容は，「,」で区切られています。１レコードは，改行コードもあわせて４５～４６バイトです。

注意　サーバを稼働中にこのファイルを参照すると，サーバのログ書き込み処理に失敗することがあります。このログファイルを使用する場合は，必ずサーバを停止し，ログファイルをコピーしてから参照するようにしてください。

Scheduler Server/Facilities Manager 共通の処理種別

項番	処理種別	内容
1	l	ログイン
2	r	他者への予約
3	re	他者へのイベント予約
4	a	予約回答
5	x	予約削除
6	w	自スケジュール登録
7	we	自イベント登録
8	d	自スケジュール削除
9	c	スケジュール複写
１０	ce	イベント複写
１１	t	スケジュール期間読み出し
１２	o	スケジュール詳細読み出し
１３	z	スケジュール期間詳細読み出し
１４	s	受信・発信リスト読み出し
１５	s2	受信・発信リスト読み出し

項番	処理種別	内容
16	h	個人休日の設定
17	tw	タスク登録
18	td	タスク削除
19	tc	タスク完了
20	tx	完了タスク一括削除
21	cw	タスク連絡先登録
22	cd	タスク連絡先削除
23	tf	空き時間検索
24	kf	キーワード検索
25	pc	パスワード変更
26	uf	ユーザ検索
27	p	拡張スケジュール登録
28	j	拡張スケジュール読み出し
29	g	Gateway 処理
30	k	サーバ停止
31	?	その他の処理

Facilities Manager 固有の処理種別

項番	処理種別	内容
1	rt	スケジュール期間読み出し
2	ro	スケジュール詳細読み出し
3	rw	スケジュール登録
4	rd	スケジュール削除
5	rc	スケジュール複写
6	rr	予約実行
7	rx	予約削除
8	ra	予約回答
9	ri	情報登録
10	rf	設備・空き時間検索
11	rz	スケジュール期間詳細読み出し
12	rm	予約変更
13	kr	キーワード検索
14	rp	拡張スケジュール登録
15	rj	拡張スケジュール読み出し

- 稼働中バックアップコマンドを実行すると，ログファイル（LOGSV.log, LOGRMSV.log）に，「?」の処理種別が出力されます。また，このとき，ログファイルに出力される処理実行ユーザＩＤと処理対象ユーザＩＤは空白となります。詳細は，移動中バックアップ機能の取扱説明書を参照してください。

付録Ｌ　実行ユーザの変更

Scheduler Server および Facilities Manager は，デフォルトでは root で実行しますが，以下の手順を実行することにより，実行ユーザの変更ができます。この作業をすることにより，プログラムファイルおよび管理データ，スケジュールデータのファイルおよびディレクトリの所有者を変更します。なお，Address Server と連動している場合は，Address Server のシステム管理者と同一ユーザを指定してください。また，Scheduler Server と Facilities Manager についても同一ユーザでのみ実行できます。

1. root でログインします。
2. サーバおよび管理ツールサーバが起動している場合は，サーバおよび管理ツールサーバを停止します。
3. スケジュールデータ・管理データのバックアップをとります。
4. 以下の表に示すディレクトリ／ファイルに対して次の操作を行ってください。
   （1）chgrp コマンドを用いて，グループを変更したい実行ユーザと同じグループに変更する。
   （2）chown コマンドを用いて，所有者を変更したい実行ユーザに変更する。
   所有者変更ディレクトリ／ファイル一覧

	ディレクトリ名／ファイル名	種別
1	/usr/bin/aconsole	ファイル
2	/usr/bin/AppoMan	ファイル
3	/usr/bin/brc.appo	ファイル
4	/usr/bin/SV	ファイル
5	/usr/bin/brc.Appoarea	ファイル
6	/usr/bin/roomconsole	ファイル
7	/usr/bin/RMSV	ファイル
8	/usr/bin/RoomMan	ファイル
9	/usr/bin/AppoMan.ini	ファイル
10	/groupmax/bin/SCHpreBK	ファイル
11	/groupmax/bin/SCHstpBK	ファイル
12	/groupmax/bin/SCHstrBK	ファイル
13	/usr/GroupAppo	ディレクトリ
14	/usr/GroupAppo 以下全てのディレクトリ／ファイル	ディレクトリ／ファイル
15	<スケジュール格納ディレクトリ>	ディレクトリ
16	<スケジュール格納ディレクトリ>*以下全てのディレクトリ／ファイル	ディレクトリ／ファイル

＜スケジュール格納ディレクトリ＞：[3.1.1(1) または 3.1.2(1) コンフィギュレーションの設定] の［1. スケジュール格納ディレクトリの設定］で設定したスケジュール格納ディレクトリを指定してください。デフォルトは，/usr/iki です。
各ファイルの内容については，「付録 A データファイルの説明」を参照してください

- 上記４．の操作を一度に実行するシェルスクリプトのサンプルを /usr/

GroupAppo/bin/usrchg に用意してあります。
スクリプトの変数 USERNAME と GRPNAME を変更する実行ユーザにあわせて設定したのち，以下のように実行してください。

/usr/GroupAppo/bin/usrchg

必要なディレクトリ／ファイルの所有者をすべて変更することができます。なお，各コマンドのパスは，OS に依存しますので必要に応じてスクリプト usrchg を修正してください。

5. 自動起動の設定をする場合は，/etc/localrc の最後に次の内容を書き加えてください。
以下に注意があります。
   - HP-UX，AIX の場合は /etc/localrc ではなく，スタートアップ・スクリプトに追加してください。

また，すでに［3.2.1(2) また 3.2.2(2) 自動起動の設定］で自動起動の設定を行っている場合も以下のように修正してください。ここでは，実行ユーザとして「suzuki」を指定した場合の例を以下に示します。
Scheduler Server の自動起動

```
if test -x /usr/bin/brc.appo
then

/bin/su - suzuki -c /usr/bin/brc.appo

fi
```

Facilities Manager の自動起動

```
if test -x /usr/bin/brc.Appoarea
then

/bin/su - suzuki -c /usr/bin/brc.Appoarea

fi
```

6. 変更したユーザで再ログインしてください。
7. 直ちにサーバおよび管理ツールサーバを起動したい場合は，手動で実行してください。手動で実行する場合は，以下の手順で行ってください。
［Scheduler Server の起動］
（1）aconsole を起動します。
コマンド：/usr/bin/aconsole
（2）サーバ（SV）を起動します。
「2. サーバの起動」を選択してください。コマンド：/usr/bin/SV が実行されます。
（3）管理ツールサーバ（AppoMan）を起動します。
「4. 管理ツールサーバの起動」を選択してください。コマンド：/usr/bin/AppoMan が実行されます。

付録L　実行ユーザの変更

[Facilities Manager の起動]

（1）roomconsole を起動します。

コマンド：/usr/bin/roomconsole

（2）サーバ（RMSV）を起動します。

「2. サーバの起動」を選択してください。コマンド：/usr/bin/RMSV が実行されます。

（3）管理ツールサーバ（RoomMan）を起動します。

「4. 管理ツールサーバの起動」を選択してください。コマンド：/usr/bin/RoomMan が実行されます。

注意

- 実行ユーザ名は，必ず UNIX 上に定義されているユーザ名を指定してください。
- Address Server と連動している場合，実行ユーザ名は，Address Server のシステム管理者と同じユーザを設定してください。違うユーザを指定した場合，GetAdAll，indxget および「コンフィギュレーション」の「ユーザ情報再生成」，「変更通知情報取得」を実行するとエラーとなります。
- Scheduler Server と Facilities Manager では，必ず同一のユーザを指定してください。
- サーバ・管理ツールサーバを起動する前に，ファイル・モード作成マスクの設定が，所有者に実行・書き込み権限を与える設定になっていることを確認してください。権限が与えられていない場合は，以下に示す umask コマンド等で実行ユーザの設定を変更してください。
  「umask　022」
  また，実行時には実行ユーザの環境変数を引き継ぎますので，実行ユーザの umask の設定には注意してください。
- 実行ユーザ変更後は，Schedule Server，Facilities Manager に関するコマンド実行はすべて変更したユーザで行ってください。root を含む他のユーザで実行した場合，その後の更新処理が行えない場合があります。
  そのような場合は，再度実行ユーザ変更の手順を実行してください。
- インストール後にファイルモードの設定を変更している場合は，必ず以下の条件を満たすファイルモードに設定し直すようにしてください。
  （1）ディレクトリ・実行ファイルは，ユーザに読み取り・書き込み・実行権限あり。
  （2）その他のファイルは，ユーザに読み取り・書き込み権限あり。
- 以下の操作をした場合は，再度実行ユーザ変更の手順を実行してください。
  （1）再インストールやアップグレードを実行した場合
  （2）バックアップしたデータをリストアした場合
- マルチサーバ環境を構築している場合は，すべてのサーバで同一の実行ユーザを指定してください。
- Groupmax 統合運転席機能を使用して Scheduler Server，Facilities Manager を運用管理する場合には，Scheduler Server，Facilities Manager の実行ユーザは root にしてください。
- Groupmax Address - Assist と連携している場合，実行ユーザ名は，Address Server のシステム管理者と同じユーザを設定してください。違うユーザを設定

した場合，Assist 連携機能がエラーとなります。

サンプルスクリプト usrchg

```
#!/bin/sh

#Licensed Material of Hitachi,Ltd.
#All Rights Reserved,Copyright(C) 1999,Hitachi,Ltd.

#*********************************************************
#Please set up following variables(USERNAME,GRPNAME) in
#case of need.
#Ex. USERNAME="suzuki", GRPNAME="kaihatu1"
USERNAME="UserName is here"
GRPNAME="GroupName is here"
#*********************************************************

if  /bin/grep "^$USERNAME:" /etc/passwd > /dev/null
then
        :
else
        /bin/echo  "$USERNAME is not a valid Username"
        exit 1
fi

if  /bin/grep "^$GRPNAME:" /etc/group > /dev/null
then
        :
else
        /bin/echo  "$GRPNAME is not a valid Groupname"
        exit 1
fi

BINPATH="/usr/bin"
APPOPATH="/usr/GroupAppo"
GMAXPATH="/groupmax/bin"
ININAME="/usr/bin/AppoMan.ini"
SCHEPATH=`/bin/grep SchedulePath $ININAME | /usr/bin/cut -c14-`

if test -f "$BINPATH/AppoMan"
then
        /bin/chgrp $GRPNAME $BINPATH/AppoMan
        /bin/chown $USERNAME $BINPATH/AppoMan
fi
```

```
if test -f "$BINPATH/RoomMan"
then
        /bin/chgrp $GRPNAME $BINPATH/RoomMan
        /bin/chown $USERNAME $BINPATH/RoomMan
fi

if test -f "$BINPATH/SV"
then
        /bin/chgrp $GRPNAME $BINPATH/SV
        /bin/chown $USERNAME $BINPATH/SV
fi

if test -f "$BINPATH/RMSV"
then
        /bin/chgrp $GRPNAME $BINPATH/RMSV
        /bin/chown $USERNAME $BINPATH/RMSV
fi

if test -f "$BINPATH/aconsole"
then
        /bin/chgrp $GRPNAME $BINPATH/aconsole
        /bin/chown $USERNAME $BINPATH/aconsole
fi

if test -f "$BINPATH/roomconsole"
then
        /bin/chgrp $GRPNAME $BINPATH/roomconsole
        /bin/chown $USERNAME $BINPATH/roomconsole
fi

if test -f "$BINPATH/brc.appo"
then
        /bin/chgrp $GRPNAME $BINPATH/brc.appo
        /bin/chown $USERNAME $BINPATH/brc.appo
fi

if test -f "$BINPATH/brc.Appoarea"
then
        /bin/chgrp $GRPNAME $BINPATH/brc.Appoarea
        /bin/chown $USERNAME $BINPATH/brc.Appoarea
fi

if test -f "$BINPATH/AppoMan.ini"
```

```
then
        /bin/chgrp $GRPNAME $BINPATH/AppoMan.ini
                /bin/chown $USERNAME $BINPATH/AppoMan.ini
fi

if test -f "$GMAXPATH/SCHpreBK"
then
        /bin/chgrp $GRPNAME $GMAXPATH/SCHpreBK
        /bin/chown $USERNAME $GMAXPATH/SCHpreBK
fi

if test -f "$GMAXPATH/SCHstpBK"
then
        /bin/chgrp $GRPNAME $GMAXPATH/SCHstpBK
        /bin/chown $USERNAME $GMAXPATH/SCHstpBK
fi

if test -f "$GMAXPATH/SCHstrBK"
then
        /bin/chgrp $GRPNAME $GMAXPATH/SCHstrBK
        /bin/chown $USERNAME $GMAXPATH/SCHstrBK
fi

if test -d $APPOPATH
then
                /bin/find $APPOPATH -print | /usr/bin/xargs /bin/chgrp
$GRPNAME
                /bin/find $APPOPATH -print | /usr/bin/xargs /bin/chown
$USERNAME
fi

if test -d $SCHEPATH
then
       /bin/find $SCHEPATH -print | /usr/bin/xargs /bin/chgrp $GRPNAME
            /bin/find $SCHEPATH -print | /usr/bin/xargs /bin/chown
$USERNAME
fi

exit 0
```

付録 M 「GetAdAll」と「indxget」の実行時におけるエラーメッセージ

エラーが発生した場合のエラーメッセージの一覧を下記に示します。なお，エラーメッセージの先頭には，[Error! :] という文字列がつきます。

表中の「x」は，任意の名前，もしくは数字です。

項番	メッセージ	対処
1	Groupmax Scheduler Server インストールパス取得失敗	Scheduler Server のインストールパスの取得ができません。正常にインストールされているか確認してください。
2	バックアップ処理失敗	スケジュール格納ディレクトリ下の etc ディレクトリを log ディレクトリの下の etc_bk ディレクトリにコピーできませんでした。etc ディレクトリに参照権限があるか確認してください。また，log ディレクトリの下の etc_bk ディレクトリに書き込み権限があるか確認してください。
3	マスターサーバではありません	Scheduler Server の子サーバで実行しています。親サーバで実行してください。
4	組織 (xxxxx) の下位情報取得失敗	その組織の下位の組織・ユーザ情報に不整合があります。Address Server の組織・ユーザ情報を確認してください。
5	メモリ確保失敗 (xxxxx)	プログラム中でメモリの確保ができませんでした。メモリの状態を確認してください。
6	ファイルを作成できません (xxxxx)	ファイルが作成できませんでした。etc ディレクトリ・log ディレクトリに書き込み権限があるか確認してください。また，ディスク容量が残っているか確認してください。
7	ファイルに書き込めません (xxxxx)	ファイル書き込みエラーが発生しました。etc ディレクトリ・log ディレクトリに書き込み権限があるか確認してください。
8	ディレクトリ (xxxxx) の内容クリア失敗	スケジュール格納ディレクトリ下の etc ディレクトリ下のファイルの削除に失敗しています。etc ディレクトリに削除権限があるか確認してください。
9	ファイルコピーの失敗 (xxx to xxx) *.*	ファイルのコピーに失敗しています。ディレクトリに書き込み権限があるか確認してください。また，コピー元のファイルが存在しているか確認してください。
10	サーバ ID が不正です	Address Server 上の Scheduler Server の定義が不正です。Address Server 上の Scheduler Server または Facilities Manager に関する定義を確認してください。
11	CopyFile() failed.(xxxxx)	ファイルのコピーに失敗しています。ディレクトリに書き込み権限があるか確認してください。また，コピー元のファイルが存在しているか確認してください。

付録M　「GetAdAll」と「indxget」の実行時におけるエラーメッセージ

項番	メッセージ	対処
12	DeleteFile() failed.(xxxxx)	ファイルが削除できませんでした。etc ディレクトリに削除権限があるか確認してください。また，ファイルが存在するか確認してください。
13	FindNextFile() failed.	スケジュール格納ディレクトリ下の etc ディレクトリ下のファイルの情報取得に失敗しています。etc ディレクトリに参照権限があるか確認してください。
14	FindClose() failed.	ディレクトリ情報参照のクローズに失敗しました。
15	GetRegValue(xxxxx:xxxxx) failed.	レジストリキーまたはAppoMan.iniファイルの参照に失敗しています。正常にインストールされているか確認してください。
16	RegOpenKeyEx() failed.(RC=xxx),xxx:xxx	レジストリキーのオープンに失敗しています。正常にインストールされているか確認してください。(Windows NT のみ)
17	RegQueryValueEx() failed.(RC=xxx),xxx	レジストリキーの読み出しに失敗しています。正常にインストールされているか確認してください。(Windows NT のみ)
18	putenv[UXPLDIR]	スケジュール格納ディレクトリ下の log ディレクトリ下にあるUXPLディレクトリの情報取得に失敗しています。正常にインストールされているか確認してください。
19	GASInit xxx [xxx]	Address Serverとの処理でエラーが発生しています。Address Server をインストール後に Scheduler Server または Facilities Manager をインストールしたか確認してください。
20	ゲスト ID の更新に失敗 (xxxx)	前の行に出力されているメッセージを確認してください。
21	Groupmax Address Server インストールパス取得失敗	Address Serverのインストールパスの取得ができません。正常にインストールされているか確認してください。
22	差分ファイル数取得失敗	Address Serverからの変更通知ファイルの情報取得に失敗しています。/usr/GroupMail (HP-UX, AIX の場合は /var/opt/GroupMail) 下の Groupmax/GroupApp ディレクトリに参照権限があるか確認してください。
23	差分ファイル名取得失敗	同上
24	差分ファイル名 (xxxxx) 処理失敗	同上
25	ファイル情報取得失敗。_stat(xxxxx)	スケジュール格納ディレクトリ下の etc ディレクトリ下のファイルの情報取得に失敗しています。etc ディレクトリに参照権限があるか確認してください。
26	最上位組織変更処理失敗	前の行に出力されているメッセージを確認してください。
27	最上位組織追加処理失敗	同上
28	最上位組織削除処理失敗	同上
29	組織変更処理失敗	同上

付録M　「GetAdAll」と「indxget」の実行時におけるエラーメッセージ

項番	メッセージ	対処
30	組織追加処理失敗	同上
31	組織削除処理失敗	同上
32	組織種別が異常です(x)	同上
33	ユーザ変更処理失敗	同上
34	ユーザ追加処理失敗	同上
35	ユーザ削除処理失敗	同上
36	処理区分が異常です(x)	同上
37	兼任ユーザ(xxxxx)のセキュリティランク取得失敗	Address Serverに登録されている兼任ユーザの情報を確認してください。
38	兼任ユーザ(xxxxx)の主体ユーザＩＤ取得失敗	同上
39	ファイル作成失敗(xxxxx)	ファイルが作成できませんでした。etcディレクトリ・logディレクトリに書き込み権限があるか確認してください。また，ディスク容量が残っているか確認してください。
40	兼任ユーザ(xxxxx)のサーバ名取得失敗	同上
41	ファイル削除失敗(xxxxx)	ファイルが削除できませんでした。etcディレクトリに削除権限があるか確認してください。また，ファイルが存在するか確認してください。
42	ファイルオープン失敗(xxxxx)	ファイル書き込みエラーが発生しました。etcディレクトリ・logディレクトリに参照権限があるか確認してください。また，ファイルが存在するか確認してください。
43	ファイルを読めません(xxxxx)	ファイル読み取りエラーが発生しました。etcディレクトリ・logディレクトリに読み取り権限があるか確認してください。また，ファイルが存在するか確認してください。
44	readDiffRec() failed.(xxxxx)	Address Serverからの変更通知ファイルの情報取得に失敗しています。差分情報ファイルの内容を確認してください。
45	ReadFile(xxxxx) failed.	同上
46	comConvCSVtuSTRUCT() failed.	同上
47	orgConvCSVtuSTRUCT() failed.	同上
48	userConvCSVtuSTRUCT() failed.	同上
49	SetFilePointer() failed.(xxxxx)	同上
50	MoveFile() failed.(xxxxx)	ファイルの移動に失敗しています。ディレクトリに書き込み権限があるか確認してください。また，移動元のファイルが存在しているか確認してください。
51	役職情報を取り込んでいないためソートできません	ユーザ管理情報の再作成を一度実行してからソートを行ってください。
52	役職定義情報一覧取得処理失敗	Address Serverが正常に動作しているか確認してください。
53	役職定義情報が設定されていないのでソート処理を実行できません	Address Server上で役職定義を行ってから実行してください。

付録 M　「GetAdAll」と「indxget」の実行時におけるエラーメッセージ

項番	メッセージ	対処
54	組織ファイル名の一覧リストの取得に失敗しました	ユーザ管理情報が不当になっている可能性があります。ユーザ管理情報を再作成してください。
55	組織ファイル(xxxxx)の読み込みに失敗しました	同上
56	組織ファイル(xxxxx)のソートに失敗しました	同上
57	組織ファイルに不整合があります(xxxxx)	同上
58	ユーザＩＤ(xxxxx)の兼任ユーザ変更処理失敗	同上
59	ユーザＩＤ(xxxxx)の削除処理失敗	同上
60	ユーザＩＤ(xxxxx)の詳細情報削除処理失敗	同上
61	ユーザＩＤ(xxxxx)の詳細情報変更処理失敗	同上
62	兼任ユーザ削除処理失敗	同上
63	uidファイルのソートに失敗しました(xxxxx)	同上
64	役職順ソート処理に失敗しました	同上
65	日本語名順ソート処理に失敗しました	同上
66	ＩＤ順ソート処理に失敗しました	同上
67	移動者一覧ファイル処理失敗	同上
68	差分ファイルコピー処理失敗	同上
69	差分ファイルバックアップ処理失敗	同上
70	データファイルのリストア処理失敗	同上
71	GSSGetPosList() failed. rc = xxx,result = xxx	Address Serverとの通信でエラーが発生しています。Address Serverが正常に動作しているか確認してください。 また，Address Serverの設定を確認してください。
72	GSSGetComList() failed. rc = xxx,result = xxx	Address Serverとの通信でエラーが発生しています。Address Serverが正常に動作しているか確認してください。また，Address Serverの設定を確認してください。
73	GSSGetDomNameTable() failed. rc = xxx,result = xxx	同上
74	GSSGetOrgList() failed. rc = xxx,result = xxx	同上
75	GSSGetUserList() failed. rc = xxx,result = xxx	同上
76	GSSGetUserInfoByUID() failed. rc = xxx,result = xxx,uid=xxxxx	同上
77	GSSGetAPInfo() failed. rc=xxx,uid=xxxxx	同上
78	GSSGetAPInfo: 固有情報が異常(UID=xxxxx)	同上

付録M　「GetAdAll」と「indxget」の実行時におけるエラーメッセージ

項番	メッセージ	対処
79	GSSGetServerInfo2() failed. rx=xxx, result = xxx,uid=xxxxx	同上
80	GSSGetServerInfo3() failed. rx=xxx, result = xxx,uid=xxxxx	同上
81	GSSGetAddPostList() faild. rc=xxx, uid=xxxxx, result=xxx	Address Server 上の Scheduler Server の定義が不正です。Address Server 上の Scheduler Server または Facilities Manager に関する定義を確認してください。
82	GSSGetAddPostList():部署ＩＤ名が長い (xxxxx)	同上
83	GSSGetComInfo():　部署名が長い (xxxxx)	同上
84	GSSGetComList(): 部署 ＩＤ 名が長い (xxxxx)	同上
85	GSSGetOrgInfo():　部署名が長い (xxxxx)	同上
86	GSSGetOrgList():ユーザＩＤが長い (xxxxx)	同上
87	GSSGetOrgList(): ユーザタイプが異常 (xxxxx)	同上
88	GSSGetOrgList():部署ＩＤ名が長い (xxxxx)	同上
89	GSSGetServerInfo2(): サーバ名が長い (xxxxx), uid=xxxxx	同上
90	Groupmax Scheduler Server インストールパス取得失敗	同上
91	ERROR! :Address Server が起動されていないため処理を続行できません。Address Server を起動後，再実行してください。	Address Server が起動していることを確認し，再実行してください。

付録 N　システムログのメッセージ一覧

Scheduler/Facilities Manager ではサーバ，管理ツールサーバの起動，停止や自動実行処理（管理データ取得，不要スケジュール削除，変更通知情報取得）の開始，終了をシステムログに表示します。表示するメッセージの一覧を下記に示します。

注意　AIX の場合にはシステムログはデフォルトでは出力されません。システムログを出力する設定については OS のマニュアルを参照してください。

- 下記カテゴリの「種類」において，「E」はエラー，「I」はサーバの起動・停止などのエラーではない情報を意味しています。

表 N-1　サーバ（SV/RMSV）

メッセージ ID	種類	メッセージ	内容 / 対処
31006	E	Possibility of discordance in the user data.	ユーザデータに不整合が発生した可能性があります。 「8.1. トラブルシューティング」の（9）をご参照ください。
60301	E	Service entry could not be found.	ポート番号取得に失敗しました。 「1.1　TCP/IP の接続確認」をご参照ください。
60302	E	Error in the socket function.	通信の終端の作成に失敗しました。 ネットワークの設定を見直した後，サーバを起動してください。
60303	I	Scheduler Server (Facilities Manager) has been started to process.	サーバを開始しました。
60304	E	The setup file "param.ini" does not exist or there must be some falseness.	設定ファイル param.ini が存在しないまたは不正があります。 「8.1　トラブルシューティング」の（１３）をご参照ください。
60401	I	Scheduler Server (Facilities Manager) has been stopped to process.	サーバを停止しました。

表 N-2　管理ツールサーバ（AppoMan/RoomMan）

メッセージ ID	種類	メッセージ内容	対処
31103	E	Fail to perform Control data retrieval process.	管理データ取得処理に失敗しました。 コンフィギュレーションおよびネットワークの設定を見直し，手動実行してください。
31104	E	Fail to perform Control data retrieval process.	同上
31105	E	Fail to perform Control data retrieval process.	同上
31106	E	Fail to perform Control data retrieval process.	同上

付録N　システムログのメッセージ一覧

メッセージID	種類	メッセージ内容	対処
31108	E	Fail to perform Control data retrieval process.	同上
31109	E	Fail to perform Control data retrieval process.	同上
31111	I	Control data retrieval process has been started.	管理データ取得処理を開始しました。
31112	I	Control data have been successfully retrieved.	管理データ取得処理が正常に終了しました。
31113	E	Because servers are currently performing other processes, control data could not be retrieved.	サーバで別の処理が実行中であるため，管理データ取得処理を実行できませんでした。再度，実行してください。
31114	E	Due to unsuccessful communication with a parent server, control data could not be retrieved.	親サーバとの通信に失敗したため，管理データ取得処理に失敗しました。コンフィギュレーションおよびネットワークの設定を見直し，再度，実行してください。
31115	E	Fail to perform Control data retrieval process.	管理データ取得処理に失敗しました。コンフィギュレーションおよびネットワークの設定を見直し，手動実行してください。
31116	I	Current process is ceased to retrieve the control data in Groupmax Facilities Manager Tool.	管理ツールサーバ（RoomMan）で管理データ取得処理を実行するため，管理ツールサーバ（AppoMan）は処理を中止しました。
33001	I	Scheduler Server Tool (Facilities Manager Tool) has been stopped to process	管理ツールサーバを停止しました。
33803	E	Fail to perform the modified information notification process.	変更通知情報取得処理に失敗しました。ネットワークの設定を見直してください。
33804	E	Fail to perform the modified information notification process.	同上
33805	E	Fail to perform the modified information notification process.	同上
33806	E	Fail to perform the modified information notification process.	同上
33807	I	The modified information notification process has been started.	変更通知情報取得処理を開始しました。
33808	I	The modified information notification process has succeeded.	変更通知情報取得処理が正常に終了しました。

メッセージID	種類	メッセージ内容	対処
33809	E	Because servers are currently performing other processes, The modified information notification process could not be performed.	サーバで別の処理が実行中であるため，変更通知情報取得処理を実行できませんでした。再度，実行してください。
33810	E	Fail to perform the modified information notification process.	変更通知情報取得処理に失敗しました。コンフィギュレーションおよびネットワークの設定を見直し，ユーザ情報再作成を実行してください。
33811	I	Current process is ceased to retrieve the modified information notification process in Groupmax Facilities Manager Tool.	管理ツールサーバ（RoomMan）で管理データ取得処理を実行するため，管理ツールサーバ（AppoMan）は処理を中止しました。
33903	E	Fail to perform disused schedules process.	不要スケジュール削除処理に失敗しました。ネットワークの設定を見直し，再度，実行してください。
33904	E	Fail to perform disused schedules process.	同上
33905	E	Fail to perform disused schedules process.	同上
33906	E	Fail to perform disused schedules process.	同上
33908	E	Fail to perform disused schedules process.	同上
33910	E	Fail to perform disused schedules process.	同上
33911	E	Fail to perform disused schedules process.	同上
33912	I	Disused schedules process has been started.	不要スケジュール削除処理を開始しました。
33913	I	Disused schedules have been successfully deleted.	不要スケジュール削除処理が正常に終了しました。
33914	I	Current process is ceased to retrieve disused schedules process in Groupmax Facilities Manager Tool.	管理ツールサーバ（RoomMan）で管理データ取得処理を実行するため，管理ツールサーバ（AppoMan）は処理を中止しました。
40701	E	Fail to perform control data retrieval process.	コンフィギュレーションおよびネットワークの設定を見直し，再度，実行してください。
60301	E	Error in the socket function.	ソケットを作成できません。コンフィギュレーションおよびネットワークの設定を見直し，再度，実行してください。
60302	I	Scheduler Server Tool(Facilities Manager Tool) has been started to process.	管理ツールサーバを起動しました。

表N-3　コンフィギュレーション（aconsole/roomconsole）

メッセージID	種類	メッセージ内容	対処
33705	I	The modified information notification process has been started.	変更通知情報取得処理を開始しました。
33706	E	Because servers are currently performing other processes, The modified information could not be notified.	サーバで別の処理が実行中であるため，変更通知情報取得処理を実行できませんでした。再度，実行してください。
33707	E	Fail to perform the modified information notification process.	変更通知情報取得処理に失敗しました。コンフィギュレーションおよびネットワークの設定を見直し，ユーザ情報再作成を実行してください。
33708	I	The modified information notification process has succeeded.	変更通知情報取得処理が正常に終了しました。
44701	I	Control data retrieval process has been started.	管理データ取得処理を開始しました。
44702	I	Control data have been successfully retrieved.	管理データ取得処理が正常に終了しました。
44703	E	Because servers are currently performing other processes, control data could not be retrieved.	サーバで別の処理が実行中であるため，管理データ取得処理を実行できませんでした。再度，実行してください。
44704	E	Due to unsuccessful communication with a parent server, control data could not be retrieved.	親サーバとの通信に失敗したため，管理データ取得処理に失敗しました。コンフィギュレーションおよびネットワークの設定を見直し，再度，実行してください。
44705	E	Fail to perform Control data retrieval process.	管理データ取得処理に失敗しました。コンフィギュレーションおよびネットワークの設定を見直し，再度，実行してください。
44801	I	Disused schedules process has been started.	不要スケジュール削除処理を開始しました。
44802	I	Disused schedules have been successfully deleted.	不要スケジュール削除処理が正常に終了しました。
44803	E	Because servers are currently performing other processes, disused schedules could not be deleted.	サーバで別の処理が実行中であるため，不要スケジュール削除処理を実行できませんでした。再度，実行してください。
44804	E	Disused schedules could not be deleted. Either the user does not exist or fail to read user information files.	ユーザが存在しない，またはユーザ情報ファイルの読込みに失敗したため，不要スケジュール削除処理に失敗しました。ユーザが存在することを確認し，再度，実行してください。

メッセージID	種類	メッセージ内容	対処
44805	E	Fail to perform disused schedules process.	不要スケジュール削除処理に失敗しました。コンフィギュレーションおよびネットワークの設定を見直し，再度，実行してください。
44905	I	The user information creation process has been started.	ユーザ情報再作成処理を開始しました。
44906	E	Because servers are currently performing other processes, the user information creation process could not be performed.	サーバで別の処理が実行中であるため，ユーザ情報再作成処理を実行できませんでした。再度実行してください。
44907	E	Fail to perform the user information creation process.	ユーザ情報取得処理に失敗しました。コンフィギュレーションおよびネットワークの設定を見直し，ユーザ情報再作成を実行してください。
44908	I	The user information creation process has succeeded.	ユーザ情報再作成処理が正常に終了しました。

付録O 「aconsole」と「roomconsole」のエラーメッセージ

aconsole と roomconsole でエラーが発生した場合のメッセージ一覧を下記に示します。なお，表中の [xxx] には詳細番号が入ります。

表O-1　-u オプション

	メッセージ	備考
1	<< 管理データの更新 >>	処理開始
2	子サーバでのみ実行可能です。	親サーバで -u オプションにより起動した
3	管理データを親サーバから取得します。 よろしいですか？ (Y or N) =>	実行確認の問い合せメッセージ
4	入力が間違っています。	Y または N 以外を入力した
5	管理データの更新処理が終了しました。	処理終了
6	appoman のサービスエントリがありません。(xxx) または roommanのサービスエントリがありません。(xxx)	services ファイルに該当するエントリがありません。 システム管理者ガイドの「1.1TCP/IP の接続確認」をご参照の上，再実行してください。
7	hhh のホスト名がありません。(xxx)	hosts ファイルに hhh というホスト名が定義されていません。 システム管理者ガイドの「1.1TCP/IP の接続確認」をご参照の上，再実行してください。
8	サーバが起動していません。	管理ツールサーバが起動されていません。 管理ツールサーバを起動した上で，再実行してください。
9	サーバで別の処理 (yyy) が実行中です。 再実行してください。	yyy には，以下の番号が割り当てられています。 別の処理が実行中の場合は実行できません。 別の処理が終了後，再実行してください。 1 … 管理ツール使用中 3 … 子サーバ環境情報更新中 4 … 親サーバ環境情報一覧取得中 5 … 不要スケジュール削除中 6 … 変更通知情報取得中（自動実行） 7 … ユーザ情報再作成中（手動実行） 11 … 変更通知情報取得中（手動実行） 12 … 稼動中バックアップ実行中
10	管理データの更新処理でエラー（xxx）が発生しました。	再実行してもこの障害メッセージが表示された場合は，お問い合せください。
11	ソケットの作成に失敗しました。(xxx)	通信障害です。ネットワークの設定を見直し，再実行してください。
12	コネクションの確立に失敗しました。(xxx)	通信障害です。ネットワークの設定を見直し，再実行してください。
13	親サーバとの通信でエラー（xxx）が発生しました。再実行して下さい。	通信障害です。ネットワークの設定を見直し，再実行してください。

表O-2　-dオプション

	メッセージ	備考
1	<< 不要スケジュールの削除 >>	処理開始
2	不要スケジュールを削除します。よろしいですか？ (Y or N) =>	実行確認の問い合せメッセージ
3	入力が間違っています。	YまたはN以外を入力した
4	不要スケジュールの削除が終了しました。	処理終了
5	appomanのサービスエントリがありません。(xxx) または roommanのサービスエントリがありません。(xxx)	services ファイルに該当するエントリがありません。 システム管理者ガイドの「1.1TCP/IP の接続確認」をご参照の上，再実行してください。
6	hhhのホスト名がありません。(xxx)	hosts ファイルに hhh というホスト名が定義されていません。 システム管理者ガイドの「1.1TCP/IP の接続確認」をご参照の上，再実行してください。
7	サーバが起動していません。	管理ツールサーバが起動されていません。 管理ツールサーバを起動した上で，再実行してください。
8	ソケットの作成に失敗しました。(xxx)	通信障害です。ネットワークの設定を見直し，再実行してください。
9	コネクションの確立に失敗しました。(xxx)	通信障害です。ネットワークの設定を見直し，再実行してください。
10	サーバで別の処理 (xxx) が実行中です。再実行してください。	項番9と同じ
11	不要スケジュールの削除でエラー (xxx) が発生しました。	再実行してもこの障害メッセージが表示された場合は，お問い合せください。

表O-3　-sオプション

	メッセージ	備考
1	<< サーバの停止 >>	処理開始
2	サーバを停止してよろしいですか？ (Y or N) =>	実行確認の問い合せメッセージ
3	入力が間違っています。	YまたはN以外を入力した
4	サーバを停止しました。	処理終了
5	appomanのサービスエントリがありません。(xxx) または roommanのサービスエントリがありません。(xxx)	services ファイルに該当するエントリがありません。 システム管理者ガイドの「1.1TCP/IP の接続確認」をご参照の上，再実行してください。
6	hhhのホスト名がありません。(xxx)	hosts ファイルに hhh というホスト名が定義されていません。 システム管理者ガイドの「1.1TCP/IP の接続確認」をご参照の上，再実行してください。

付録O　「aconsole」と「roomconsole」のエラーメッセージ

	メッセージ	備考
7	サーバが起動していません。	サーバが起動されていません。 サーバを起動した上で，再実行してください。
8	ソケットの作成に失敗しました。(xxx)	通信障害です。ネットワークの設定を見直し，再実行してください。
9	コネクションの確立に失敗しました。(xxx)	通信障害です。ネットワークの設定を見直し，再実行してください。
10	通信に失敗しました。	通信障害です。ネットワークの設定を見直し，再実行してください。
11	サーバを停止できません。	再実行してもこの障害メッセージが表示された場合は，お問い合せください。

表O-4　-tオプション

	メッセージ	備考
1	<< 管理ツールサーバの停止 >>	処理開始
2	管理ツールサーバを停止してよろしいですか？(Y or N) =>	実行確認の問い合せメッセージ
3	入力が間違っています。	YまたはN以外を入力した
4	管理ツールサーバを停止しました。	処理終了
5	appomanのサービスエントリがありません。(xxx) または roommanのサービスエントリがありません。(xxx)	servicesファイルに該当するエントリがありません。 システム管理者ガイドの「1.1 TCP/IPの接続確認」をご参照の上，再実行してください。
6	hhhのホスト名がありません。(xxx)	hostsファイルにhhhというホスト名が定義されていません。 システム管理者ガイドの「1.1 TCP/IPの接続確認」をご参照の上，再実行してください。
7	サーバが起動していません。	管理ツールサーバが起動されていません。 管理ツールサーバを起動した上で，再実行してください。
8	ソケットの作成に失敗しました。(xxx)	通信障害です。ネットワークの設定を見直し，再実行してください。
9	コネクションの確立に失敗しました。(xxx)	通信障害です。ネットワークの設定を見直し，再実行してください。
10	通信に失敗しました。	通信障害です。再実行してもこの障害メッセージが表示された場合は，お問い合せください。
11	管理ツールサーバを停止できません。	再実行してもこの障害メッセージが表示された場合は，お問い合せください。

表O-5　オプション指定が間違っていた場合

	メッセージ	備考
1	-nオプションは使用できません。	-sまたは-t以外のオプションに-nオプションを組み合わせて指定した
2	オプション指定が間違っています。 usage : aconsole [-stop,s|-tstop,t|-update,u|-delete,d|-indxget,i]	オプション指定が間違っていた場合

索引

A

Assist 連携 114

D

ＤＮＳ ホスト名 45

G

G/W サーバ 3, 53, 56

I

IP アドレス 2, 16, 17

T

Ｔｏｄｏ 94

あ

アラーム 96

い

行先 87, 88

え

エラーメッセージ 196, 212

お

親サーバ 3, 14

か

拡張スケジュール 70
環境設定 14, 22, 90, 92, 94
管理ツール 41, 42, 111
管理データ 3, 10, 11, 16, 20, 44, 110

き

記念日 100
行先・区分 64, 87

く

区分 87
グループ 83
グループ登録 83

け

ゲスト ＩＤ 53, 56, 77
兼任ユーザ 39

こ

子サーバ 3
コンフィギュレーション 14, 23

し

時間の区切り線 65
子サーバ 14
自システム 56
システム 3, 5
システム標準値 83
施設 ＩＤ 3, 60
施設管理者 80
施設管理情報 60
実行ユーザ 206
種別テーブル 61
種別テーブル ＩＤ 4
上司 72

せ

セキュリティ 67
セキュリティランク 53, 67, 68, 69
セパレータ 43

そ

組織 ＩＤ 4
組織間セキュリティ 25

た

他アプリケーション 96
他システム 53, 78

て

データファイル 176

は

パスワード 3
汎用化データ 63

ひ

秘書 72
表示色の設定 95

ふ

部署テーブル 48
部署テーブル ＩＤ 4
付属設備 79
不要スケジュール 17, 102

ほ

ポート番号 2, 17
ホームサーバ 3
ホスト名 2

み

見出し 94

め

メール 92

ゆ

ユーザ ＩＤ 3, 47
ユーザ情報 21, 47, 142
ユーザソート 37
ユーザ名 47

よ

用件 89
用件・略記 89

り

略記 89

ろ

ログファイル 16

御利用者各位殿

〒244-8555
横浜市戸塚区戸塚町５０３０番地
株式会社　日立製作所
ソフトウェア事業部　技術部
電話　(045)881-7161(大代表)

お　願　い

各位におかれましてはますます御清栄のことと存じます。
さて，この資料をより良くするために，お気付きの点はどんなことでも結構ですので，下欄に御記入の上，当社営業担当又は当社所員に，お渡しくださいますようお願い申し上げます。
なお，製品開発，サービス，その他についても御意見を併記していただければ幸甚に存じます。

御住所	資料番号
貴社名 (団体名)	3000－3－476－10
御芳名	

御意見欄

ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内

ソフトウェアマニュアルについて，3種類のサービスをご案内します。ご活用ください。

1. マニュアル情報ホームページ

ソフトウェアマニュアルの情報をインターネットで公開しております。

URL http://www.hitachi.co.jp/soft/manual/

ホームページのメニューは次のとおりです。

■ Web提供マニュアル一覧　インターネットで参照できるマニュアルの一覧を提供しています。(詳細は「2．インターネットからのマニュアル参照」を参照してください。)

■ CD-ROMマニュアル情報　複数マニュアルを格納したCD-ROMマニュアルを提供しています。どの製品に対応したCD-ROMマニュアルがあるか，を参照できます。

■マニュアルに関するご意見・ご要望　マニュアルに関するご意見，ご要望をお寄せください。

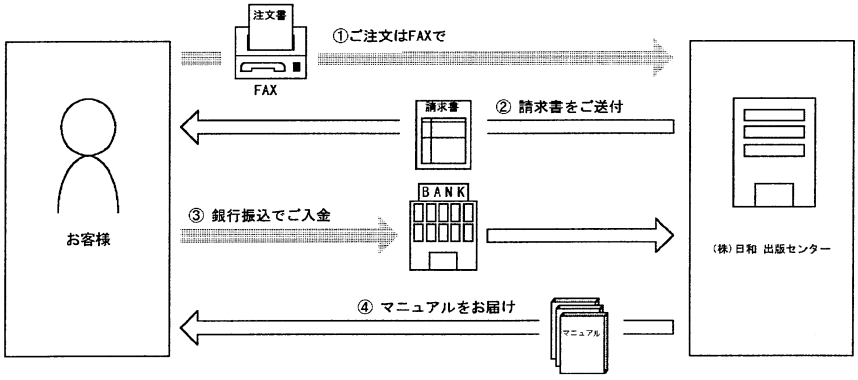
2. インターネットからのマニュアル参照（ソフトウェアサポートサービス）

ソフトウェアサポートサービスの契約をしていただくと，インターネットでマニュアルを参照できます。(本サービスの対象となる契約の種別，及び参照できるマニュアルは，マニュアル情報ホームページでご確認ください。参照できるマニュアルは，クライアント／サーバ系の日立オープンミドルウェア製品を中心に順次対象を拡大予定です。)

なお，ソフトウェアサポートサービスは，マニュアル参照だけでなく，対象製品に対するご質問への回答，問題解決支援，バージョン更新版の提供など，お客様のシステムの安定的な稼働のためのサービスをご提供しています。まだご契約いただいていない場合は，ぜひご契約いただくことをお勧めします。

3. マニュアルのご注文

裏面の注文書でご注文ください。



① マニュアル注文書に必要事項をご記入のうえ，FAXでご注文ください。

② ご注文いただいたマニュアルについて，請求書をお送りします。

③ 請求書の金額を指定銀行へ振り込んでください。なお，送料は弊社で負担します。

④ 入金確認後，7日以内にお届けします。在庫切れの場合は，納期を別途ご案内いたします。

（株）日和 出版センター　行き
FAX 番号　０１２０－２１０－４５４（フリーダイヤル）

日立マニュアル注文書

ご注文日	年　月　日
送付先ご住所	〒
お客様名 （団体名，又は法人名など）	
お名前	
電話番号	（　）
FAX 番号	（　）

資料番号	マニュアル名	数量
合計		

マニュアルのご注文について，ご不明な点は
（株）日和 出版センター（TEL ０３－５２８１－５０５４）へお問い合わせください。